

日本語データベースシステム 桐 ver8

# 一括処理コマンド&イベント

オンラインリファレンス (PDF版)

株式会社 管理工学研究所

# 目次

## 一括処理コマンド

/ * <注釈> * /	7
* <注釈>	7
<コマンド> ... ¥	8
if ( <条件式> ) ... end	9
値集合入力	10
一覧表印刷	11
一覧表削除	13
一括処理実行	14
印字	15
印字開始	17
印字終了	19
ウィンドウ位置 最大化   最小化...	20
ウィンドウ位置 取得	21
ウィンドウ位置 設定	22
ウィンドウ会話	23
ウィンドウ更新	27
ウィンドウ作成	29
ウィンドウ終了	32
ウィンドウ情報取得	33
ウィンドウリスト取得	34
オブジェクト操作 ( 取得 )	35
オブジェクト操作 ( 設定 )	36
カーソル移動方向	38
解除	39
外部DB 会話	40
外部DB 接続	41
外部DB 切断	43
外部DB接続	44
会話処理実行	45
書き出し CSV	46
書き出し K3	48
書き出し 条件名	50
書き出し 定義	51
書き出し テキスト	52
書き出し 転置	54
書き出し 表	56
書き出し 枠組み	58
書き出し条件削除	59
書き出し条件登録 CSV	60
書き出し条件登録 K3	62
書き出し条件登録 外部DB	64
書き出し条件登録 テキスト	65
書き出し条件登録 転置	67
書き出し条件登録 表	69
書き出し条件登録 枠組み	71
確認	72
画面消去	73
画面表示	75
キー入力	76
機能キー入力	78
行削除	80
行削除 *	81
行削除 会話, 指定行	82
行削除 表, 範囲	84
行集計	85
行集計 ( 再実行 )	88
行集計 条件名	89
行集計解除	90
行集計条件削除	91
行集計条件削除 条件名	92
行集計条件削除 条件名 = *	93
行集計条件登録	94
行集計条件登録 条件名	97
行挿入	100
行挿入 会話	101
行退避	103
行追加	104
行追加 会話	105
行訂正	107
行訂正 会話	108
行番号	110
行表示	111
行復活	112
行復活 *	113
行復活 会話, 指定行	114
行復活 表, 範囲	116

行復旧	117	削除行	171
行マーク解除	118	シェル実行	172
行マーク定義	119	システム <番号>	174
局所変数代入	120	システム <プログラム名>	176
空白文字	121	実行終了	178
グラフ条件削除	122	絞り込み 会話, 指定行	179
グラフ条件実行 印刷	123	絞り込み 会話, 比較式	181
グラフ条件実行 表示	124	絞り込み 行数	183
グラフ条件実行 保存	125	絞り込み 条件名	184
繰り返し ... 繰り返し終了	126	絞り込み 単一化	185
繰り返し ( <条件式> )	127	絞り込み 単一化, 条件名	186
繰り返し 回数	128	絞り込み 重複行	187
繰り返し継続	129	絞り込み 重複行, 条件名	188
繰り返し中止	130	絞り込み 比較式	189
グループ検索	131	絞り込み 表, 範囲	191
グループ検索 会話	132	絞り込み 補集合	192
グループ指定	133	絞り込み解除	193
グループ選択	134	絞り込み条件削除 単一化	194
グループ選択解除	135	絞り込み条件削除 重複行	195
グループ値代入	136	絞り込み条件登録 単一化	196
グループ値訂正	137	絞り込み条件登録 重複行	197
グループ値訂正 会話	138	ジャンプ 行番号	198
グループ追加	139	ジャンプ 行マーク	199
グループ追加 会話	140	終了	200
ケース開始 ... ケース終了	141	終了 表	201
ケース中止	142	条件	202
結合	143	使用フォーム	203
検索 会話	146	使用フォーム <フォーム名>	204
検索 条件名	148	処理行指定	205
検索 比較式	149	図形パス名	207
検索条件削除	151	図形表示	208
検索条件登録	152	整列解除	209
項目集計	153	属性自動設定	210
項目属性変更	154	代入	211
項目属性変更 2	157	多重化	212
項目値代入	161	遅延	213
項目名変更	162	置換	214
コマンド	163	置換 会話	215
再抽出	164	置換 条件名	217
サウンド 再生	165	置換条件削除	218
サウンド 停止	167	置換条件登録	219
索引削除	168	中止	220
索引定義	169	中止 表	221

注釈	222	ファイル管理	276
定数宣言	223	ファイル更新	277
データ行	225	ファイル削除	279
データパス名	226	ファイル属性	281
手続き実行 イベントハンドラ	227	ファイル入力	282
手続き実行 <手続き名>	228	ファイル入力開始	284
手続き実行 <名札名>	229	ファイル入力終了	285
手続き終了	230	ファイル複写	286
手続き定義開始	231	ファイル変換 CSV	288
手続き定義開始 (イベントハンドラ)	233	ファイル変換 ODBC	291
手続き定義終了	234	ファイル変換 固定長	293
転置集計	235	ファイル名入力	295
転置集計 条件名	238	ファイル名変更	296
転置集計条件削除	239	フォーム形式編集	298
転置集計条件登録	240	フォーム表示	302
トランザクション	243	フォーム呼び出し	303
トレース	244	フォルダ削除	305
トレース 確認	245	フォルダ作成	307
トレース出力	246	フォルダ名入力	308
名札 <名札名>	247	ブザー	309
<名札名> :	248	プリンタ	310
並べ替え	249	分岐	311
並べ替え 索引名	250	併合	312
並べ替え 条件名	251	併合 条件名	315
並べ替え条件削除	252	併合条件削除	316
並べ替え条件登録	253	併合条件登録	317
並べ替え条件登録 索引名	254	編集表	319
表	255	変数書き出し	320
表 <表ファイル名>	256	変数管理	322
表形式編集	258	変数削除	323
表作成	261	変数宣言	324
表示位置 取得	263	変数読み込み	327
表示位置 設定	264	保存表名	329
表示位置 同期	265	メソッド呼び出し	330
表示条件書き出し	266	値復活	330
表示条件削除	267	オブジェクト検査	331
表示条件読み込み	268	オブジェクト取得	332
表示制御	269	オブジェクト種別	333
表示属性	270	オブジェクト数	334
表示幅	271	親オブジェクト取得	335
表整理	272	キー変換	336
表表示	273	グループソース値取得	338
ファイル移動	274	更新モード取得	340

更新モード設定	342
再描画	344
実行	346
セクション種別	347
ソース値取得	348
描画更新	350
表示倍率の設定	352
フォーカスオブジェクト取得	353
フォーカス設定	355
フォーカス設定検査	357
フォーム選択	358
プロパティ属性	359
編集選択位置取得	361
編集選択位置設定	363
編集選択文字列置換	365
編集文字列取得	367
編集文字列設定	368
編集文字列長	369
変数変更	370
領域種別	372
メッセージボックス	374
メニュー	376
メニュー 2	378
メニュー 3	380
文字入力	382
読み込み CSV	383
読み込み K3	385
読み込み 条件名	387
読み込み テキスト	388
読み込み 表	390
読み込み条件削除	392
読み込み条件登録 CSV	393
読み込み条件登録 K3	394
読み込み条件登録 テキスト	396
読み込み条件登録 表	398
ライブラリ	400
利用者コード 会話	401
利用者コード <文字列>	402
レポート印刷	403
ロック	406
ロック *	407
ロック 会話	408
ロック解除	409
ロック解除 *	409

## イベントハンドラ

[キアップ] イベント	411
[キダウン] イベント	412
[キ入力] イベント	415
[行挿入開始] イベント	416
[行挿入終了] イベント	417
[行挿入終了前] イベント	418
[行訂正開始] イベント	419
[行訂正終了] イベント	421
[行訂正終了前] イベント	423
[グループ 移動] イベント	424
[グループ 検索開始] イベント	425
[グループ 検索終了] イベント	426
[グループ 値訂正開始] イベント	427
[グループ 値訂正終了] イベント	428
[グループ 追加開始] イベント	429
[グループ 追加終了] イベント	430
[システムキアップ] イベント	431
[システムキダウン] イベント	432
[選択値更新] イベント	434
[ソース値更新] イベント	435
[タマ-1] イベント	436
[タマ-2] イベント	437
名札 メイン	438
[入力後] イベント	440
[入力支援オン] イベント	442
[入力支援オフ] イベント	443
[入力前] イベント	445
[フォーカ取得] イベント	446
[フォーカ喪失] イベント	447
[フォーム開始] イベント	448
[フォーム終了] イベント	449
[編集文字列変更] イベント	450
[マウス移動] イベント	451
[マウスインアウト] イベント	453
[マウス左アップ] イベント	455
[マウス左クリック] イベント	457
[マウス左ダウン] イベント	459
[ロード 移動] イベント	461

日本語データベースシステム 桐 ver 8

# 一括処理コマンド

オンラインリファレンス (PDF版)

株式会社 管理工学研究所

**/ \* <注釈> \* /**

イベントでの使用

可能

**説明**

- 行中の「 / \* 」と「 \* / 」で囲んだ部分を注釈にします。

**構文**

`/ * <注釈> * /`

**\* <注釈>**

イベントでの使用

可能

**説明**

- 一括処理内の任意の行を注釈（コメント）にします。
- \* は行頭につけます。\* の前に、空白文字があってもかまいません。

**構文**

`* <注釈>`

## <コマンド> ... ¥

イベントでの使用

可能

### 説明

- コマンドを次行に続けて記述する場合は、行の最後に ¥ をつけます。¥ のうしろに、空白文字があってははいけません。

### 記述例

- [オブジェクト操作]コマンドを使用して、[コマンドボタン]の機能をすべて「なし」にします。指定する属性が多いので、行末に ¥ を入れて複数の行に分けて記述しています。

```
オブジェクト操作 @表操作ボタン{ ¥  
    背景モード = "指定色", 背景色 = &背景色, ¥  
    機能名1 = "なし", 機能パラメータリスト1 = "", ¥  
    機能名2 = "なし", 機能パラメータリスト2 = "", ¥  
    機能名3 = "なし", 機能パラメータリスト3 = "", ¥  
    機能名4 = "なし", 機能パラメータリスト4 = "" }
```

### 構文

<コマンド> ... ¥

## if ( <条件式> ) ... end

イベントでの使用

可能

### 説明

- ケースコマンドの別表記です。
- if ... else if ... else のうち、最初に真になった条件内のブロックを実行します。
- [if] コマンドで開始したブロックは、必ず [end] コマンドで終わらなければいけません。

### 記述例

- &MENU の値が 1 のときは行追加、2 のときは行訂正を行いません。1 でも 2 でもないときは、メッセージボックスを出して表を閉じます。

```
if ( &MENU = 1 )
    行追加, 会話, 終了状態 = &OK
else if ( &MENU = 2 )
    行訂正, 会話, *, 終了状態 = &OK
else
    メッセージボックス "編集終了", ¥
    "編集を終了しますか?", ¥
    アイコン = ?, ボタン指定 = 5, ¥
    &OK
    条件 ( &OK = 6 ) 終了 表 編集対象表
end
```

### 構文

```
if ( <条件式> )
    ... <コマンド> ...
else if ( <条件式> )
    ... <コマンド> ...
else
    ... <コマンド> ...
end
```

# 値集合入力

## イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- [値集合]ダイアログボックスを出して、指定項目に定義されている値集合の一覧から、値を選択します。
- 選択した値と要素番号は、<変数名1>と<変数名2>に代入されます。

### 記述例

- [都道府県]の値集合の一覧から値を選択します。  
値集合入力 [都道府県], &都道府県名, &県コード

### 構文

```
値集合入力 ¥  
    <項目名>, ¥  
    <変数名1>, ¥  
    <変数名2>
```

### パラメータ

#### <項目名>

値集合が定義されている、表の項目名を指定します。

#### <変数名1>

選択した値を代入する変数名を指定します。変数のデータ型は、<項目名>と同じでなければいけません。

[値集合]ダイアログボックスでの選択をキャンセルした場合は、未定義値が代入されます。

#### <変数名2>

選択した値の要素番号を代入する変数名を指定します。指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

[値集合]ダイアログボックスでの選択をキャンセルした場合は、0が代入されます。

# 一覧表印刷

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

## 説明

- 登録済みの一覧表印刷条件を使用して、編集対象表のデータを印刷します。一覧表印刷条件は、あらかじめ会話処理で登録しておく必要があります。
- 1件のレコードを複数のページにまたいで印刷する場合は、印刷を開始するページの枝番と、印刷を終了するページの枝番を「:<枝番>」で指定することができます。このパラメータを省略した場合は、開始ページを「:1」、終了ページを「:0」として印刷します。

## 記述例

- 一覧表印刷条件で印刷するときに、[印刷]ダイアログボックスを出します。  
一覧表印刷 条件名 = "商品リスト", ¥  
会話 = する, 終了状態 = &OK
- 一覧表印刷条件の定義内容に従って、HTML ファイルを出力します。  
一覧表印刷 条件名 = "商品リスト", ¥  
開始ページ = 1, 終了ページ = 1, ¥  
HTMLファイル名 = "list01", ¥  
終了状態 = &OK

## 構文

一覧表印刷 ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
会話 = しない | する, ¥  
プレビュー = しない | する, ¥  
ページ番号 = <整数>, ¥  
部数 = <整数>, ¥  
開始ページ = <ページ指定> | <ページ指定>:<枝番>, ¥  
終了ページ = <ページ指定> | <ページ指定>:<枝番>, ¥  
カラー印刷 = しない | する, ¥  
印刷ページ = 両方 | 奇数 | 偶数, ¥  
ソート = しない | する, ¥  
HTMLファイル名 = <ファイル名>, ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

**条件名 = <文字列>**

使用する条件名を指定します（計算式）。

登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

**会話 = しない | する**

ただちに印刷を開始する場合は「しない」を指定します。

印刷する前に[印刷]ダイアログボックスを出す場合は、「する」を指定します。

定義時と異なるプリンタで印刷する場合、またはプリンタのプロパティを変更してから印刷する場合は、「する」を指定してください。

**プレビュー = しない | する**

すぐに印刷を開始する場合は「しない」を指定します。

印刷を開始する前に、プレビュー画面を出す場合は「する」を指定します。

イベントハンドラ内で、「する」を指定して実行するとエラーになります。

**ページ番号 = < 整数 >**

ページ番号を何番から始めるかを指定します（計算式）。

このパラメータを省略すると、先頭のページ番号を 1 にします。

**部数 = < 整数 >**

印刷する部数を指定します（計算式）。

このパラメータを省略すると、1 部だけ印刷します。

**開始ページ = < ページ指定 > | < ページ指定 > : < 枝番 >**

印刷を開始するページを指定します。

**終了ページ = < ページ指定 > | < ページ指定 > : < 枝番 >**

印刷を終了するページ番号を指定します。

終了ページの番号は、「開始ページ=」より大きい値または等しい値でなければいけません。

ただし、最後まで印刷する場合に限り、0 を指定します。

**カラー印刷 = しない | する**

カラー印刷をするかどうかを指定します。

**印刷ページ = 両方 | 奇数 | 偶数**

すべてのページを印刷するか、奇数ページまたは偶数ページだけを印刷するかを指定します。

**ソート = しない | する**

「ソート=する」を指定すると、指定された部数分、ページごとに振り分けて排紙します。

この指定は、[印刷]ダイアログボックスの[部単位で印刷]と同じです。

**HTMLファイル名 = < ファイル名 >**

HTML ファイルとして書き出す場合は、< ファイル名 > に HTML ファイル名を指定します。

現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

**終了状態 = < 変数名 >**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	最後まで印刷した。
0	エラーが発生したため、印刷できなかった。
-1	途中で印刷を中止した。

**ノート**

- 桐 ver5 の「両面印刷 = 」と「縮小率 = 」は廃止しました。このパラメータを指定しても無視されます。

# 一覧表削除

## イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表の一覧表印刷条件を削除します。

### 記述例

- 一覧表印刷条件をふたつ削除します。  
一覧表削除 "印刷01", "印刷02"
- 編集対象表のすべての一覧表印刷条件を削除します。  
一覧表削除 \*

### 構文

一覧表削除 <条件名>, ... | \*

### パラメータ

<条件名>, ... | \*

削除する条件の名前を指定します（計算式）。

複数の条件を削除する場合は、条件名を半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、すべての条件を削除します。

登録されていない条件を指定するとエラーになります。

# 一括処理実行

イベントでの使用

× 不可

## 説明

- <一括処理ファイル名>で指定した一括処理に制御を移します。
- 指定した一括処理が終了しても、呼び出し元の一括処理に戻るわけではありません。
- [一括処理実行]ウィンドウは、呼び出し元の一括処理の状態を引き継ぎます。呼び出し元の一括処理で[一括処理実行]ウィンドウを使用していなければ、呼び出した一括処理でも[一括処理実行]ウィンドウを使用しません。
- 最後の表を開いたあとに宣言した固有変数は、すべて削除されます。

## 記述例

- 「Kokyaku.cmd」の「名札 登録処理」の位置から処理を開始します。  
一括処理実行 "Kokyaku.cmd", 登録処理

## 構文

```
一括処理実行 ¥  
    <一括処理ファイル名>, ¥  
    <名札名>
```

## パラメータ

### <一括処理ファイル名>

一括処理が記述されたファイルの名前を指定します。

拡張子を省略した場合は「.cmd」を付加します。

イベント処理ファイル(\*.kev)は指定できません。

現在のデータパス上に存在しない一括処理を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

### <名札名>

実行を開始する位置として、<名札名>を指定します。

一括処理の先頭から実行する場合は、このパラメータを省略します。

# 印字

イベントでの使用

可能

## 説明

- [印字開始]コマンドで指定したファイルに、データを書き出します。
- このコマンドを1回実行するたびに、1行のデータが書き出されます。
- 改行コードを出力しないようにするには、コマンドの最後に全角または半角のコンマをつけます。
- このコマンドは、[印字開始]コマンドと[印字終了]コマンドの範囲内になければいけません。
- [印字]コマンドで自動出力する改行コードは、CRLFです。自動出力する改行コードをLFだけにするには、環境設定で[一括処理]タブをクリックした後、[高度な設定]ボタンをクリックし、[改行文字出力をLFだけにする]をONにします。

## 記述例

- 各項目のデータをタブコードで区切り、行末に改行コードをつけます（\_9はタブコード）。  
印字 [氏名] , \_9 , [電話番号] , \_9 , [郵便番号] , \_9 , [住所]
- 各項目のデータを改行コードで区切り、改ページコードをレコードの区切りにします（\_13は改行コード、\_12は改ページコード）。  
印字 [氏名] , \_13 , [電話番号] , \_13 , [郵便番号] , \_13 , [住所] , \_12 ,
- 改行します。  
印字

## 構文

印字 <計算式> | \_ <計算式> , ...

## パラメータ

<計算式> | \_ <計算式> , ...

つぎのパラメータを指定します。

パラメータ	説明
-------	----

<計算式>	ファイルに出力するデータを指定します（計算式）。 文字列を途中で改行する場合は、文字列の改行位置で "¥n" を挿入します。 文字列の中にタブコードを含める場合は、タブコードの挿入位置で "¥t" を挿入します。 ¥n と ¥t を使用する場合は、環境設定の[一括処理]タブで[高度な設定]ボタンをクリックし、[コントロール文字を展開する]をONにしておかなければいけません。この設定がONになっているとき、¥n と ¥t を通常の文字列として出力する場合は、¥¥n と ¥¥t に置き換えてください。
_ <計算式>	制御コードなど、計算結果の下位8ビットを出力する場合は、計算式の前にアンダーバーをつけます（計算式）。 計算結果は数値型でなければいけません。

## ノート

- 桐 ver5 の [ 印字 ] コマンドとは異なり、プリンタに出力することはできません。

# 印字開始

イベントでの使用

可能

## 説明

- [印字]コマンドで書き出すファイルを指定します。
- 拡張子なしのファイルに書き出すことはできません。必要であれば、出力した後に、[ファイル名変更]コマンドなどで、ファイル名を変更してください。
- プリンタに出力することはできません。

## 記述例

- 「Jusho.txt」を上書きします。  
印字開始 "C:¥K3¥Data¥Jusho.txt"
- 「Jusho.txt」の最後にデータ追加を開始します。  
印字開始 "C:¥K3¥Data¥Jusho.txt", 追加

## 構文

```
印字開始 ¥  
    <ファイル名>, ¥  
    追加, ¥  
    終了状態 = <変数名>
```

## パラメータ

### <ファイル名>

[印字]コマンドで書き出すファイル名を指定します(計算式)。

拡張子を省略した場合は、「.txt」が付加されます。

現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

### 追加

<ファイル名>で指定したファイルの最後に、データを追加する場合に指定します。  
このパラメータを省略すると上書きになります。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

## ノート

- 桐 ver5 の「PRN」と「RAW」は廃止しました。これらのパラメータを指定するとエラーになります。

# 印字終了

イベントでの使用

可能

## 説明

- [印字開始]コマンドで指定したファイルを閉じて、[印字]コマンドの書き出しを終了します。
- [印字開始]コマンドが実行されていなければ、なにもしません。
- 一括処理を終了するときは、[印字開始]コマンドで指定したファイルを強制的に閉じます。このとき、ファイルの終わりを示す「1AH」を出力します。改ページコードは出力しません。

## 構文

印字終了 改ページ = しない | する

## パラメータ

**改ページ = しない | する**

ファイルの最後に改ページコード（OCH）を出力するかどうかを指定します。  
このパラメータは「改頁=」と書いてもかまいません。

# ウィンドウ位置 最大化 | 最小化...

イベントでの使用

自身のフォームは、表示状態のときのみ実行可能。

## 説明

- ・ <ハンドル> で指定したウィンドウの最大化、最小化、復元、非表示を行ないます。

## 構文

ウィンドウ位置 ¥  
最大化 | 最小化 | 復元 | 表示 | 非表示, ¥  
<ハンドル>

## パラメータ

### 最大化 | 最小化 | 復元 | 表示 | 非表示

つぎのいずれかを指定します。

パラメータ	説明
-------	----

最大化	ウィンドウを最大化します。
-----	---------------

最小化	ウィンドウを最小化します。
-----	---------------

復元	最大化または最小化したウィンドウを、もとのサイズに戻します。
----	--------------------------------

非表示	ウィンドウを非表示にして隠します。すでに非表示の場合はなにもしません。
-----	-------------------------------------

モーダルフォーム、オーバーラップフォーム、桐ウィンドウには指定できません。

表示	非表示にしたウィンドウを表示します。すでに表示されていればなにもしません。
----	---------------------------------------

モーダルフォーム、オーバーラップフォーム、桐ウィンドウには指定できません。

### <ハンドル>

設定するウィンドウのハンドルを指定します (計算式)。

桐ウィンドウの位置またはサイズを設定する場合は -1、[一括処理実行]ウィンドウの位置またはサイズを設定する場合は 0 を指定します。[一括処理実行]ウィンドウを使用していないときに 0 を指定した場合は無視します。

# ウィンドウ位置 取得

イベントでの使用

自身のフォームは、表示状態のときのみ実行可能。

## 説明

- ・ <ハンドル> で指定したウィンドウの位置とサイズを取得します。

## 構文

```
ウィンドウ位置 取得, ¥  
  <ハンドル>, ¥  
  位置 = ( <x>, <y> ), ¥  
  サイズ = ( <幅>, <高さ> )
```

## パラメータ

### <ハンドル>

取得するウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )。

桐ウィンドウの位置とサイズを取得する場合は -1、[一括処理実行]ウィンドウの位置とサイズを取得する場合は 0 を指定します。[一括処理実行]ウィンドウを使用していないときに 0 を指定した場合は無視します。

### 位置 = ( <x>, <y> )

<x>と<y>に、表示位置を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

取得した座標の単位は dot です。

表ウィンドウとチャイルド フォームは、作業領域 ( 桐クライアントウィンドウ ) の左上隅を ( 0, 0 ) とします。

ポップアップ、モーダル、オーバーラップのフォームは、デスクトップの左上隅を ( 0, 0 ) とします。

### サイズ = ( <幅>, <高さ> )

<幅>と<高さ>に、取得したサイズを代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

取得したサイズの単位は dot です。

取得したサイズには、ウィンドウの枠とタイトルバーを含みます。

# ウィンドウ位置 設定

イベントでの使用

自身のフォームは、表示状態のときのみ実行可能。

## 説明

- <ハンドル> で指定したウィンドウの位置とサイズを設定します。
- 「位置 = 」だけを指定した場合は、ウィンドウの位置だけを移動します。
- 「サイズ = 」だけを指定した場合は、ウィンドウのサイズだけを変更します。

## 構文

ウィンドウ位置 設定, ¥  
    <ハンドル>, ¥  
    位置 = ( <x>, <y> ), ¥  
    サイズ = ( <幅>, <高さ> )

## パラメータ

### <ハンドル>

設定するウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )。

桐ウィンドウの位置またはサイズを設定する場合は -1、[一括処理実行]ウィンドウの位置またはサイズを設定する場合は 0 を指定します。[一括処理実行]ウィンドウを使用していないときに 0 を指定した場合は無視します。

### 位置 = ( <x>, <y> )

ウィンドウの左上隅の位置を、dot 単位の数値で指定します ( 計算式 )。

表ウィンドウとチャイルド フォームは、作業領域 ( 桐クライアントウィンドウ ) の左上隅を ( 0, 0 ) とします。

ポップアップ、モーダル、オーバーラップのフォームは、デスクトップの左上隅を ( 0, 0 ) とします。

### サイズ = ( <幅>, <高さ> )

ウィンドウのサイズを、dot 単位の数値で指定します ( 計算式 )。

指定するサイズには、ウィンドウの枠とタイトルバーを含めます。

# ウィンドウ会話

イベントでの使用

x 不可

## 説明

- 指定したウィンドウに切り替えて、会話形式編集を行いません。
- このコマンドを実行する場合は、あらかじめ [ウィンドウ作成] コマンドで、表またはフォームのウィンドウを作成しておく必要があります。

## 記述例

- 表編集ウィンドウを使用して、処理するレコードと項目を選択します。

表 "Jusho.tbl"

ウィンドウ作成 表, ハンドル = &hWnd

ウィンドウ会話 &hWnd, 更新 = 禁止, 許可作業 = なし, ¥

項目番号 = &Field, 終了状態 = &OK

- フォーム編集開始時に、[OK] ボタン ( オブジェクト名 = bOK ) をフォーカスし、終了時にクリックされたコマンドボタンのオブジェクト名を取得します。

表 "Jusho.tbl", 使用フォーム = "Jusho.wfm"

ウィンドウ作成 フォーム, ハンドル = &hWnd

ウィンドウ会話 &hWnd, 初期項目 = @bOK, ¥

ボタン = &Obj, 終了状態 = &OK

- 表編集時に使用できるメニュー項目を行挿入と併合だけにします。

表 "Jusho.tbl"

ウィンドウ作成 表, ハンドル = &hWnd

ウィンドウ会話 &hWnd, ¥

許可作業 = 行挿入 + 併合, ¥

終了状態 = &OK

## 構文

ウィンドウ会話 ¥

<ハンドル>, ¥

更新 = 許可 | 禁止, ¥

許可作業 = \* | なし | <作業名> + ..., ¥

初期項目 = <項目名> | <項目番号> | <オブジェクト名> | 先頭 | 最終, ¥

項目番号 = <変数名>, ¥

カーソル = | | | , ¥

ガイド = <文字列>, ¥

ボタン = <文字列型の変数名>, ¥

モーダル = する | しない, ¥

ハンドル = <長整数>, ¥

終了状態 = <変数名>

## パラメータ

<ハンドル>

操作するウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

## 更新 = 許可 | 禁止

ウィンドウ上で編集するとき、レコードを更新できるようにするかどうかを指定します。

このパラメータは「許可作業=」より優先します。

フォームの許可作業でOFFにしている作業は、つねに禁止されます。

変数値をソースにしているオブジェクトは、この指定に関わらず、つねにフォーム上で編集できます。

「更新=禁止, 許可作業=なし」を指定すると、[Enter] キーと [Esc] キーでもコマンドが終了します (オブジェクトをマウスクリックしただけでは終了しません)。

## 許可作業 = \* | なし | <作業名> + ...

すべての作業を許可する場合は「許可作業=\*」を指定します。表の再定義、項目名の変更、項目属性の自動設定、変数管理は、「許可作業=\*」を指定した場合に限り使用できます。

レコード移動用にウィンドウを使用する場合は、「許可作業=なし」を指定します。

特定の機能だけを使用する場合は、許可する作業名を指定します (定数)。指定した作業名に属さないメニュー項目は、使用できなくなります。複数の作業を許可するには、つぎの作業名を + でつなげます。

作業名	説明
編集表	新規作成、開く、外部データベースに接続のみ許可。
印刷	一覧表印刷と編集表を使用したレポート印刷、処理条件の印刷、プリンタの変更のみ。
書き出し	
併合	許可する併合処理に応じて、行挿入、行訂正、行削除、絞り込みの作業名も指定してください。
表整理	
再抽出	
元に戻す	編集中の訂正は、この作業名の指定に関わらず、つねに許可。
使用フォーム	表編集、フォーム編集、フォームの選択、フォームの解除を含む。
行挿入	行挿入、行追加、行複写、読み込み、グループ追加を含む。
行訂正	項目訂正、行移動、置換、グループ値訂正、値複写を含む。
行削除	グループ削除。
行復活	削除行の表示と非表示の切り替えを含む。
絞り込み	
並べ替え	索引定義は含まない。
索引	索引定義のみ。
行集計	転置集計を含まない。項目集計は、この作業名の指定に関わらず、つねに許可。
転置集計	
解除	全解除、グループ解除を含む。
ロック	レコードロック、レコードロック全解除のみ。
表示幅	列の非表示、列固定、列固定解除、表の表示条件、項目の表示条件、表示条件の読み込み、表示条件の保存を含む。
多重化	編集対象表の多重化のみ許可。

つぎのメニュー項目は、つねに使用できます。

一括処理に戻る

閉じる (一括処理に戻ると同じ)

コピー

検索、ジャンプ

ステータスバー、ツールバー

拡張編集、項目の一覧

空白文字

ズームイン、ズームアウト

定義倍率で表示  
表示倍率の設定  
フォームのサイズに調整  
最新の情報に更新  
高速表示、状態表示  
環境設定、拡張編集  
カスタマイズ

#### 初期項目 = <項目名> | <項目番号> | <オブジェクト名> | 先頭 | 最終

表のどの項目、またはフォーム上のどのテキストオブジェクトに、フォーカスするかを指定します。

ウィンドウ作成時のフォーカス位置は、表の先頭項目または一番後ろのオブジェクトです。つぎの値が指定できます。

種類	説明
<項目名>	表の項目名を指定します。名前の前後に [ ] をつけます。文字列型の変数で指定する場合は、[ ] をつけずに指定します。
<項目番号>	表定義時の、先頭項目から数えた項目番号を指定します。変数で指定する場合は、数値型、通貨型、整数型、長整数型、実数型のいずれかでなければいけません。
<オブジェクト名>	オブジェクトの名前を指定します。名前の前には @ をつけます。変数で指定する場合は、変数名の前に _ をつけます (変数値には @ をつけません)。
先頭	表の先頭に定義した項目に移動します。変数で指定することはできません。
最終	表の最後に定義した最終項目に移動します。変数で指定することはできません。

表示されていない項目は、指定しても無効です。[フォーカス設定]が「禁止」または「使用不可表示」になっているテキストオブジェクトをフォーカスさせることはできません。サブフォームの項目やオブジェクト名は、このパラメータでは指定できません。このパラメータを省略すると、現在のフォーカス位置を引き継ぎます。

#### 項目番号 = <変数名>

会話形式編集を終了したとき、セルカーソルがどの項目にあったかを取得する場合に使用します。

<変数名>には、項目番号を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

終了時、表の項目を編集するオブジェクト上にフォーカスがなかった場合は、代入される項目番号が不定になります。

#### カーソル = | | |

[Enter] キーを押したときの移動方向を指定します。省略すると、前回の移動方向を引き継ぎます。

#### ガイド = <文字列>

ステータスバーに表示する文字列を指定します (計算式)。

フォームウィンドウでこのパラメータを指定すると、フォームの [表示ガイド] と [入力ガイド] が表示されなくなります。

**ボタン = <文字列型の変数名>**

オブジェクト名を代入する変数名を指定します。この変数には、終了時にクリックしたコマンドボタンのオブジェクト名が代入されます。変数のデータ型は、文字列型でなければいけません。

コマンドボタンを使用せずにフォーム編集を終了した場合、[終了時実行コマンドボタン]と[ESCキー実行コマンドボタン]にボタンオブジェクト名が設定されていれば、そのオブジェクト名が代入されます。この属性が設定されていなければ、未定義値が代入されます。

**モーダル = する | しない**

他のウィンドウに切り替えて作業できるようにするには「しない」、他のウィンドウに切り替えできなくするには「する」を指定します。

どちらを指定した場合であっても、表編集とフォーム編集を切り替えることはできません。

**ハンドル = <長整数>**

このコマンドが終了したときに、アクティブになっているウィンドウのハンドルを取得する場合に指定します。

指定する変数のデータ型は、数値型、通貨型、整数型、長整数型、実数型のいずれかでなければいけません。

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	会話処理が[表示]メニューまたはコマンドボタンの[一括処理に戻る]、ウィンドウタイトルバーの[×]ボタン、[Enter]キーなどで終了した。
0	会話処理が[Esc]キーで終了した。

[Enter]キーと[Esc]キーで終了できるのは、「更新=禁止」または「許可作業=なし」を指定して実行したときだけです。

# ウィンドウ更新

## 説明

- <ハンドル>で指定したウィンドウを、最新の情報に更新します。
- すべてのウィンドウを更新する場合は、<ハンドル>に -1 を指定します。
- 「カーソル位置 =」を指定すると、そのウィンドウ上でのカーソル位置を変更できます。

## 記述例

- すべてのウィンドウを、最新の情報に更新します。  
ウィンドウ更新 -1
- 一番手前に表示されているウィンドウを、最新の情報に更新します。  
変数宣言 長整数 { &hWnd [ 40 ] }  
ウィンドウリスト取得 &hWnd  
ウィンドウ更新 &hWnd [ 1 ]

## 構文

ウィンドウ更新 ¥  
<ハンドル> , ¥  
カーソル位置 = <項目名> | <項目番号> | <オブジェクト名> | 先頭 | 最終

## パラメータ

### <ハンドル>

更新するウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。  
すべてのウィンドウを更新する場合は、-1 を指定します。

### カーソル位置 = <項目名> | <項目番号> | <オブジェクト名> | 先頭 | 最終

表のどの項目、またはフォーム上のどのテキストオブジェクトにフォーカスを設定するかを指定します。  
つぎの値が指定できます。

種類	説明
<項目名>	表の項目名を指定します。名前の前後に [ ] をつけます。 文字列型の変数で指定する場合は、[ ] をつけずに指定します。
<項目番号>	表定義時の、先頭項目から数えた項目番号を指定します。 変数で指定する場合は、数値型、通貨型、整数型、長整数型、実数型のいずれかでなければいけません。
<オブジェクト名>	オブジェクトの名前を指定します。名前の前には @ をつけます。 変数で指定する場合は、変数名の前に _ をつけます（変数値には @ をつけません）。
先頭	表の先頭に定義した項目に移動します。変数で指定することはできません。
最終	表の最後に定義した最終項目に移動します。変数で指定することはできません。

表示されていない項目は、指定しても無効です。サブフォームの項目やオブジェクト名は指定できません。

[フォーカス設定]が「禁止」または「使用不可表示」になっているテキストオブジェクトには、フォーカスを設定できません。

ウィンドウ作成時のフォーカス位置は、表の先頭項目または一番後ろのオブジェクトです。このパラメータを省略すると、現在のフォーカス位置を引き継ぎます。

# ウィンドウ作成

## イベントでの使用

フォームの編集対象表のウィンドウを作成することは不可。

### 説明

- 編集対象表の表またはフォームのウィンドウを作成します。
- ウィンドウ作成後に、オブジェクト操作コマンドで操作する場合は、「オプション=非表示」にしておき、操作が終了したらウィンドウ位置コマンドで表示状態に戻すようにします。
- 一括処理でフォームのウィンドウを新規作成した場合は、[ウィンドウ形式]に「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」になります。

### 記述例

- 編集対象表の表ウィンドウを作成し、[氏名] にフォーカスします。  
ウィンドウ作成 表, ハンドル = &hWnd, カーソル位置 = [氏名]
- 編集対象表のフォームウィンドウを作成し、[OK] ボタン( オブジェクト名 = bOK )にフォーカスします。  
ウィンドウ作成 フォーム, ハンドル = &hWnd, カーソル位置 = @bOK
- 表示位置を 25 ピクセルずつ右下にずらしながら、5 個の表ウィンドウを新規作成します。  
変数宣言 共通, 整数{ &hWnd [ 20 ] = { 0 }, &TblNo }  
表 "A.TBL"  
表 "B.TBL"  
表 "C.TBL"  
表 "D.TBL"  
表 "E.TBL"  
繰り返し &TblNo = 1, 5  
編集表 &TblNo  
ウィンドウ作成 表, ¥  
位置 = ( &TblNo \* 25 - 25, &TblNo \* 25 - 25 ), ¥  
ハンドル = &hWnd [ &TblNo + 1 ]  
繰り返し終了

### 構文

```
ウィンドウ作成 ¥  
表 | フォーム | <フォーム ファイル名>, ¥  
位置 = ( <x>, <y> ), ¥  
サイズ = ( <幅>, <高さ> ), ¥  
ハンドル = <長整数>, ¥  
カーソル位置 = <項目名> | <項目番号> | <オブジェクト名> | 先頭 | 最終, ¥  
オプション = 通常 | 最大化 | 最小化 | 非表示, ¥  
編集表 = しない | する | 開く
```

### パラメータ

表 | フォーム | <フォーム ファイル名>  
作成するドキュメントウィンドウの種類を指定します。

対象表が設定されていないフォームのウィンドウを作成する場合は、<フォーム ファイル名>を指定します。

対象表が設定されているフォームを<フォーム ファイル名>で指定する場合は、必ず「編集表=する」を指定してください。

**位置** = ( <x> , <y> )

ウィンドウの左上隅の位置を、dot 単位の数値で指定します ( 計算式 )。

表ウィンドウとチャイルド フォームは、作業領域 ( 桐クライアントウィンドウ ) の左上隅を ( 0 , 0 ) とします。

ポップアップ、モーダル、オーバーラップのフォームは、デスクトップの左上隅を ( 0 , 0 ) とします。

**サイズ** = ( <幅> , <高さ> )

ウィンドウのサイズを、dot 単位の数値で指定します ( 計算式 )。

指定するサイズには、ウィンドウの枠とタイトルバーを含めます。

**ハンドル** = <長整数>

取得するフォームウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームのオブジェクト属性を設定する場合は、このパラメータを省略できます。

**カーソル位置** = <項目名> | <項目番号> | <オブジェクト名> | 先頭 | 最終

表のどの項目、またはフォーム上のどのテキストオブジェクトにフォーカスを設定するかを指定します。

つぎの値が指定できます。

種類	説明
<項目名>	表の項目名を指定します。名前の前後に [ ] をつけます。 文字列型の変数で指定する場合は、[ ] をつけずに指定します。
<項目番号>	表定義時の、先頭項目から数えた項目番号を指定します。 変数で指定する場合は、数値型、通貨型、整数型、長整数型、実数型のいずれかでなければいけません。
<オブジェクト名>	オブジェクトの名前を指定します。名前の前には @ をつけます。 変数で指定する場合は、変数名の前に _ をつけます ( 変数値には @ をつけません )。
先頭	表の先頭に定義した項目に移動します。変数で指定することはできません。
最終	表の最後に定義した最終項目に移動します。変数で指定することはできません。

表示されていない項目は、指定しても無効です。サブフォームの項目やオブジェクト名は指定できません。

[フォーカス設定] が「禁止」または「使用不可表示」になっているテキストオブジェクトには、フォーカスを設定できません。

ウィンドウ作成時のフォーカス位置は、表の先頭項目または一番後ろのオブジェクトです。このパラメータを省略すると、現在のフォーカス位置を引き継ぎます。

**オプション** = 通常 | 最大化 | 最小化 | 非表示

ウィンドウ作成時の状態を指定します。

パラメータ	説明
通常	作成するウィンドウは、最大化も最小化もしません。
最大化	作成するウィンドウを最大化します。
最小化	作成するウィンドウを最小化します。
非表示	作成するウィンドウを非表示にします。

#### 編集表 = しない | する | 開く

<フォーム ファイル名> で指定したウィンドウを作成するときに指定します。表またはフォームのウィンドウを作成する場合は、指定できません。  
つぎのいずれかを指定します。

選択肢	説明
しない	対象表がない<フォーム ファイル>を開きます。
する	現在の編集対象表を<フォーム ファイル名>の対象表にします。 編集対象表のウィンドウがすでに表示されている場合、またはグループ化されている場合に指定すると、エラーになりますので注意してください。
開く	<フォーム ファイル名> に定義している対象表を開き、編集編集対象表にします。

# ウィンドウ終了

イベントでの使用

自身のフォームに対しては、つねに不可。

## 説明

- 指定したウィンドウを閉じます。
- 一括処理で実行した場合は、表と使用フォームが開かれたままになります。
- イベントハンドラ内で実行した場合は、表と使用フォームの両方を閉じます。

## 記述例

- ハンドル = 5 のウィンドウを閉じます。  
ウィンドウ終了 5

## 構文

ウィンドウ終了 <ハンドル>

## パラメータ

### <ハンドル>

操作するウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。  
無効なハンドルを指定するとエラーになります。

# ウィンドウ情報取得

イベントでの使用

可能

## 説明

- <ハンドル> で指定したウィンドウの表名とフォーム名を取得して、変数に代入します。
- 「表名=」と「フォーム名=」のどちらかひとつだけでもかまいません。
- 該当する情報がない場合は、未定義値が代入されます。

## 構文

```
ウィンドウ情報取得 ¥  
    <ハンドル> , ¥  
    表名 = <文字列型の変数名> , ¥  
    フォーム名 = <文字列型の変数名>
```

## パラメータ

### <ハンドル>

操作するウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。  
無効なハンドルを指定するとエラーになります。

### 表名 = <文字列型の変数名>

指定したウィンドウの表名を取得する場合に指定します。  
このパラメータに指定した変数には、表のファイル名がフルパスで代入されます。

### フォーム名 = <文字列型の変数名>

指定したウィンドウのフォーム名を取得する場合に指定します。  
このパラメータに指定した変数には、フォームのファイル名がフルパスで代入されます。

# ウィンドウリスト取得

イベントでの使用

可能

## 説明

- 一番手前のウィンドウのハンドルを <変数名> に代入します。
- <変数名> には、数値型、通貨型、整数型、長整数型、実数型の変数名を指定します。
- 配列変数を指定した場合は、要素数分のハンドルを代入します。配列変数の要素数は、いくつでもかまいません。
- 配列変数に代入するときの順番は、現在の表示順（ウィンドウの重なり順）です。n 番目のウィンドウが開いていない場合は、n 番目の要素が未定義になります。
- イベント定義のメイン処理で実行したときに取得できるハンドルリストは、フォームが開く前のものです。メイン処理を呼び出したフォームのウィンドウハンドルは含まれません。
- [フォーム開始] イベントのハンドラ内で実行すると、実行結果が不定になります。このハンドラ内では使用しないでください。

## 構文

ウィンドウリスト取得 <変数名> | <配列変数名>

## ノート

- フォームのウィンドウには、チャイルドとポップアップ（モーダル）、オーバーラップの3種類があります。
- 表とチャイルド フォームのウィンドウは、ともに桐の子供になるウィンドウです（=子ウィンドウ）。
- ポップアップ フォームは、子ウィンドウより手前に表示されるウィンドウです。モーダルフォームも、ポップアップフォームのひとつとして扱います。
- オーバーラップ フォームは、親である桐のウィンドウを隠してしまうため、その子供も隠れてしまいます。そのため、オーバーラップ フォームを開いているあいだは、チャイルドフォームのハンドルを取得することができません。
- オーバーラップ フォームから開いたフォームは、つねにポップアップ フォームになります。オーバーラップから開いたポップアップ フォームのウィンドウは、オーバーラップより手前に表示されます。

## オブジェクト操作（取得）

コマンドの別名	object
イベントでの使用	可能

### 説明

- オブジェクトの属性値を取得します。
- 「<オブジェクト名> = { ... }」の形式は、ひとつのオブジェクトから、複数の属性値を取得するときに使用します。この形式で指定するときは、オブジェクト名を省略してはいけません。

### 記述例

- ボタンオブジェクト ( bOK ) の [ 機能名1 ] と [ 機能パラメータ1 ] の値を取得します。  
オブジェクト操作 @bOK { &Obj [ 1 ] = 機能名1 , &Obj [ 2 ] = 機能パラメータ1 }  
または  
オブジェクト操作 &Obj [ 1 ] = @bOK.機能名1 , ¥  
&Obj [ 2 ] = @bOK.機能パラメータ1
- &hWnd で指定したフォームウィンドウの、ボタンオブジェクト ( コントロール\_1 ) の前景色と、ふたつのテキストオブジェクト ( テキスト\_2、テキスト\_3 ) の前景色と背景色を取得します。  
オブジェクト操作 ハンドル = &hWnd , ¥  
&TextColor = @コントロール\_1.前景色 , ¥  
@テキスト\_2 { &TextColor [ 1 ] = 前景色 , &BackColor [ 1 ] = 背景色 } , ¥  
@テキスト\_3 { &TextColor [ 2 ] = 前景色 , &BackColor [ 2 ] = 背景色 }

### 構文

```
オブジェクト操作 ¥  
ハンドル = <長整数> , ¥  
<変数名> = <オブジェクト名> . <属性名>  
| <オブジェクト名> { <変数名> = <属性名> , ... } , ...
```

### パラメータ

**ハンドル = <長整数>**

属性を取得するフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームのオブジェクト属性を取得する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームのオブジェクト属性を取得する場合は、「ハンドル = 」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略できません。

**<変数名> = <オブジェクト名> . <属性名>**

**| <オブジェクト名> { <変数名> = <属性名> , ... } , ...**

取得した値を代入する変数名と、取得元となるオブジェクト名と属性名を指定します。

## オブジェクト操作（設定）

コマンドの別名	object
イベントでの使用	可能

### 説明

- オブジェクトの属性値を、一時的に変更します。
- 「<オブジェクト名>{ ... }」の形式は、ひとつのオブジェクトに対して、複数の属性値を変更するとき 사용합니다。この形式で指定するときは、オブジェクト名を省略してはいけません。

### 記述例

- コマンドボタンオブジェクト( コマンドボタン\_1 )を非表示にします。  
オブジェクト操作 @コマンドボタン\_1.画面表示 = 0
- オブジェクト名を変数で指定して、上のサンプルと同じ操作を行ないます。  
オブジェクト操作 &ObjName.画面表示 = 0
- &hWnd で指定した、フォームウィンドウのテキストオブジェクトの前景色( 文字色 )を、赤に変更します。  
オブジェクト操作 ハンドル = &hWnd , ¥  
@テキスト\_1{ 前景色 = "指定色" , 前景色 = "赤" }

### 構文

```
オブジェクト操作 ¥  
    ハンドル = <長整数> , ¥  
    <オブジェクト名> . <属性名> = <属性値>  
    | <オブジェクト名> { <属性名> = <属性値> , ... } , ...
```

### パラメータ

**ハンドル = <長整数>**

属性を設定するフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームのオブジェクト属性を設定する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームのオブジェクト属性を設定する場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略できません。

**<オブジェクト名> . <属性名> = <属性値>**

**| <オブジェクト名> { <属性名> = <属性値> , ... } , ...**

設定するオブジェクト名と属性名、その属性に設定する属性値を指定します。

### ノート

- つぎのオブジェクト属性は、メイン処理でのみ変更できます。

編集対象表  
開始条件種別1 ~ 2  
開始条件名1 ~ 2  
[フォーム開始] イベントのON / OFF  
グループキャッシュ  
グループソース  
グループソート  
局所変数 (サブフォームオブジェクト)  
ジャンプバー  
グループ操作バー  
ボタンの大きさ  
ボタンの種類1 ~ 20

- つぎのオブジェクト属性は、変更できません。

すべて表示、未登録オブジェクト表示  
オブジェクト名、作成者名、スタイル名  
フォームの形式、参照表、表の共有  
表の更新、表番号、結合表パラメータ入力  
イベント処理ファイル、タイトルバー、タイトルバーの形式  
境界線の形式、フォームスクロールバー、ウィンドウの形式  
編集時の表示倍率、ウィンドウのサイズ  
垂直位置の調整、水平位置の調整  
最小化ボタン、最大化ボタン  
ヘルプボタン、コントロールメニューボックス  
メニューバー、フォーム操作バー  
レコードスクロールバー、レコード操作バー  
グループ操作バー、ステータスバー  
グリッドの色、グリッドの垂直格子数  
グリッドの水平格子数、ヘルプコメント  
繰り返し表示、入力支援ボタン  
サイズの自動調整、定義時の表示  
グラフモード、表示開始行番号  
表示対象行数

## カーソル移動方向

イベントでの使用

可能

### 説明

- 編集対象表の編集時に [Enter] キーが押された場合、どの方向に項目カーソルを移動させるかを指定します。
- この設定は、表を閉じるまで有効です。
- このコマンドは、移動方向を固定するものではありません。会話形式で編集しているときには、いつでも移動方向を変更できます。

### 構文

カーソル移動方向 | | |

## 解除

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 絞り込み状態または整列状態を解除します。
- 1 を指定すると 1 段階解除します。
- \* を指定するか、パラメータそのものを省略すると、表を基本状態にします。
- 絞り込み状態だけを解除する場合は、[絞り込み解除]コマンドを使用してください。

### 記述例

- 絞り込み状態と整列状態を全解除します。

```
解除 *  
または  
解除
```

### 構文

```
解除 * | 1
```

## 外部DB 会話

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- [外部データベースに接続]ダイアログボックスを出して、外部データベースの接続と接続解除を行いません。
- このコマンドを使用するには、コンピュータに [32ビットODBC ドライバ] をインストールしておく必要があります。
- 「接続ハンドル=」で指定した変数には、最後に接続した外部データベースの接続ハンドル、またはダイアログボックスの [選択] ボタンで選択した外部データベースの接続ハンドルを返します。
- すべての接続を解除した場合は、「接続ハンドル=」で指定した変数値が、実行前の値のままになります。

### 構文

```
外部DB 会話, ¥
    接続ハンドル = <変数名>, ¥
    終了状態 = <変数名>
```

### パラメータ

#### 接続ハンドル = <変数名>

このコマンドで接続した外部データベースのハンドルを代入する変数名を指定します。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	なんらかのエラーが発生した。
-1	利用者によって、操作がキャンセルされた。

## 外部DB 接続

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- すでに接続されている場合は、接続済みの「接続ハンドル」を返します。
- このコマンドを使用するには、コンピュータに [32ビットODBC ドライバ] をインストールしておく必要があります。
- 「ユーザ名=」または「パスワード=」を省略した場合は、ユーザ名とパスワードを入力するダイアログ ボックスが出てきます。
- イベントハンドラ内で実行する場合は「ユーザ名=」と「パスワード=」を省略できません。

### 記述例

- ODBC データソースに登録された「Excel Files」に接続します。  
外部DB 接続, ODBC = "Excel Files", ¥  
ユーザ名 = "", パスワード = "", ¥  
接続ハンドル = &hODBC, 終了状態 = &OK
- ユーザ名とパスワードを入力する画面を出して、ODBC データソースに登録された「MS Access 97 Database」に接続します。  
外部DB 接続, ODBC = "MS Access 97 Database", ¥  
接続ハンドル = &hODBC, 終了状態 = &OK

### 構文

```
外部DB 接続, ¥  
ODBC = <ユーザデータソース名>, ¥  
ユーザ名 = <文字列>, ¥  
パスワード = <文字列>, ¥  
接続ハンドル = <変数名>, ¥  
終了状態 = <変数名>
```

### パラメータ

**ODBC = <ユーザデータソース名>**

接続するデータソース名を指定します。

データソース名は、[ユーザ DSN] に登録した名前を指定します。[ユーザ DSN] のデータソースは、[コントロール パネル] の [32ビット ODBC] または [ODBC データソース (32ビット)] で、あらかじめ登録しておかなければいけません。

**ユーザ名 = <文字列>**

外部データベースに接続するときのユーザ名を指定します。

ユーザ名は、接続する外部データベースに応じて異なります。

接続時のユーザ名が必要ない場合は、「ユーザ名=""」を指定します。

**パスワード = <文字列>**

外部データベースに接続するときのパスワードを指定します。

パスワードは、接続する外部データベースに応じて異なります。

接続時のパスワードが必要ない場合は、「パスワード=""」を指定します。

**接続ハンドル = <変数名>**

このコマンドで接続した外部データベースのハンドルを代入する変数名を指定します。

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	なんらかのエラーが発生した。
-1	利用者によって、操作がキャンセルされた。

## 外部DB 切断

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- <接続ハンドル> で指定した外部データベースを切断します。
- このコマンドを使用するには、コンピュータに [32ビットODBC ドライバ] をインストールしておく必要があります。

### 構文

```
外部DB 切断, ¥  
    <接続ハンドル>, ¥  
    終了状態 = <変数名>
```

### パラメータ

#### <接続ハンドル>

切断する外部データベースの接続ハンドルを指定します。

この接続ハンドルは、[外部DB 接続]コマンドまたは[外部DB 会話]コマンドで取得したものでなければいけません。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	なんらかのエラーが発生した。
-1	利用者によって、操作がキャンセルされた。

## 外部DB接続

イベントでの使用

× 不可

### 説明

- [外部データベースに接続]ダイアログボックスを出して、外部データベースの接続と接続解除を行ないます。
- このコマンドを使用するには、コンピュータに [32ビットODBC ドライバ] をインストールしておく必要があります。

### 構文

外部DB接続

# 会話処理実行

イベントでの使用

x 不可

## 説明

- 一括処理だけを終了し、表またはフォームの編集を継続します。
- 表の編集状態は、そのまま引き継ぎます。
- 開いている表がひとつもない場合は、編集する表を開くためのダイアログ ボックスが出てきます。
- <ハンドル> を指定すると、そのハンドルのウィンドウをアクティブにします。

## 構文

会話処理実行 <ハンドル>

## パラメータ

### <ハンドル>

操作するウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。  
無効なハンドルを指定するとエラーになります。

# 書き出し CSV

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 編集対象表のデータを、CSV ファイルに書き出します。

## 構文

```
書き出し CSV, ¥  
    <CSV ファイル名>, ¥  
    追加 | 中止, ¥  
    項目名 = しない | する, ¥  
    表示条件 = しない | する, ¥  
    終了状態 = <変数名>, ¥  
    { <項目名>, ... } | * |
```

## パラメータ

### <CSV ファイル名>

書き出す CSV ファイルの名前を指定します。

拡張子は「.csv」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子の後に「.csv」を付加します。

現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

### 追加 | 中止

指定した CSV ファイルが存在するとき、ファイルの最後に追加する場合は「追加」、書き出しを中止する場合は「中止」を指定します。上書きする場合は、このパラメータを省略します。

### 項目名 = しない | する

このパラメータは、項目名を書き出す場合に指定します。

選択肢	説明
しない	項目名を書き出しません。
する	項目名を、テキストの1行目に書き出します。

### 表示条件 = しない | する

表示条件と同じ形式の文字列に変換して書き出す場合は「する」を指定します。表に読み込む CSV ファイルを作成する場合は、「しない」を指定してください。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	-1 以外のエラーが発生した。
-1	ファイルが開かれている。
-2	ファイルがすでに開かれている。

{ <項目名>, ... } | \* |

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。

このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 書き出し K3

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 表のデータを、K3フォーマットファイルに書き出します。

### 記述例

- [氏名]、[電話]、[〒]、[住所]のデータを書き出します。  
書き出し K3, "Jusho.k3", 終了状態 = &OK, ¥  
{ [氏名], [電話], [〒], [住所] }
- 表示されている項目のデータを追加書き出します。  
書き出し K3, "Jusho.k3", 追加, 終了状態 = &OK
- 表の定義順でデータを書き出します。同じファイルがすでに保存されていれば、中止します。  
書き出し K3, "Jusho.k3", 中止, 終了状態 = &OK, \*

### 構文

```
書き出し K3, ¥  
    <K3 フォーマット ファイル名>, ¥  
    追加 | 中止, ¥  
    項目名 = しない | する, ¥  
    終了状態 = <変数名>, ¥  
    { <項目名>, ... } | * |
```

### パラメータ

#### <K3 フォーマット ファイル名>

書き出す K3 フォーマットファイルの名前を指定します（計算式）。

拡張子は「.k3」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子の後ろに「.k3」を付加します。

現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### 追加 | 中止

指定した K3 フォーマットファイルが存在するとき、ファイルの最後に追加する場合は「追加」、書き出しを中止する場合は「中止」を指定します。上書きする場合は、このパラメータを省略します。

#### 項目名 = しない | する

このパラメータは、項目名を書き出す場合に指定します。

選択肢	説明
しない	項目名を書き出しません。
する	項目名を、テキストの 1 行目書き出します。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	-1 以外のエラーが発生した。
-1	ファイルが開かれている。
-2	ファイルがすでに開かれている。

{ <項目名> , ... } | \* |

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 書き出し 条件名

### イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

#### 説明

- 編集対象表の書き出し条件を使用して、指定した形式のファイルに書き出します。
- 「ファイル名変更=しない」を指定している書き出し条件を指定した場合は、実行前にファイル名を変更するダイアログボックスを出して、利用者の操作を待ちます。

#### 記述例

- 登録してある書き出し条件を使用して、表のデータを書き出します。  
書き出し 表, 条件名 = "個人用住所録", 終了状態 = &OK

#### 構文

書き出し ¥  
表 | テキスト | CSV | K3 | 枠組み | 転置 | 外部DB, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
終了状態 = <変数名>

#### パラメータ

**表 | テキスト | CSV | K3 | 枠組み | 転置 | 外部DB**  
使用する条件の種類を指定します。

**条件名 = <文字列>**  
使用する条件名を指定します（計算式）  
登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

**終了状態 = <変数名>**  
コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	-1以外のエラーが発生した。
-1	ファイルが開かれている。
-2	ファイルがすでに開かれている。

## 書き出し 定義

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 指定した表ファイルの定義情報を、K3 フォーマットファイルに書き出します。

### 記述例

- 「dJusho.k3」として、編集対象表の定義情報ファイルを作成します。  
書き出し 定義, #表ファイル名( #IS表 ), "dJusho.k3"

### 構文

書き出し 定義, ¥  
<表ファイル名>, ¥  
<K3 フォーマット ファイル名>

### パラメータ

#### <表ファイル名>

表のファイル名を指定します(計算式)。  
拡張子の「.tbl」は、省略してもかまいません。

#### <K3 フォーマット ファイル名>

書き出す K3 フォーマットファイルの名前を指定します(計算式)。  
拡張子は「.k3」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子の後ろに「.k3」を付加します。  
現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

## 書き出し テキスト

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 表のデータをテキストファイルに書き出します。

### 記述例

- [氏名]、[電話]、[〒]、[住所]をタブで区切って書き出します。  
書き出し テキスト, "Jusho.tab", 区切り = "09", 終了状態 = &OK, ¥  
{ [氏名], [電話], [〒], [住所] }
- 表示順序で項目を書き出します。  
書き出し テキスト, "Jusho.txt", 終了状態 = &OK
- 表の定義順で書き出します。  
書き出し テキスト, "Jusho.txt", 終了状態 = &OK, \*

### 構文

書き出し テキスト, ¥  
<テキストファイル名>, ¥  
追加 | 中止, ¥  
項目名 = しない | する, ¥  
表示条件 = しない | する, ¥  
区切り = <区切り文字>, ¥  
終了状態 = <変数名>, ¥  
{ <項目名>, ... } | \* |

### パラメータ

#### <テキストファイル名>

書き出すテキストファイルの名前を指定します (計算式)。  
拡張子を省略した場合は「.txt」を付加します。拡張子をつけない場合は「filename.」のように、ピリオドの後ろに半角の空白文字をつけます ( は半角の空白文字)。  
現在のデータベース上に存在しないテキスト ファイルを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### 追加 | 中止

指定したテキストファイルが存在するとき、ファイルの最後に追加する場合は「追加」、書き出しを中止する場合は「中止」を指定します。上書きする場合は、このパラメータを省略します。

#### 項目名 = しない | する

このパラメータは、項目名を書き出す場合に指定します。

選択肢	説明
しない	項目名を書き出しません。
する	項目名を、テキストの1行目に書き出します。

**表示条件 = しない | する**

表示条件と同じ形式の文字列に変換して書き出す場合は「する」を指定します。表に読み込むテキストファイルを作成する場合は、「しない」を指定してください。

**区切り = < 区切り文字 >**

項目値の区切りとして識別する文字を指定します。指定できる区切りは1文字です。省略すると半角コンマを区切り文字にします。

連続する空白を区切りにする場合は、「 \* 」を指定します（ \* は半角の空白）。

制御文字を指定する場合は、16進数の文字列を二重引用符でくくります。たとえば、タブで区切る場合は「区切り = "09"」と指定します。

二重引用符を区切りにはできません。

**終了状態 = < 変数名 >**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	-1以外のエラーが発生した。
-1	ファイルが開かれている。
-2	ファイルがすでに開かれている。

**{ < 項目名 > , ... } | \* !**

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。

このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 書き出し 転置

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表の行と列を転置した表を新規作成します。
- このコマンドは、編集対象表のレコードが 1999 件以下でなければ実行できません。

### 記述例

- 転置書き出しする表の 2 番目以降のデータ型を数値にします。  
書き出し 転置, "Worksheet.tbl", データ型 = 数値, ¥  
{ [1月], [2月], [3月], [4月], [5月], [6月] }
- 表の定義順で転置書き出しします。  
書き出し 転置, "Parsonal.tbl", データ型 = 数値, \*

### 構文

```
書き出し 転置, ¥  
  <表ファイル名>, ¥  
  | 中止, ¥  
  データ型 = 文字列 | 数値, ¥  
  { <項目名>, ... } | * | ¥  
  終了状態 = <変数名>
```

### パラメータ

#### <表ファイル名>

表のファイル名を指定します (計算式)。  
拡張子の「.tbl」は、省略してもかまいません。  
現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### | 中止

同名のファイルがあるとき、処理を中止する場合に指定します。  
上書きする場合は、このパラメータを省略します。

#### データ型 = 文字列 | 数値

2 番目以降の項目を文字列型にするか、数値型にするかを指定します。

#### { <項目名>, ... } | \* |

項目の順序を指定します。  
\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。  
このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	-1 以外のエラーが発生した。
-1	ファイルが開かれている。
-2	ファイルがすでに開かれている。

# 書き出し 表

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 表のデータを、別の表に書き出します。

## 記述例

- [氏名]を 24mm、[電話]を 20mm、[誕生日]を18桁として、表に書き出します。  
書き出し 表, "Parsonal.tbl", 終了状態 = &OK, ¥  
{ [氏名]M2400, [電話]M2000, [誕生日]18 / 0 }
- 現在の表示順で書き出し、すでに同じ表が保存されていれば中止します。  
書き出し 表, "Parsonal.tbl", 中止, 終了状態 = &OK

## 構文

```
書き出し 表, ¥  
  <表ファイル名>, ¥  
  追加 | 中止, ¥  
  終了状態 = <変数名>, ¥  
  { <項目名><表示幅> / <小数桁>, ... } | * |
```

## パラメータ

### <表ファイル名>

表のファイル名を指定します（計算式）。

拡張子の「.tbl」は、省略してもかまいません。

現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

### 追加 | 中止

指定した表ファイルが存在するとき、ファイルの最後に追加する場合は「追加」、書き出しを中止する場合は「中止」を指定します。上書きする場合は、このパラメータを省略します。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	-1 以外のエラーが発生した。
-1	ファイルが開かれている。
-2	ファイルがすでに開かれている。

```
{ <項目名><表示幅> / <小数桁>, ... } | * |
```

<表示幅> / <小数桁> は、つぎの形式で指定します。指定しない項目は非表示になります。

形式	説明						
<表示幅>	つぎのいずれかの単位で指定します。						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>補足</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M&lt;長さ&gt;</td> <td>1 / 100 mm 単位の長さを指定します。 100 (1ポイント) より小さい値を指定してはいけません。 省略すると、現在の表示幅を引き継ぎます。 表示幅がゼロの項目は、18 桁で表示します。</td> </tr> <tr> <td>&lt;桁数&gt;</td> <td>表示幅を桁数で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の[データ]タブで指定したフォントとサイズです。</td> </tr> </tbody> </table>	単位	補足	M<長さ>	1 / 100 mm 単位の長さを指定します。 100 (1ポイント) より小さい値を指定してはいけません。 省略すると、現在の表示幅を引き継ぎます。 表示幅がゼロの項目は、18 桁で表示します。	<桁数>	表示幅を桁数で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の[データ]タブで指定したフォントとサイズです。
単位	補足						
M<長さ>	1 / 100 mm 単位の長さを指定します。 100 (1ポイント) より小さい値を指定してはいけません。 省略すると、現在の表示幅を引き継ぎます。 表示幅がゼロの項目は、18 桁で表示します。						
<桁数>	表示幅を桁数で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の[データ]タブで指定したフォントとサイズです。						
<小数桁>	小数部の桁数を指定します。この値は、項目のデータ型が数値、通貨、実数、日時、時間の場合に限り、指定できます。						

\* を指定すると表の定義順で書き出します。非表示の項目も書き出します。  
このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

# 書き出し 枠組み

## イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表と同じ枠組みの表を新規作成します。
- 索引や検索条件、一覧表印刷条件などの処理条件も一緒に書き出します。

### 記述例

- 編集対象表と同じ枠組みの表を、Jusho-Org.tblとして作成します。  
書き出し 枠組み, "Jusho-Org.tbl", 終了状態 = &OK

### 構文

書き出し 枠組み, ¥  
<表ファイル名>, ¥  
| 中止, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### <表ファイル名>

表のファイル名を指定します (計算式)

拡張子の「.tbl」は、省略してもかまいません。

現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### | 中止

同名のファイルがあるとき、処理を中止する場合に指定します。

上書きする場合は、このパラメータを省略します。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

## 書き出し条件削除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 指定した形式の書き出し条件を削除します。

### 記述例

- 編集対象表の書き出し条件をふたつ削除します。  
書き出し条件削除 表, "個人用データ", "作業用"
- テキストの書き出し条件をすべて削除します。  
書き出し条件削除 テキスト, \*

### 構文

書き出し条件削除 ¥  
表 | テキスト | CSV | K3 | 枠組み | 転置 | 外部DB, ¥  
<条件名>, ... | \*

### パラメータ

表 | テキスト | CSV | K3 | 枠組み | 転置 | 外部DB

削除する条件の種類を指定します。種類の違う書き出し条件を指定することはできません。

<条件名>, ... | \*

削除する条件の名前を指定します（計算式）。

複数の条件を削除する場合は、条件名を半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、すべての条件を削除します。

登録されていない条件を指定するとエラーになります。

## 書き出し条件登録 CSV

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- CSV ファイルの書き出し条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 表、テキスト、CSV、K3フォーマットファイル、表の枠組み、転置、外部データベースを合わせた条件数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 構文

```
書き出し条件登録 CSV , ¥
  条件名 = <文字列> , ¥
  <CSV ファイル名> , ¥
  追加 | 中止 , ¥
  ファイル名変更 = しない | する , ¥
  項目名 = しない | する , ¥
  表示条件 = しない | する , ¥
  { <項目名> , ... } | * |
```

### パラメータ

#### 条件名 = <文字列>

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

#### <CSV ファイル名>

書き出す CSV ファイルの名前を指定します。

拡張子は「.csv」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子の後に「.csv」を付加します。

現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### 追加 | 中止

指定した表ファイルが存在するとき、ファイルの最後に追加する場合は「追加」、書き出しを中止する場合は「中止」を指定します。上書きする場合は、このパラメータを省略します。

#### ファイル名変更 = しない | する

実行時にファイル名を入力するダイアログボックスを出すかどうかを指定します。

#### 項目名 = しない | する

このパラメータは、項目名を書き出す場合に指定します。

選択肢	説明
しない	項目名を書き出しません。
する	項目名を、テキストの1行目書き出します。

#### 表示条件 = しない | する

表示条件と同じ形式の文字列に変換して書き出す場合は「する」を指定します。表に読み込む CSV ファイルを作成する場合は、「しない」を指定してください。

{ <項目名> , ... } | \* |

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。

このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 書き出し条件登録 K3

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- K3 フォーマット ファイルの書き出し条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 表、テキスト、CSV、K3フォーマットファイル、表の枠組み、転置、外部データベースを合わせた条件数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- K3 フォーマットファイルに書き出す条件を登録します。  
書き出し条件登録 K3, 条件名 = "個人用データ", "Parsonal.k3", ¥  
{ [氏名], [電話], [〒], [住所] }
- 書き出す項目の順序を、登録時の表示順にします。  
書き出し条件登録 K3, 条件名 = "データ変換", "Parsonal.k3", \*

### 構文

書き出し条件登録 K3, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
<K3 フォーマット ファイル名>, ¥  
追加 | 中止, ¥  
ファイル名変更 = しない | する, ¥  
項目名 = しない | する, ¥  
{ <項目名>, ... } | \* |

### パラメータ

#### 条件名 = <文字列>

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

#### <K3 フォーマット ファイル名>

書き出す K3 フォーマットファイルの名前を指定します（計算式）。

拡張子は「.k3」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子の後ろに「.k3」を付加します。

現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### 追加 | 中止

指定した表ファイルが存在するとき、ファイルの最後に追加する場合は「追加」、書き出しを中止する場合は「中止」を指定します。上書きする場合は、このパラメータを省略します。

#### ファイル名変更 = しない | する

実行時にファイル名を入力するダイアログボックスを出すかどうかを指定します。

### 項目名 = しない | する

このパラメータは、項目名を書き出す場合に指定します。

選択肢	説明
しない	項目名を書き出しません。
する	項目名を、テキストの1行目書き出します。

{ <項目名> , ... } | \* |

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。

このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 書き出し条件登録 外部DB

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 外部データベースの書き出し条件を、編集対象表に登録します。
- <表名>には、外部データベース側の表（テーブル）の名前を指定します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 表、テキスト、CSV、K3フォーマットファイル、表の枠組み、転置、外部データベースを合わせた条件数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- 外部データベースに書き出す項目を [ 氏名 ]、[ 電話 ]、[ 誕生日 ] として登録します。  
書き出し条件登録 外部DB, ¥  
条件名 = "個人データ", ¥  
"Parsonal", { [ 氏名 ], [ 電話 ], [ 誕生日 ] }

### 構文

```
書き出し条件登録 外部DB, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
<表名>, ¥  
追加 | 中止, ¥  
ファイル名変更 = しない | する, ¥  
{ <項目名>, ... } | * |
```

### パラメータ

#### 条件名 = <文字列>

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

#### <表名>

外部データベース側の表（テーブル）の名前を指定します（計算式）。

#### 追加 | 中止

指定した表ファイルが存在するとき、ファイルの最後に追加する場合は「追加」、書き出しを中止する場合は「中止」を指定します。上書きする場合は、このパラメータを省略します。

#### ファイル名変更 = しない | する

実行時にファイル名を入力するダイアログボックスを出すかどうかを指定します。

#### { <項目名>, ... } | \* |

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 書き出し条件登録 テキスト

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- テキストファイルの書き出し条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 表、テキスト、CSV、K3フォーマットファイル、表の枠組み、転置、外部データベースを合わせた条件数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- データをタブで区切って書き出す条件を登録します。  
書き出し条件登録 テキスト, 条件名 = "データ変換", ¥  
"Parsonal.txt", 区切り = "09", ¥  
{ [氏名], [電話], [〒], [住所] }

### 構文

書き出し条件登録 テキスト, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
<テキストファイル名>, ¥  
追加 | 中止, ¥  
ファイル名変更 = しない | する, ¥  
区切り = <区切り文字>, ¥  
項目名 = しない | する, ¥  
表示条件 = しない | する, ¥  
{ <項目名>, ... } | \* |

### パラメータ

#### 条件名 = <文字列>

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

#### <テキストファイル名>

書き出すテキストファイルの名前を指定します（計算式）。  
拡張子を省略した場合は「.txt」を付加します。拡張子をつけない場合は「filename.」のように、ピリオドの後ろに半角の空白文字をつけます（ は半角の空白文字）。  
現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### 追加 | 中止

指定した表ファイルが存在するとき、ファイルの最後に追加する場合は「追加」、書き出しを中止する場合は「中止」を指定します。上書きする場合は、このパラメータを省略します。

#### ファイル名変更 = しない | する

実行時にファイル名を入力するダイアログボックスを出すかどうかを指定します。

**区切り = <区切り文字>**

項目値の区切りとして識別する文字を指定します。指定できる区切りは1文字です。省略すると半角コンマを区切り文字にします。

連続する空白を区切りにする場合は、「 \* 」を指定します（ は半角の空白）。

制御文字を指定する場合は、16進数の文字列を二重引用符でくくります。たとえば、タブで区切る場合は「区切り = "09"」と指定します。

二重引用符を区切りにはできません。

**項目名 = しない | する**

このパラメータは、項目名を書き出す場合に指定します。

選択肢	説明
-----	----

しない	項目名を書き出しません。
-----	--------------

する	項目名を、テキストの1行目を書き出します。
----	-----------------------

**表示条件 = しない | する**

表示条件と同じ形式の文字列に変換して書き出す場合は「する」を指定します。表に読み込むテキストファイルを作成する場合は、「しない」を指定してください。

**{ <項目名> , ... } | \* !**

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。

このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 書き出し条件登録 転置

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 転置書き出し条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 表、テキスト、CSV、K3フォーマットファイル、表の枠組み、転置、外部データベースを合わせた条件数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 構文

書き出し条件登録 転置, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
<表ファイル名>, ¥  
| 中止, ¥  
ファイル名変更 = しない | する, ¥  
データ型 = 文字列 | 数値, ¥  
{ <項目名> <表示幅> / <小数桁>, ... } | \* |

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

**<表ファイル名>**

表のファイル名を指定します（計算式）。

拡張子の「.tbl」は、省略してもかまいません。

現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

**| 中止**

同名のファイルがあるとき、処理を中止する場合に指定します。

上書きする場合は、このパラメータを省略します。

**ファイル名変更 = しない | する**

実行時にファイル名を入力するダイアログボックスを出すかどうかを指定します。

**データ型 = 文字列 | 数値**

2番目以降の項目を文字列型にするか、数値型にするかを指定します。

**{ <項目名> <表示幅> / <小数桁>, ... } | \* |**

<表示幅> / <小数桁> は、つぎの形式で指定します。指定しない項目は非表示になります。

形式	説明						
<表示幅>	つぎのいずれかの単位で指定します。						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>補足</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M&lt;長さ&gt;</td> <td>1 / 100 mm 単位の長さを指定します。 100 (1ポイント) より小さい値を指定してはいけません。 省略すると、現在の表示幅を引き継ぎます。 表示幅がゼロの項目は、18 桁で表示します。</td> </tr> <tr> <td>&lt;桁数&gt;</td> <td>表示幅を桁数で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の[データ]タブで指定したフォントとサイズです。</td> </tr> </tbody> </table>	単位	補足	M<長さ>	1 / 100 mm 単位の長さを指定します。 100 (1ポイント) より小さい値を指定してはいけません。 省略すると、現在の表示幅を引き継ぎます。 表示幅がゼロの項目は、18 桁で表示します。	<桁数>	表示幅を桁数で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の[データ]タブで指定したフォントとサイズです。
単位	補足						
M<長さ>	1 / 100 mm 単位の長さを指定します。 100 (1ポイント) より小さい値を指定してはいけません。 省略すると、現在の表示幅を引き継ぎます。 表示幅がゼロの項目は、18 桁で表示します。						
<桁数>	表示幅を桁数で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の[データ]タブで指定したフォントとサイズです。						
<小数桁>	小数部の桁数を指定します。この値は、項目のデータ型が数値、通貨、実数、日時、時間の場合に限り、指定できます。						

\* を指定すると表の定義順で書き出します。非表示の項目も書き出します。  
このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 書き出し条件登録 表

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 表の書き出し条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 表、テキスト、CSV、K3フォーマットファイル、表の枠組み、転置、外部データベースを合わせた条件数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- [氏名]を 24mm、[電話]を 20mm、[誕生日]を18 桁として、表に書き出す条件に登録します。  
書き出し条件登録 表, 条件名 = "個人データ", ¥  
"Parsonal.tbl", ¥  
{ [氏名]M2400, [電話]M2000, [誕生日]18 / 0 }
- 書き出す前に、表のファイル名を変更できる条件に登録します。  
書き出し条件登録 表, 条件名 = "個人データ", ¥  
"Parsonal.tbl", ファイル名変更 = する, ¥  
{ [氏名], [電話], [〒], [住所] }

### 構文

書き出し条件登録 表, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
<表ファイル名>, ¥  
追加 | 中止, ¥  
ファイル名変更 = しない | する, ¥  
{ <項目名><表示幅> / <小数桁>, ... } | \* !

### パラメータ

#### 条件名 = <文字列>

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も 1 文字と数えます。

#### <表ファイル名>

表のファイル名を指定します（計算式）。  
拡張子の「.tbl」は、省略してもかまいません。  
現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### 追加 | 中止

指定した表ファイルが存在するとき、ファイルの最後に追加する場合は「追加」、書き出しを中止する場合は「中止」を指定します。上書きする場合は、このパラメータを省略します。

#### ファイル名変更 = しない | する

実行時にファイル名を入力するダイアログボックスを出すかどうかを指定します。

{ <項目名> <表示幅> / <小数桁> , ... } | \* |

<表示幅> / <小数桁> は、つぎの形式で指定します。指定しない項目は非表示になります。

形式	説明						
<表示幅>	つぎのいずれかの単位で指定します。						
	<table><thead><tr><th>単位</th><th>補足</th></tr></thead><tbody><tr><td>M&lt;長さ&gt;</td><td>1 / 100 mm 単位の長さを指定します。 100 (1ポイント) より小さい値を指定してはいけません。 省略すると、現在の表示幅を引き継ぎます。 表示幅がゼロの項目は、18 桁で表示します。</td></tr><tr><td>&lt;桁数&gt;</td><td>表示幅を桁数で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の [データ] タブで指定したフォントとサイズです。</td></tr></tbody></table>	単位	補足	M<長さ>	1 / 100 mm 単位の長さを指定します。 100 (1ポイント) より小さい値を指定してはいけません。 省略すると、現在の表示幅を引き継ぎます。 表示幅がゼロの項目は、18 桁で表示します。	<桁数>	表示幅を桁数で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の [データ] タブで指定したフォントとサイズです。
単位	補足						
M<長さ>	1 / 100 mm 単位の長さを指定します。 100 (1ポイント) より小さい値を指定してはいけません。 省略すると、現在の表示幅を引き継ぎます。 表示幅がゼロの項目は、18 桁で表示します。						
<桁数>	表示幅を桁数で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の [データ] タブで指定したフォントとサイズです。						
<小数桁>	小数部の桁数を指定します。この値は、項目のデータ型が数値、通貨、実数、日時、時間の場合に限り、指定できます。						

\* を指定すると表の定義順で書き出します。非表示の項目も書き出します。

このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 書き出し条件登録 枠組み

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 表の枠組みとして書き出す条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 「中止」を省略した場合、同名の表が存在しても上書きします。
- 表、テキスト、CSV、K3フォーマットファイル、表の枠組み、転置、外部データベースを合わせた条件数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 構文

```
書き出し条件登録 枠組み, ¥  
    条件名 = <文字列>, ¥  
    <表ファイル名>, ¥  
    | 中止
```

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

**<表ファイル名>**

表のファイル名を指定します（計算式）。

拡張子の「.tbl」は、省略してもかまいません。

現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

**| 中止**

同名のファイルがあるとき、処理を中止する場合に指定します。

上書きする場合は、このパラメータを省略します。

# 確認

イベントでの使用

可能

## 説明

- 確認用のメッセージボックスを出して、利用者の確認を待ちます。

## 構文

確認    ¥  
         <表示文字列> , ¥  
         <整数型の変数名>

## パラメータ

### <表示文字列>

メッセージボックス内に表示する文字列を指定します（計算式）。

### <整数型の変数名>

メッセージボックスを閉じるときにクリックしたボタン番号を取得する変数名を指定します。変数のデータ型は、長整数、数値、通貨、実数でもかまいません。

このパラメータを指定すると [OK] ボタンと [キャンセル] ボタンが配置されます。省略すると [OK] ボタンだけが配置されます。

<変数名> には、つぎのボタン番号が代入されます。

戻り値	ボタン番号
1	[OK]
0	[キャンセル]

## 画面消去

イベントでの使用

x 不可

### 説明

- [一括処理実行]ウィンドウ内の指定した範囲のテキストを消去します。
- このウィンドウの手前に、表またはフォームのウィンドウが表示されている場合は、強制的に閉じます。
- [一括処理実行]ウィンドウを使用していないときは、エラーになります。

### 記述例

- 2行目から23行目までを消去します。  
画面消去
- 全画面を赤で塗りつぶします。  
画面消去 \* , 赤 , 反転

### 構文

画面消去 ¥  
文字 | テキスト | 図形 | グラフィック | , ¥  
( <開始行> , <開始桁> ) - ( <終了行> , <終了桁> ) | ( <開始行> , <開始桁> ) , ¥  
左寄せ | 中央 | 右寄せ , ¥  
<表示色> , ¥  
下線 , 反転

### パラメータ

#### 文字 | テキスト | 図形 | グラフィック |

消去対象を指定します。このパラメータを省略した場合は、両方を消去します。

対象	説明
文字	テキストだけを消去します。
テキスト	文字と同じです。
図形	グラフィックだけを消去します。指定する領域がグラフィックを完全に囲んでいる必要があります。
グラフィック	図形と同じです。

( <開始行> , <開始桁> ) - ( <終了行> , <終了桁> ) | ( <開始行> , <開始桁> )

[一括処理実行]ウィンドウ内で表示する領域を、数値で指定します(計算式)。

<開始行>と<終了行>に指定できるのは1～25行まで。

<開始桁>と<終了桁>に指定できるのは1～80までです。

終了位置を省略すると、<開始行>の<開始桁>から80桁までになります。

#### 左寄せ | 中央 | 右寄せ

データの表示位置を指定します。

#### <表示色>

文字の表示色を指定します。省略すると、[表示属性]コマンドで指定した色で表示されます。

指定できる色は、つぎの基本8色だけです。

白 | 黄 | 水 | 緑 | 紫 | 赤 | 青 | 黒

#### 下線, 反転

文字に下線をつけるかどうか、また文字色を反転して表示するかどうかを指定します。

「反転」を指定した場合、背景を文字の色で表示し、文字の色を黒にします。

下線と反転の両方を指定できます。

このパラメータを省略した場合は、[表示属性]コマンドで指定した表示属性で表示されます。

#### ノート

- 桐 ver5 の「点滅」は、廃止しました。

## 画面表示

イベントでの使用

x 不可

### 説明

- [一括処理実行]ウィンドウ内の指定した領域に、<計算式>の計算結果を表示します。
- [一括処理実行]ウィンドウを使用していないときは、エラーになります。

### 構文

画面表示 ¥

( <開始行> , <開始桁> ) - ( <終了行> , <終了桁> ) | ( <開始行> , <開始桁> ) , ¥

<計算式> , ¥

左寄せ | 中央 | 右寄せ , ¥

<表示色> , ¥

下線 , 反転

### パラメータ

( <開始行> , <開始桁> ) - ( <終了行> , <終了桁> ) | ( <開始行> , <開始桁> )

[一括処理実行]ウィンドウ内で表示する領域を、数値で指定します(計算式)。

<開始行>と<終了行>に指定できるのは1～25行まで。

<開始桁>と<終了桁>に指定できるのは1～80までです。

終了位置を省略すると、<開始行>の<開始桁>から80桁までになります。

#### <計算式>

画面に表示するデータを指定します(計算式)。

#### 左寄せ | 中央 | 右寄せ

データの表示位置を指定します。

#### <表示色>

文字の表示色を指定します。省略すると、[表示属性]コマンドで指定した色で表示されます。

指定できる色は、つぎの基本8色だけです。

白 | 黄 | 水 | 緑 | 紫 | 赤 | 青 | 黒

#### 下線 , 反転

文字に下線をつけるかどうか、また文字色を反転して表示するかどうかを指定します。

「反転」を指定した場合、背景を文字の色で表示し、文字の色を黒にします。

下線と反転の両方を指定できます。

このパラメータを省略した場合は、[表示属性]コマンドで指定した表示属性で表示されません。

### ノート

- 桐 ver5 の「点滅」は、廃止しました。

# キー入力

イベントでの使用

可能

## 説明

- [一括処理実行]ウィンドウ内の指定した場所でデータを入力します。
- 入力した値は<変数名2>に代入されます。

## 記述例

- 画面上で入力した分を、&分に代入します。入力時は現在時刻の分を初期値にします。  
キー入力 ( 01, 01 ), プロンプト = "文字列を入力してください: ", ¥  
初期値 = #分( #日時値 ), &分

## 構文

キー入力 ¥  
( <開始行> , <開始桁> ) - ( <終了行> , <終了桁> ) | ( <開始行> , <開始桁> ) , ¥  
プロンプト = <文字列> , ¥  
モード = 全角 | 半角 | 確定 | 無変換 , ¥  
上書き = しない | する , ¥  
初期値 = <文字列> , ¥  
終了状態 = <変数名> , ¥  
<変数名2>

## パラメータ

( <開始行> , <開始桁> ) - ( <終了行> , <終了桁> ) | ( <開始行> , <開始桁> )  
[一括処理実行]ウィンドウ内で表示する領域を、数値で指定します(計算式)。  
<開始行>と<終了行>に指定できるのは1～25行まで。  
<開始桁>と<終了桁>に指定できるのは1～80までです。  
終了位置を省略すると、<開始行>の<開始桁>から80桁までになります。

### プロンプト = <文字列>

入力をうながすためのガイドを指定します(計算式)。

このパラメータを指定すると、[一括処理実行]ウィンドウを使用している場合であっても、入力用のダイアログボックスを出します。

### モード = 全角 | 半角 | 確定 | 無変換

入力モードを指定します。

選択肢	説明
全角	全角文字を入力するモードにします。
半角	半角文字を入力するモードにします。
確定	半角文字を確定入力するモードにします。
無変換	日本語入力システムをOFFにします。 松茸以外の日本語入力システムでもOFFにします。

**上書き = しない | する**

入力開始時の上書きモードを指定します。

**初期値 = <文字列>**

ファイル名の初期値を文字列で指定します（計算式）。

ファイル名をワイルドカード（\*、?）で指定すると、条件にマッチしたファイルだけが表示されます。

ダイアログボックスを出す場所を指定するには、ファイル名の前にパス名をつけます。

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

<変数名>には、つぎの値が代入されます。

戻り値	キーボード
1	[Enter]キー
0	[Esc]キー

**<変数名2>**

入力したデータを代入する変数名を指定します。

[Esc]キーで入力が中止された場合は、未定義値を代入します。

**ノート**

- 桐 ver5 の「バッファクリア = 」と「パネル使用 = 」は廃止しました。バッファはつねにクリアされます。

# 機能キー入力

イベントでの使用

x 不可

## 説明

- [一括処理実行] ウィンドウ内の指定した場所にガイドメッセージを表示して、キーボード上の機能キーが押されるまで待ちます。
- 機能キーが押されたら、そのキーに対応する機能番号を<変数名>に代入して、つぎのコマンドに移ります。

## 記述例

- 機能キーが押されるまで待ちます。  
機能キー入力 ( 01, 01 ), ¥  
プロンプト = "方向キーを押してください(中止:ESC)", ¥  
バッファクリア = する, &Key

## 構文

機能キー入力 ¥  
( <開始行>, <開始桁> ) - ( <終了行>, <終了桁> ) | ( <開始行>, <開始桁> ) , ¥  
プロンプト = <文字列>, ¥  
文字キー = 無効 | 有効, ¥  
入力待ち = する | しない, ¥  
バッファクリア = する | しない, ¥  
<変数名>

## パラメータ

( <開始行>, <開始桁> ) - ( <終了行>, <終了桁> ) | ( <開始行>, <開始桁> )  
[一括処理実行] ウィンドウ内で表示する領域を、数値で指定します(計算式)。  
<開始行>と<終了行>に指定できるのは1～25行まで。  
<開始桁>と<終了桁>に指定できるのは1～80までです。  
終了位置を省略すると、<開始行>の<開始桁>から80桁までになります。

### プロンプト = <文字列>

入力をうながすためのガイド文字列を指定します(計算式)。  
指定したガイド文字列は( <開始行>, <開始桁> )で指定した位置から表示されます。  
入力する場所は、そのガイド文字列のうしろになります。  
[一括処理実行] ウィンドウを使用していないときは、指定が無効になります。

### 文字キー = 無効 | 有効

文字キーも受け付けるかどうかを指定します。  
「有効」を指定すると、押された文字に対応するJIS文字符号が10進数で代入されます。

### 入力待ち = する | しない

なにかキーが押されるまで、つぎのコマンドに制御が移らないようにするかどうかを指定します。  
「しない」を指定すると、キーの入力を待たずにつぎのコマンドに移ります。

## バッファクリア = する | しない

このコマンドを実行する前に、キーボードバッファをクリアするかどうかを指定します。  
「入力待ち=しない」を指定して実行した場合は、このパラメータの指定に関わらずクリアされません。

### <変数名>

押された機能キー番号を代入する変数を指定します。  
<変数名>には、つぎの値が代入されます。

値	機能キー
0	入力なし
1	PageDown (ROLLUP)
2	Pageup (ROLLDOWN)
3	Insert
4	Delete
5	Home (HOMECLR)
6	End (HELP)
7	漢字 (XFER)
8	Backspace (BS)
9	Tab
13	Enter (Return)
27	Esc
28	
29	
30	
31	
その他	文字キー (10進数のJIS文字符号)

( )内はPC-9800シリーズのキー。

## 行削除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

実行後の処理対象行

次行。

### 説明

- 処理対象行を削除します。
- 終端行では、実行できません。

### 構文

行削除 終了状態 = <変数名>

### パラメータ

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などを実行中（一時的なファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

## 行削除 \*

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	終端行。

### 説明

- すべてのレコードを削除します。絞り込み状態であれば、現在絞り込まれているレコードだけを削除します。

### 構文

```
行削除 * , ¥  
      | 圧縮 , ¥  
      終了状態 = <変数名>
```

### パラメータ

#### | 圧縮

このパラメータを指定すると、レコードを削除した後、表を基本状態に戻して表整理を行います。

表整理を行わない場合は、このパラメータを省略します。

表整理を行なうと、削除したレコードを復活できなくなります。

専有以外で開いている表は、このパラメータを指定してはいけません。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などを実行中（一時的なファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

## 行削除 会話, 指定行

イベントでの使用	x 不可
実行後の処理対象行	削除された行の次。

### 説明

- フォームまたは表のウィンドウを使用して、レコードを削除します。複数のレコードを削除できます。
- フォームでは、行セクタを配置したもののみ、実行できます（行セクタがない場合は実行できません）。
- [Enter] キーでレコードを選択した後、[Shift] + [Enter] キーを押すと、選択したレコードを削除します。
- レコード選択中に [Esc] キーを押すと、削除操作をキャンセルして、つぎのコマンドに移ります。

### 構文

行削除 ¥  
会話 | フォーム | 表, ¥  
終了状態 = <変数名>, ¥  
指定行

### パラメータ

#### 会話 | フォーム | 表

表示するウィンドウの形式を、表にするかフォームにするかを指定します。

「会話」を指定すると、編集対象表に使用フォームが設定されていればフォームウィンドウを、使用フォームが設定されていなければ、表ウィンドウを表示します。

編集対象表のウィンドウが表示されていないときは、指定したウィンドウが新規作成されます。

編集対象表のウィンドウが、指定したウィンドウと異なるときは、そのウィンドウを閉じてから、指定形式のウィンドウを新規作成します。

フォームのウィンドウは、[ウィンドウ形式] で「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」として作成します。

新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置] コマンドで設定した値になります。

ただし、[水平位置の調整] または [垂直位置の調整] が「自動」以外のフォームでは、フォームの属性に従った位置とサイズになります。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などを実行中（一時的なファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

## ノート

- 桐 ver5 の「枠組み =」は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み (= ウィンドウ) が表示されます。

## 行削除 表, 範囲

イベントでの使用	× 不可
実行後の処理対象行	範囲選択した最終行の次。

### 説明

- 表ウィンドウを使用して、指定した範囲のレコードを削除します。
- 始点と終点で [Enter] キーを押して範囲を指定すると、その範囲のレコードを削除します。
- 範囲指定の途中で [Esc] キーを押すと、削除操作をキャンセルして、つぎのコマンドに移ります。

### 構文

行削除 表, 範囲, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などを実行中（一時的なファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

### ノート

- 桐 ver5 の「枠組み =」は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み (= ウィンドウ) が表示されます。

## 行集計

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 指定した行集計条件を「行集計01」という名前で登録し、編集対象表のレコードを行集計します。

### 構文

行集計 ¥  
データ行 = 有効 | 無効, ¥  
並べ替え = しない | する, ¥  
総計 { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ... ¥  
大計 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ... ¥  
中計 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ... ¥  
小計 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ... ¥  
小計1 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ... ¥  
小計2 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ... ¥  
小計3 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ... ¥  
小計4 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ... ¥  
小計5 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ... ¥  
小計6 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ...

### パラメータ

#### データ行 = 有効 | 無効

集計行だけにするなら「無効」、データ行と集計行の両方を有効にするなら「有効」を指定します。

#### 並べ替え = しない | する

表の編集状態のまま行集計を行なうなら「しない」、行集計を行なう前にグループ項目で並べ替えを行なうなら「する」を指定します。

総計 { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ...  
大計 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ...  
中計 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ...  
小計 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ...  
小計1 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ...  
小計2 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ...  
小計3 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ...  
小計4 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ...  
小計5 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ...  
小計6 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ...

{ } 内には、集計行の内容を指定します。複数の集計行を挿入する場合は、{ } のうしろを半角または全角のコンマで区切り、さらに続けて { } 内に集計行の内容を指定します。

ひとつのグループにつき、最大6行の集計行を指定できます。

<項目名> には集計する項目名を、<計算式> には集計関数などの計算式を指定します。

<グループ項目>には、集計グループにする項目名を指定します。最大 10 項目まで指定できます。

複数の項目を集計グループにする場合は、項目名を続けて指定します。項目番号で指定する場合は、半角の空白文字で区切ります。

## ノート

- <グループ項目>の項目値の一部でグループ化する場合は、グループ項目の直後につぎの文字をつけます (<n>、<m>は整数)。

グループ化指定	説明
.文字<n>	文字列の先頭から <n>文字までの、一致するものをグループ化します。 「.文字<n>」は「.CH<n>」と記述してもかまいません。
.単語	先頭の単語が一致するものをグループ化します。 「.単語」は「.WO」と記述してもかまいません。
.区切り文字	指定した区切り文字までの文字列でグループ化します。 たとえば、区切り文字に「都道府県」を指定すると、都、道、府、県のいずれかまでの文字列がグループ化されます。
.( <n> )	<n>の正の整数ごとにグループ化します。 たとえば、<n> に100 を指定すると、0~99、100~199、...といった単位でグループ化されます。
.( <n> , <m> )	項目の値を <n> / <m> 単位でグループ化します。 たとえば <n> と <m> に 45 と 10 を指定すると、4.5 単位 ( 0 ~ 4.499 ...、4.5 ~ 8.999 ... ) でグループ化されます。
.符号	正、ゼロ、負の数のグループにします。 「.符号」は「.SG」と記述してもかまいません。
.元号	元号単位でグループ化します。 「.元号」は「.GN」と記述してもかまいません。
.年度	年度ごとにグループ化します。 「.年度」は「.YP」と記述してもかまいません。
.半期	同じ年度を前期と後期に分けてグループ化します。 「.半期」は「.HA」と記述してもかまいません。
.四半期	同じ年度を四半期に分けてグループ化します。 「.四半期」は「.QU」と記述してもかまいません。
.半日	同じ日を午前と午後に分けてグループ化します。 「.半日」は「.HD」と記述してもかまいません。
.年	年の値でグループ化します。 「.年」は「.YE」と記述してもかまいません。
.月	年と月が一致する値でグループ化します。 「.月」は「.MO」と記述してもかまいません。
.日	年から日までが一致する値でグループ化します。 「.日」は「.DA」と記述してもかまいません。
.時	日時型の場合は、年から時までが一致する値でグループ化します。 時間型の場合は、時が一致する値でグループ化します。 「.時」は「.HO」と記述してもかまいません。
.分	日時型の場合は、年から分までが一致する値でグループ化します。 時間型の場合は、時と分が一致する値でグループ化します。 「.分」は「.MI」と記述してもかまいません。
.秒	日時型の場合は、年から秒までが一致する値でグループ化します。 時間型の場合は、時から秒までが一致する値でグループ化します。 「.秒」は「.SE」と記述してもかまいません。

- .日(<n>,<m>) 時間型の値を日数に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 12 と 10 を指定すると、1.2 日単位 ( 0 ~ 1.199 ..., 1.2 ~ 2.399 ... ) でグループ化されます。  
「日(<n>,<m>)」は「.DC(<n>,<m>)」と記述してもかまいません。
- .時(<n>,<m>) 時間型の値を時間に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 15 と 10 を指定すると、1.5 時間単位 ( 0 ~ 1.499 ..., 1.5 ~ 2.999 ... ) でグループ化されます。  
「時(<n>,<m>)」は「.HC(<n>,<m>)」と記述してもかまいません。
- .分(<n>,<m>) 時間型の値を分に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 10 と 4 を指定すると、2.5 分単位 ( 0 ~ 2.499 ..., 2.5 ~ 4.999 ... ) でグループ化されます。  
「分(<n>,<m>)」は「.MC(<n>,<m>)」と記述してもかまいません。
- .秒(<n>,<m>) 時間型の値を秒に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 1 と 4 を指定すると、0.25 秒単位 ( 0 ~ 0.249, 0.25 ~ 0.4999 ... ) でグループ化されます。  
「秒(<n>,<m>)」は「.SC(<n>,<m>)」と記述してもかまいません。

## 行集計（再実行）

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- [行集計条件登録]コマンド、または表編集時に登録した「行集計01」を使用して、行集計します。

### 構文

行集計 ¥  
データ行 = 有効 | 無効, ¥  
並べ替え = しない | する

### パラメータ

#### データ行 = 有効 | 無効

集計行だけにするなら「無効」、データ行と集計行の両方を有効にするなら「有効」を指定します。

#### 並べ替え = しない | する

表の編集状態のまま行集計を行なうなら「しない」、行集計を行なう前にグループ項目で並べ替えを行なうなら「する」を指定します。

## 行集計 条件名

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 登録済みの行集計条件を使用して、編集対象表を行集計します。

### 記述例

- [売上日]の月を大計グループに、日の値を小計グループにして集計する。  
行集計 条件名 = "月日別売上", 並べ替え = する, ¥  
大計 [売上日].月 { [担当者] # 項目値 ( [売上日] ), [売上額] # 合計 }, ¥  
小計 [売上日].日 { [担当者] # 項目値 ( [売上日] ), [売上額] # 合計 }
- [売上日]の年と月を大計グループにして集計し、集計行だけにする。  
行集計 条件名 = "月日別売上", データ行 = 無効, 並べ替え = する, ¥  
大計 [売上日].日 [売上日].月 { [担当者] # 項目値 ( [売上日] ), [売上額] # 合計 }

### 構文

行集計 ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
データ行 = 有効 | 無効

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

使用する条件名を指定します ( 計算式 )。

登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

**データ行 = 有効 | 無効**

集計行だけにするなら「無効」、データ行と集計行の両方を有効にするなら「有効」を指定します。

## 行集計解除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

実行後の処理対象行

先頭行。

### 説明

- 挿入されていた集計行を削除して、行集計状態を解除します。

### 構文

行集計解除

## 行集計条件削除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 行集計条件に登録された「行集計01」の、指定グループの集計行を削除します。
- グループの代わりに \* を指定すると「行集計01」そのものを削除します。

### 記述例

- 「行集計01」の大計と中計を削除します。  
行集計条件削除 大計, 中計
- 「行集計01」を削除します。  
行集計条件削除 \*

### 構文

行集計条件削除 ¥  
\* | 総計 | 大計 | 中計 | 小計 | 小計 1 | 小計 2 | 小計 3 | 小計 4 | 小計 5 | 小計 6

## 行集計条件削除 条件名

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 行集計条件の、指定グループの集計行だけを削除します。
- グループを省略すると、指定した行集計条件そのものを削除します。

### 記述例

- 行集計条件「成績集計」の、総計レコードと中計レコードを削除します。  
行集計条件削除 条件名 = "成績集計", { 総計, 中計 }
- 行集計条件の「成績集計」を削除します。  
行集計条件削除 条件名 = "成績集計"

### 構文

行集計条件削除 ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
{ 総計 | 大計 | 中計 | 小計 | 小計 1 | 小計 2 | 小計 3 | 小計 4 | 小計 5 | 小計 6, ... }

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

削除する条件名を指定します（計算式）。

登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

**{ 総計 | 大計 | 中計 | 小計 | 小計 1 | 小計 2 | 小計 3 | 小計 4 | 小計 5 | 小計 6, ... }**

削除する集計グループを指定します。

複数の集計グループを削除する場合は、半角または全角のコンマで区切ります。

## 行集計条件削除 条件名 = \*

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表に登録されている、すべての行集計条件を削除します。

### 構文

行集計条件削除 条件名 = \*

# 行集計条件登録

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 「行集計01」という名前の行集計条件を、編集対象表に登録します。
- 「行集計01」が登録されていれば、指定した行グループの内容だけを変更します。
- このコマンドを使用すると、異なる行集計グループの内容を、何回かに分けて指定できます。

## 記述例

- 「行集計01」の行集計条件の内容を、2回に分けて指定します。

```
行集計条件登録 ¥
    大計 [売上日].月{ [担当者] #項目値( [売上日] ), [売上額] #合計 }
行集計条件登録 ¥
    小計 [売上日].日{ [担当者] #項目値( [売上日] ), [売上額] #合計 }
```

## 構文

```
行集計条件登録 ¥
    総計{ <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ... , ¥
    大計 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ... , ¥
    中計 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ... , ¥
    小計 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ... , ¥
    小計1 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ... , ¥
    小計2 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ... , ¥
    小計3 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ... , ¥
    小計4 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ... , ¥
    小計5 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ... , ¥
    小計6 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...
```

## パラメータ

```
総計{ <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...
大計 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...
中計 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...
小計 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...
小計1 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...
小計2 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...
小計3 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...
小計4 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...
小計5 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...
小計6 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...
```

{ } 内には、集計行の内容を指定します。複数の集計行を挿入する場合は、{ } のうしろを半角または全角のコンマで区切り、さらに続けて { } 内に集計行の内容を指定します。

ひとつのグループにつき、最大6行の集計行を指定できます。

<項目名> には集計する項目名を、<計算式> には集計関数などの計算式を指定します。

<グループ項目> には、集計グループにする項目名を指定します。最大10項目まで指定できます。

複数の項目を集計グループにする場合は、項目名を続けて指定します。項目番号で指定する場合は、半角の空白文字で区切ります。

## ノート

- <グループ項目>の項目値の一部でグループ化する場合は、グループ項目の直後につぎの文字をつけます (<n>、<m>は整数)。

グループ化指定	説明
.文字<n>	文字列の先頭から <n>文字までの、一致するものをグループ化します。 「.文字<n>」は「.CH<n>」と記述してもかまいません。
.単語	先頭の単語が一致するものをグループ化します。 「.単語」は「.WO」と記述してもかまいません。
.区切り文字	指定した区切り文字までの文字列でグループ化します。 たとえば、区切り文字に「都道府県」を指定すると、都、道、府、県のいずれかまでの文字列がグループ化されます。
.( <n> )	<n>の正の整数ごとにグループ化します。 たとえば、<n> に100を指定すると、0~99、100~199、...といった単位でグループ化されます。
.( <n> , <m> )	項目の値を <n> / <m> 単位でグループ化します。 たとえば <n> と <m> に 45 と 10 を指定すると、4.5単位 ( 0 ~ 4.499 ...、4.5 ~ 8.999 ... ) でグループ化されます。
.符号	正、ゼロ、負の数のグループにします。 「.符号」は「.SG」と記述してもかまいません。
.元号	元号単位でグループ化します。 「.元号」は「.GN」と記述してもかまいません。
.年度	年度ごとにグループ化します。 「.年度」は「.YP」と記述してもかまいません。
.半期	同じ年度を前期と後期に分けてグループ化します。 「.半期」は「.HA」と記述してもかまいません。
.四半期	同じ年度を四半期に分けてグループ化します。 「.四半期」は「.QU」と記述してもかまいません。
.半日	同じ日を午前と午後に分けてグループ化します。 「.半日」は「.HD」と記述してもかまいません。
.年	年の値でグループ化します。 「.年」は「.YE」と記述してもかまいません。
.月	年と月が一致する値でグループ化します。 「.月」は「.MO」と記述してもかまいません。
.日	年から日までが一致する値でグループ化します。 「.日」は「.DA」と記述してもかまいません。
.時	日時型の場合は、年から時までが一致する値でグループ化します。 時間型の場合は、時が一致する値でグループ化します。 「.時」は「.HO」と記述してもかまいません。
.分	日時型の場合は、年から分までが一致する値でグループ化します。 時間型の場合は、時と分が一致する値でグループ化します。 「.分」は「.MI」と記述してもかまいません。
.秒	日時型の場合は、年から秒までが一致する値でグループ化します。 時間型の場合は、時から秒までが一致する値でグループ化します。 「.秒」は「.SE」と記述してもかまいません。
.日 (<n> , <m> )	時間型の値を日数に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。

たとえば、<n> と <m> に 12 と 10 を指定すると、1.2 日単位 ( 0 ~ 1.199 ...、1.2 ~ 2.399 ... ) でグループ化されます。

「日 (<n> , <m> )」は「.DC (<n> , <m> )」と記述してもかまいません。

.時 (<n> , <m> ) 時間型の値を時間に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。

たとえば、<n> と <m> に 15 と 10 を指定すると、1.5 時間単位 ( 0 ~ 1.499 ...、1.5 ~ 2.999 ... ) でグループ化されます。

「時 (<n> , <m> )」は「.HC (<n> , <m> )」と記述してもかまいません。

.分 (<n> , <m> ) 時間型の値を分に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 10 と 4 を指定すると、2.5 分単位 ( 0 ~ 2.499 ...、2.5 ~ 4.999 ... ) でグループ化されます。

「分 (<n> , <m> )」は「.MC (<n> , <m> )」と記述してもかまいません。

.秒 (<n> , <m> ) 時間型の値を秒に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 1 と 4 を指定すると、0.25 秒単位 ( 0 ~ 0.249、0.25 ~ 0.4999 ... ) でグループ化されます。

「秒 (<n> , <m> )」は「.SC (<n> , <m> )」と記述してもかまいません。

## 行集計条件登録 条件名

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 行集計条件を、編集対象表に登録します。
- すでに同じ名前の行集計条件が登録されていれば、指定した行グループの内容だけを変更します。
- このコマンドを使用すると、異なる行集計グループの内容を、何回かに分けて指定できます。
- 行集計条件の数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- 売上日の月毎、日毎に集計する行集計条件を登録します。

行集計条件登録 条件名 = "月日別売上", 並べ替え = する, ¥

大計 [ 売上日 ]. 月 { [ 担当者 ] # 項目値 ( [ 売上日 ] ), [ 売上額 ] # 合計 }, ¥

小計 [ 売上日 ]. 日 { [ 担当者 ] # 項目値 ( [ 売上日 ] ), [ 売上額 ] # 合計 }

### 構文

行集計条件登録 ¥

条件名 = <文字列>, ¥

並べ替え = しない | する, ¥

総計 { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ..., ¥

大計 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ..., ¥

中計 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ..., ¥

小計 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ..., ¥

小計 1 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ..., ¥

小計 2 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ..., ¥

小計 3 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ..., ¥

小計 4 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ..., ¥

小計 5 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ..., ¥

小計 6 <グループ項目> { <項目名> <計算式>, ... }, { ... }, ...

### パラメータ

条件名 = <文字列>

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

並べ替え = しない | する

表の編集状態のまま行集計を行なうなら「しない」、行集計を行なう前にグループ項目で並べ替えを行なうなら「する」を指定します。

総計{ <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...  
大計 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...  
中計 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...  
小計 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...  
小計1 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...  
小計2 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...  
小計3 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...  
小計4 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...  
小計5 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...  
小計6 <グループ項目> { <項目名> <計算式> , ... } , { ... } , ...

{ } 内には、集計行の内容を指定します。複数の集計行を挿入する場合は、{ } のうしろを

.日	「.月」は「.MO」と記述してもかまいません。 年から日までが一致する値でグループ化します。
.時	「.日」は「.DA」と記述してもかまいません。 日時型の場合は、年から時までが一致する値でグループ化します。 時間型の場合は、時が一致する値でグループ化します。
.分	「.時」は「.HO」と記述してもかまいません。 日時型の場合は、年から分までが一致する値でグループ化します。 時間型の場合は、時と分が一致する値でグループ化します。
.秒	「.分」は「.MI」と記述してもかまいません。 日時型の場合は、年から秒までが一致する値でグループ化します。 時間型の場合は、時から秒までが一致する値でグループ化します。
.日 (<n>, <m>)	「.秒」は「.SE」と記述してもかまいません。 時間型の値を日数に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。 たとえば、<n> と <m> に 12 と 10 を指定すると、1.2 日単位 ( 0 ~ 1.199 ..., 1.2 ~ 2.399 ... ) でグループ化されます。
.時 (<n>, <m>)	「日 (<n>, <m>)」は「.DC (<n>, <m>)」と記述してもかまいません。 時間型の値を時間に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。 たとえば、<n> と <m> に 15 と 10 を指定すると、1.5 時間単位 ( 0 ~ 1.499 ..., 1.5 ~ 2.999 ... ) でグループ化されます。
.分 (<n>, <m>)	「時 (<n>, <m>)」は「.HC (<n>, <m>)」と記述してもかまいません。 時間型の値を分に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。 たとえば、<n> と <m> に 10 と 4 を指定すると、2.5 分単位 ( 0 ~ 2.499 ..., 2.5 ~ 4.999 ... ) でグループ化されます。
.秒 (<n>, <m>)	「分 (<n>, <m>)」は「.MC (<n>, <m>)」と記述してもかまいません。 時間型の値を秒に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。 たとえば、<n> と <m> に 1 と 4 を指定すると、0.25 秒単位 ( 0 ~ 0.249, 0.25 ~ 0.4999 ... ) でグループ化されます。
	「秒 (<n>, <m>)」は「.SC (<n>, <m>)」と記述してもかまいません。

## 行挿入

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	処理対象行（変わらない）。

### 説明

- 編集対象表の処理対象行の直前に、新規レコードを挿入します。
- 1回の実行で、1件のレコードを挿入します。
- 絞り込み状態では、実行できません。

### 記述例

- 処理対象行の前に、新規レコードを挿入します。  
行挿入 [氏名] = "山田 花子", [登録日] = d"1998 / 7 / 25"
- 空の行を挿入します。  
行挿入

### 構文

行挿入 <項目名> = <計算式> , ...

### パラメータ

- <項目名> = <計算式> , ...
- <項目名>には値を設定する項目を、<計算式>には挿入する値を指定します。計算項目は、自動的に計算されます。
  - <項目名>に、計算項目を指定してはいけません。

## 行挿入 会話

イベントでの使用	× 不可
実行後の処理対象行	処理対象行 (変わらない)

### 説明

- フォームまたは表のウィンドウを使用して、レコードを挿入します。
-

## ノート

- 桐 ver5 の「枠組み = 」は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み (= ウィンドウ) が表示されます。
- 「終了キー = <変数名>」で取得できる番号は、確定とキャンセルしかありません。桐 ver5 で他の操作番号を使用していた場合は、プログラムを修正してください。

## 行退避

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 処理対象行のデータを、一時的にメモリに記憶します。記憶したデータは、行復旧コマンドで貼り付けできます。
- このコマンドは、訂正前のデータや、複写するレコードの値を記憶するときに使用します。
- 終端行で実行してはいけません。
- 表が更新できないときに実行することはできません。

### 構文

行退避

## 行追加

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	終端行。

### 説明

- 編集対象表の最後に、新規レコードを追加します。
- 1回の実行で、1件のレコードを追加します。

### 構文

```
行追加  ¥
        終了状態 = <変数名> , ¥
        <項目名> = <計算式> , ...
```

### パラメータ

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

#### <項目名> = <計算式> , ...

<項目名>には値を設定する項目を、<計算式>には挿入する値を指定します。

<項目名>に、計算項目を指定してはいけません。計算項目は、自動的に計算されます。

グループ選択状態のときは、<項目名>にグループ項目を指定してはいけません。

## 行追加 会話

イベントでの使用	×不可
実行後の処理対象行	終端行。

### 説明

- フォームまたは表のウィンドウを使用して、表の最後にレコードを追加します。
- ウィンドウ上で、複数のレコードを続けて追加することができます。

### 構文

行追加 ¥  
会話 | フォーム | 表, ¥  
終了キー = <変数名>, ¥  
ボタン = <文字列型の変数名>, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 会話 | フォーム | 表

表示するウィンドウの形式を、表にするかフォームにするかを指定します。

「会話」を指定すると、編集対象表に使用フォームが設定されていればフォームウィンドウを、使用フォームが設定されていなければ、表ウィンドウを表示します。

編集対象表のウィンドウが表示されていないときは、指定したウィンドウが新規作成されます。

編集対象表のウィンドウが、指定したウィンドウと異なるときは、そのウィンドウを閉じてから、指定形式のウィンドウを新規作成します。

フォームのウィンドウは、[ウィンドウ形式]で「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」として作成します。

新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置]コマンドで設定した値になります。

ただし、[水平位置の調整]または[垂直位置の調整]が「自動」以外のフォームでは、フォームの属性に従った位置とサイズになります。

#### 終了キー = <変数名>

操作番号を代入する変数名を指定します。この変数には、利用者が会話処理の終了時に行なった操作に対応する番号が代入されます。

指定する変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

<変数名>には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
26	確定する操作で終了した。
27	キャンセルする操作で終了した。

方向キーなどの値は取得できませんので、ご注意ください。

**ボタン = <文字列型の変数名>**

オブジェクト名を代入する変数名を指定します。この変数には、終了時にクリックしたコマンドボタンのオブジェクト名が代入されます。変数のデータ型は、文字列型でなければいけません。

コマンドボタンを使用せずにフォーム編集を終了した場合、[終了時実行コマンドボタン]と[ESCキー実行コマンドボタン]にボタンオブジェクト名が設定されていれば、そのオブジェクト名が代入されます。この属性が設定されていない場合は、未定義値が代入されます。

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

**ノート**

- 桐 ver5 の「枠組み = 」は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み（=ウィンドウ）が表示されます。
- 「終了キー = <変数名>」で取得できる番号は、確定とキャンセルしかありません。桐 ver5 で他の操作番号を使用していた場合は、プログラムを修正してください。

## 行訂正

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	処理対象行のまま。

### 説明

- 処理対象行を訂正します。
- 1回の実行で、1件のレコードを訂正します。
- 複数の項目を指定した場合は、左側に指定した項目から順に計算されます。
- 計算式が設定されている項目の値を再計算させるのであれば、**<項目名>**と**<計算式>**の両方を省略します。
- 終端行で実行してはいけません。

### 記述例

- [在庫数]を、現在の[在庫数]から &販売数 を引いた値に訂正します。  
行訂正 終了状態 = &OK , [在庫数] = [在庫数] - &販売数
- 計算項目が設定されている項目を再計算します。  
行訂正 終了状態 = &OK

### 構文

```
行訂正  ¥
        終了状態 = <変数名> , ¥
        <項目名> = <計算式> , ...
```

### パラメータ

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が、置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。
-4	他の利用者が削除したレコードがある（レコード削除）。

#### <項目名> = <計算式> , ...

<項目名>には値を設定する項目を、<計算式>には挿入する値を指定します。  
計算項目は、自動的に再計算されます。  
<項目名>に、計算項目を指定してはいけません。更新が禁止されている項目を指定してもいけません。  
グループ選択状態のときは、<項目名>にグループ項目を指定してはいけません。

## 行訂正 会話

イベントでの使用	x 不可
実行後の処理対象行	処理対象行または前後の行。

### 説明

- フォームまたは表のウィンドウを使用して、編集対象表の処理対象行を訂正します。

### 記述例

- 表ウィンドウで、すべてのレコードを訂正します。  
行訂正 表, \* , 終了状態 = &OK
- [氏名] から行訂正を開始して、処理対象行の訂正が終了したらコマンドも終了します。終了時の操作は、&Key に代入します。  
行訂正 フォーム, \* , [氏名] , 終了キー = &Key , 終了状態 = &OK

### 構文

行訂正 ¥  
会話 | フォーム | 表, ¥  
\* | \* , <項目名> | <項目名> , ¥  
終了キー = <変数名> , ¥  
ボタン = <文字列型の変数名> , ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 会話 | フォーム | 表

表示するウィンドウの形式を、表にするかフォームにするかを指定します。「会話」を指定すると、編集対象表に使用フォームが設定されていればフォームウィンドウを、使用フォームが設定されていなければ、表ウィンドウを表示します。編集対象表のウィンドウが表示されていないときは、指定したウィンドウが新規作成されます。編集対象表のウィンドウが、指定したウィンドウと異なるときは、そのウィンドウを閉じてから、指定形式のウィンドウを新規作成します。フォームのウィンドウは、[ウィンドウ形式]で「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」として作成します。新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置]コマンドで設定した値になります。ただし、[水平位置の調整]または[垂直位置の調整]が「自動」以外のフォームでは、フォームの属性に従った位置とサイズになります。

- \* | \* , <項目名> | <項目名>  
必要に応じて、\* と <項目名> を指定します。

パラメータ	説明
*	すべての値を訂正します。 表ウィンドウで編集する場合は、すべてのレコードを訂正可能にします。 フォームウィンドウで編集する場合は、処理対象行だけを訂正可能にします。
* , <項目名>	訂正を開始する項目名を指定して、すべての項目値を訂正します。 表ウィンドウで編集する場合は、すべてのレコードを訂正可能にします。 フォームウィンドウで編集する場合は、処理対象行だけを訂正可能にします。
<項目名>	訂正を開始する項目名を指定します。 * を指定しなかった場合は、この項目の訂正が終了した時点で終了します。

#### 終了キー = <変数名>

操作番号を代入する変数名を指定します。この変数には、利用者が会話処理の終了時に行なった操作に対応する番号が代入されます。

指定する変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

<変数名> には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
26	確定する操作で終了した。
27	キャンセルする操作で終了した。

方向キーなどの値は取得できませんので、ご注意ください。

#### ボタン = <文字列型の変数名>

オブジェクト名を代入する変数名を指定します。この変数には、終了時にクリックしたコ

## 行番号

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 表の先頭から数えた処理対象行の行番号を、<長整数型の変数名>に代入します。
- 数値型または実数型の変数を指定してもかまいません。
- 表が絞り込み状態であれば、その状態での行番号になります。
- 終端行で実行すると、現在編集しているレコードの件数に、1を加えた値になります。
- データ量の大きい表で実行すると、実行が終了するまでに時間がかかります。処理前のレコードに戻す場合は、[行マーク定義]コマンドと[ジャンプ]コマンドを使用してください。
- 編集しているレコードの件数は、#総件数で調べることができます。

### 構文

行番号 <長整数型の変数名>

## 行表示

イベントでの使用

x 不可

### 説明

- 編集対象表のウィンドウを最新の情報に更新し、<項目名>の項目にフォーカスを設定します。
- 編集対象表のウィンドウが表示されていないときは、使用フォームが設定されていればフォームウィンドウを、使用フォームが設定されていなければ表ウィンドウを新規作成します。
- 使用フォームが設定されている編集対象表の表ウィンドウが表示されているときは、そのウィンドウを閉じてから、フォームウィンドウを新規作成します。
- <項目名>は、省略してもかまいません。<項目名>を省略した場合はタブオーダー順で見て、先頭の項目にフォーカスが設定されます。
- 行集計状態では、実行できません。

### 構文

行表示 <項目名>

## 行復活

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	次行。

### 説明

- 処理対象行が削除レコードであれば、復活します。
- このコマンドを実行する前に、[削除行]コマンドで削除レコードを有効にしておく必要があります。
- 端末行で実行してはいけません。
- 表を専有以外で開いているときは、実行できません。

### 構文

行復活

## 行復活 \*

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	終端行。

### 説明

- すべての削除レコードを復活します。
- 絞り込み状態であれば、現在絞り込まれているレコードの中に含まれる削除レコードを復活します。
- このコマンドを実行する前に、[削除行]コマンドで、削除レコードを有効にしておく必要があります。
- 表を専有以外で開いているときは、実行できません。

### 記述例

- すべての削除レコードを復活します。

削除行 有効

行復活 \*

### 構文

行復活 \*

## 行復活 会話, 指定行

イベントでの使用	×不可
実行後の処理対象行	最後に選択した行の次。

### 説明

- フォームまたは表のウィンドウを使用して、指定した削除レコードを復活します。
- フォームでは、行セクタを配置したもののみ、実行できます（行セクタがない場合は実行できません）。
- ウィンドウ上で、複数のレコードを続けて復活できます。
- [Enter] キーでレコードを選択した後、[Shift] + [Enter] キーを押すと、選択した削除レコードを復活します。
- レコード選択中に [Esc] キーを押すと、削除レコードの復活操作をキャンセルして、つぎのコマンドに移ります。
- 終了した後も、削除行は有効になったままになります。
- 行集計状態では実行できません。
- 表を専有以外で開いているときは、実行できません。

### 構文

行復活 ¥  
会話 | フォーム | 表, ¥  
指定行, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 会話 | フォーム | 表

表示するウィンドウの形式を、表にするかフォームにするかを指定します。

「会話」を指定すると、編集対象表に使用フォームが設定されていればフォームウィンドウを、使用フォームが設定されていなければ、表ウィンドウを表示します。

編集対象表のウィンドウが表示されていないときは、指定したウィンドウが新規作成されます。

編集対象表のウィンドウが、指定したウィンドウと異なるときは、そのウィンドウを閉じてから、指定形式のウィンドウを新規作成します。

フォームのウィンドウは、[ウィンドウ形式]で「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」として作成します。

新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置]コマンドで設定した値になります。ただし、[水平位置の調整]または[垂直位置の調整]が「自動」以外のフォームでは、フォームの属性に従った位置とサイズになります。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	操作が実行された。
0	操作がキャンセルされた。
-1	削除行が存在しない。

#### ノート

- 桐 ver5 の「枠組み = 」は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み (= ウィンドウ) が表示されます。

## 行復活 表, 範囲

イベントでの使用	× 不可
実行後の処理対象行	範囲選択した最終行の次。

### 説明

- 表のウィンドウを使用して、指定した範囲の削除レコードを復活します。
- 始点と終点で [Enter] キーを押して範囲を指定すると、その範囲にある削除レコードを復活します。
- 範囲指定の途中で [Esc] キーを押すと、削除レコードの復活操作をキャンセルして、つぎのコマンドに移ります。
- 終了した後も、削除行は有効になったままになります。
- 表を専有以外で開いているときは、実行できません。

### 構文

行復活 表, 範囲, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	操作が実行された。
0	操作がキャンセルされた。

### ノート

- 桐 ver5 の「枠組み =」は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み (= ウィンドウ) が表示されます。

# 行復旧

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- [行退避]コマンドで記憶したレコードの値を、処理対象行に貼り付けます。
- このコマンド終了時、計算項目が再計算されます（項目制約の検査は行なわれません）。
- 表定義時の項目数とデータ型が同じであれば、別の表に貼り付けても構いません。
- 終端行で実行してはいけません。
- グループ選択状態で行復旧する場合は、グループ項目の値が、[行待避]コマンドで記憶したグループと同じでなければいけません。

## 構文

行復旧 ¥  
破棄 = する | しない, ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### 破棄 = する | しない

このコマンドを実行した後、[行待避]コマンドで記憶したレコードの値を破棄するかどうかを指定します。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

# 行マーク解除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 行マークを解除します。
- 1 を指定すると「行マーク 1」、2 を指定すると「行マーク 2」のマークだけを解除します。
- \* を指定するか、パラメータそのものを省略すると、すべてのマークを解除します。

## 記述例

- 行マーク1 を解除します。  
行マーク解除 1
- すべての行マークを解除します。  
行マーク解除 \*

## 構文

行マーク解除 \* | 1 | 2

## 行マーク定義

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 処理対象行にマークをつけます。1を指定すると「行マーク 1」、2を指定すると「行マーク 2」のマークをつけます。
- マークした行は、[ジャンプ]コマンドでジャンプできます。
- 終端行で実行するとエラーになります。

### 構文

行マーク定義 1 | 2

# 局所変数代入

イベントでの使用

可能

## 説明

- 指定したフォームウィンドウの局所変数に、値を代入します。
- このコマンドは、他のフォームの局所変数に、値を代入するために使用します。
- 自身のフォームの局所変数を、イベントハンドラ内で代入する場合は、[代入]コマンドで代入できます。

## 構文

局所変数代入 ¥  
<ハンドル> , ¥  
<変数名> = <計算式> | <配列変数名> [ <要素番号> ] = <計算式> | <配列変数名> = { <計算式> , ... }

## パラメータ

<ハンドル>

局所変数を所有するウィンドウのハンドルを指定します (計算式)。無効なハンドルを指定するとエラーになります。

# 空白文字

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 空白文字を表示する場合は「する」、非表示にする場合は「しない」を指定します。
- 「する」を指定すると、全角と半角の空白文字を「と」に置き換えて表示します。
- このコマンドで指定したモードは、表を閉じるまで有効です。表を開いた直後は、環境設定の[全般]タブで指定した状態になります。

## 構文

空白文字 する | しない

## グラフ条件削除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 指定したグラフ条件を削除します。

### 構文

グラフ条件削除 <条件名> , ... | \*

### パラメータ

<条件名> , ... | \*

削除する条件の名前を指定します（計算式）。

複数の条件を削除する場合は、条件名を半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、すべての条件を削除します。

登録されていない条件を指定するとエラーになります。

## グラフ条件実行 印刷

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表の指定したグラフ条件を使用して、グラフを印刷します。グラフ条件は、あらかじめ会話処理で登録しておく必要があります。

### 構文

グラフ条件実行 印刷, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
部数 = <整数>, ¥  
ヘッダ印字 = する | しない, ¥  
用紙優先 = しない | する, ¥  
会話 = しない | する

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

使用する条件名を指定します（計算式）。  
登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

**部数 = <整数>**

印刷する部数を指定します（計算式）。  
このパラメータを省略すると、1部だけ印刷します。

**ヘッダ印字 = する | しない**

用紙にヘッダを印字するかどうかを指定します。

**用紙優先 = しない | する**

用紙サイズにあわせて印字する場合は「する」、グラフサイズの縦横比を保持して印刷する場合は「しない」を指定します。

**会話 = しない | する**

ただちに印刷を開始する場合は「しない」を指定します。  
印刷する前に [印刷] ダイアログボックスを出す場合は、「する」を指定します。  
定義時と異なるプリンタで印刷する場合、またはプリンタのプロパティを変更してから印刷する場合は、「会話=する」を指定してください。

### ノート

- 桐 ver 5 の [グラフ作成] コマンドとは、互換性がありません。

## グラフ条件実行 表示

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表の指定したグラフ条件のグラフを表示します。
- グラフ条件は、あらかじめ会話処理で登録しておく必要があります。

### 構文

グラフ条件実行 表示, ¥  
条件名 = <文字列>

### パラメータ

条件名 = <文字列>

使用する条件名を指定します（計算式）。

登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

### ノート

- 桐 ver 5 の [ グラフ作成 ] コマンドとは、互換性がありません。

## グラフ条件実行 保存

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表の指定したグラフ条件を使用して、グラフのBMPファイルを作成します。
- グラフ条件は、あらかじめ会話処理で登録しておく必要があります。

### 構文

グラフ条件実行 保存, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
ファイル = <BMP ファイル名>

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

使用する条件名を指定します（計算式）。  
登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

**ファイル = <BMP ファイル名>**

保存するBMPファイルの名前を指定します。  
拡張子は「.bmp」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子の後ろに「.bmp」を付加します。  
現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

### ノート

- 桐 ver 5 の [ グラフ作成 ] コマンドとは、互換性がありません。

## 繰り返し ... 繰り返し終了

コマンドの別名	loop ... end
イベントでの使用	可能

### 説明

- [繰り返し]コマンドから[繰り返し終了]コマンドの範囲内に記述したコマンドを、繰り返し実行します。
- この繰り返しは、繰り返しを終了するために、[繰り返し中止]コマンドが必要です。

### 記述例

- 終端行になるまで繰り返します。

```
繰り返し
  if ( #eof )
    繰り返し中止
  end
  ジャンプ 行番号 = 次行
繰り返し終了
```

### 構文

```
繰り返し
  ... <コマンド> ...
繰り返し終了
```

## 繰り返し ( <条件式> ) ... 繰り返し終了

コマンドの別名	while ... end
イベントでの使用	可能

### 説明

- <条件式> が真である限り、[繰り返し]コマンドから[繰り返し終了]コマンドまでの処理を繰り返し実行します。
- <条件式> が偽になったら、[繰り返し終了]コマンドのつぎの行に移ります。

### 記述例

- 終端行になるまで、レコードを移動します。  
繰り返し ( .not #終端行 )  
    ジャンプ 行番号 = 次行  
繰り返し終了

### 構文

```
繰り返し ( <条件式> )  
    ... <コマンド> ...  
繰り返し終了
```

## 繰り返し 回数 ... 繰り返し終了

コマンドの別名	for ... end
イベントでの使用	可能

### 説明

- <開始値>が<終了値>を超えるまで、[繰り返し]コマンドから[繰り返し終了]コマンドまでのコマンドを、繰り返し実行します。
- 繰り返しを開始した直後、<変数名>には<開始値>が代入されます。以降、[繰り返し終了]コマンドまでの処理が1回繰り返されるたびに<加算値>が加えられます。
- <変数名>の値が<終了値>を超えると、[繰り返し終了]コマンドのつぎの行に制御が移ります。

### 記述例

- 配列変数( &氏名 )の 1 ~ 64 までの要素に、[氏名]の値を代入します。繰り返し終了時の &回数 の値は 65 になります。  
繰り返し &回数 = 1, 64  
&氏名[ &回数 ] = [氏名]  
ジャンプ 行番号 = 次行  
条件 ( #終端行 ) 繰り返し中止  
繰り返し終了

### 構文

```
繰り返し <変数名> = <開始値> , <終了値> , <加算値>  
... <コマンド> ...  
繰り返し終了
```

### パラメータ

<変数名> = <開始値> , <終了値> , <加算値>

つぎのパラメータを指定します。

パラメータ	説明
-------	----

<変数名>	加算値を代入する変数の名前を指定します。 指定する変数は、データ型が数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。
<開始値>	繰り返しを開始するときの数値を指定します（計算式）
<終了値>	繰り返しを終了するときの数値を指定します（計算式）
<加算値>	繰り返すたびに加算する数値を指定します（計算式）。 マイナスの値を指定すると、減算になります。 この値を省略すると、<開始値> <終了値> なら 1、<開始値> <終了値> なら -1 を加えます。

## 繰り返し継続

コマンドの別名	continue
イベントでの使用	可能

### 説明

- 繰り返し範囲のつぎの繰り返しを開始します。
- このコマンドは、[繰り返し]コマンドから[繰り返し終了]コマンドの範囲内に記述します。それ以外の場所に記述してはいけません。

### 記述例

- 繰り返し回数が50 増えるごとに、確認メッセージを出します。  
変数宣言 整数 { &回数 }  
繰り返し &回数 = 1 , 200  
条件 ( ( #MOD ( &回数 , 50 ) ) 繰り返し継続  
確認 "現在の繰り返し回数は" + #文字列 ( &回数 ) + "回です。 "  
繰り返し終了

### 構文

繰り返し継続

## 繰り返し中止

コマンドの別名	break
イベントでの使用	可能

### 説明

- 繰り返し範囲から強制的に抜け出します。break と書いてもかまいません。
- このコマンドは、[ 繰り返し ] コマンドから [ 繰り返し終了 ] コマンドの範囲内に記述します。それ以外の場所に記述してはいけません。

### 構文

繰り返し中止

## グループ検索

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	グループの先頭行。該当するグループがなければ現グループの先頭行。

### 説明

- 表の先頭から指定したグループを検索し、最初に該当するグループにジャンプします。
- 指定しなかったグループは、検索の対象にはなりません。
- グループ選択状態でないときは、実行できません。

### 記述例

- [伝票No]が「1234」のグループにジャンプします。  
グループ検索 { [伝票No] = 1234 }, 終了状態 = &OK
- [作業]が未定義の、最初のグループにジャンプします。  
グループ検索 { [作業] = "" }, 終了状態 = &OK

### 構文

グループ検索 ¥  
{ <グループ項目名> = <計算式> , ... }, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

{ <グループ項目名> = <計算式> , ... }  
グループ項目名と、その項目の値を指定します（計算式）。  
グループ項目名は、フォームのヘッダまたはフッタに配置した[グループ項目]オブジェクトの項目です。  
<計算式> に比較式を指定することはできません。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	指定したグループに移動した。
0	指定したグループが存在しないため、移動できなかった。

### ノート

- 桐 ver5の「グループ指定 {<グループ項目名>=<データ>}」を実行すると、このコマンドに読み替えて実行します。

## グループ検索 会話

イベントでの使用	× 不可
実行後の処理対象行	グループの先頭行。該当するグループがなければ現グループの先頭行。

### 説明

- フォームウィンドウを使用して、指定したグループを検索します。
- 指定しなかったグループは、検索の対象にはなりません。
- グループ選択状態でないときは、実行できません。

### 構文

グループ検索 ¥  
会話 | フォーム, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 会話 | フォーム

フォームウィンドウを使用して、グループ操作を行いません。「会話」または「フォーム」の、どちらを指定してもかまいません。

編集対象表のフォームウィンドウが表示されていない場合は、そのフォームを新規作成します。

編集対象表の表ウィンドウが表示されているときは、そのウィンドウを閉じてから、フォームウィンドウを新規作成します。

フォームのウィンドウは、[ウィンドウ形式]に「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」になります。

新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置]コマンドで設定した値になります。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	指定したグループに移動した。
0	指定したグループが存在しないため、移動できなかった。
-1	利用者によって、操作がキャンセルされた。

### ノート

- 桐 ver5 の「枠組み =」は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み (= ウィンドウ) が表示されます。

# グループ指定

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	グループの先頭行。該当するグループがなければ現グループの先頭行。

## 説明

- 指定したグループにジャンプします。
- 「一覧」を指定すると、[グループ指定]ダイアログボックスの一覧で選択したグループにジャンプします。
- 現グループのレコードが1件もないときは、「次」と「前」にジャンプできません。それ以外の方法でジャンプしてください。
- グループ選択状態でないときは、実行できません。

## 記述例

- つぎのグループにジャンプします。  
グループ指定 次, 終了状態 = &OK
- ジャンプするグループを、一覧から選択します。  
グループ指定 一覧, 終了状態 = &OK

## 構文

グループ指定 ¥  
次 | 前 | 先頭 | 最終 | 一覧, ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### 次 | 前 | 先頭 | 最終 | 一覧

指定したグループにジャンプします。「一覧」を指定すると、ジャンプするグループを、[グループ指定]ダイアログボックスの一覧で選択できます。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	指定したグループに移動した。
0	指定したグループが存在しないため、移動できなかった。
-1	利用者によって、操作がキャンセルされた。

## グループ選択

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	処理対象行。 開始条件を指示している場合は先頭行。 グループ項目オブジェクトがある場合はグループの先頭行。

### 説明

- フォームの定義内容に従って、グループ選択状態に戻します。
- すでにグループ選択状態になっている場合は、なにもしません。
- このコマンドを使用する前に、編集対象表にグループ化が可能な使用フォームを、割り当ておく必要があります。

### 構文

グループ選択

## グループ選択解除

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	実行前の行。

### 説明

- グループフォームのグループ選択状態を解除します。
- グループ選択状態から絞り込みを実行していれば、その絞り込み状態も解除されます。
- すでにグループ選択が解除されている場合は、なにもしません。
- フォーム上では、グループ選択を解除したままの状態が表示されます。グループ選択状態が解除されているときは、グループ操作を行なうことができません。
- このコマンドを使用する前に、編集対象表にグループ化が可能な使用フォームを、割り当てておく必要があります。

### 構文

グループ選択解除

# グループ値代入

イベントでの使用

グループ値の入力中のみ実行可能  
(グループ検索、グループ追加、グループ値訂正)

## 説明

- 入力中のグループ項目値を設定または変更します。このコマンドを使用することで、グループ追加時やグループ検索時の初期値を、まとめて指定することができます。
- このコマンドは、フォームのイベントハンドラ内に記述します。一括処理から実行させることはできません。
- つぎの会話処理を行なっているときに実行する、イベントハンドラに記述できます。
  - グループ検索
  - グループ値訂正
  - グループ追加
- <項目名>には値を設定する項目の名前を、<計算式>にはその項目に代入する値を指定します。
- <計算式>のデータ型は、<項目名>と同じでなければいけません。
- 複数の項目に値を代入する場合は、半角または全角のコンマで区切って続けます。
- このコマンドを使用するには、[グループ項目]オブジェクトのひとつが、編集可能でなければいけません。[グループ項目]オブジェクトがひとつもないとき、またはフォームが表示状態のときは、実行することができません。
- グループ選択状態でないときは、実行できません。

## 記述例

- グループ検索時、[伝票No]以外のグループ項目値を未定義にします。

```
手続き定義開始 フォーム:グループ検索開始 (... )
    グループ値代入 [伝票No] = [伝票No], [売上日] = "", ¥
    [担当者] = "", [得意先No] = ""
手続き定義終了
```
- 新規グループを追加するとき、[担当者]に &担当者の値を代入します。

```
手続き定義開始 フォーム:グループ追加開始 (... )
    グループ値代入 [担当者] = &担当者
手続き定義終了
```

## 構文

グループ値代入 <項目名> = <計算式> , ...

## パラメータ

<項目名> = <計算式> , ...

- <項目名>には値を設定する項目を、<計算式>には挿入する値を指定します。
- <項目名>に、計算項目を指定してはいけません。計算項目は、自動的に計算されます。
- グループ選択状態のときは、<項目名>にグループ項目を指定してはいけません。

# グループ値訂正

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	グループの先頭行。

## 説明

- 現在のグループ値を別の値に訂正し、そのグループにジャンプします。
- グループ選択状態からレコードを絞り込んでいる場合は、絞り込まれたレコードのグループ値だけが訂正されます。
- すでに同じグループが存在する場合は、現グループのレコードが、既存のグループに追加されます。
- グループ選択状態でないときは、実行できません。

## 記述例

- 現在のグループの [ 作業 ] の値だけを「済」に訂正します（省略したグループ項目の値は、現グループのままです）。  
グループ値訂正 { [ 作業 ] = "済" } , 終了状態 = &OK

## 構文

グループ値訂正 ¥  
{ <グループ項目名> = <計算式> , ... } , ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

{ <グループ項目名> = <計算式> , ... }  
グループ項目名と、その項目の値を指定します（計算式）。  
グループ項目名は、フォームのヘッダまたはフッタに配置した [グループ項目] オブジェクトの項目です。  
<計算式> に比較式を指定することはできません。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が、置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。
-4	他の利用者が削除したレコードがある（レコード削除）。

## グループ値訂正 会話

イベントでの使用	×不可
実行後の処理対象行	グループの先頭行。

### 説明

- フォームウィンドウを使用して、グループ値を訂正します。
- グループ選択状態からレコードを絞り込んでいる場合は、絞り込まれたレコードのグループ値だけを訂正します。
- すでに同じグループが存在する場合は、現グループのレコードを、既存のグループに追加します。
- グループ選択状態でないときは、実行できません。

### 構文

グループ値訂正 ¥  
会話 | フォーム, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 会話 | フォーム

フォームウィンドウを使用して、グループ操作を行いません。「会話」または「フォーム」の、どちらを指定してもかまいません。

編集対象表のフォームウィンドウが表示されていない場合は、そのフォームを新規作成します。

編集対象表の表ウィンドウが表示されているときは、そのウィンドウを閉じてから、フォームウィンドウを新規作成します。

フォームのウィンドウは、[ウィンドウ形式]に「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」になります。

新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置]コマンドで設定した値になります。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	その他のエラー。
-1	利用者によって、グループ操作がキャンセルされた。

### ノート

- 桐 ver5 の「枠組み =」は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み (= ウィンドウ) が表示されます。

## グループ追加

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	グループの終端行。存在した場合は先頭行。

### 説明

- 指定したグループを追加します。
- このコマンドでグループを追加しても、レコードが追加されるわけではありません。新規グループに登録するレコードのグループ値を設定するだけです。レコードを追加せずに、ほかのグループに移動した場合は、追加したグループが消去されます。
- グループ選択状態でないときは、実行できません。

### 記述例

- 今日の日付のグループを追加します。  
グループ追加 { [登録日] = #日時日付( #日時値) }, 終了状態 = &OK

### 構文

グループ追加 ¥  
{ <グループ項目名> = <計算式> , ... } , ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

{ <グループ項目名> = <計算式> , ... }  
グループ項目名と、その項目の値を指定します(計算式)。  
グループ項目名は、フォームのヘッダまたはフッタに配置した[グループ項目]オブジェクトの項目です。  
<計算式> に比較式を指定することはできません。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	すでに存在するグループを指定した。
-2	他の利用者が置換や併合などの処理を実行中(ファイル排他)。

## グループ追加 会話

イベントでの使用	×不可
実行後の処理対象行	グループの終端行。存在した場合は先頭行。

### 説明

- フォームウィンドウを使用して、グループを追加します。
- グループ選択状態でないときは、実行できません。

### 構文

グループ追加 ¥  
会話 | フォーム, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 会話 | フォーム

フォームウィンドウを使用して、グループ操作を行いません。「会話」または「フォーム」の、どちらを指定してもかまいません。

編集対象表のフォームウィンドウが表示されていない場合は、そのフォームを新規作成します。

編集対象表の表ウィンドウが表示されているときは、そのウィンドウを閉じてから、フォームウィンドウを新規作成します。

フォームのウィンドウは、[ウィンドウ形式]に「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」になります。

新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置]コマンドで設定した値になります。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	その他のエラー。
-1	利用者によって、グループ操作がキャンセルされた。

### ノート

- 桐 ver5 の「枠組み = 」は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み (= ウィンドウ) が表示されます。

## ケース開始 ... ケース終了

コマンドの別名	switch ... case ( <条件式> ) ... default ... end
イベントでの使用	可能

### 説明

- [ケース]コマンドの<条件式>が真であれば、つぎの[ケース]コマンドまたは[ケース終了]コマンドまでのコマンドを実行します。
- [ケース]コマンドの<条件式>が偽であれば、つぎの[ケース]コマンドまたは[ケース終了]コマンドに移ります。
- [ケース]コマンドは、[ケース開始]コマンドから[ケース終了]コマンドの範囲内に記述します。
- いずれの条件も満たしていないときに実行する処理は、[ケース その他]コマンドから[ケース終了]コマンドのあいだに記述します。[ケース その他]コマンドは省略してもかまいません。

### 記述例

- &MENU の値が 1 のときは行追加、2 のときは行訂正を行いません。1 でも 2 でもないときは、メッセージボックスを出して表を閉じます。

```
ケース開始
  ケース ( &MENU = 1 )
    行追加, 会話, 終了状態 = &OK
  ケース ( &MENU = 2 )
    行訂正, 会話, *, 終了状態 = &OK
  ケース その他
    メッセージボックス "編集終了", ¥
      "編集を終了しますか?", ¥
      アイコン = ?, ボタン指定 = 5, ¥
      &OK
    条件 ( &OK = 6 ) 終了 表 編集対象表
ケース終了
```

### 構文

```
ケース開始
  ケース ( <条件式> )
    ... <コマンド> ...
  ケース その他
    ... <コマンド> ...
ケース終了
```

## ケース中止

コマンドの別名	break
イベントでの使用	可能

### 説明

- ケース範囲から強制的に抜け出します。
- このコマンドは、[ ケース開始 ] コマンドから [ ケース終了 ] コマンドの範囲内に記述します。それ以外の場所に記述してはいけません。

### 構文

ケース中止

# 結合

## 説明

- 指定した結合表または外部データベースを開きます。
- 外部データベースとの接続は、外部データベース定義 ( \*.xvw ) に従って行なわれます。
- 表とフォームのウィンドウを 40 個開いているとき、または表を 40 個開いているときは、実行できません。
- イベントハンドラ内で開いた結合表または外部データベースは、フォームを閉じた時点で一緒に閉じます。ただし、その表のウィンドウがある場合は、開いたままになります。
- 外部データベースを開く場合は、コンピュータに [ 32ビットODBC ドライバ ] をインストールした後、使用する外部データベースのデータソースを、 [ コントロール パネル ] の [ ODBC データソース (32bit) ] で登録しておく必要があります。

## 記述例

- 表番号 2 に「Uriage.viw」を開きます。  
結合 "Uriage.viw" ,, 表番号 = 2 , 終了状態 = &OK
- 外部データベースファイルを開きます。  
結合 "Uriage.xvw" ,, 終了状態 = &OK
- 実表を更新しない結合表を開き、表を保存せずに閉じるようにします。  
結合 "Uriage.viw" ,, 終了状態 = &OK
- 実表を更新しない結合表を開き、保存する表の名前を「Work.tbl」にします。  
結合 "Uriage.viw" , "Work.tbl" , 終了状態 = &OK

## 構文

結合 ¥  
<結合定義ファイル> , ¥  
<保存表名> , ¥  
表番号 = <整数> , ¥  
モード = 専有 | 共有更新 | 共有参照 | 参照 , ¥  
リトライ = する | しない , ¥  
使用フォーム = <ファイル名> , ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### <結合定義ファイル>

結合表の定義ファイル名 ( .viw ) または外部データベースの定義ファイル名 ( \*.xvw ) を指定します ( 計算式 )。

ファイルの拡張子を省略すると「.viw」が付加されます。外部データベースの定義ファイルを開く場合は、必ず拡張子まで指定してください。

現在のデータパス上に存在しない結合表または外部データベースを開く場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

### <保存表名>

実表を更新しない結合表で、新規作成した表を保存するときの表ファイル名を指定します（計算式）。

現在のデータベース以外の場所に保存する場合は、表ファイル名をフルパスで指定します。このパラメータを省略する場合であっても、コンマが必要です。

### 表番号 = <整数>

開いた表に割り当てる番号を、整数で指定します（計算式）。

指定できる番号は、1～40です。すでに開かれている表の表番号を指定してはいけません。このパラメータを省略した場合は、使用されていない表番号の中で、もっとも小さい番号を割り当てます。

### モード = 専有 | 共有更新 | 共有参照 | 参照

表を開くときの共有モードを指定します。処理条件を保存する場合は「モード = 専有」で開いてください。

指定値	説明
専有	ほかの利用者に、表を開かせません。
共有更新	ほかの利用者と一緒に表を更新します。
共有参照	ほかの利用者が更新する表を参照します。
参照	自身を含むすべての利用者が、表を更新しません。

### リトライ = する | しない

表を開くことができなかったときの処理を指定します。

指定値	説明
する	再試行するかどうかを選択するメッセージボックスを出して、利用者の確認を待ちます。 メッセージボックスの[キャンセル]ボタンをクリックして終了したときは、「終了状態 = 」で指定した変数に0が代入されます。
しない	再試行せずに、つぎのコマンドに移ります。 「終了状態 = 」で指定した変数には、共有違反であれば -1、共有以外のエラーであれば0が代入されます。

### 使用フォーム = <ファイル名>

開いた表を編集するとき使用する、フォームのファイル名を指定します（計算式）。

このパラメータは、このコマンドで開く表に対して、使用フォームを設定する場合に指定します。

イベントハンドラで使用する場合は、このパラメータを指定してはいけません。

フォームの拡張子は「.wfm」または「.frm」です。拡張子を省略した場合は、環境設定の[一括処理]タブ [高度な設定]で指定した拡張子を付加します。

現在のデータベース上に存在しないフォームを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

グループ化を行なうフォームを指定すると、開いた表がグループ選択状態になります。

参照表が設定されていないフォームを指定してはいけません。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	表を開いた。
0	共有違反以外のエラーが発生したため、表を開くことができなかった。

- 1 共有違反で表を開くことができない（「リトライ=しない」を指定した場合のみ）
- 2 他の利用者が置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）

## 検索 会話

イベントでの使用	×不可
実行後の処理対象行	該当する行。なければ終端行。

### 説明

- [検索：比較式]ダイアログボックスを出して、比較式の条件を満たすレコードを検索します。
- <比較式>、「部分一致検索=」、「文字比較方法=」には、このダイアログボックスを出したときの初期値を指定します。初期値を指定しない場合は省略できます。
- 計算結果を比較式入力時の初期値にするには、このコマンドを実行する前に変数に代入し、その変数名を<比較式>に指定してください。
- OR条件で検索することはできません。

### 記述例

- 部分一致検索を「含む」、文字比較方法を「拡張辞書順」にして、[検索：比較式]ダイアログボックスを出します。  
検索 , 会話, [住所], 部分一致検索 = 含む, 文字比較方法 = 拡張辞書順, 終了状態 = &OK

### 構文

検索 ¥  
| | | | ¥  
会話 | フォーム | 表, ¥  
<項目名> { <比較式>, ... }, ¥  
部分一致検索 = しない | 含む | 含まない | 先頭一致 | 末尾一致, ¥  
文字比較方法 = 自動 | 文字符号 | 辞書順 | 拡張辞書順, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

| | | |  
どの位置から検索を開始するかを指定します。このパラメータを省略した場合は、表の先頭から検索します。

位置	説明
	処理対象行の次のレコードから、表の最終方向に検索します（[次を検索]ボタンのみ）
	現在の行から表の最終方向に検索します（[次を検索]ボタンのみ有効）
	現在の行から表の先頭方向に検索します（[前を検索]ボタンのみ有効）
	処理対象行よりひとつ前のレコードから、表の先頭方向に検索します（[前を検索]ボタンのみ有効）
(省略)	表の先頭から検索します（[先頭から検索]ボタンのみ有効）

### 会話 | フォーム | 表

表示するウィンドウの形式を、表にするかフォームにするかを指定します。

「会話」を指定すると、編集対象表に使用フォームが設定されていればフォームウィンドウを、使用フォームが設定されていなければ、表ウィンドウを表示します。  
編集対象表のウィンドウが表示されていないときは、指定したウィンドウが新規作成されます。  
編集対象表のウィンドウが、指定したウィンドウと異なるときは、そのウィンドウを閉じてから、指定形式のウィンドウを新規作成します。  
フォームのウィンドウは、[ウィンドウ形式]で「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」として作成します。  
新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置]コマンドで設定した値になります。ただし、[水平位置の調整]または[垂直位置の調整]が「自動」以外のフォームでは、フォームの属性に従った位置とサイズになります。

<項目名> { <比較式> , ... }

[検索]ダイアログボックスの[項目名]と[計算式]の初期値を指定します。

部分一致検索 = しない | 含む | 含まない | 先頭一致 | 末尾一致

[検索]ダイアログボックスの[部分一致検索]の初期値を指定します。

このパラメータは、<項目名>が文字列型のときのみ有効です。

文字比較方法 = 自動 | 文字符号 | 辞書順 | 拡張辞書順

[検索]ダイアログボックスの[文字比較方法]の初期値を指定します。

このパラメータは、<項目名>が文字列型のときのみ有効です。

終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	実行した。
0	キャンセルした。

## ノート

- 桐 ver5 の [位置指定 表 | 帳票 | 会話] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。
- 「枠組み=」は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み (=ウィンドウ) が表示されます。

## 検索 条件名

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	該当する行。なければ終端行。

### 説明

- 登録済みの検索条件を使用して、編集対象表のレコードを検索します。

### 構文

検索 ¥  
| | | | , ¥  
条件名 = <文字列>

### パラメータ

| | | |  
どの位置から検索を開始するかを指定します。このパラメータを省略した場合は、表の先頭から検索します。

位置	説明
	処理対象行の次のレコードから、表の最終方向に検索します（[次を検索]ボタンのみ有効）
	現在の行から表の最終方向に検索します（[次を検索]ボタンのみ有効）
	現在の行から表の先頭方向に検索します（[前を検索]ボタンのみ有効）
	処理対象行よりひとつ前のレコードから、表の先頭方向に検索します（[前を検索]ボタンのみ有効）。
(省略)	表の先頭から検索します（[先頭から検索]ボタンのみ有効）

条件名 = <文字列>

使用する条件名を指定します（計算式）  
登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

## 検索 比較式

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

実行後の処理対象行

該当する行。なければ終端行。

### 説明

- 指定した条件でレコードを検索し、最初に該当するレコードに移動します。

### 記述例

- [年齢]の値が 40 と一致する、次のレコードを検索します。  
検索 [年齢]{ 40 }
- [年齢]の値が 20 以上、40 以下のレコードを表の先頭から検索します。  
検索 [年齢]{ 20 [ ] 40 }  
または  
検索 [年齢]{ 20 , 40 }
- [氏名]の先頭が「山田」ではじまるレコードを検索します。  
検索 [氏名]{ "山田" \* }
- 一昨年以来のデータを検索します。  
&STR = "#年( [ ] ) #年( #月数加算( #日時値, -2, 1 ) )"  
検索 [登録日]\_&STR

### 構文

検索 ¥  
| | | | , ¥  
<項目名> { <比較式> , ... } | <項目名> <文字列型の変数名> , ¥  
部分一致検索 = しない | 含む | 含まない | 先頭一致 | 末尾一致 , ¥  
文字比較方法 = 自動 | 文字符号 | 辞書順 | 拡張辞書順

### パラメータ

| | | |

どの位置から検索を開始するかを指定します。このパラメータを省略した場合は、表の先頭から検索します。

位置	説明
	処理対象行の次のレコードから、表の最終方向に検索します（[次を検索]ボタンのみ有効）
	現在の行から表の最終方向に検索します（[次を検索]ボタンのみ有効）
	現在の行から表の先頭方向に検索します（[前を検索]ボタンのみ有効）
	処理対象行よりひとつ前のレコードから、表の先頭方向に検索します（[前を検索]ボタンのみ有効）
(省略)	表の先頭から検索します（[先頭から検索]ボタンのみ有効）

<項目名> { <比較式> , ... } | <項目名> <文字列型の変数名>

検索する項目の名前と、検索条件となる比較式を指定します。

AND 条件を指定するには、比較式を半角または全角のコンマで区切ります。

変数に代入した比較式を使用して検索する場合は、「<項目名> \_ <文字列型の変数名>」の形式で指定します。変数名の前には、\_（アンダーバー）をつけます。

#### 部分一致検索 = しない | 含む | 含まない | 先頭一致 | 末尾一致

部分一致検索を行なう場合に指定します。

このパラメータは、<項目名>が文字列型のときのみ有効です。

複数の比較式を指定する場合、または式で比較する場合は、「部分一致検索=しない」を指定するか、このパラメータを省略します。

#### 文字比較方法 = 自動 | 文字符号 | 辞書順 | 拡張辞書順

検索する項目が文字列型のときに、文字列の比較方法を指定します。

このパラメータは、<項目名>が文字列型のときのみ有効です。

比較方法	説明
自動	項目が、ふりがな項目、または索引で辞書順か辞書逆順で並べ替えられている場合は辞書順で検索します。それ以外であれば文字符号順で検索します。
文字符号	文字符号順で検索します。
辞書順	複数の比較式を指定する場合は、このパラメータそのものを省略し、比較式の最後に「:文字符号」または「:C」をつけてください。辞書順で検索します。複数の比較式を指定する場合は、このパラメータそのものを省略し、比較式の最後に「:辞書順」または「:D」をつけてください。
拡張辞書順	拡張辞書順で検索します。複数の比較式を指定する場合は、このパラメータそのものを省略し、比較式の最後に「:拡張」または「:E」をつけてください。

#### ノート

- 桐 ver5 の [位置指定 <比較式>] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。

## 検索条件削除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表の検索条件を削除します。

### 記述例

- 編集対象表の検索条件をふたつ削除します。  
検索条件削除 "売上集計", "作業用"

### 構文

検索条件削除 <条件名> , ... | \*

### パラメータ

<条件名> , ... | \*

削除する条件の名前を指定します（計算式）。

複数の条件を削除する場合は、条件名を半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、すべての条件を削除します。

登録されていない条件を指定するとエラーになります。

## 検索条件登録

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 検索条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 登録した検索条件は、[検索]コマンドと[絞り込み]コマンドで使用できます。
- 検索条件の数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- 5 種類の OR 条件を検索条件に登録します。  
検索条件登録 条件名 = "関東地方を検索", ¥  
{ [住所]"茨城県" \* }, { [住所]"千葉県" \* }, ¥  
{ [住所]"東京都" \* }, { [住所]"埼玉県" \* }, ¥  
{ [住所]"神奈川県" \* }
- 男性で 25 才以上 50 才以下、または女性で 20 才以上 40 才以下の人を検索する条件に登録します。  
検索条件登録 条件名 = "紹介状対象者", ¥  
{ [性別]"男性", [年齢]{ 25, 50 } }, ¥  
{ [性別]"女性", [年齢]{ 20, 40 } }

### 構文

検索条件登録 ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
{ <項目名><比較式> | <項目名> <文字列型の変数名>, ... }

### パラメータ

**条件名** = <文字列>

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

{ <項目名><比較式> | <項目名> <文字列型の変数名>, ... }

検索条件を { } でくくります。{ } でくくられた部分に複数の条件があるときは、それぞれのAND条件になります。

OR条件を指定するときは、{ } のあとに { } を続けて指定します。{ } は、半角または全角のコンマで区切ります。

最大10個のOR条件を指定できます。

# 項目集計

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 編集対象表の < **項目名** > で指定した項目を集計し、つぎの組み込み変数に代入します。

変数名	説明
&件数	現在、処理対象になっているレコードの件数。
&有効件数	削除レコードが無効のときは、削除されていないレコードの件数。 削除レコードが有効のときは、削除レコードも含む。 項目値が未定義のレコードは含まない。
&削除件数	削除されたレコードの件数（削除レコードが無効のときのみ集計）。
&最大値	項目値の最大値、または最大文字数。
&最小値	項目値の最小値、または最小文字数。
&平均値	項目値の平均値、または平均文字数。
&合計値	項目値の合計値、または合計文字数。
&標準偏差	項目値の標準偏差、または文字数の標準偏差。

- 集計項目が日時型または時間型の場合は &件数、&有効件数、&削除件数だけに代入します。  
その他の変数値は未定義になります。

## 構文

項目集計 < **項目名** >

## 項目属性変更

イベントでの使用	フォームの編集対象表は不可。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 桐ver5 互換のコマンド書式で、指定した項目の属性を変更します。または項目の挿入、追加、削除を行いません。
- 項目を挿入する場合は、挿入位置よりひとつうしろの項目名を指定します。
- 入力モードなど、Windows 版で新しく追加された機能を指定する場合は、[項目属性変更 2]コマンドを使用してください。
- 表が基本状態でない場合は、実行できません。
- 表を専有以外で開いているときは、実行できません。
- 利用者コードが定義利用者コードと一致していない場合は、実行できません。

### 構文

項目属性変更 ¥  
変更, <項目名>, { <項目属性> }, ..., ¥  
挿入, <項目名>, { <項目属性> }, ..., ¥  
追加, { <項目属性> }, ..., ¥  
削除, <項目名>, ...

### ノート

- <項目属性> には、つぎの順序で属性を指定します。
- 項目計算式など、属性値を削除する場合は、二重引用符をふたつ指定します。
- 現在と同じ設定にする属性値は省略できます。
- <5. 値条件>、<6. 被ふりがな項目>、<7. 項目計算式> は、いずれかひとつしか指定できません。

属性	説明
<1. 名前>	項目の名前を指定します (文字列式)。 項目の名前は [ ] でくっつけてはいけません。 項目の挿入時と追加時は、この値 (項目の名前) を省略してはいけません。
<2. データ型>	項目のデータ型を指定します (文字列式)。 項目の挿入時または追加時に省略すると「文字列型」になります。
データ型	説明
文字列	文字列を登録する項目にします。 1レコードの総データ量が 8000 byte 以内であれば、項目に登録できる文字数に制限はありません。
数値	数値を登録する項目にします。 このデータ型の項目には、小数点以下の値も登録できます (有効桁数: 16桁)。
通貨	登録できるデータは数値型と同じです。

整数	3桁ごとの位取りコンマ、位取り罫線、通貨記号を付加する場合に指定します。 -32768 から 32767 までの数を登録する項目にします。 小数点以下の数値と指数記号は入力できません。
長整数	-2147483648 から 2147483647 までの数を登録する項目にします。 小数点以下の数値と指数記号は入力できません。
実数	±1.79769313486231e+308 の範囲の数を登録する項目にします。 通貨記号を付加できます。 このデータ型は、おもに外部データベースとのデータ交換用として使用します。
日時	日時を登録する項目にします。 西暦 1年 1月 1日 0時 0分 0.000秒から西暦 65535年 12月 31日 23時 59分 59.999秒までの日時を登録できます。
時間	時間を登録する項目にします。 -65535日 23時 59分 59.999秒から 65535日 23時 59分 59.999秒までの時間を登録できません。

カウンタ 桐が自動的に番号をつける項目にします。

### <3. 表示幅>

表ウインドウ画面での項目の桁数を指定します（整数）。  
文字列型の項目では、全角文字を1とした文字数を指定します。  
桁数または文字数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の[データ]タブで指定したフォントとサイズです。

### <4. 表示位置>

表ウインドウ画面でのデータの表示位置を指定します（文字列）  
左（文字列型、日時型の既定値）  
右（他のデータ型の既定値）  
中央

### <5. 値条件>

字種、値集合、表引き、項目制約、行制約、編集条件をつぎの書式で指定します（文字列）。  
各属性は、半角または全角のコンマで区切り、属性全体を二重引用符でくくります。

【書式】字種{半角|全角|英字|数字|かな|カナ|第2|外字|空白,...}

または

字種{\*,-半角|-全角|-英字|-数字|-かな|-カナ|-第2|-外字|-空白,...}

【書式】集合{1:<値>,2:<値>,...}

【書式】表引き{<比較項目名>,<表ファイル名>,<索引名>,<検索項目名>,<値項目名>}

【書式】項目制約{<条件式>}

【書式】行制約{<条件式>}

【書式】編集{<オプション>,...}

オプション	説明
拡張	項目を編集するときに、[拡張編集]画面を出す場合に指定します。
計算	項目の入力が終了したら再計算する場合に指定します。

上書き   挿入	上書きまたは挿入モードにする場合に指定します。
全角   半角   確定	この項目を入力するときのモードを指定します。
文節   複合語	入力するときの変換モードを指定します。 この指定は、日本語入力システム「松茸」を使用して入力するとき限り有効です。
ガイド <文字列>	項目値を入力するときに表示するメッセージを指定します。
エラー <文字列>	エラー時に表示するメッセージを指定します。

<6. 被ふりがな項目>

被ふりがな項目の名前を指定します（文字列）。  
指定する項目名は [ ] でくくります。  
この属性を設定する項目と被ふりがな項目は、ともに文字列型の項目でなければいけません。

<7. 項目計算式>

項目計算式を指定します（計算式を表わす文字列）

<8. 小数桁>

小数部の桁数を指定します（整数）。

この指定は、データ型が数値、通貨、実数、日時、時間の項目でのみ有効です。

<9. 通貨記号>

数値の先頭に付加する通貨記号を 1 文字指定します（文字列）。

この指定は、通貨型と実数型の項目でのみ有効です。

<10. 項目初期値>

挿入初期値式と編集初期値式を指定します（文字列）。

【書式】挿入{ <計算式> } , 編集{ <計算式> }

<11. 自動複写>

直前に入力した値を自動複写するかどうかを指定します（文字列）。

項目の挿入時または追加時に省略すると「しない」になります。

しない

する

<12. 更新>

項目値の更新を許可するか禁止するかを指定します（文字列）。

項目の挿入時または追加時に省略すると「許可」になります。

許可

禁止

## 項目属性変更 2

イベントでの使用	フォームの編集対象表は不可。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 編集対象表の、指定した項目の属性を変更します。または項目の挿入、追加、削除を行いません。
- 項目を挿入する場合は、挿入位置よりひとつうしろの項目名を指定します。
- 表が基本状態でない場合は、実行できません。
- 表を専有以外で開いているときは、実行できません。
- 利用者コードが定義利用者コードと一致していない場合は、実行できません。

### 記述例

- [TEL]で、半角の数字とその他の文字の入力を許可にします。  
項目属性変更 2 変更, [TEL]{,,,,,,,,, ""半角"", ""数字"", ""その他"" }
- [氏名]の入力モードを[漢字変換ON]、[挿入]、[複合語変換]、[人名地名]にします。  
項目属性変更 2 変更, [氏名], {,,,,,,,,, "2123" }
- 被ふりがな項目を設定します。  
項目属性変更 2 変更, [よみ], {,,, [氏名] }
- 計算項目を設定します。  
項目属性変更 2 変更, [金額], {,,,, "[単価] \* [数量]" }
- 項目計算式を解除して、基本項目に戻します。  
項目属性変更 2 変更, [金額], {,,,, "" }
- 日時型の項目をふたつ追加します。  
項目属性変更 2 追加, {"日時1", "日時"}, 追加, {"日時2", "日時" }
- [10月]の前に[前期]という名前の計算項目を挿入します。  
項目属性変更 2 挿入, [10月], {"前期",,,,, "#横合計([4月],[9月])" }
- [作業1]と[作業2]の項目を削除します。  
項目属性変更 2 削除, [作業1], 削除, [作業2]

### 構文

項目属性変更 2 ¥  
変更, <項目名>, { <項目属性> }, ..., ¥  
挿入, <項目名>, { <項目属性> }, ..., ¥  
追加, { <項目属性> }, ..., ¥  
削除, <項目名>, ...

### ノート

- <項目属性>には、つぎの順序で属性を指定します。
- 項目計算式など、属性値を削除する場合は、二重引用符をふたつ指定します。
- 現在と同じ設定にする属性値は省略できます。
- <4. 被ふりがな項目>と<5. 項目計算式>は、どちらか一方しか指定できません。

属性	説明																				
<1. 名前>	<p>項目の名前を指定します（文字列式）。  項目の名前は [ ] でくくってはいけません。  項目の挿入時と追加時は、この値（項目の名前）を省略してはいけません。</p>																				
<2. データ型>	<p>項目のデータ型を指定します（文字列式）。  項目の挿入時または追加時に省略すると「文字列型」になります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>データ型</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文字列</td> <td> <p>文字列を登録する項目にします。  1レコードの総データ量が 8000 byte 以内であれば、項目に登録できる文字数に制限はありません。</p> </td> </tr> <tr> <td>数値</td> <td> <p>数値を登録する項目にします。  このデータ型の項目には、小数点以下の値も登録できます（有効桁数：16桁）。</p> </td> </tr> <tr> <td>通貨</td> <td> <p>登録できるデータは数値型と同じです。  3桁ごとの位取りコンマ、位取り罫線、通貨記号を付加する場合に指定します。</p> </td> </tr> <tr> <td>整数</td> <td> <p>-32768 から 32767 までの数を登録する項目にします。  小数点以下の数値と指数記号は入力できません。</p> </td> </tr> <tr> <td>長整数</td> <td> <p>-2147483648 から 2147483647 までの数を登録する項目にします。  小数点以下の数値と指数記号は入力できません。</p> </td> </tr> <tr> <td>実数</td> <td> <p>±1.79769313486231e+308 の範囲の数を登録する項目にします。  通貨記号を付加できます。  このデータ型は、おもに外部データベースとのデータ交換用として使用します。</p> </td> </tr> <tr> <td>日時</td> <td> <p>日時を登録する項目にします。  西暦 1年 1月 1日 0時 0分 0.000秒から西暦 65535年 12月 31日 23時 59分 59.999秒までの日時を登録できます。</p> </td> </tr> <tr> <td>時間</td> <td> <p>時間を登録する項目にします。  -65535日 23時 59分 59.999秒から 65535日 23時 59分 59.999秒までの時間を登録できます。</p> </td> </tr> <tr> <td>カウンタ</td> <td> <p>罫が自動的に番号をつける項目にします。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	データ型	説明	文字列	<p>文字列を登録する項目にします。  1レコードの総データ量が 8000 byte 以内であれば、項目に登録できる文字数に制限はありません。</p>	数値	<p>数値を登録する項目にします。  このデータ型の項目には、小数点以下の値も登録できます（有効桁数：16桁）。</p>	通貨	<p>登録できるデータは数値型と同じです。  3桁ごとの位取りコンマ、位取り罫線、通貨記号を付加する場合に指定します。</p>	整数	<p>-32768 から 32767 までの数を登録する項目にします。  小数点以下の数値と指数記号は入力できません。</p>	長整数	<p>-2147483648 から 2147483647 までの数を登録する項目にします。  小数点以下の数値と指数記号は入力できません。</p>	実数	<p>±1.79769313486231e+308 の範囲の数を登録する項目にします。  通貨記号を付加できます。  このデータ型は、おもに外部データベースとのデータ交換用として使用します。</p>	日時	<p>日時を登録する項目にします。  西暦 1年 1月 1日 0時 0分 0.000秒から西暦 65535年 12月 31日 23時 59分 59.999秒までの日時を登録できます。</p>	時間	<p>時間を登録する項目にします。  -65535日 23時 59分 59.999秒から 65535日 23時 59分 59.999秒までの時間を登録できます。</p>	カウンタ	<p>罫が自動的に番号をつける項目にします。</p>
データ型	説明																				
文字列	<p>文字列を登録する項目にします。  1レコードの総データ量が 8000 byte 以内であれば、項目に登録できる文字数に制限はありません。</p>																				
数値	<p>数値を登録する項目にします。  このデータ型の項目には、小数点以下の値も登録できます（有効桁数：16桁）。</p>																				
通貨	<p>登録できるデータは数値型と同じです。  3桁ごとの位取りコンマ、位取り罫線、通貨記号を付加する場合に指定します。</p>																				
整数	<p>-32768 から 32767 までの数を登録する項目にします。  小数点以下の数値と指数記号は入力できません。</p>																				
長整数	<p>-2147483648 から 2147483647 までの数を登録する項目にします。  小数点以下の数値と指数記号は入力できません。</p>																				
実数	<p>±1.79769313486231e+308 の範囲の数を登録する項目にします。  通貨記号を付加できます。  このデータ型は、おもに外部データベースとのデータ交換用として使用します。</p>																				
日時	<p>日時を登録する項目にします。  西暦 1年 1月 1日 0時 0分 0.000秒から西暦 65535年 12月 31日 23時 59分 59.999秒までの日時を登録できます。</p>																				
時間	<p>時間を登録する項目にします。  -65535日 23時 59分 59.999秒から 65535日 23時 59分 59.999秒までの時間を登録できます。</p>																				
カウンタ	<p>罫が自動的に番号をつける項目にします。</p>																				
<3. 表示幅>	<p>表ウィンドウ画面での項目の幅を指定します（文字列式）。  項目の挿入時または追加時に省略すると18桁になります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>形式</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M&lt;長さ&gt;</td> <td> <p>表示幅を 1 / 100 mm 単位で指定します。  100 (1mm) より小さい値を指定してはいけません。</p> </td> </tr> <tr> <td>C&lt;桁数&gt;</td> <td> <p>表示幅を 1 / 100 桁単位で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の[データ]タブで指定したフォントとサイズです。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	形式	説明	M<長さ>	<p>表示幅を 1 / 100 mm 単位で指定します。  100 (1mm) より小さい値を指定してはいけません。</p>	C<桁数>	<p>表示幅を 1 / 100 桁単位で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の[データ]タブで指定したフォントとサイズです。</p>														
形式	説明																				
M<長さ>	<p>表示幅を 1 / 100 mm 単位で指定します。  100 (1mm) より小さい値を指定してはいけません。</p>																				
C<桁数>	<p>表示幅を 1 / 100 桁単位で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[表の表示条件]の[データ]タブで指定したフォントとサイズです。</p>																				

100 (1桁) より小さい値を指定してはいけません。

<4. 被ふりがな項目>

被ふりがな項目の名前を指定します (文字列式)。指定する項目名は [ ] でくくります。

この属性を設定する項目と被ふりがな項目は、ともに文字列型の項目でなければいけません。

<5. 項目計算式>

項目計算式を指定します (計算式を表わす文字列式)。

<6. 自動複写>

直前に入力した値を自動複写するかどうかを指定します (文字列式)。項目の挿入時または追加時に省略すると「しない」になります。

しない  
する

<7. 更新>

項目値の更新を許可するか禁止するかを指定します (文字列式)。

項目の挿入時または追加時に省略すると「許可」になります。

許可  
禁止

<8. 挿入初期値式>

挿入初期値式を指定します (計算式を表わす文字列式)。

ここで指定する式は、計算結果が設定項目と同じデータ型になるものでなければいけません。

<9. 編集初期値式>

編集初期値式を指定します (計算式を表わす文字列式)。

ここで指定する式は、計算結果が設定項目と同じデータ型になるものでなければいけません。

<10. 値集合>

値集合をつぎの書式で指定します。

【書式】 { <値> | <番号> : <値> , ... } <オプション>

オプション

説明

1桁目 他の値も入力=0: する | 1: しない  
2桁目 自動表示=0: しない | 1: する  
3桁目 自動終了=0: しない | 1: する

<11. 表引き条件>

表引き条件をつぎの書式で指定します (文字列式)。

表引き条件は、全体を二重引用符でくくります。

【書式】 <比較項目名> , <表引き表名> , <索引名> , <検索項目名> , <値項目名> , <オプション>

オプション

説明

1桁目 他の値も入力=0: する | 1: しない  
2桁目 自動表示=0: しない | 1: する  
3桁目 自動終了=0: しない | 1: する  
4桁目 置換=0: しない | 1: する  
5桁目 検索失敗時のエラーメッセージ表示=0: しない | 1: する  
6桁目 編集表を使用=0: しない | 1: する  
7桁目 索引の自動使用=0: しない | 1: する  
8桁目 先頭一致で検索=0: する | 1: しない

<12. 字種条件>

使用を許可する字種を二重引用符でくくって指定します。

複数の字種を指定するときは、半角または全角のコンマで区切りません。

半角、全角  
英字、数字  
かな、カナ  
第2、外字  
空白、その他

<13. ガイドメッセージ>

ガイドメッセージを指定します (文字列式)。

計算項目では、指定しても無効です。

<14. エラーメッセージ>

エラーメッセージを指定します（文字列式）。

計算項目では、指定しても無効です。

<15. 項目制約式>

項目制約式を指定します（条件式を表わす文字列式）。

<16. 行制約式>

行制約式を指定します（条件式を表わす文字列式）。

<17. 重複>

重複する値の登録を許可するか禁止するかを指定します（文字列式）。

項目の挿入時または追加時に省略すると「許可」になります。

許可

禁止

<18. 未定義値>

未定義を許可するか禁止するかを指定します（文字列式）。

項目の挿入時または追加時に省略すると「許可」になります。

許可

禁止

<19. 入力モード>

入力時の[入力モード]、[挿入モード]、[変換モード]、[変換の優先]の制御を、4桁の数字で指定します（文字列式）。

変換モードと変換の優先は、日本語入力システム「松茸」で入力するときに関り、有効です。

オプション

説明

1桁目 入力モード = 0: 指定なし | 1: 漢字変換 OFF | 2: 漢字変換 ON | 3: 半角英数 | 4: 全角英数 | 5: 半角カナ | 6: 全角かな | 7: 全角カナ

2桁目 挿入モード = 0: 指定なし | 1: 挿入 | 2: 上書き

3桁目 変換モード = 0: 文節変換 | 1: 文節変換 | 2: 複合語変換

4桁目 変換の優先 = 0: なし | 1: 人名 | 2: 地名 | 3: 人名地名

<20. 編集モード>

[拡張編集]画面を出して編集する項目にするには「拡張」、入力後に再計算を行なう項目にするには「計算」を指定します（文字列式）。両方とも行なう項目にするには「拡張 計算」を指定します。

<21. 項目種別>

基本、ふりがな、計算のいずれかひとつを指定します。

## 項目値代入

イベントでの使用

項目値の入力中のみ実行可能（項目訂正、行訂正、行挿入、行追加）

### 説明

- 入力中の項目値を設定または変更します。フォーム上に表示していない項目の値や、オブジェクトの属性で編集禁止にしている項目の値も、このコマンドで指定することができます。
- このコマンドは、フォームのイベントハンドラ内に記述します。一括処理から実行させることはできません。
- つぎの会話処理を行なっているときに実行する、イベントハンドラに記述できます。

項目訂正（表の項目訂正）

行訂正

行挿入

行追加

- 項目値を編集するオブジェクトがひとつもないとき、またはフォームが表示状態のときは、実行することができません。

### 記述例

- [商品CODE]の入力が終了したら、その商品コードの品名と単価を「uriage.tbl」に代入します。

```
手続き定義開始 商品CODE::入力後(参照 文字列 &編集文字列, ... )
  &比較式 = "" + &編集文字列 + ""
  編集表 "Syouhin.tbl"
  検索 [商品CODE] _ &比較式
  if ( .not #eof )
    変数宣言 文字列{ &品名 = [品名] }, 通貨{ &単価 = [単価] }
    編集表 "Uriage.tbl"
    項目値代入 [品名] = &品名, [単価] = &単価
  end
手続き定義終了
```

### 構文

項目値代入 <項目名> = <計算式> , ...

### パラメータ

<項目名> = <計算式> , ...

<項目名>には値を設定する項目を、<計算式>には挿入する値を指定します。

<項目名>に、計算項目を指定してはいけません。計算項目は、自動的に計算されます。

グループ選択状態のときは、<項目名>にグループ項目を指定してはいけません。

## 項目名変更

イベントでの使用	フォームの編集対象表は不可。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 指定した項目の名前を変更します。
- 表が基本状態でない場合は、実行できません。
- 表を専有更新で開いていない場合は、実行できません。
- 利用者コードが定義利用者コードと一致していない場合は、実行できません。

### 記述例

- [A]を[氏名]に、[B]を[氏名のよみ]に変更します。  
項目名変更 [A] = "氏名" , [B] = "氏名のよみ"

### 構文

項目名変更 <項目名> = <文字列式> , ...

# コマンド

イベントでの使用

可能

## 説明

- <文字列式> で指定した文字列を、一括処理コマンドとして実行します。
- <文字列式> の計算結果が、コマンドの構文に違反する場合は、エラーになります。
- つぎのコマンドは、指定してはいけません。
  - 繰り返し、繰り返し終了、繰り返し中止
  - ケース開始、ケース終了
  - ケース、ケース中止
  - 手続き定義開始、手続き定義終了
  - コマンド、名札、<名札名> :
  - if、swich、case、default
  - for、loop、while
  - else、end

## 記述例

- 計算式で指定した名前の変数を宣言します。  
コマンド "変数宣言 共通, 文字列{ "&" + #項目属性( &項目番号, 1 ) + "}"

## 構文

コマンド <文字列式>

## パラメータ

### <文字列式>

計算結果が一括処理コマンドになる、文字列を指定します。

## 再抽出

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。またはそのまま。

### 説明

- 編集対象表の結合表または外部データベースを、抽出して、最新の情報に更新します。
- このコマンドは、最新のデータで結合し直す場合に使用します。行集計状態、絞り込み状態、整列状態は解除されます。
- 表または実表を更新しない結合表の場合は、なにもしません。処理対象行も移動しません。
- [トランザクション]コマンドで開始したトランザクションは、このコマンドを実行するとコミットされます。

### 構文

再抽出 終了状態 = <変数名>

### パラメータ

終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	再抽出に成功した。
0	再抽出できなかった。
-2	他の利用者が置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

# サウンド 再生

イベントでの使用

可能

## 説明

- Windows の機能を使用して、指定したサウンド ファイル ( \*.wav ) を再生します。実際に再生できるかどうかは、Windows の状態に依存します。
- 再生するサウンドは、なるべくファイルサイズの小さいものを使用してください。ファイルサイズの大きいサウンドを再生した場合、コンピュータに大きな負荷がかかるため、しばらく応答しなくなることがあります。
- ほかのメディアと同時再生できるかどうかは、Windows の設定によって決まります。[コントロールパネル]の[マルチメディア]のプロパティで、[優先するデバイスのみを使う]を ON にしている場合や、ほかのマルチメディアプレーヤーをインストールしている場合は、同時再生できません。詳しくは、各社のマニュアルまたはオンラインヘルプを参照してください。

## 記述例

- サウンドを非同期で再生します。  
サウンド 再生, #桐パス名+ "Kiri.wav", 非同期, 終了状態 = &OK

## 構文

サウンド 再生, ¥  
<ファイル名>, ¥  
非同期 | 同期 | 繰り返し, ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### <ファイル名>

開くファイルの名前と拡張子を指定します ( 計算式 )。  
指定できるのは拡張子が \*.wav のファイルだけです。

### 非同期 | 同期 | 繰り返し

つぎのパラメータを指定します。

パラメータ	説明
非同期	サウンドの終了を待たずにつぎのコマンドを実行します。
同期	サウンドの再生終了を待ってから、つぎのコマンドを実行します。 イベントハンドラ内でこのパラメータを指定すると、エラーになります。
繰り返し	サウンドの終了を待たずに、つぎのコマンドを実行します。 サウンドは、[サウンド停止]コマンドを実行するか、一括処理が終了するまで、繰り返し再生されます。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	指定したファイルが存在しない。または拡張子がない。

## サウンド 停止

イベントでの使用

可能

### 説明

- 再生中のサウンドを停止します。再生中のサウンドがなければ、なにもせずに終了します。
- このコマンドで停止できるのは、[サウンド再生]コマンドで再生命令を出したサウンドだけです。他のタスクで再生したサウンドを停止することはできません。
- 停止命令を出してから実際に停止するまで、多少のズレが生じます。完全に停止してからつぎの処理を行なう場合は、[サウンド再生]コマンドで再生するときに「同期」を指定してください。

### 構文

サウンド 停止

## 索引削除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

実行後の処理対象行

使用中の索引を削除した場合のみ先頭行。

### 説明

- 指定した索引を、編集対象表から削除します。
- 使用中の索引を削除した場合は、基本状態に戻ります。編集対象表を共有更新または共有参照している場合は、エラーになります。専有または参照で開いてから、実行してください。
- 表示条件の [ 開始時に使用する並べ替え条件 ] で使用されている並べ替え条件名は削除されません。

### 構文

```
索引削除 ¥  
並べ替え条件削除 = しない | する , ¥  
<索引名> , ...
```

### パラメータ

**並べ替え条件削除 = しない | する**

索引を使用した並べ替え条件と一緒に削除する場合は「する」を指定します。

**<索引名> , ...**

削除する索引名を指定します ( 計算式 )

### ノート

- 桐 ver5 の「索引削除 \*」の形式は、廃止しました。この形式で実行するとエラーになります。

# 索引定義

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 索引を、編集対象表に定義します。
- 編集対象表を共有更新または共有参照している場合は、エラーになります。専有で開いてから、実行してください。
- 索引の数が、10 個を超える場合はエラーになります。

## 記述例

- [氏名のよみ] 順の索引を定義します。  
索引定義 索引名 = "よみ順", { [氏名のよみ] 辞書順 }
- 索引を定義すると同時に、並べ替え条件も登録します。  
索引定義 索引名 = "よみ順", 条件登録 = "よみ順", { [氏名のよみ] 辞書順 }
- 索引項目の値が重複するレコードの登録を禁止する索引を定義します。  
索引定義 索引名 = "よみ順", 重複 = 禁止, { [電話], [誕生日] }

## 構文

索引定義 ¥  
索引名 = <文字列>, ¥  
重複 = 許可 | 禁止, ¥  
条件登録 = <並べ替え条件名>, ¥  
{ <項目名> 昇順 | 降順 | 辞書順 | 辞書逆順, ... }

## パラメータ

### 索引名 = <文字列>

登録する索引の名前を 64 文字以内で指定します (計算式)。全角も半角も 1 文字と数えます。

### 重複 = 許可 | 禁止

索引に使用する項目の値が、すべて同じになるレコードを登録可能にするかどうかを指定します。

すでに重複するレコードが存在するときに「禁止」を指定するとエラーになります。

個々の項目の重複禁止は、索引ではなく、表の項目属性で指定してください。

### 条件登録 = <並べ替え条件名>

このパラメータは、索引定義時に、並べ替え条件も一緒に登録する場合に指定します。並べ替え条件を登録しない場合は、このパラメータを省略します。

<並べ替え条件名>には、登録する条件の名前を64文字以内で指定します (計算式)。全角も半角も 1 文字と数えます。

{ <項目名> 昇順 | 降順 | 辞書順 | 辞書逆順, ... }

つぎのパラメータを指定します。

パラメータ	説明
-------	----

<項目名>	並べ替えまたは索引で使用する項目を指定します。
-------	-------------------------

昇順	<p>複数の項目を使用する場合は、優先順位の高いものから指定します。ふたつの項目名は、半角または全角のコンマで区切ります。</p> <p>値の小さいものから並べ替える場合に指定します。</p> <p>文字列型の項目でこの整列順を指定すると、JIS コードの小さいものから並べ替えます。</p> <p>この整列順は、被ふりがな項目が設定されていない項目で、整列順を省略したときの初期値です。</p>
降順	<p>旧バージョンの「文字符号順」は、この整列順に読み替えます。</p> <p>値の大きなものから並べ替える場合に指定します。</p> <p>文字列型の項目でこの整列順を指定すると、JIS コードの大きなものから並べ替えます。</p>
辞書順	<p>旧バージョンの「文字符号逆順」は、この整列順に読み替えます。</p> <p>五十音で並べ替えるときに指定します。</p> <p>文字列型の項目でのみ有効です。</p> <p>被ふりがな項目が設定された項目で整列方法を省略すると、この順で並べ替えます。</p>
辞書逆順	<p>五十音の逆から並べ替えるときに指定します。</p> <p>文字列型の項目でのみ有効です。</p>

## 削除行

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

実行後の処理対象行

先頭行。

### 説明

- 編集対象表の削除レコードを、処理対象に含めるかどうかを指定します。
- 「有効」を指定すると削除レコードを処理対象行に含めます。
- 「無効」を指定すると処理対象からはずします。
- 表を専有以外で開いているときは、実行できません。

### 構文

削除行 有効 | 無効

# シェル実行

イベントでの使用

可能

## 説明

- Windows のファイルタイプに登録されたアプリケーションを使用して、指定したファイルを開きます。
- このコマンドは、Windows エクスプローラで、ファイルを選択して開く機能と同じです。
- 起動するアプリケーションの終了を待つことはできません。アプリケーションは、非同期に実行されます。
- このコマンドで、桐関連のファイルを開くと、桐をもうひとつ起動します。
- ファイルを開く途中で、なんらかのエラーが発生した場合は、処理を中止します。

## 記述例

- Windows フォルダの「花見.bmp」を開きます。  
シェル実行 "C: ¥Windows ¥花見.bmp" , &OK  
または  
シェル実行 "花見.bmp" , 起動フォルダ = "C: ¥Windows" , &OK
- ホームページを開きます。  
シェル実行 "http: / / www.myaddress.ne.jp / " , &OK
- 宛て先を処理対象行の [E-mail]、件名を「総務から」として、メールを新規作成します。  
シェル実行 "Mailto:" + [E-mail] + "?subject=総務から" , &OK

## 構文

シェル実行 ¥  
<ファイル名> , ¥  
起動フォルダ = <フォルダ名> , ¥  
表示 = 通常 | 最大化 | 最小化 , ¥  
<長整数型の変数名>

## パラメータ

### <ファイル名>

開くファイルの名前と拡張子を指定します ( 計算式 )

プログラム名と拡張子を指定して、そのプログラムを起動することもできます。

存在しないファイル、または Windows のファイルタイプに登録されていない拡張子 ( アプリケーションと関連付けされていない拡張子 ) のファイルを開こうとした場合は、エラーになります。

現在のデータベース上に存在しない一括処理を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

### 起動フォルダ = <フォルダ名>

<ファイル名> が保存されている場所を指定します ( 計算式 )

パス名の最後の ¥ は、つけてもつけなくてもかまいません。

<ファイル名> に保存場所をつけている場合は、省略してもかまいません。

**表示 = 通常 | 最大化 | 最小化**

起動時のウィンドウサイズを指定します。

このパラメータを省略すると、ファイルを開くアプリケーションが直前に終了したときの状態になります。

**<長整数型の変数名>**

起動結果を代入する変数を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値型、通貨型、実数型でもかまいません。整数型の変数は指定しないでください（整数型の範囲を越える値が返される可能性があるためです）。

正常に開けた場合は、この変数にゼロが代入されます。

なんらかの理由で開けなかった場合には、ゼロ以外の値が代入されます。

## システム <番号>

イベントでの使用

x 不可

### 説明

- 環境設定の[一括]タブで登録したプログラムを実行します。MS-DOS のアプリケーションも実行できます。

### 構文

システム ¥

1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 , ¥

起動フォルダ = <フォルダ名> , ¥

自動クローズ = する | しない , ¥

フルスクリーン表示 = する | しない , ¥

<長整数型の変数名>

### パラメータ

1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8

環境設定の[一括]タブで登録した実行プログラムを実行するときに指定します。

指定した番号に実行プログラムが登録されていない場合は、[MS-DOS プロンプト]ウィンドウが表示されます。

**起動フォルダ = <フォルダ名>**

<フォルダ名> が保存されている場所を指定します ( 計算式 )

パス名の最後の ¥ は、つけてもつけなくてもかまいません。

<フォルダ名> に保存場所をつけている場合は、省略してもかまいません。

**自動クローズ = する | しない**

MS-DOS のアプリケーションを実行した後、アプリケーション終了時に [MS-DOS プロンプト]ウィンドウを自動クローズするかどうかを指定します。

**フルスクリーン表示 = する | しない**

MS-DOS のアプリケーションを実行するとき、[MS-DOS プロンプト]ウィンドウをフルスクリーン表示するかどうかを指定します。

**<長整数型の変数名>**

起動結果を代入する変数を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値型、通貨型、実数型でもかまいません。整数型の変数は、なるべく指定しないでください ( 32 bit アプリケーションでは、整数型の範囲を越える復帰コードが返るケースがあるためです )

正常に終了した場合には、指定した変数に起動したプログラムの復帰コードが代入されます。

アプリケーションの実行途中で、なんらかのエラーが発生した場合は、ゼロが代入されます。

## ノート

- NT4.0 では、[システム]コマンドでつぎのパラメータを指定しても意味がありません。これらのパラメータを指定する場合は、PIF ファイルのプロパティを変更し、変更したPIF ファイルを[システム]コマンドで実行してください。
  - 自動クローズ=する！しない
  - フルスクリーン表示=する！しない
- NT 4.0 で BAT ファイルを実行した場合は、つねに「自動クローズ=する」、「フルスクリーン=しない」に固定されます。NT 4.0 では、BAT ファイル用の PIF ファイルを作成できませんので、これらのパラメータを変更することはできません。

## システム <プログラム名>

イベントでの使用

x 不可

### 説明

- 指定したプログラムを実行します。MS-DOS のアプリケーションも実行できます。

### 記述例

- Windows アクセサリの電卓を起動します。パラメータを渡さないで、<パラメータ>には二重引用符を 2 個指定します。  
システム "C:¥Windows¥Calc.exe", "", &OK
- MS-DOS の COPY コマンドを実行します。  
システム "C:¥COMMAND.COM", "/c COPY C:¥WINDOW¥\*.BMP A:¥",  
自動クローズ = する, &OK
- [MS-DOS プロンプト] ウィンドウを表示します。  
システム "", "", &OK

### 構文

システム ¥  
<プログラムファイル名>, <パラメータ>, ¥  
起動フォルダ = <フォルダ名>, ¥  
自動クローズ = する | しない, ¥  
フルスクリーン表示 = する | しない, ¥  
<長整数型の変数名>

### パラメータ

#### <プログラムファイル名>, <パラメータ>

実行するアプリケーションプログラムのファイル名と、パラメータを指定します（計算式）。<プログラムファイル名>には、そのファイルが保存されている場所も指定してください。存在しないファイルを指定するとエラーになります。<パラメータ>には、アプリケーションプログラムに渡すパラメータを指定します。パラメータを指定しない場合は二重引用符を 2 個指定します。

#### 起動フォルダ = <フォルダ名>

<フォルダ名> が保存されている場所を指定します（計算式）。パス名の最後の ¥ は、つけてもつけなくてもかまいません。<フォルダ名> に保存場所をつけている場合は、省略してもかまいません。

#### 自動クローズ = する | しない

MS-DOS のアプリケーションを実行した後、アプリケーション終了時に [MS-DOS プロンプト] ウィンドウを自動クローズするかどうかを指定します。

#### フルスクリーン表示 = する | しない

MS-DOS のアプリケーションを実行するとき、[MS-DOS プロンプト] ウィンドウをフルスクリーン表示するかどうかを指定します。

#### <長整数型の変数名>

起動結果を代入する変数を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値型、通貨型、実数型でもかまいません。整数型の変数は、なるべく指定しないでください(32 bit アプリケーションでは、整数型の範囲を越える復帰コードが返るケースがあるためです)。

正常に終了した場合には、指定した変数に起動したプログラムの復帰コードが代入されます。

アプリケーションの実行途中で、なんらかのエラーが発生した場合は、ゼロが代入されません。

#### ノート

- NT4.0 では、[システム]コマンドでつぎのパラメータを指定しても意味がありません。これらのパラメータを指定する場合は、PIF ファイルのプロパティを変更し、変更したPIF ファイルを [システム]コマンドで実行してください。
  - 自動クローズ=する！しない
  - フルスクリーン表示=する！しない
- NT 4.0 で BAT ファイルを実行した場合は、つねに「自動クローズ=する」、「フルスクリーン=しない」に固定されます。NT 4.0 では、BAT ファイル用の PIF ファイルを作成できませんので、これらのパラメータを変更することはできません。

## 実行終了

イベントでの使用

×不可

### 説明

- 確認用のメッセージボックスを出して、一括処理を終了します。
- 「表題 = 」と「メッセージ = 」の両方を省略すると、メッセージボックスを出さずに終了します。

### 構文

```
実行終了 ¥  
    保存 | 破棄, ¥  
    表題 = <文字列>, ¥  
    メッセージ = <文字列>
```

### パラメータ

#### 保存 | 破棄

開いている表を保存して終了するか、破棄して終了するかを指定します。このパラメータは省略できません。

「保存」を指定したときの動作は「保存」コマンド、「破棄」を指定したときの動作は「中止」コマンドと同じです。

#### 表題 = <文字列>

タイトルバーに表示する文字列を指定します（計算式）。

このパラメータを省略したときのタイトルバーの文字列は「 桐 」になります。

#### メッセージ = <文字列>

一括処理終了時のメッセージボックスを指定します（計算式）。

¥n と ¥t を使用することはできません。

省略すると「一括処理実行を終了しました」というメッセージが表示されます。

## 絞り込み 会話, 指定行

イベントでの使用	×不可
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 表またはフォームのウィンドウを使用して、絞り込む行を会話形式で指定します。
- フォームでは、行セクタを配置したもののみ、実行できます（行セクタがない場合は実行できません）。
- [Enter] キーでレコードを選択した後、[Shift] + [Enter] キーを押すと、絞り込みを実行します。
- 選択中に [Esc] キーを押すと、絞り込みを行わずに、つぎのコマンドに移ります。
- 組み込み変数の &選択件数には、絞り込まれたレコード件数が代入されます。

### 構文

絞り込み ¥  
会話 | フォーム | 表, ¥  
指定行, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 会話 | フォーム | 表

表示するウィンドウの形式を、表にするかフォームにするかを指定します。

「会話」を指定すると、編集対象表に使用フォームが設定されていればフォームウィンドウを、使用フォームが設定されていなければ、表ウィンドウを表示します。

編集対象表のウィンドウが表示されていないときは、指定したウィンドウが新規作成されます。

編集対象表のウィンドウが、指定したウィンドウと異なるときは、そのウィンドウを閉じてから、指定形式のウィンドウを新規作成します。

フォームのウィンドウは、[ウィンドウ形式]で「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」として作成します。

新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置]コマンドで設定した値になります。

ただし、[水平位置の調整]または[垂直位置の調整]が「自動」以外のフォームでは、フォームの属性に従った位置とサイズになります。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	操作が実行された。
0	操作がキャンセルされた。

## ノート

- 桐 ver5 の [ 選択 表 | 帳票 | 会話, 指定行 ] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。

## 絞り込み 会話, 比較式

イベントでの使用	×不可
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- [絞り込み: 比較式]ダイアログボックスを出して、編集対象表のレコードを絞り込みます。
- <比較式>、「部分一致検索=」、「文字比較方法=」には、このダイアログボックスを出したときの初期値を指定します。初期値を指定しない場合は省略できます。
- OR 条件で検索することはできません。
- 組み込み変数の &選択件数には、絞り込まれたレコード件数が代入されます。

### 構文

絞り込み ¥  
会話 | フォーム | 表, ¥  
<項目名> { <比較式>, ... }, ¥  
部分一致検索 = しない | 含む | 含まない | 先頭一致 | 末尾一致, ¥  
文字比較方法 = 自動 | 文字符号 | 辞書順 | 拡張辞書順, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 会話 | フォーム | 表

表示するウィンドウの形式を、表にするかフォームにするかを指定します。

「会話」を指定すると、編集対象表に使用フォームが設定されていればフォームウィンドウを、使用フォームが設定されていなければ、表ウィンドウを表示します。

編集対象表のウィンドウが表示されていないときは、指定したウィンドウが新規作成されます。

編集対象表のウィンドウが、指定したウィンドウと異なるときは、そのウィンドウを閉じてから、指定形式のウィンドウを新規作成します。

フォームのウィンドウは、[ウィンドウ形式]で「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」として作成します。

新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置]コマンドで設定した値になります。ただし、[水平位置の調整]または[垂直位置の調整]が「自動」以外のフォームでは、フォームの属性に従った位置とサイズになります。

<項目名> { <比較式>, ... }

[絞り込み]ダイアログボックスの[項目名]と[計算式]の初期値を指定します。

#### 部分一致検索 = しない | 含む | 含まない | 先頭一致 | 末尾一致

[絞り込み]ダイアログボックスの[部分一致検索]の初期値を指定します。

このパラメータは、<項目名>が文字列型のときのみ有効です。

#### 文字比較方法 = 自動 | 文字符号 | 辞書順 | 拡張辞書順

[絞り込み]ダイアログボックスの[文字比較方法]の初期値を指定します。

このパラメータは、<項目名>が文字列型のときのみ有効です。

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	実行した。
0	キャンセルした。

**ノート**

- 桐 ver5 の [ 選択 | 表 | 帳票 | 会話 ] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。
- 「 枠組み = 」 は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み (= ウィンドウ) が表示されます。

## 絞り込み 行数

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 処理対象行から、指定した行数のレコードを絞り込みます。
- <長整数>には、絞り込む行数を指定します。0 と -2 以下の値は指定できません。
- -1 を指定すると、処理対象行から最終レコードまでを絞り込みます。
- 組み込み変数の &選択件数には、絞り込まれたレコード件数が代入されます。
- 終端行で実行することはできません。
- 該当する件数が 0 件でも、絞り込み状態になります。

### 記述例

- 処理対象行から 10 件のレコードを絞り込みます。  
絞り込み 行数 = 10
- 処理対象行から表の最終レコードまでのレコードを絞り込みます。  
絞り込み 行数 = -1

### 構文

絞り込み ¥  
行数 = <長整数>

## 絞り込み 条件名

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

実行後の処理対象行

先頭行。

### 説明

- 登録済みの検索条件を使用して、編集対象表のレコードを絞り込みます。
- 組み込み変数の & 選択件数には、絞り込まれたレコード件数が代入されます。
- 該当する件数が 0 件でも、絞り込み状態になります。

### 記述例

- 最後に登録した検索条件名を使用して、レコードを絞り込みます。  
絞り込み 条件名 = #処理条件名( 3 , #処理条件数( 3 ) )

### 構文

絞り込み ¥  
条件名 = <文字列>

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**  
使用する条件名を指定します（計算式）。  
登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

### ノート

- 桐 ver5 の [ 選択 条件名 ] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。

## 絞り込み 単一化

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 指定した項目で比較して、同じ値を持つ複数のレコードの中から、先頭だけを絞り込みます。
- 組み込み変数の &選択件数には、絞り込まれたレコード件数が代入されます。
- 該当する件数が 0 件でも、絞り込み状態になります。

### 記述例

- [商品No]と[商品名]で単一化します。  
絞り込み 単一化 = { [商品No] , [商品名] }

### 構文

絞り込み ¥  
単一化 = { <項目名> , ... } | \*

### パラメータ

- 単一化 = { <項目名> , ... } | \*
- 単一化の判定に使用する項目名を指定します。
  - 複数の項目を指定する場合は、半角または全角のコンマで区切ります。
  - \* を指定すると、全項目を判定対象にします。

### ノート

- 桐 ver5 の [選択 単一化] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。

## 絞り込み 単一化, 条件名

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 登録済みの単一化条件を使用して、編集対象表のレコードを絞り込みます。
- 組み込み変数の & 選択件数には、絞り込まれたレコード件数が代入されます。
- 該当する件数が 0 件でも、絞り込み状態になります。

### 構文

絞り込み ¥  
単一化, ¥  
条件名 = <文字列>

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**  
使用する条件名を指定します (計算式)。  
登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

## 絞り込み 重複行

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 編集対象表で、重複するレコードを絞り込みます。
- 組み込み変数の &選択件数 には、絞り込まれたレコード件数が代入されます。
- 該当する件数が 0 件でも、絞り込み状態になります。

### 記述例

- 同じレコードが 2 件以上あるレコードを絞り込みます。  
絞り込み 重複行 = 2 , \*
- [登録日] の同じレコードが、ちょうど 10 件あるレコードを絞り込みます。  
絞り込み 重複行 == 10 , { [登録日] }

### 構文

絞り込み ¥  
重複行 = <整数> | 重複行 == <整数> , ¥  
{ <項目名> , ... } | \*

### パラメータ

**重複行 = <整数> | 重複行 == <整数>**

何件以上、重複する行数を絞り込むかを整数で指定します（計算式）。指定できるのは、2 以上の整数値です。

ちょうど n 件重複する行を絞り込む場合は「== <整数>」の形式で指定します。この形式で指定できるのは、1 以上の整数値です。

**{ <項目名> , ... } | \***

重複の判定に使用する項目名を指定します。

複数の項目を指定する場合は、半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、全項目を判定対象にします。

### ノート

- 桐 ver5 の [選択 重複行] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。

## 絞り込み 重複行, 条件名

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 登録済みの重複行絞り込み条件を使用して、編集対象表のレコードを絞り込みます。
- 組み込み変数の & 選択件数には、絞り込まれたレコード件数が代入されます。
- 該当する件数が 0 件でも、絞り込み状態になります。

### 構文

絞り込み ¥  
重複行, ¥  
条件名 = <文字列>

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**  
使用する条件名を指定します (計算式)。  
登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

## 絞り込み 比較式

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 指定した条件で編集対象表のレコードを検索し、該当するレコードだけを絞り込みます。
- 組み込み変数の &選択件数 には、絞り込まれたレコード件数が代入されます。
- 該当する件数が 0 件でも、絞り込み状態になります。

### 記述例

- [年齢]の値が 20 以上、40 以下のレコードを絞り込みます。  
絞り込み [年齢]{ 20 [ ] 40 }  
または  
絞り込み [年齢]{ 20 , 40 }
- 拡張辞書順で比較して、[よみ]の値が「あいはらしろう」と一致するレコードを絞り込みます(「あいばらしろう」、「あいばらじろう」なども絞り込まれる)。  
絞り込み [よみ]{ "あいはらしろう" }, 文字比較方法 = 拡張辞書順  
または  
絞り込み [よみ]{ "あいはらしろう":拡張 }
- 変数に代入した比較式でレコードを絞り込みます。  
&STR = " \* "" + #部分列( [氏名] , 1 , 2 ) + "" \* "  
絞り込み [氏名]\_ &STR

### 構文

絞り込み ¥  
<項目名> { <比較式> , ... } | <項目名> <文字列型の変数名> , ¥  
部分一致検索 = しない | 含む | 含まない | 先頭一致 | 末尾一致 , ¥  
文字比較方法 = 自動 | 文字符号 | 辞書順 | 拡張辞書順

### パラメータ

<項目名> { <比較式> , ... } | <項目名> <文字列型の変数名>  
検索する項目の名前と、検索条件となる比較式を指定します。  
AND 条件を指定するには、比較式を半角または全角のコンマで区切ります。  
変数に代入した比較式を使用して検索する場合は、「<項目名> \_ <文字列型の変数名>」の形式で指定します。変数名の前には、\_ (アンダーバー) をつけます。

#### 部分一致検索 = しない | 含む | 含まない | 先頭一致 | 末尾一致

部分一致検索を行なう場合に指定します。

このパラメータは、<項目名> が文字列型のときのみ有効です。

複数の比較式を指定する場合、または式で比較する場合は、「部分一致検索 = しない」を指定するか、このパラメータを省略します。

#### 文字比較方法 = 自動 | 文字符号 | 辞書順 | 拡張辞書順

検索する項目が文字列型のときに、文字列の比較方法を指定します。

このパラメータは、<項目名>が文字列型のときのみ有効です。

比較方法	説明
自動	項目が、ふりがな項目、または索引で辞書順か辞書逆順で並べ替えられている場合は辞書順で検索します。 それ以外であれば文字符号順で検索します。
文字符号	文字符号順で検索します。 複数の比較式を指定する場合は、このパラメータそのものを省略し、比較式の最後に「:文字符号」または「:C」をつけてください。
辞書順	辞書順で検索します。複数の比較式を指定する場合は、このパラメータそのものを省略し、比較式の最後に「:辞書順」または「:D」をつけてください。
拡張辞書順	拡張辞書順で検索します。複数の比較式を指定する場合は、このパラメータそのものを省略し、比較式の最後に「:拡張」または「:E」をつけてください。

## ノート

- 桐 ver5 の [ 選択 <比較式> ] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。

## 絞り込み 表, 範囲

イベントでの使用	x 不可
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 表ウィンドウを使用して、指定された範囲のレコードを絞り込みます。
- 始点と終点で [Enter] キーを押して範囲を指定すると、その範囲のレコードだけを絞り込みます。
- 範囲指定の途中で [Esc] キーを押すと、絞り込みをキャンセルして、つぎのコマンドに移ります。
- 組み込み変数の &選択件数には、絞り込まれたレコード件数が代入されます。

### 構文

絞り込み 表, 範囲 終了状態 = <変数名>

### パラメータ

終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	操作が実行された。
0	操作がキャンセルされた。

### ノート

- 桐 ver5 の [選択 表, 範囲] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。
- 「枠組み=」は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み (= ウィンドウ) が表示されます。

## 絞り込み 補集合

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- ひとつ前に絞り込んだレコードと比較して、現在、絞り込まれていないレコードを絞り込みます。
- 編集対象表が基本状態のときは、実行できません。
- 組み込み変数の &選択件数には、絞り込まれたレコード件数が代入されます。
- 該当する件数が 0 件でも、絞り込み状態になります。

### 構文

絞り込み 補集合

### ノート

- 桐 ver5 の [選択 補集合] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。

## 絞り込み解除

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 絞り込み状態を解除します。
- 1 を指定すると 1 段階解除します。
- \* を指定するか、パラメータそのものを省略すると、絞り込み状態を全解除して、基本状態にします。
- 索引を使用した整列状態も解除する場合は、[解除]コマンドを使用してください。

### 記述例

- 絞り込み状態を全解除します。  
絞り込み解除 \*  
または  
絞り込み解除

### 構文

絞り込み解除 \* | 1

### ノート

- 桐 ver5 の [選択解除] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。

## 絞り込み条件削除 単一化

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表の単一化条件を削除します。

### 構文

絞り込み条件削除 単一化 <条件名> , ... | \*

### パラメータ

<条件名> , ... | \*

削除する条件の名前を指定します（計算式）。

複数の条件を削除する場合は、条件名を半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、すべての条件を削除します。

登録されていない条件を指定するとエラーになります。

## 絞り込み条件削除 重複行

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表の重複行絞り込み条件を削除します。

### 構文

絞り込み条件削除 重複行 <条件名> , ... | \*

### パラメータ

<条件名> , ... | \*

削除する条件の名前を指定します（計算式）。

複数の条件を削除する場合は、条件名を半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、すべての条件を削除します。

登録されていない条件を指定するとエラーになります。

## 絞り込み条件登録 単一化

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- レコードを単一化する絞り込み条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 単一化条件の数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- [商品No]と[商品名]で単一化する絞り込み条件に登録します。  
絞り込み条件登録 単一化, 条件名 = "商品名チェック", { [商品No], [商品名] }

### 構文

```
絞り込み条件登録 単一化, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
{ <項目名>, ... } | *
```

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

**{ <項目名>, ... } | \***

単一化の判定に使用する項目名を指定します。

複数の項目を指定する場合は、半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、全項目を判定対象にします。

## 絞り込み条件登録 重複行

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 重複行絞り込み条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 重複行絞り込み条件の数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- 同じレコードが、ちょうど 2 件あるレコードを絞り込む条件に登録します。  
絞り込み条件登録 重複行, 条件名 = "商品名チェック", = 2, \*

### 構文

絞り込み条件登録 重複行, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
<整数> | = <整数>, ¥  
{ <項目名>, ... } | \*

### パラメータ

#### 条件名 = <文字列>

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も 1 文字と数えます。

#### <整数> | = <整数>

何件以上、重複する行数を絞り込むかを指定します（計算式）。指定できるのは、2 以上の整数値です。

ちょうど n 件重複する行を絞り込む場合は「= <整数>」の形式で指定します。指定できるのは、1 以上の整数値です。

#### { <項目名>, ... } | \*

重複の判定に使用する項目名を指定します。

複数の項目を指定する場合は、半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、全項目を判定対象にします。

## ジャンプ 行番号

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	該当する行。該当する行がなければ終端行。

### 説明

- 指定したレコードにジャンプします。
- 指定した行マークが定義されていない場合は、終端行にジャンプします。
- ジャンプ先として、つぎのパラメータを指定します。

パラメータ	説明
<番号>	表の先頭から数えて<番号>目のレコード。
+ <番号>	現在行から<番号>行先のレコード。 ただし、変数で指定した値がマイナスであれば、現在行から<番号>行前のレコード。
- <番号>	現在行から<番号>行前のレコード。 ただし、変数で指定した値がマイナスであれば、現在行から<番号>行先のレコード。
次行   N	つぎのレコード
前行   P	ひとつ前のレコード ただし、現在の行が表の先頭レコードであれば、終端レコード
先頭   T	表の先頭レコード
最終   B	表の最終レコード
終端   E	終端レコード

### 記述例

- 表の先頭から数えて 20 行目のレコードに移動します。  
ジャンプ 行番号 = 20
- 現在行から 20 行先のレコードに移動します。  
ジャンプ 行番号 = + 20
- 現在行から 20 行前のレコードに移動します。  
ジャンプ 行番号 = - 20
- 表の最終レコードに移動します。  
ジャンプ 行番号 = 最終

### 構文

ジャンプ 行番号 = <番号> | + <番号> | - <番号> | 次行 | 前行 | 先頭 | 最終 | 終端

### ノート

- 桐 ver5 の [位置指定 行番号] は、このコマンドに読み替えて実行します。

## ジャンプ 行マーク

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	該当する行。該当する行がなければ終端行。

### 説明

- [行マーク定義]コマンドでマークされた「行マーク1」または「行マーク2」のレコードにジャンプします。

### 構文

ジャンプ 行マーク = 1 | 2

## 説明

- このコマンドは、一括処理を実行する前に、表またはフォームが開かれていたかどうかで動作が変わります。
- 表もフォームも開いていない状態で一括処理を実行した場合は、一括処理を終了する前に、表の更新結果を保存して、使用したファイルとウィンドウをすべて閉じます。ただし、[転置集計]コマンドで作成した表と、実表を更新しない結合表で<保存表名>の指定がないものは破棄されます。
- このコマンドのパラメータに「桐」を指定した場合は、メッセージボックスを出さずに桐も終了します。表またはフォームを開いた状態で一括処理を実行した場合は、一括処理だけを終了します。このコマンドのパラメータに「桐」を指定した場合は、表の更新内容を保存するかどうかを確認するメッセージボックスを出した後、桐の実行を終了します。
- [トランザクション]コマンドで開始したトランザクションは、このコマンドを実行するとコミットされます。

## 構文

終了 | 桐

## 終了 表

イベントでの使用

ウィンドウが作成されている表は不可。

### 説明

- 指定した表を保存して閉じます。表を閉じた後、もっとも小さい表番号の表が、編集対象表になります。
- 閉じる表は、つぎのいずれかの形式で指定します。

パラメータ	説明
*	すべての表を閉じます。
<表番号> , ...	指定した表番号の表を閉じます（定数または変数）。複数の表を閉じる場合は、半角または全角のコンマで区切ります。
編集対象表	編集対象表の表を閉じます。

- 実表を更新しない結合表に <保存表名> を指定していなければ、表そのものが破棄されます。また、[転置集計]コマンドで作成した表は、無条件で破棄されます。
- サブフォームの対象表を閉じる場合は、[使用フォーム]コマンドでメインフォームを解除してから行ってください。
- [トランザクション]コマンドで開始したトランザクションは、このコマンドを実行するとコミットされます。

### 記述例

- 表番号 2 と表番号 3 の表の更新結果を保存して閉じます。  
終了 表 2 , 3
- 編集対象表の更新結果を保存して閉じます。  
終了 表 編集対象表

### 構文

終了 表 \* | <表番号> , ... | 編集対象表

## 条件

コマンドの別名	cond
イベントでの使用	可能

### 説明

- <条件式> が真のときだけ、<コマンド> に指定した一括処理コマンドを実行します。
- つぎのコマンドは、実行できません。
  - if、else、else if、end
  - 繰り返し、繰り返し終了
  - ケース、ケース開始、ケース終了
  - 条件、名札
  - 手続き定義開始、手続き定義終了

### 記述例

- &KEY の値がゼロならば、ケース範囲から抜け出します。  
条件 ( &KEY = 0 ) ケース中止

### 構文

条件 ( <条件式> ) <コマンド名>

## 使用フォーム

イベントでの使用	×不可
実行後の処理対象行	処理対象行。

### 説明

- 編集対象表の使用フォームを解除します。
- 解除したフォームのウィンドウが表示されている場合は、自動的に閉じられます。
- グループ化する使用フォームを解除した場合は、グループ選択状態も解除されます。そのフォームにサブフォームオブジェクトが配置されていれば、その対象表のリンクとグループ選択状態も解除されます。

### 構文

使用フォーム

## 使用フォーム <フォーム名>

イベントでの使用	×不可
実行後の処理対象行	処理対象行。開始条件を指示している場合は先頭行。 グループ項目オブジェクトがある場合はグループの先頭行。

### 説明

- 編集対象表を編集するときに使用するフォームを設定します。
- すでに使用フォームが設定されていれば、別のフォームに変更します。
- グループ化する使用フォームを変更した場合は、グループ選択状態も解除されます。そのフォームにサブフォームオブジェクトが配置されていれば、その対象表のリンクとグループ選択状態も解除されます。
- <フォームファイル名>には、フォームのファイル名を指定します（計算式）。
- 拡張子を省略したときに付加する拡張子は、環境設定の設定に応じて決まります。[一括]タブの高度な設定で、[フォームのデフォルト拡張子をfrmにする]をOFFにしている場合は「.wfm」が、ONにしている場合は「.frm」が付加されます。
- 「.wfm」または「.frm」以外の拡張子を指定した場合は、環境設定に応じたフォームの拡張子が付加されます。

### 構文

使用フォーム <フォーム名>

## 処理行指定

イベントでの使用	× 不可
実行後の処理対象行	選択した行。

### 説明

- 指定した形式のウィンドウを使用して、処理対象行を選択します。
- このコマンドは、[Enter]キーまたは[Esc]キーが押されたときに終了します。
- マウスの右ボタンで行をクリックすると、ポップアップメニューから[実行]と[キャンセル]を選ぶことができます。

### 記述例

- 表ウィンドウを使用して、処理対象行を選択します。このコマンドが終了したら、表ウィンドウを閉じます。  
処理行指定 &OK, 表, 画面消去 = する

### 構文

処理行指定 ¥  
<変数名>, ¥  
表 | フォーム, ¥  
ガイド = <文字列>, ¥  
画面消去 = しない | する

### パラメータ

#### <変数名>

コマンドの終了状態を取得する変数名を指定します。  
指定する変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
<変数名>には、[Enter]キーで終了したら 1、[Esc]キーで中止したら 0 が代入されます。

#### 表 | フォーム

表示するウィンドウの形式を、表にするかフォームにするかを指定します。  
このパラメータを省略した場合は、表ウィンドウを使用します。  
編集対象表のウィンドウが表示されていない場合は、指定したウィンドウが新規作成されます。  
編集対象表のウィンドウが、指定したウィンドウと異なるときは、そのウィンドウを閉じてから、指定形式のウィンドウを新規作成します。  
新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置]コマンドで設定した値になります。ただし、[水平位置の調整]または[垂直位置の調整]が「自動」以外のフォーム、またはポップアップ形式のフォームでは、フォームの属性に従った位置とサイズになります。

#### ガイド = <文字列>

ステータスバーに表示する文字列を指定します（計算式）。  
フォームウィンドウでこのパラメータを指定すると、フォームの[表示ガイド]と[入力ガイド]が表示されなくなります。

**画面消去 = しない | する**

このコマンドが終了したときに、フォームウィンドウを閉じるかどうかを指定します。  
[一括処理実行]ウィンドウに表示されている内容は消去されません。

**ノート**

- 桐ver5の「枠組み =」は廃止しました。つねに編集対象表のウィンドウ (= 枠組み) が表示されます。

## 図形パス名

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

### 説明

- 画像ファイルの場所を省略したときに付加するパスを設定します（計算式）。
- パス名の最後の ¥ は、つけてもつけなくてもかまいません。相対パスを指定することはできません。
- "" だけを指定すると、現在のデータパスを図形パスにします。
- <パス名> を省略すると、環境設定の [フォルダ] タブで指定した [図形ファイル] のパスを、図形パスにします。
- 一括処理を起動した直後の図形パスは、環境設定の [ファイルの場所] タブで指定した [図形ファイル] のパスになります。この項目が未記入であれば、現在のデータパスが図形パスになります。
- 桐では、拡張子が「.bmp」、「.gif」、「.jpg」、「.grp」を画像ファイルとして扱います。ただし、フォームのピクチャオブジェクトでは、桐がサポートしている画像フォーマットであれば、どんな拡張子でもかまいません。
- フォームでは、フォームオブジェクトの [図形パスを使用する]（オブジェクトリストでは [図形パスの参照]）を ON にした場合に限り、このコマンドで指定した図形パスが適用されます。

### 記述例

- 「C: ¥ My Documents ¥ Image ¥」を図形パスに設定します。  
図形パス名 "C: ¥ My Documents ¥ Image ¥"
- 図形パスを、環境設定で設定した場所にします。  
図形パス名
- 図形パスを、現在のデータパスにします。  
図形パス名 ""

### 構文

図形パス名 <パス名> | ""

## 図形表示

イベントでの使用

x 不可

### 説明

- [一括処理実行ウィンドウ]の指定した領域に、画像を表示します。
- BMP、GIF、GRP、JPEG の画像を表示できます。
- [一括処理実行ウィンドウ]を使用していない場合は、実行できません。

### 構文

図形表示 ¥

( <開始行> , <開始桁> ) - ( <終了行> , <終了桁> ) | ( <開始行> , <開始桁> ) , ¥  
<画像ファイル名> , ¥  
消去 = する | しない , ¥  
確認 = しない | する , ¥  
枠表示 = しない | する

### パラメータ

( <開始行> , <開始桁> ) - ( <終了行> , <終了桁> ) | ( <開始行> , <開始桁> )

[一括処理実行]ウィンドウ内で表示する領域を、数値で指定します(計算式)。

<開始行> と <終了行> に指定できるのは 1 ~ 25行まで。

<開始桁> と <終了桁> に指定できるのは 1 ~ 80 までです。

終了位置を省略すると、<開始行>の<開始桁>から 80桁までになります。

#### <画像ファイル名>

表示する画像ファイルの名前を指定します(計算式)。

拡張子を省略した場合は、環境設定で指定した[図形ファイルの拡張子]を付加します。

現在のデータベース上に存在しないファイルを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### 消去 = する | しない

このコマンドを終了するとき、表示した画像を消去するかどうかを指定します。

#### 確認 = しない | する

キーボード上のキーが押されるまで、待つかどうかを指定します。

#### 枠表示 = しない | する

指定した領域に枠をつけるかどうかを指定します。

### ノート

- 「日本語ワードプロセッサ松」の文書ファイルやテキストファイルなどは表示できません。ここに記載されていないパラメータは廃止しました。指定した場合はエラーになります。

## 整列解除

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 整列状態を解除して、基本状態に戻します。
- 編集対象表が基本状態のときに実行した場合は、処理対象行が表の先頭レコードに移動するだけです。
- 絞り込み状態のときに実行すると、エラーになります。

### 構文

整列解除

## 属性自動設定

イベントでの使用	フォームの編集対象表は不可。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 処理対象行のデータをもとに、編集対象表の項目属性を自動設定します。
- 年月日、時分秒の各单位がすべて入力されていない場合は、日時型や時間型には変換しません。
- 年の値が2番目にあると思われる日時文字列と、曜日が含まれる日時文字列は変換しません。
- 日数と時分秒からなる文字列は、日時型に変換しません。
- 「AM / PM」または「午前 / 午後」が入力されている文字列は、時間型に変換しません。
- 主キー項目と外部キー項目の項目属性は、変更しません。
- 表が基本状態でない場合は、実行できません。
- 表を専有以外で開いているときは、実行できません。
- 利用者コードが定義利用者コードと一致していない場合は、実行できません。

### 構文

属性自動設定 ¥  
未定義値項目削除 = しない | する, ¥  
非表示項目削除 = しない | する, ¥  
項目定義順変更 = しない | する, ¥  
日時・時間型変換 = しない | する

### パラメータ

#### 未定義値項目削除 = しない | する

処理対象行の未記入の項目を、削除するかどうかを指定します。

#### 非表示項目削除 = しない | する

非表示の項目を表から削除するかどうかを指定します。

#### 項目定義順変更 = しない | する

項目の定義順を列固定した項目の順に変更するなら「する」、変更しないなら「しない」を指定します。

#### 日時・時間型変換 = しない | する

日時文字列または時間文字列が入力されている項目のデータ型を、日時型または時間型に変換するかどうかを指定します。

日時型と時間型に変換した項目の表示条件は、変換前の文字列の表記に近いと思われる表示形式に設定されます。

# 代入

イベントでの使用

可能

## 説明

- 変数に値を代入します。
- 同一行で複数の変数に代入した場合は、左側の変数から順に代入されます。
- 同じ名前の変数を、異なる種別の変数としても宣言している場合、自動 固有 共通の順に検索し、最初に見つかった種別の変数に、値を代入します。フォームのイベントハンドラを実行しているときは、自動 局所 固有 共通の順に検索します。このことは、変数値を参照する場合でも同じです。
- コマンド名を省略して、<変数名> から書いてもかまいません。

## 記述例

- 変数に値を代入します。  
代入 &合計金額 = &合計金額 + #切り捨て( [単価] \* [数量], 0 )  
または  
&合計金額 = &合計金額 + #切り捨て( [単価] \* [数量], 0 )
- &掛け率に 0.8 を代入した後、[金額] と &掛け率を掛けた値を &金額に代入します。  
&掛け率 = 0.8, &金額 = [金額] \* &掛け率
- ハンドル=5 のフォームの局所変数に、値を代入します。  
&選択ファイル名 = #局所変数( &hFormWnd, "PictFile" )
- &表示色の 5 番目の要素に「赤」を代入します( &表示色は配列変数 )。  
&表示色 [ 5 ] = "赤"
- &設定色のすべての要素値を「黒」にします。  
変数宣言 共通, 文字列{ &設定色 [ 8 ] }  
&設定色 = { "黒" }
- &設定色のすべての要素値を未定義にします。  
変数宣言 共通, 文字列{ &設定色 [ 8 ] }  
&設定色 = { "" }
- 基本 8 色を &基本色の各要素に代入します。  
変数宣言 共通, 文字列{ &基本色 [ 8 ] }  
&基本色 = { "黒", "青", "赤", "紫", "緑", "水色", "黄色", "白" }
- &表示色の &番号 + 1 の要素に、&基本色の最後の要素値を代入します( &表示色と&基本色は配列変数 )。  
&表示色 [ &番号 + 1 ] = &基本色 [ #配列要素数( "基本色" ) ]
- 右辺の配列変数の要素値を、左辺の配列変数にまとめて代入します。  
変数宣言 数値{ &A [ 4 ], &B [ 8 ], &C [ 12 ] }  
&B = { 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 }  
&C = &B  
&A = &B

## 構文

代入 <変数名> = <計算式> | <配列変数名> [ <要素番号> ] = <計算式> | <配列変数名>  
> = { <計算式>, ... }

## 多重化

### イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

#### 説明

- 編集対象表をもうひとつ開いて、多重化します。多重化した表が編集対象表になります。
- 表とフォームのウィンドウを 40 個開いているとき、または表を 40 個開いているときは、実行できません。
- ひとつの表を多重化して作業する場合、一方のウィンドウの編集状態に応じて、もう一方のウィンドウの更新操作が制限されます。たとえば、一方のウィンドウで絞り込み状態にすると、もう一方のウィンドウでも行挿入コマンドや行移動コマンドなどの操作ができなくなります。また、一方のウィンドウを行集計状態にすると、同じ表を表示しているすべてのウィンドウで、表の更新操作が禁止されます。

#### 構文

多重化 表番号 = <整数> , ¥  
使用フォーム = <ファイル名>

#### パラメータ

##### 表番号 = <整数>

開いた表に割り当てる番号を、整数で指定します（計算式）。

指定できる番号は、1 ~ 40 です。すでに開かれている表の表番号を指定してはいけません。このパラメータを省略した場合は、使用されていない表番号の中で、もっとも小さい番号を割り当てます。

##### 使用フォーム = <ファイル名>

開いた表を編集するときに使用する、フォームのファイル名を指定します（計算式）。

このパラメータは、このコマンドで開く表に対して、使用フォームを設定する場合に指定します。

イベントハンドラで使用する場合は、このパラメータを指定してはいけません。

フォームの拡張子は「.wfm」または「.frm」です。拡張子を省略した場合は、環境設定の[一括]タブ [高度な設定]で指定した拡張子を付加します。

現在のデータベース上に存在しないフォームを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

グループ化を行なうフォームを指定すると、開いた表がグループ選択状態になります。

参照表が設定されていないフォームを指定してはいけません。

## 遅延

イベントでの使用

× 不可

### 説明

- 指定した秒数のあいだ、一括処理を停止します。
- <秒数>には、停止する時間を1 / 10 秒単位で指定します。
- <秒数>を省略すると、0.1 秒停止した後、つぎのコマンドに移ります。

### 構文

遅延 <秒数>

# 置換

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

## 説明

- 指定した項目値を、計算結果で置き換えます。または、計算項目を再計算します。
- すべてのレコードの項目値が、計算結果に置き換わります。絞り込み状態のときは、絞り込まれた全レコードの項目値が置き換わります。
- 行集計で生成した集計レコードを置換する場合は、データ行をなしにしてから実行します。

## 記述例

- [住所]の値を、[都道府県]と、[住所1]を連結した値に置き換えます。  
置換 終了状態 = &OK, [住所] = [都道府県] + [住所1]
- [会社名]の中の「(株)」を「株式会社」に置き換えます。  
置換 終了状態 = &OK, [会社名] = #文字置換( [ ], "(株)", "株式会社" )
- [前回請求額]を[今回請求額]の値に置き換えた後、[今回請求額]の値をゼロに置き換えます。  
置換 終了状態 = &OK, [前回請求額] = [今回請求額], [今回請求額] = 0
- 計算項目の[年齢]を再計算します。  
置換 終了状態 = &OK, [年齢]

## 構文

置換 終了状態 = <変数名>, ¥  
<項目名> = <計算式>, ... | <項目名> = \_<文字列型の変数名>, ...

## パラメータ

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が、置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

### <項目名> = <計算式>, ... | <項目名> = \_<文字列型の変数名>, ...

<項目名>には置換する項目を、<計算式>には置換する値を指定します。

計算式は、結果が<項目名>のデータ型と一致するものでなければいけません。

変数に代入した計算式で置換する場合は、「\_<文字列型の変数名>」に文字列型の変数名を指定します。

計算項目を再計算するときは、計算項目の<項目名>をひとつだけ指定します。

グループ選択状態のときは、グループ項目を指定してはいけません。

## 置換 会話

イベントでの使用	x 不可
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- [置換 : 項目置換]ダイアログボックスを出して、指定した項目の値を置換します。
- <項目名> = <計算式>と「確認 = 」には、このダイアログボックスの初期値を指定します。

### 記述例

- [会社名]を置換する際の計算式の初期値を指定します。  
置換 表, 終了状態 = &OK, ¥  
[会社名] = "#文字置換( [会社名], "(株)", "株式会社" )"

### 構文

置換 ¥  
会話 | フォーム | 表, ¥  
確認 = しない | する, ¥  
<項目名> = <計算式>, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 会話 | フォーム | 表

表示するウィンドウの形式を、表にするかフォームにするかを指定します。  
「会話」を指定すると、編集対象表に使用フォームが設定されていればフォームウィンドウを、使用フォームが設定されていなければ、表ウィンドウを表示します。  
編集対象表のウィンドウが表示されていないときは、指定したウィンドウが新規作成されます。  
編集対象表のウィンドウが、指定したウィンドウと異なるときは、そのウィンドウを閉じてから、指定形式のウィンドウを新規作成します。  
フォームのウィンドウは、[ウィンドウ形式]で「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」として作成します。  
新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置]コマンドで設定した値になります。ただし、[水平位置の調整]または[垂直位置の調整]が「自動」以外のフォームでは、フォームの属性に従った位置とサイズになります。

#### 確認 = しない | する

[置換]ダイアログボックスの「行ごとに確認する」チェックボックスの初期値を指定します。  
OFFにするなら「しない」、ONにするなら「する」を指定します。

#### <項目名> = <計算式>

[置換]ダイアログボックスの[計算式]の初期値を指定します。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が、置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

#### ノート

- 桐 ver5 の「枠組み = 」は廃止しました。つねに編集対象表の枠組み（=ウィンドウ）が表示されます。

## 置換 条件名

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 登録済みの置換条件を使用して、項目値を置換します。
- 置換条件で「行ごとに確認する」を指定していた場合も、つねに「しない」で処理されます。
- 途中でロックされているレコードがあった場合は、すべての置換結果をキャンセルして、つぎのコマンドに制御を移します。

### 構文

置換 ¥  
条件名 = <文字列> , ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

使用する条件名を指定します（計算式）。

登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が、置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

## 置換条件削除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 指定した置換条件を削除します。

### 記述例

- 編集対象表の置換条件をふたつ削除します。  
置換条件削除 "請求額の更新", "売上額の更新"
- 編集対象表の置換条件をすべて削除します。  
置換条件削除 \*

### 構文

置換条件削除 <条件名>, ... | \*

### パラメータ

<条件名>, ... | \*

削除する条件の名前を指定します（計算式）。

複数の条件を削除する場合は、条件名を半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、すべての条件を削除します。

登録されていない条件を指定するとエラーになります。

## 置換条件登録

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 置換条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 複数の項目を置換する条件に登録するときは、各計算式を半角または全角のコンマで区切ります。最大、10項目を置換する条件が登録できます。
- 置換条件の数が、50個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- [前回請求額]を[今回請求額]の値に置き換えた後、[今回請求額]の値をゼロに置き換える置換条件を登録します。

```
置換条件登録 条件名 = "請求額の更新", ¥  
[前回請求額] = [今回請求額], ¥  
[今回請求額] = 0
```

### 構文

```
置換条件登録 ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
確認 = しない | する, ¥  
<項目名> = <計算式>, ... | <項目名> = _ <文字列型の変数名>, ...
```

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

**確認 = しない | する**

行ごとに確認するかどうかを指定します。

**<項目名> = <計算式>, ... | <項目名> = \_ <文字列型の変数名>, ...**

<項目名>には置換する項目を、<計算式>には置換する値を指定します。

計算式は、結果が<項目名>のデータ型と一致するものでなければいけません。

変数に代入した計算式で置換する場合は、「\_ <文字列型の変数名>」に文字列型の変数名を指定します。

計算項目を再計算するときは、計算項目の<項目名>をひとつだけ指定します。

更新が禁止されている項目を指定してはいけません。

## 中止

イベントでの使用

x 不可

### 説明

- このコマンドは、一括処理を実行する前に、表またはフォームが開かれていたかどうかで動作が変わります。
- 表もフォームも開いていない状態で一括処理を実行した場合は、一括処理を終了する前に、表の更新結果を破棄して、使用したファイルとウィンドウをすべて閉じます。ただし、バックアップ指定のない表と、共有更新で開いている表については、編集結果が保存されます。
- このコマンドのパラメータに「桐」が指定した場合は、メッセージボックスを出さずに桐も終了します。表またはフォームを開いた状態で一括処理を実行した場合は、一括処理だけを終了します。このコマンドのパラメータに「桐」が指定した場合は、表の更新内容を保存するかどうかを確認するメッセージボックスを出した後、桐の実行を終了します。
- [トランザクション]コマンドで開始したトランザクションは、このコマンドを実行するとコミットされます。

### 構文

中止 | 桐

## 中止 表

イベントでの使用

ウィンドウが作成されている表は不可。

### 説明

- 指定した表を破棄して閉じます。表を閉じた後、もっとも小さい表番号の表が、編集対象表になります。
- 閉じる表は、つぎのいずれかの形式で指定します。

パラメータ	説明
*	すべての表を閉じます。
<表番号> , ...	指定した表番号の表を閉じます（定数または変数）。複数の表を閉じる場合は、半角または全角のコンマで区切ります。
編集対象表	編集対象表の表を閉じます。

- バックアップ指定がない表、または共有更新で開いている表は、破棄されません。つねに編集結果が保存されます。
- サブフォームの対象表を閉じる場合は、[使用フォーム]コマンドでメインフォームを解除してから行ってください。
- [トランザクション]コマンドで開始したトランザクションは、このコマンドを実行するとコミットされます。

### 構文

中止 表 \* | <表番号> , ... | 編集対象表

## 注釈

イベントでの使用

可能

### 説明

- 一括処理内の任意の行を注釈（コメント）にします。
- 行の先頭文字を \* にするだけでもかまいません。

### 構文

注釈

## 定数宣言

コマンドの別名	const
イベントでの使用	可能

### 説明

- 変数を定数として宣言します。
- 定数の宣言時に初期値を指定しない場合、未定義値以外の値を1度だけ代入できます。
- 一度代入された定数の値は、変更することができません。
- すでに宣言されている定数のデータ型と配列要素数を、このコマンドで変更することはできません。
- このコマンドで宣言しようとした定数の中に、変数として宣言されている変数がひとつでもあると、エラーになります。
- 定数に未定義値を代入することはできません。また、初期値に未定義値を与えることもできません。定数を配列で宣言して初期値を代入するとき、つぎのような記述は未定義値を与えることになるため、エラーになりますので、注意してください。

```
定数宣言 文字列{ &色[4] = {"黒", "", "青", "赤"} }
```

または

```
定数宣言 文字列{ &色[4] = {"黒", , "青", "赤"} }
```

### 記述例

- 定数を宣言します。  
定数宣言 文字列{ &プリンタ名 }
- 定数を宣言し、宣言した定数の値を代入します。  
定数宣言 文字列{ &プリンタ名 = "EPSON PM-700C" }
- 配列変数を、定数として宣言し、各要素に値を代入します。  
定数宣言 文字列{ &基本色[8] = {"黒", "青", "赤", "紫", "緑", "水色", "黄色", "白"} }

### 構文

定数宣言 ¥

自動 | 局所 | 固有 | 共通, ¥

文字列 | 数値 | 通貨 | 整数 | 長整数 | 実数 | 日時 | 時間 | , ¥

{ <変数名> = <初期値> | <変数名> [ <要素数> ] = { <要素1の初期値> , ... , <要素nの初期値> } , ... } , ...

### パラメータ

#### 自動 | 局所 | 固有 | 共通

宣言する定数の種別を指定します。このパラメータを省略した場合、実行中の一括処理またはイベントの手続き内であれば「自動」、それ以外であれば「固有」になります。

種別	説明
----	----

自動	この定数は宣言した手続き内でのみ有効です。
----	-----------------------

局所	<p>他の手続きから参照することはできません。          手続きから抜けると、自動的に削除されます。</p> <p>この定数は、ウィンドウ固有ものです。          この種別の定数は、イベント定義のメイン処理内でのみ宣言できません。          フォームウィンドウが閉じると、自動的に削除されます。任意に削除することはできません。</p>
固有	<p>この定数は、表またはフォームのウィンドウが開いているあいだけ、有効です。          この種別の定数が宣言できるのは、表ウィンドウ、フォームウィンドウが開いているあいだ、または一括処理が実行されているあいだけ有効です。          宣言した定数は、表ウィンドウとフォームウィンドウ、一括処理がすべて閉じると、自動的に削除されます。          宣言後、ウィンドウを新たに開かない限りは、任意に削除できます。ただし、ウィンドウが開かれる前に宣言した定数は、すべてのウィンドウを閉じない限り、削除できません。</p>
共通	<p>この定数は、桐で作業しているあいだは、つねに有効です。          自動的に削除されることはありません。</p>

**文字列 | 数値 | 通貨 | 整数 | 長整数 | 実数 | 日時 | 時間 |**

宣言する定数のデータ型を指定します。直後の { } 内に指定した定数は、すべて同じデータ型になります。

**{ <変数名> = <初期値> | <変数名> [ <要素数> ] = { <要素1の初期値> , ... , <要素nの初期値> } , ... } , ...**

宣言する定数の名前を指定します。

必要であれば、初期値も指定できます ( 計算式 )。

配列の定数を宣言する場合は、&hWnd [ 40 ] などのように定数名のうしろに要素数をつけます ( 計算式 )。要素数は [ ] でくくります。

配列定数の初期値を指定する場合は、{ } でくくります。

**ノート**

- 定数は、つぎの規則に従った名前をつけます。
- 定数名の前には、半角または全角の & をつけます。
- 定数名の長さは、全角と半角に関係なく 64 文字までです。
- 定数名は、全角と半角、大文字と小文字を区別します。
- 定数名の先頭に数字をつけてはいけません。
- 定数名の中に、空白文字を含めてはいけません。
- また、JIS2D21 ~ 2D7F までの文字と、つぎの記号を含めてはいけません。

.,:;!'"^`\_ | / ( ) [ ] { } + - \* / = < > ¥ \$ % # & \* @

., . : ; ? ! ' " ^ | / ~ ( ) [ ] { }

+ - ± × ÷ = < > ¥ \$ % # & \* @

- 組み込み変数と同じ名前の定数は、宣言できません。

## データ行

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 行集計状態であれば、データ行の扱いを変更します。
- データ行と集計行の両方を有効にするなら「有効」、集計行だけを有効にするなら「無効」を指定します。
- 編集対象表が行集計状態でなければ、表の先頭レコードに移動するだけです。

### 構文

データ行 有効 | 無効

# データベース名

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

## 説明

- ファイルの場所を省略したときに付加するデータベースを設定します（文字列型の計算式）。
- <パス名> を省略すると、環境設定の [フォルダ] タブで設定した [データファイル] を、データベースにします。
- イベントハンドラ内で、<パス名> を省略して実行した場合は、ハンドラが終了した時点で実行前のパスに戻ります。実行前のデータベースは、フォームに編集対象表があれば編集対象表の保存場所、編集対象表なければ、フォームの保存場所です。
- ハンドラが終了した後も、データベースを固定する場合は、「固定 = する」を指定してください。
- 一括処理を実行した直後のデータベースは、一番手前に開いている表または結合表のパスになります。なにも開いていない場合は、一括処理ファイルの保存場所になります。

## 記述例

- 「C: ¥K3¥Data¥」をデータベースにします。  
データベース名 "C: ¥K3¥Data¥"
- データベースを、環境設定で設定した場所にします。  
データベース名
- データベースを、現在のデータベースに固定します。  
データベース名 #データベース名, 固定 = する

## 構文

データベース名 ¥  
<パス名> , ¥  
固定 = しない | する

## パラメータ

### <パス名>

変更するデータベースを指定します。パス名の最後の ¥ は、つけてもつけなくてもかまいません。  
相対パスを指定することはできません。

### 固定 = しない | する

データベースを固定するかどうかを指定します。

指定値	説明
しない	ハンドラ内で実行した場合は、ハンドラが終了するまで、指定したパスにします。 一括処理で実行した場合は、編集対象表を切り替えるまで、指定したパスにします。
する	ハンドラ内で実行した場合は、そのフォームを閉じるまで、指定したパスに固定します。 一括処理で実行した場合は、つぎにこのコマンドを実行するまで、指定したパスに固定します。

## 手続き実行（イベントハンドラ）

コマンドの別名	call
イベントでの使用	可能

### 説明

- イベントハンドラを、手続きとして実行したいときの書式です。イベントを発生させるものではありません。
- 「参照」のついた引数には、変数を渡す必要があります。

### 構文

手続き実行 <オブジェクト名> :: <イベント名> ( <式> , ... )

## 手続き実行 < 手続き名 >

コマンドの別名	call
イベントでの使用	可能

### 説明

- [ 手続き定義開始 ] コマンドで定義した手続きを実行します。
- 手続きが終了すると、つぎのコマンドに移ります。
- 条件が真のときだけ実行する場合は、「手続き実行 ( ( < 条件式 > ) , ... )」の形式で指定します。
- 引数を渡す手続きを実行する場合は、< 式 > に引数の値を指定します。値は、計算式で指定してもかまいません。
- 引数を使用しない手続きを実行する場合は、式そのものを省略して ( ) だけを指定します。
- 手続き定義で「参照」を指定している引数の場合は、その変数と同じデータ型の変数名を指定しなければいけません。

### 記述例

- 引数がひとつもない手続きを実行します。  
手続き実行 登録処理 ( )
- 2 個の引数を持つ手続きを実行します。  
手続き実行 問い合わせ ( #IS表 , &件数 )
- 配列変数の引数を持つ手続きを実行します ( &番号リストは配列変数 )。  
手続き実行 指定行絞り込み ( &番号リスト )

### 構文

手続き実行 < 手続き名 > ( ) | ( < 条件式 > ) , < 手続き名 > ( )

または

手続き実行 手続き名 ( < 式 > , ... ) | ( < 条件式 > ) , 手続き名 ( < 式 > , ... )

## 手続き実行 <名札名>

コマンドの別名	call
イベントでの使用	可能

### 説明

- [名札]コマンドで定義した手続きを実行します。手続きが終了すると、つぎのコマンドに移ります。
- 条件が真のときだけ実行するには、「手続き実行 ( ( <条件式> ) , <名札名> 」の形式で指定します。

### 記述例

- 「名札 印刷処理」の次の行から手続きを実行します。  
手続き実行 印刷処理
- 表が空でなければ、「名札 印刷処理」の行から手続きを実行します。  
手続き実行 ( .not #空ファイル ) , 印刷処理

### 構文

手続き実行 <名札名> | ( <条件式> ) , <名札名>

## 手続き終了

コマンドの別名	return
イベントでの使用	イベント定義の [メイン] 処理では不可。

### 説明

- 手続きを終了し、手続きを呼び出した [手続き実行] コマンドの、次の行に移ります。
- [名札] コマンドで定義した手続きに限り、終了後にジャンプする行を、<名札名> で指定できます。
- [手続き定義開始] コマンドで定義した手続きでは、<名札名> を指定することはできません。
- 手続きが実行されていないときに、このコマンドを実行するような一括処理を書いてはいけません。

### 構文

手続き終了 | <名札名>

## 手続き定義開始

コマンドの別名	proc
イベントでの使用	イベント定義の[メイン]処理では不可。

### 説明

- 手続きを定義します。このコマンドで定義する手続きは、[手続き定義終了]コマンドで終了しなければいけません。
- [手続き定義開始]コマンドで定義する手続きは、一括処理ファイルの最後にまとめます。つまり、このコマンドを使用した一括処理ファイルの最後は、[手続き定義終了]コマンドで終わっていないとダメです。
- 手続き実行時に、引数を受け取る手続きにする場合は、受け取る変数のデータ型と名前を ( ) 内に指定します。この場所に指定した変数は、手続きを実行するときに自動変数として宣言され、手続きが終了した時点で削除されます。
- 手続きが終了したときに、手続きの結果を返す場合は、値を渡す変数の<データ型>の前に「参照」をつけます。「参照」のうしろは、1文字以上の空白を入れてください。
- 「参照」を指定した場合は、手続き実行時に指定する引数も変数でなければいけません。また、受け取る変数のデータ型は、値を渡す変数のデータ型と同じでなければいけません。
- たとえば、2番目の引数として定義した自動変数の値を渡したい場合は、手続き実行時に指定する2番目の引数を変数名で指定します。2番目に定義した自動変数のデータ型が整数であれば、手続き実行時に指定する変数も整数型のものを指定します。長整数型、数値型、通貨型、実数型の変数を指定しても、エラーになりますので注意してください。

### 記述例

- 引数がひとつもない手続きを定義します。この手続きを実行するときは「手続き実行 登録処理( )」とします。

```
手続き定義開始 登録処理( )
... コマンド ...
手続き定義終了
```
- 座標とサイズを引数タとして受け取る手続きを定義します。この手続きを実行するときは「手続き実行 サイズ変更( 0, 0, 640, 480 )」などとして、宣言する自動変数と同じ数の引数を指定します。

```
手続き定義開始 サイズ変更( 整数 &X, 整数 &Y, 整数 &W, 整数 &H )
... コマンド ...
手続き定義終了
```
- 手続き実行時に指定した引数のうち、2番目の変数に&処理件数の値を渡す手続きを定義します。この手続きを実行するときは「手続き実行 問い合わせ( 5, &件数 )」などとして、2番目の引数に自動変数の値を受け取る変数を指定します。

```
手続き定義開始 問い合わせ( 文字列 &処理項目, 参照 数値 &処理件数 )
... (コマンド) ...
手続き定義終了
```
- 手続き実行時に渡される配列変数の要素数に応じて、手続き定義内で使用する変数の要素数を定めることができます(ただし、データ型が一致しない場合、または配列変数でないものは指定できません)。
- この場合、つぎの例のように、要素数を空にしておきます。

```
手続き定義開始 対象項目抽出( 参照 文字列 &処理項目[ ] )
```

- 引数を、配列変数でまとめて受け取る手続きを定義します。この手続きを実行するときは「手続き実行 指定行絞り込み ( &番号リスト )」などとして、配列変数で引数を渡します ( &ID は配列変数 )。

```

手続き定義 指定行絞り込み ( 長整数 &ID [ 32 ] )
... ( コマンド ) ...
手続き定義終了

```

## 構文

```

手続き定義開始 <手続き名> ( ) | ( <条件式> ) , <手続き名> ( )
... <コマンド> ...
手続き定義終了

```

または

```

手続き定義開始 <手続き名> ( <データ型> <変数名> | 参照 <データ型> <変数名> ,
... )
... <コマンド> ...
手続き定義終了

```

## ノート

- 手続き名は、つぎの規則に従った名前をつけます。
- 手続き名の長さは、全角と半角に関係なく 64 文字までです。
- 手続き名は、全角と半角、大文字と小文字を区別します。
- 手続き名の先頭に数字をつけてはいけません。
- 手続き名の中に、空白文字を含めてはいけません
- また、JIS2D21 ~ 2D7F までの文字と、つぎの記号を含めてはいけません。

```

, . ; ? ! ' " ^ ` _ ! / ( ) [ ] { } + - * / = < > ¥ $ % # & * @
, . . : ; ? ! ' " ^ | / ~ ( ) [ ] { }
+ - ± × ÷ = < > ¥ $ % # & * @

```

- <手続き名> に、つぎの名前を指定してはいけません。

コマンドと同じ名前。

ほかの名札と同じ名前。

ほかの [ 手続き定義開始 ] コマンドで定義した手続きと同じ名前。

## 手続き定義開始（イベントハンドラ）

コマンドの別名	proc
イベントでの使用	イベント定義の[メイン]処理では不可。

### 説明

- <オブジェクト名>には、そのハンドラ（手続き）を所有するオブジェクトの名前が記述します。
- 桐が予約していないイベント名を指定した場合は、通常の手続きになります。
- この形式で指定すると、指定したオブジェクト名をハンドラ内で省略できます。
- イベントハンドラは、フォーム定義画面から自動生成することをお勧めします。

### 構文

```
手続き定義開始 <オブジェクト名> :: <イベント名> ( <データ型> <変数名> | 参照 <データ型> <変数名> )  
... <コマンド> ...  
手続き定義終了
```

## 手続き定義終了

コマンドの別名	end
イベントでの使用	可能

### 説明

- [手続き定義開始]コマンドと対で使用して、手続きの範囲を定義します。
- このコマンドが実行されると、手続きを呼び出した [手続き終了]コマンドと同じ動作をします。
- [名札]コマンドで定義する手続きは、このコマンドで終了できません。 [手続き終了]コマンドで手続きの終了位置を指定してください。

### 構文

手続き定義終了

## 転置集計

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表のレコードを転置集計し、集計結果から表を新規作成します。
- このコマンドで新規作成した表を参照する場合は、表番号を使用してください。表ファイル名では、参照できません。
- 表とフォームのウィンドウを 40 個開いているとき、または表を 40 個開いているときは、実行できません。
- <グループ項目名> には縦の集計条件となる項目を、<転置項目名> には横の集計条件となる項目を指定します。
- 複数の項目を縦の集計条件にする場合は、項目名を半角または全角のコンマで区切って指定します。最大10 個の項目を指定できます。

### 記述例

- [支店名] と [売上日] の月を縦の集計条件、[売上日] の日を横の集計条件にして、合計を求めます。  
転置集計 { [支店名] , [売上日].月 } , [売上日].日 , [売上額] , 集計種別 = 合計

### 構文

```
転置集計 ¥
{ <グループ項目名> , ... } , ¥
<転置項目名> , ¥
<集計項目名> , ¥
集計種別 = 合計 | 平均 | 最大 | 最小 | 件数 , ¥
丸め = しない | 四捨五入 | 切り捨て | 切り上げ , ¥
小数桁 = 0 | <整数> , ¥
表番号 = <整数> , ¥
グループ値並べ替え = しない | する , ¥
転置項目名並べ替え = しない | 昇順 | 降順
```

### パラメータ

#### <集計項目名>

集計する項目名を指定します。

#### 集計種別 = 合計 | 平均 | 最大 | 最小 | 件数

集計方法を指定します。

#### 丸め = しない | 四捨五入 | 切り捨て | 切り上げ

小数点以下の値を、丸めるかどうかを指定します。

#### 小数桁 = 0 | <整数>

小数点以下の桁数を 0 ~ 99 の範囲で指定します。「丸め = しない」を指定したときは無効です。

### 表番号 = < 整数 >

開いた表に割り当てる番号を、整数で指定します（計算式）。

指定できる番号は、1 ~ 40 です。すでに開かれている表の表番号を指定してはいけません。このパラメータを省略した場合は、使用されていない表番号の中で、もっとも小さい番号を割り当てます。

### グループ値並べ替え = しない | する

グループ項目の値で、レコードを並べ替えてから集計を行なうかどうかを指定します。

編集対象表が行集計状態のときは、「グループ値並べ替え=しない」にしなければいけません。

### 転置項目名並べ替え = しない | 昇順 | 降順

転置項目の値で、レコードを並べ替えてから集計を行なうかどうかを指定します。

## ノート

- < グループ項目 > の項目値の一部でグループ化する場合は、グループ項目の直後につぎの文字をつけます（<n>、<m>は整数）。

グループ化指定	説明
.文字<n>	文字列の先頭から<n>文字までをグループ化します。 「.文字<n>」は「.CH<n>」と記述してもかまいません。
.単語	先頭の単語が一致するものをグループ化します。 「.単語」は「.WO」と記述してもかまいません。
.区切り文字	指定した区切り文字までの文字列でグループ化します。 たとえば、区切り文字に「都道府県」を指定すると、都、道、府、県のいずれかまでの文字列がグループ化されます。
.( <n> )	<n>の正の整数ごとにグループ化します。 たとえば、<n> に100 を指定すると、0~99、100~199、...といった単位でグループ化されます。
.( <n> , <m> )	項目の値を <n> / <m> 単位でグループ化します。 たとえば <n> と <m> に45と10を指定すると、4.5単位（0~4.499...、4.5~8.999...）でグループ化されます。
.符号	正、ゼロ、負の数のグループにします。 「.符号」は「.SG」と記述してもかまいません。
.元号	元号単位でグループ化します。 「.元号」は「.GN」と記述してもかまいません。
.年度	年度ごとにグループ化します。 「.年度」は「.YP」と記述してもかまいません。
.半期	同じ年度を前期と後期に分けてグループ化します。 「.半期」は「.HA」と記述してもかまいません。
.四半期	同じ年度を四半期に分けてグループ化します。 「.四半期」は「.QU」と記述してもかまいません。
.半日	同じ日を午前と午後に分けてグループ化します。 「.半日」は「.HD」と記述してもかまいません。
.年	年の値でグループ化します。 「.年」は「.YE」と記述してもかまいません。
.月	年と月が一致する値でグループ化します。 「.月」は「.MO」と記述してもかまいません。
.日	年から日までが一致する値でグループ化します。 「.日」は「.DA」と記述してもかまいません。
.時	日時型の場合は、年から時までが一致する値でグループ化します。

- 時間型の場合は、時が一致する値でグループ化します。  
「.時」は「.HO」と記述してもかまいません。
- .分  
日時型の場合は、年から分までが一致する値でグループ化します。  
時間型の場合は、時と分が一致する値でグループ化します。  
「.分」は「.MI」と記述してもかまいません。
- .秒  
日時型の場合は、年から秒までが一致する値でグループ化します。  
時間型の場合は、時から秒までが一致する値でグループ化します。  
「.秒」は「.SE」と記述してもかまいません。
- .日 (<n> , <m> )  
時間型の値を日数に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 12 と 10 を指定すると、1.2 日単位 ( 0 ~ 1.199 ...、1.2 ~ 2.399 ... ) でグループ化されます。  
「日 (<n> , <m> )」は「.DC (<n> , <m> )」と記述してもかまいません。
- .時 (<n> , <m> )  
時間型の値を時間に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 15 と 10 を指定すると、1.5 時間単位 ( 0 ~ 1.499 ...、1.5 ~ 2.999 ... ) でグループ化されます。  
「時 (<n> , <m> )」は「.HC (<n> , <m> )」と記述してもかまいません。
- .分 (<n> , <m> )  
時間型の値を分に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 10 と 4 を指定すると、2.5 分単位 ( 0 ~ 2.499 ...、2.5 ~ 4.999 ... ) でグループ化されます。  
「分 (<n> , <m> )」は「.MC (<n> , <m> )」と記述してもかまいません。
- .秒 (<n> , <m> )  
時間型の値を秒に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 1 と 4 を指定すると、0.25 秒単位 ( 0 ~ 0.249、0.25 ~ 0.4999 ... ) でグループ化されます。  
「秒 (<n> , <m> )」は「.SC (<n> , <m> )」と記述してもかまいません。

## 転置集計 条件名

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 転置集計条件を使用して編集対象表を転置集計し、集計結果から表を新規作成します。
- このコマンドで新規作成した表を参照する場合は、表番号を使用してください。表ファイル名では、参照できません。

### 記述例

- 転置集計条件「売上集計」を使用して転置集計し、表番号 10 に新規作成した表を開きます。  
転置集計 条件名 = "売上集計", 表番号 = 10

### 構文

転置集計 ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
表番号 = <整数>

### パラメータ

#### 条件名 = <文字列>

使用する条件名を指定します（計算式）。  
登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

#### 表番号 = <整数>

開いた表に割り当てる番号を、整数で指定します（計算式）。  
指定できる番号は、1 ~ 40 です。すでに開かれている表の表番号を指定してはいけません。  
このパラメータを省略した場合は、使用されていない表番号の中で、もっとも小さい番号を割り当てます。

## 転置集計条件削除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 指定した転置集計条件を削除します。

### 記述例

- 転置集計条件を3個削除します。  
転置集計条件削除 "月日別集計", "年月日別集計", "転置集計01"

### 構文

転置集計条件削除 <条件名>, ... | \*

### パラメータ

<条件名>, ... | \*

削除する条件の名前を指定します(計算式)。

複数の条件を削除する場合は、条件名を半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、すべての条件を削除します。

登録されていない条件を指定するとエラーになります。

## 転置集計条件登録

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 転置集計する条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- <グループ項目名>には縦の集計条件となる項目を、<転置項目名>には横の集計条件となる項目を指定します。
- 複数の項目を縦の集計条件にする場合は、項目名を半角または全角のコンマで区切って指定します。最大10個の項目を指定できます。
- 転置集計条件の数が、50個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- 編集対象表の転置集計条件をすべて削除します。  
転置集計条件削除 \*

### 構文

転置集計条件登録 ¥  
条件名 = <文字列> , ¥  
{ <グループ項目名> , ... } , ¥  
<転置項目名> , ¥  
<集計項目名> , ¥  
集計種別 = 合計 | 平均 | 最大 | 最小 | 件数 , ¥  
丸め = しない | 四捨五入 | 切り捨て | 切り上げ , ¥  
小数桁 = 0 | <整数> , ¥  
グループ値並べ替え = しない | する , ¥  
転置項目名並べ替え = しない | 昇順 | 降順

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

**<集計項目名>**

集計する項目名を指定します。

**集計種別 = 合計 | 平均 | 最大 | 最小 | 件数**

集計方法を指定します。

**丸め = しない | 四捨五入 | 切り捨て | 切り上げ**

小数点以下の値を、丸めるかどうかを指定します。

**小数桁 = 0 | <整数>**

小数点以下の桁数を0～99の範囲で指定します。「丸め = しない」を指定したときは無効です。

### グループ値並べ替え = しない | する

グループ項目の値で、レコードを並べ替えてから集計を行なうかどうかを指定します。

編集対象表が行集計状態のときは、「グループ値並べ替え = しない」にしなければいけません。

### 転置項目名並べ替え = しない | 昇順 | 降順

転置項目の値で、レコードを並べ替えてから集計を行なうかどうかを指定します。

## ノート

- <グループ項目>の項目値の一部でグループ化する場合は、グループ項目の直後につぎの文字をつけます (<n>、<m>は整数)。

グループ化指定	説明
.文字<n>	文字列の先頭から <n>文字までの、一致するものをグループ化します。 「.文字<n>」は「.CH<n>」と記述してもかまいません。
.単語	先頭の単語が一致するものをグループ化します。 「.単語」は「.WO」と記述してもかまいません。
.区切り文字	指定した区切り文字までの文字列でグループ化します。 たとえば、区切り文字に「都道府県」を指定すると、都、道、府、県のいずれかまでの文字列がグループ化されます。
.( <n> )	<n>の正の整数ごとにグループ化します。 たとえば、<n> に100 を指定すると、0~99、100~199、...といった単位でグループ化されます。
.( <n> , <m> )	項目の値を <n> / <m> 単位でグループ化します。 たとえば <n> と <m> に 45 と 10 を指定すると、4.5 単位 ( 0 ~ 4.499 ..., 4.5 ~ 8.999 ... ) でグループ化されます。
.符号	正、ゼロ、負の数のグループにします。 「.符号」は「.SG」と記述してもかまいません。
.元号	元号単位でグループ化します。 「.元号」は「.GN」と記述してもかまいません。
.年度	年度ごとにグループ化します。 「.年度」は「.YP」と記述してもかまいません。
.半年	同じ年度を前期と後期に分けてグループ化します。 「.半年」は「.HA」と記述してもかまいません。
.四半期	同じ年度を四半期に分けてグループ化します。 「.四半期」は「.QU」と記述してもかまいません。
.半日	同じ日を午前と午後に分けてグループ化します。 「.半日」は「.HD」と記述してもかまいません。
.年	年の値でグループ化します。 「.年」は「.YE」と記述してもかまいません。
.月	年と月が一致する値でグループ化します。 「.月」は「.MO」と記述してもかまいません。
.日	年から日までが一致する値でグループ化します。 「.日」は「.DA」と記述してもかまいません。
.時	日時型の場合は、年から時までが一致する値でグループ化します。 時間型の場合は、時が一致する値でグループ化します。 「.時」は「.HO」と記述してもかまいません。
.分	日時型の場合は、年から分までが一致する値でグループ化します。 時間型の場合は、時と分が一致する値でグループ化します。 「.分」は「.MI」と記述してもかまいません。
.秒	日時型の場合は、年から秒までが一致する値でグループ化します。

- 時間型の場合は、時から秒までが一致する値でグループ化します。  
「.秒」は「.SE」と記述してもかまいません。
- .日(<n>,<m>) 時間型の値を日数に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 12 と 10 を指定すると、1.2 日単位 ( 0 ~ 1.199 ..., 1.2 ~ 2.399 ... ) でグループ化されます。  
「日(<n>,<m>)」は「.DC(<n>,<m>)」と記述してもかまいません。
- .時(<n>,<m>) 時間型の値を時間に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 15 と 10 を指定すると、1.5 時間単位 ( 0 ~ 1.499 ..., 1.5 ~ 2.999 ... ) でグループ化されます。  
「時(<n>,<m>)」は「.HC(<n>,<m>)」と記述してもかまいません。
- .分(<n>,<m>) 時間型の値を分に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 10 と 4 を指定すると、2.5 分単位 ( 0 ~ 2.499 ..., 2.5 ~ 4.999 ... ) でグループ化されます。  
「分(<n>,<m>)」は「.MC(<n>,<m>)」と記述してもかまいません。
- .秒(<n>,<m>) 時間型の値を秒に換算して、<n> / <m> 単位でグループ化します。  
たとえば、<n> と <m> に 1 と 4 を指定すると、0.25 秒単位 ( 0 ~ 0.249, 0.25 ~ 0.4999 ... ) でグループ化されます。  
「秒(<n>,<m>)」は「.SC(<n>,<m>)」と記述してもかまいません。

# トランザクション

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- トランザクションは、一連の更新操作をひとつの処理単位としてまとめるときに使用します。すべての操作が成功したかどうかに応じて、更新結果を表に反映させることができます。
- たとえば、トランザクションを使用して商品台帳と売上台帳を更新すると、両方の更新が成功したときだけ、更新結果を表に反映させることができます。一方の表の操作が失敗した場合は、すべての更新結果を破棄して終了できます。
- これにより、存在しない商品の売り上げが発生したり、売り上げは発生しているのに得意先台帳には記帳されていないといったトラブルを防ぐことができます。
- トランザクション中は、更新したデータの一貫性が保証されます。たとえば、一連の更新操作を行なっている最中は、他のユーザから値を変更される心配がありません。
- トランザクションの開始と終了は、「トランザクション 開始」と「トランザクション コミット」で指定します。
- トランザクション中に更新が失敗した場合は、「トランザクション ロールバック」を実行させるようにします。これにより、「トランザクション 開始」以降に行なった更新結果を、すべて破棄して終了することができます。
- つぎの状態になると、トランザクションが強制的にコミットされます。
  - 表を専有モードで開いた。
  - 回復不可能なエラーが発生した。
  - 表を閉じた。
  - 保存継続を行なった。
  - 結合表または外部データベースを再抽出した。
- トランザクションを開始する前に「コミット」または「ロールバック」を指定すると、エラーになります。

## 構文

トランザクション 開始 | コミット | ロールバック

# トレース

イベントでの使用

可能

## 説明

- 「開始」を指定すると、実行中のコマンドの内容をステータスバーに表示します。
- 「停止」または「終了」を指定すると、コマンドの内容を非表示にします。

## 構文

トレース 開始 | 停止 | 終了

## トレース 確認

イベントでの使用

可能

### 説明

- コマンドを、メッセージボックスで確認しながら実行します。
- 「行」を指定すると1行ごとに、「名札」を指定すると名札が変わるごとにメッセージボックスを出します。
- 「名札 <名札名> , ...」を指定すると、<名札名> で指定した名札に制御が移ったときにメッセージボックスを出します。
- このメッセージボックスに配置されているボタンをクリックしたときの動作は、つぎのとおりです。

ボタン名	説明
[はい]	表示されているコマンドを実行します。
[いいえ]	一括処理を終了します。
[キャンセル]	トレースを停止して、一括処理を継続します。

### 構文

トレース 確認 行 | 名札 | 名札 <名札名> , ...

# トレース出力

イベントでの使用

可能

## 説明

- トレース出力ウィンドウに、<計算式>の結果を文字列に変換して出力します。
- このコマンドは、イベントハンドラのデバッグ用として使用します。
- トレースウィンドウを使用するには、あらかじめ環境設定の[一括]タブを選択し、[高度な設定]ボタンをONにしておかなければいけません。
- トレース出力ウィンドウを表示していない場合または[トレース出力]をONにしていない場合は、なにもしません。

## 構文

トレース出力 <計算式> | \_<計算式> , ...

## パラメータ

<計算式> | \_<計算式> , ...

トレース出力ウィンドウに出力する値または式を指定します。

<計算式>の前に \_ をつけると、計算元となった式も一緒に表示します。

## 名札 <名札名>

イベントでの使用

可能

### 説明

- [分岐]コマンドのジャンプ先として使用する名札の名前を定義します（文字列定数）。このコマンド自身はなにもしません。
- 名札名には、つぎの規則に従った名前をつけます。
- 名札名の長さは、全角と半角に関係なく 64 文字までです。
- 名札名は、全角と半角、大文字と小文字を区別します。
- 名札名の先頭に数字をつけてはいけません。
- 名札名の中に、空白文字を含めてはいけません。
- また、JIS2D21 ~ 2D7F までの文字と、つぎの記号を含めてはいけません。

,.:;?!'"^`\_! / ( ) [ ] { } + - \* / = < > ¥ \$ % # & \* @

,. . : ; ? ! ' " ^ | / ~ ( ) [ ] { }

+ - ± × ÷ = < > ¥ \$ % # & \* @

- <名札名>に、つぎの名前を指定してはいけません。
  - コマンドと同じ名前。
  - ほかの名札と同じ名前。
  - [手続き定義開始]コマンドで定義した手続きと同じ名前。
- このコマンドでパラメータなしの手続きを定義する場合は、[手続き終了]コマンドで終了位置を指定してください。
- 手続き定義内で定義した名札は、その手続き内でのみ有効です。手続きの外から参照することはできません。

### 構文

名札 <名札名>

## < 名札名 > :

イベントでの使用

可能

### 説明

- [名札]コマンドの別表記です。
- 「:」のうしろにコマンドを記述して、実行させることができます。
- このコマンドでパラメータなしの手続きを定義する場合は、[手続き終了]コマンドで終了位置を指定してください。
- 手続き定義内で定義した名札は、その手続き内でのみ有効です。手続きの外から参照することはできません。

### 構文

< 名札名 > :

## 並べ替え

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 編集対象表のレコードを指定した項目の整列順で並べ替えます。

### 構文

並べ替え { <項目名> 昇順 | 降順 | 辞書順 | 辞書逆順 , ... }

### パラメータ

{ <項目名> 昇順 | 降順 | 辞書順 | 辞書逆順 , ... }

つぎのパラメータを指定します。

パラメータ	説明
<項目名>	並べ替えで使用する項目を指定します。 複数の項目を使用する場合は、優先順位の高いものから指定します。 ふたつの項目名は、半角または全角のコンマで区切ります。
昇順	値の小さいものから並べ替える場合に指定します。 文字列型の項目でこの整列順を指定すると、JIS コードの小さいものから並べ替えます。 この整列順は、被ふりがな項目が設定されていない項目で、整列順を省略したときの初期値です。 旧バージョンの「文字符号順」は、この整列順に読み替えます。
降順	値の大きなものから並べ替える場合に指定します。 文字列型の項目でこの整列順を指定すると、JIS コードの大きなものから並べ替えます。 旧バージョンの「文字符号逆順」は、この整列順に読み替えます。
辞書順	五十音で並べ替えるときに指定します。 文字列型の項目でのみ有効です。 被ふりがな項目が設定された項目で整列方法を省略すると、この順で並べ替えます。
辞書逆順	五十音の逆から並べ替えるときに指定します。 文字列型の項目でのみ有効です。

## 並べ替え 索引名

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 編集対象表に定義されている索引を使用して、レコードを並べ替えます。
- 専有または参照で開いている表で基本状態または整列状態のときに実行した場合は、表が整列状態になります。

### 構文

並べ替え 索引名 = <文字列>

### パラメータ

索引名 = <文字列>

使用する索引の名前を指定します (計算式)。

## 並べ替え 条件名

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 登録済みの並べ替え条件を使用して、編集対象表のレコードを並べ替えます。

### 記述例

- 並べ替え条件「会社のよみ順」を使用して、レコードを並べ替えます。  
並べ替え 条件名 = "会社のよみ順"

### 構文

並べ替え 条件名 = <文字列>

### パラメータ

**条件名** = <文字列>

使用する条件名を指定します（計算式）。

登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

## 並べ替え条件削除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 指定した並べ替え条件を、編集対象表から削除します。
- 表示条件に設定した [ 開始時に使用する並べ替え条件 ] が削除する条件であっても、削除されませんので注意してください。

### 記述例

- 条件の名前を指定して、並べ替え条件を削除します。  
並べ替え条件削除 "氏名のよみ順"
- 編集対象表の並べ替え条件をすべて削除します。  
並べ替え条件削除 \*

### 構文

並べ替え条件削除 <条件名> , ... | \*

### パラメータ

<条件名> , ... | \*

削除する条件の名前を指定します ( 計算式 )。

複数の条件を削除する場合は、条件名を半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、すべての条件を削除します。

登録されていない条件を指定するとエラーになります。

# 並べ替え条件登録

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 並べ替え条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 並べ替え条件の数が、50 個を超える場合はエラーになります。

## 構文

```
並べ替え条件登録 ¥  
条件名 = <文字列> , ¥  
{ <項目名> 昇順 | 降順 | 辞書順 | 辞書逆順 , ... }
```

## パラメータ

**条件名 = <文字列>**

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

**{ <項目名> 昇順 | 降順 | 辞書順 | 辞書逆順 , ... }**

つぎのパラメータを指定します。

パラメータ	説明
-------	----

<項目名>

並べ替えまたは索引で使用する項目を指定します。  
複数の項目を使用する場合は、優先順位の高いものから指定します。  
ふたつの項目名は、半角または全角のコンマで区切ります。

昇順

値の小さいものから並べ替える場合に指定します。  
文字列型の項目でこの整列順を指定すると、JIS コードの小さいものから並べ替えます。  
この整列順は、被ふりがな項目が設定されていない項目で、整列順を省略したときの初期値です。

降順

旧バージョンの「文字符号順」は、この整列順に読み替えます。  
値の大きなものから並べ替える場合に指定します。  
文字列型の項目でこの整列順を指定すると、JIS コードの大きなものから並べ替えます。

辞書順

旧バージョンの「文字符号逆順」は、この整列順に読み替えます。  
五十音で並べ替えるときに指定します。  
文字列型の項目でのみ有効です。  
被ふりがな項目が設定された項目で整列方法を省略すると、この順で並べ替えます。

辞書逆順

五十音の逆から並べ替えるときに指定します。  
文字列型の項目でのみ有効です。

## 並べ替え条件登録 索引名

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 索引を使用する並べ替え条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい定義で上書きします。
- 並べ替え条件の数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 構文

並べ替え条件登録 ¥  
条件名 = <文字列> , ¥  
索引名 = <文字列>

### パラメータ

**条件名** = <文字列>

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

**索引名** = <文字列>

使用する索引の名前を指定します（計算式）。

# 表

## イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- すべての表と結合表の更新結果を保存して閉じます。一括処理を実行する前に開いていた表も閉じられます。
- データパスは、環境設定で設定したデータファイルに変わります。
- 指定した表だけを閉じる場合は、[終了表]コマンドを使用してください。
- 実表を更新しない結合表に<保存表名>を指定していなければ、表そのものが破棄されます。また、[転置集計]コマンドで作成した表は無条件で破棄されます。
- このコマンドは、表を開いていないときに実行しても、エラーにはなりません。

### 構文

表

## 表 <表ファイル名>

イベントでの使用

フォームの編集対象表は不可。

### 説明

- 指定した表を開きます。
- 表とフォームのウィンドウを 40 個開いているとき、または表を 40 個開いているときは、実行できません。
- イベントハンドラ内で開いた表は、フォームを閉じた時点で一緒に閉じます。ただし、その表のウィンドウがある場合は、開いたままになります。
- 再び開くことになる場合は、表を開かずに指定した表を編集対象表にします。ただし、異なる表番号を指定して実行した場合、あるいはつぎのパラメータを指定している場合は、同じ表であってもエラーになります。

索引 =

使用フォーム =

- 同じ表を複数、開く場合は、[多重化]コマンドを使用してください。

### 記述例

- 表番号 1 に「Jusho.tbl」を開き、索引を使用してレコードを並べ替えます。  
表 "Jusho.tbl", 表番号=1, 索引="よみ順", 終了状態=&OK
- 「Jusho.tbl」を開くときに、フォーム編集で使用するフォームを設定します。  
表 "Jusho.tbl", 使用フォーム="Jusho.wfm", 終了状態=&OK
- 表を共有更新できる状態で開きます。この表が共有違反で開けなかった場合は、&OK に -1 が代入されます。  
表 "Jusho.tbl", モード = 共有更新, リトライ = しない, 終了状態 = &OK

### 構文

表 <表ファイル名>, ¥  
表番号 = <整数>, ¥  
モード = 専有 | 共有更新 | 共有参照 | 参照, ¥  
リトライ = する | しない, ¥  
索引名 = <文字列>, ¥  
使用フォーム = <ファイル名>, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### <表ファイル名>

表のファイル名を指定します (計算式)。

拡張子の「.tbl」は、省略してもかまいません。

現在のデータベース上に存在しない表を指定する場合は、表ファイル名をフルパスで指定します。

#### 表番号 = <整数>

開いた表に割り当てる番号を、整数で指定します (計算式)。

指定できる番号は、1 ~ 40 です。すでに開かれている表の表番号を指定してはいけません。このパラメータを省略した場合は、使用されていない表番号の中で、もっとも小さい番号を割り当てます。

#### モード = 専有 | 共有更新 | 共有参照 | 参照

表を開くときの共有モードを指定します。処理条件を保存する場合は「モード = 専有」で開いてください。

指定値	説明
専有	ほかの利用者に、表を開かせません。
共有更新	ほかの利用者と一緒に表を更新します。
共有参照	ほかの利用者が更新する表を参照します。
参照	自身を含むすべての利用者が、表を更新しません。

#### リトライ = する | しない

表を開くことができなかったときの処理を指定します。

指定値	説明
する	再試行するかどうかを選択するメッセージボックスを出して、利用者の確認を待ちます。 メッセージボックスの[キャンセル]ボタンをクリックして終了したときは、「終了状態 = 」で指定した変数に 0 が代入されます。
しない	再試行せずに、つぎのコマンドに移ります。 「終了状態 = 」で指定した変数には、共有違反であれば -1、共有以外のエラーであれば 0 が代入されます。

#### 索引名 = <文字列>

このパラメータは、表を開くと同時に、索引を使用した並べ替えを行なう場合に指定します。

#### 使用フォーム = <ファイル名>

開いた表を編集するとき使用する、フォームのファイル名を指定します（計算式）。このパラメータは、このコマンドで開く表に対して、使用フォームを設定する場合に指定します。

イベントハンドラで使用する場合は、このパラメータを指定してはいけません。フォームの拡張子は「.wfm」または「.frm」です。拡張子を省略した場合は、環境設定の[一括]タブ [高度な設定]で指定した拡張子を付加します。現在のデータベース上に存在しないフォームを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

グループ化を行なうフォームを指定すると、開いた表がグループ選択状態になります。参照表が設定されていないフォームを指定してはいけません。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	表を開いた。
0	共有違反以外のエラーが発生したため、表を開くことができなかった。
-1	共有違反で表を開くことができない（「リトライ = しない」を指定した場合のみ）
-2	他の利用者が置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）

## 表形式編集

イベントでの使用

x 不可

### 説明

- 編集対象表を表形式で編集します。
- 編集対象表のウィンドウが表示されていないときは、表ウィンドウを新規作成します。編集対象表のフォームウィンドウが表示されているときは、そのウィンドウを閉じてから、表ウィンドウを新規作成します。

### 記述例

- 表の編集を開始するときに、ウィンドウを上下に整列します。  
表形式編集 レイアウト = 上下, 終了状態 = &OK

### 構文

表形式編集 ¥

更新 = 許可 | 禁止, ¥

許可作業 = \* | なし | <作業名> + ..., ¥

初期項目 = <項目名> | <項目番号>, ¥

項目番号 = <変数名>, ¥

ガイド = <文字列>, ¥

レイアウト = 重ねる | 上下 | 左右 |, ¥

カーソル = | | |, ¥

画面消去 = しない | する, ¥

終了状態 = <変数名>

### パラメータ

**更新 = 許可 | 禁止**

ウィンドウ上で編集するとき、レコードを更新できるようにするかどうかを指定します。  
このパラメータは「許可作業=」より優先します。

「更新=禁止, 許可作業=なし」を指定すると、[Enter] キーと [Esc] キーでもコマンドが終了します

(オブジェクトをマウスクリックしただけでは終了しません)。

**許可作業 = \* | なし | <作業名> + ...**

すべての作業を許可する場合は「許可作業= \*」を指定します。表の再定義、項目名の変更、項目属性の自動設定、変数管理は、「許可作業= \*」を指定した場合に限り使用できます。

レコード移動用にウィンドウを使用する場合は、「許可作業=なし」を指定します。

特定の機能だけを使用する場合は、許可する作業名を指定します(定数)。指定した作業名に属さないメニュー項目は、使用できなくなります。複数の作業を許可するには、つぎの作業名を + でつなげます。

作業名	説明
-----	----

編集表	新規作成、開く、外部データベースに接続のみ許可。
-----	--------------------------

印刷	一覧表印刷と編集表を使用したレポート印刷、処理条件の印刷、プリンタの変更のみ。
----	---

書き出し	
------	--

併合	許可する併合処理に応じて、行挿入、行訂正、行削除、絞り込みの作業名も指定してください。
表整理	
再抽出	
元に戻す	編集中の訂正は、この作業名の指定に関わらず、つねに許可。
使用フォーム	表編集、フォーム編集、フォームの選択、フォームの解除を含む。
行挿入	行挿入、行追加、行複写、読み込み、グループ追加を含む。
行訂正	項目訂正、行移動、置換、グループ値訂正、値複写を含む。
行削除	グループ削除。
行復活	削除行の表示と非表示の切り替えを含む。
絞り込み	
並べ替え	索引定義は含まない。
索引	索引定義のみ。
行集計	転置集計を含まない。項目集計は、この作業名の指定に関わらず、つねに許可。
転置集計	
解除	全解除、グループ解除を含む。
ロック	レコードロック、レコードロック全解除のみ。
表示幅	列の非表示、列固定、列固定解除、表の表示条件、項目の表示条件、表示条件の読み込み、表示条件の保存を含む。
多重化	編集対象表の多重化のみ許可。

つぎのメニュー項目は、つねに使用できます。

- 一括処理に戻る
- 閉じる（一括処理に戻ると同じ）
- コピー
- 検索、ジャンプ
- ステータスバー、ツールバー
- 拡張編集、項目の一覧
- 空白文字
- ズームイン、ズームアウト
- 定義倍率で表示
- 表示倍率の設定
- フォームのサイズに調整
- 最新の情報に更新
- 高速表示、状態表示
- 環境設定、拡張編集
- カスタマイズ

#### 初期項目 = <項目名> | <項目番号>

表のどの項目に、フォーカスするかを指定します。

ウィンドウ作成時のフォーカス位置は、表の先頭項目または一番後ろのオブジェクトです。

つぎの値が指定できます。

種類	説明
<項目名>	表の項目名を指定します。名前の前後に [ ] をつけます。 文字列型の変数で指定する場合は、[ ] をつけずに指定します。
<項目番号>	表定義時の、先頭項目から数えた項目番号を指定します。

#### 項目番号 = <変数名>

会話形式編集を終了したとき、セルカーソルがどの項目にあったかを取得する場合に使用します。

<変数名> には、項目番号を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

**ガイド = <文字列>**

ステータスバーに表示する文字列を指定します（計算式）。

**レイアウト = 重ねる | 上下 | 左右 |**

表とフォームのウィンドウを整列する場合に指定します。ウィンドウを整列しない場合は、このパラメータを省略します。

**カーソル = | | |**

[Enter] キーを押したときの移動方向を指定します。省略すると、前回の移動方向を引き継ぎます。

**画面消去 = しない | する**

このコマンドが終了したときに、フォームウィンドウを閉じるかどうかを指定します。  
[一括処理実行] ウィンドウに表示されている内容は消去されません。

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	会話処理が [表示] メニューまたはコマンドボタンの [一括処理に戻る]、ウィンドウタイトルバーの [×] ボタン、[Enter] キーなどで終了した。
0	会話処理が [Esc] キーで終了した。

[Enter] キーと [Esc] キーで終了できるのは、「更新=禁止」または「許可作業=なし」を指定して実行したときだけです。

**ノート**

- 「許可作業=システム」は、対応する機能がないため、無視されます。

## 表作成

イベントでの使用	可能
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 表定義情報を保存した K3 フォーマットファイル名を使用して、表を新規作成した後、その表を編集対象表にします。
- <表ファイル名> に指定した表がディスク上に存在する場合は、上書きします。
- 表とフォームのウィンドウを 40 個開いているとき、または表を 40 個開いているときは、実行できません。

### 記述例

- 表定義情報が保存されている「Jusho.k3」を使用して表を新規作成し、作成した表に「Parsonal.k3」のデータを読み込みます。  
表作成 "Work.tbl", 定義ファイル = "Jusho.k3", ¥  
データファイル = "Parsonal.k3", 終了状態 = &OK

### 構文

表作成 ¥  
    <表ファイル名>, ¥  
    定義ファイル = <K3 フォーマット ファイル名>, ¥  
    データファイル = <K3 フォーマット ファイル名>, ¥  
    表番号 = <整数>, ¥  
    モード = 専有 | 共有更新 | 共有参照 | 参照, ¥  
    使用フォーム = <ファイル名>, ¥  
    終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### <表ファイル名>

表のファイル名を指定します（計算式）。  
拡張子の「.tbl」は、省略してもかまいません。  
現在のデータパス上に存在しない表を指定する場合は、表ファイル名をフルパスで指定します。

#### 定義ファイル = <K3 フォーマット ファイル名>

表定義情報が保存されている K3 フォーマット ファイル名を指定します（計算式）。  
拡張子は「.k3」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子のうしろに「.k3」を付加します。  
ここで指定する K3 フォーマットファイルは、表定義画面の [ファイル] メニューの [書き出し] で書き出したもの、または [書き出し定義] コマンドで書き出したものです。  
旧バージョンの表定義情報ファイルは、指定できません。

#### データファイル = <K3 フォーマット ファイル名>

データが保存されている K3 フォーマット ファイル名を指定します（計算式）。

拡張子は「.k3」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子のうしろに「.k3」を付加します。

**表番号 = < 整数 >**

開いた表に割り当てる番号を、整数で指定します（計算式）。

指定できる番号は、1 ~ 40 です。すでに開かれている表の表番号を指定してはいけません。このパラメータを省略した場合は、使用されていない表番号の中で、もっとも小さい番号を割り当てます。

**モード = 専有 | 共有更新 | 共有参照 | 参照**

表を開くときの共有モードを指定します。処理条件を保存する場合は「モード = 専有」で開いてください。

指定値	説明
専有	ほかの利用者に、表を開かせません。
共有更新	ほかの利用者と一緒に表を更新します。
共有参照	ほかの利用者が更新する表を参照します。
参照	自身を含むすべての利用者が、表を更新しません。

**使用フォーム = < ファイル名 >**

開いた表を編集するときに使用する、フォームのファイル名を指定します（計算式）。

このパラメータは、このコマンドで開く表に対して、使用フォームを設定する場合に指定します。

イベントハンドラで使用する場合は、このパラメータを指定してはいけません。

フォームの拡張子は「.wfm」または「.frm」です。拡張子を省略した場合は、環境設定の[一括]タブ [高度な設定]で指定した拡張子を付加します。

現在のデータベース上に存在しないフォームを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

グループ化を行なうフォームを指定すると、開いた表がグループ選択状態になります。

参照表が設定されていないフォームを指定してはいけません。

**終了状態 = < 変数名 >**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	表を開いた。
0	共有違反以外のエラーが発生したため、表を開くことができなかった。
-1	共有違反で表を開くことができない（「リトライ = しない」を指定した場合のみ）。
-2	他の利用者が置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。

## 表示位置 取得

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

### 説明

- 新規作成するウィンドウの、左上隅の位置とサイズの規定値を取得します。
- 取得した位置とサイズの単位は dot です。
- 「位置 = 」と「サイズ = 」の一方だけを指定してもかまいません。

### 構文

```
表示位置 取得, ¥  
    位置 = ( <x>, <y> ), ¥  
    サイズ = ( <幅>, <高さ> )
```

### パラメータ

**位置** = ( <x>, <y> )

<x>と<y>に、表示位置を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

取得した座標の単位は dot です。

表ウィンドウとチャイルド フォームは、作業領域（ 桐クライアントウィンドウ ）の左上隅を ( 0, 0 ) とします。

ポップアップ、モーダル、オーバーラップのフォームは、デスクトップの左上隅を ( 0, 0 ) とします。

**サイズ** = ( <幅>, <高さ> )

<幅>と<高さ>に、取得したサイズを代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

取得したサイズの単位は dot です。

取得したサイズには、ウィンドウの枠とタイトルバーを含みます。

### ノート

- 一括処理を実行した直後の既定値は、80桁× 25行です。桁と行の幅と高さは、一括処理ファイルのファイル属性で設定したフォントサイズをもとに計算されます。
- [一括処理実行]ウィンドウを使用している場合、表とフォームのウィンドウが、[一括処理実行]ウィンドウ内の 2行目から 22行目に表示されるように調整されます。

## 表示位置 設定

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

### 説明

- 新規作成するウィンドウの、左上隅の位置とサイズの規定値を、dot 単位の数値で設定します。
- 「位置=」と「サイズ=」の一方だけを指定してもかまいません。
- 「位置=」だけを指定した場合は、ウィンドウの位置だけを移動します。
- 「サイズ=」だけを指定した場合は、ウィンドウのサイズだけを変更します。

### 記述例

- 表示位置の既定値を取得して、その位置に 25 ピクセル加えた位置を、新しい既定値にします。  
表示位置 取得, 位置 = ( &横位置, &縦位置 )  
表示位置 設定, 位置 = ( &横位置 + 25, &縦位置 + 25 )

### 構文

表示位置 設定, ¥  
位置 = ( <x>, <y> ), ¥  
サイズ = ( <幅>, <高さ> )

### パラメータ

**位置** = ( <x>, <y> )

ウィンドウの左上隅の位置を、dot 単位の数値で指定します ( 計算式 )。

表ウィンドウとチャイルド フォームは、作業領域 ( 桐クライアントウィンドウ ) の左上隅を ( 0, 0 ) とします。

ポップアップ、モーダル、オーバーラップのフォームは、デスクトップの左上隅を ( 0, 0 ) とします。

**サイズ** = ( <幅>, <高さ> )

ウィンドウのサイズを、dot 単位の数値で指定します ( 計算式 )。

指定するサイズには、ウィンドウの枠とタイトルバーを含めます。

### ノート

- 一括処理を実行した直後の既定値は、80 桁 × 25 行です。桁と行の大きさは、一括処理ファイルのファイル属性で設定したフォントサイズをもとに計算します。
- [一括処理実行]ウィンドウを使用している場合は、表とフォームのウィンドウが、[一括処理実行]ウィンドウ内の 2 行目から 22 行目に表示されるように調整されます ( [一括処理実行]ウィンドウがうしろに見えるようにするため )。また、このときの表とフォームの幅は、82 桁になります。

## 表示位置 同期

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

### 説明

- カレント ウィンドウの位置とサイズを、新規作成するウィンドウの位置とサイズの既定値に設定します。

### 記述例

- 表形式編集を終了したときの位置とサイズを、既定値にします。

変数宣言 共通, 整数 { &hWnd }

表 "Jusho.tbl"

ウィンドウ作成 表, ハンドル = &hWnd

ウィンドウ会話 &hWnd

表示位置 同期

### 構文

表示位置 同期

## 表示条件書き出し

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 現在の表示条件を編集対象表に保存します。
- 登録されている名前を指定すると、新しい表示条件として上書きします。
- 表示条件の数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 構文

表示条件書き出し 条件名 = <文字列>

### パラメータ

条件名 = <文字列>

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

## 表示条件削除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 指定した表示条件を編集対象表から削除します。

### 記述例

- 表示条件を 3 個削除します。  
表示条件削除 "基本項目", "家族構成", "その他"
- 表示条件をすべて削除します。  
表示条件削除 \*

### 構文

表示条件削除 <条件名>, ... | \*

### パラメータ

<条件名>, ... | \*

削除する条件の名前を指定します (計算式)。

複数の条件を削除する場合は、条件名を半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、すべての条件を削除します。

登録されていない条件を指定するとエラーになります。

## 表示条件読み込み

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 編集対象表の、現在の表示条件を変更します。

### 構文

表示条件読み込み ¥  
条件名 = <文字列> , ¥  
開始条件 = 有効 | 無効

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

使用する条件名を指定します（計算式）。

登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

**開始条件 = 有効 | 無効**

読み込んだ表示条件の [ 開始時に使用する並べ替え条件 ] の扱いを指定します。

「有効」を指定すると、編集対象表を基本状態に戻した後、この並べ替え条件で並べ替えます。

「無効」を指定すると、並べ替え条件が設定されていても、現在の編集状態のままにします。

## 表示制御

イベントでの使用

x 不可

### 説明

- 一括処理実行時の表示状態を指定します。

### 構文

表示制御 ¥  
空白文字表示 = しない | する, ¥  
亀表示 = しない | する

### パラメータ

#### 空白文字表示 = しない | する

一括処理から新規作成する表ウィンドウとフォームウィンドウに対して、空白文字を表示するモードと、表示しないモードのどちらを既定値にするかを指定します。

この指定に関わらず、[一括処理実行]ウィンドウ上では、空白文字が表示されません。

#### 亀表示 = しない | する

時間のかかる処理を行なっているときに、亀（かめ）を表示するかどうかを指定します。亀は、ステータスバーに表示されます。

### ノート

- ここにはない桐 ver5 のパラメータは廃止しました。

## 表示属性

イベントでの使用

x 不可

### 説明

- [一括処理実行]ウィンドウ内に表示する、テキストの表示色と表示属性の既定値を指定します。
- パラメータを指定せずにコマンド名だけにすると、文字色を「白」、背景色を「黒」にします。
- [一括処理実行]ウィンドウを使用していないときは、エラーになります。

### 構文

表示属性 ¥  
<表示色> , ¥  
下線, 反転

### パラメータ

#### <表示色>

文字の表示色を指定します。省略すると、[表示属性]コマンドで指定した色で表示されます。

指定できる色は、つぎの基本8色だけです。

白 | 黄 | 水 | 緑 | 紫 | 赤 | 青 | 黒

#### 下線, 反転

文字に下線をつけるかどうか、また文字色を反転して表示するかどうかを指定します。

「反転」を指定した場合、背景を文字の色で表示し、文字の色を黒にします。

下線と反転の両方を指定できます。

このパラメータを省略した場合は、[表示属性]コマンドで指定した表示属性で表示されます。

# 表示幅

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 表ウィンドウに表示する項目の表示幅を指定します。
- { <項目名> <表示幅> / <小数桁> ... } には、表示する項目の名前と、表示幅を指定します。
- \* を指定すると、表に定義されているすべての項目を表示します。

## 構文

表示幅 ¥  
{ <項目名> <表示幅> / <小数桁> : する | : しない , ... } | \* | , ¥  
列固定 { <項目名> , ... }

## パラメータ

{ <項目名> <表示幅> / <小数桁> : する | : しない , ... } | \* |

<表示幅> / <小数桁> は、つぎの形式で指定します。指定しない項目は非表示になります。

形式	説明						
<表示幅>	つぎのいずれかの単位で指定します。 <table><thead><tr><th>単位</th><th>補足</th></tr></thead><tbody><tr><td>M &lt;長さ&gt;</td><td>1 / 100 mm 単位の長さを指定します。 100 (1ポイント) より小さい値を指定してはいけません。 省略すると、現在の表示幅を引き継ぎます。 表示幅がゼロの項目は、18 桁で表示します。</td></tr><tr><td>&lt;桁数&gt;</td><td>表示幅を桁数で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[ 表の表示条件 ] の [ データ ] タブで指定したフォントとサイズです。</td></tr></tbody></table>	単位	補足	M <長さ>	1 / 100 mm 単位の長さを指定します。 100 (1ポイント) より小さい値を指定してはいけません。 省略すると、現在の表示幅を引き継ぎます。 表示幅がゼロの項目は、18 桁で表示します。	<桁数>	表示幅を桁数で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[ 表の表示条件 ] の [ データ ] タブで指定したフォントとサイズです。
単位	補足						
M <長さ>	1 / 100 mm 単位の長さを指定します。 100 (1ポイント) より小さい値を指定してはいけません。 省略すると、現在の表示幅を引き継ぎます。 表示幅がゼロの項目は、18 桁で表示します。						
<桁数>	表示幅を桁数で指定します。桁数の基準となるフォントとサイズは、[ 表の表示条件 ] の [ データ ] タブで指定したフォントとサイズです。						
<小数桁>	小数部の桁数を指定します。この値は、項目のデータ型が数値、通貨、実数、日時、時間の場合に限り、指定できます。						
: する   : しない	表示する項目は「: する」、非表示にする項目は「: しない」を指定します。 表示する項目については「: する」を省略してもかまいません。						

列固定 { <項目名> , ... }

列固定する項目を、固定する順に指定します。非表示の項目は、指定しても無視されます。このパラメータを指定しなかった場合は、列固定が解除されます。

## 表整理

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

### 説明

- 編集対象表のすべての削除レコードを取り除き、表のデータと索引、処理条件を整理し直します。
- 「余白割合 = 」には、表整理後、表の中に何パーセント程度の余白を設けておくかを指定します。
- 余白の割合は、多くするほどファイルサイズが大きくなり、少なくするほどファイルサイズが小さくなります。表のファイルサイズをもっとも小さくする場合は、余白割合を 0 にします。ただし、余白の割合を小さくすると、レコードの更新に時間がかかることがあります。
- 表が基本状態でない場合は、実行できません。
- 表を専有以外で開いているときは、実行できません。

### 構文

表整理 余白割合 = 0 | 10 | 20 | 30 | 40 | 50

## 表表示

イベントでの使用

× 不可

### 説明

- 編集対象表の表ウィンドウを最新の情報に更新し、<項目名>の項目にフォーカスを設定します。
- 編集対象表の表ウィンドウが表示されていないときは、そのウィンドウを新規作成します。
- 編集対象表のフォームウィンドウが表示されているときは、そのウィンドウを閉じてから、表ウィンドウを新規作成します。
- <項目名>は、省略してもかまいません。

### 構文

表表示 <項目名>

# ファイル移動

イベントでの使用

可能

## 説明

- ファイルを指定した場所に移動します。または、指定したフォルダの名前を変更します。
- [隠しファイル]属性または[システム]属性が設定されているファイルは移動できません。
- 表や結合表など、すでに開いているファイルは移動できません。このことは、開いている表が使用しているファイルについても同様です。表が使用中のファイルとしては、つぎのものがああります。

バックアップファイル

表引きファイル

作業ファイル

共有管理情報ファイル

## 記述例

- ファイル名を変更して、「OldTbl」フォルダに移動します。  
ファイル移動 "Jusho.tbl", "OldTbl¥ Jusho.org", 終了状態 = &OK
- データパス上のすべてのファイルを、「OldTbl」フォルダに移動します。  
ファイル移動 "\*.\*", "OldTbl", 終了状態 = &OK
- 「Disk1」フォルダを、同じパス上の「Disk2」フォルダに移動します。「Disk2」が存在しなければ、フォルダ名を変更するだけになります。  
ファイル移動 "Disk1", "Disk2", 終了状態 = &OK

## 構文

ファイル移動 ¥  
    <移動元ファイル名>, ¥  
    <移動先ファイル名>, ¥  
    !上書き, ¥  
    終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### <移動元ファイル名>

移動元のファイル名またはフォルダ名を指定します（計算式）。

ファイル名にワイルドカード（\*、?）を含めると、条件にマッチするすべてのファイルが複写されます。

フォルダ名だけを指定すると、そのフォルダ内のファイルとフォルダを<移動先ファイル名>に移動します。

現在のデータパス上に存在しないファイル名を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

### <移動先ファイル名>

移動先のフォルダ名を指定します（計算式）。

移動先がデータパスの場合は、半角のピリオド（.）をひとつ指定します。

<移動元ファイル名> にワイルドカード (\*、?) を含める場合は、移動先のフォルダ名を指定してください。

<移動元ファイル名> と <移動先ファイル名> がともにフォルダ名るとき、<移動先ファイル名> のフォルダが存在しなければ、フォルダ名を <移動先ファイル名> に変更します。

#### | 上書き

移動先に同名のファイルが存在した場合、またはファイル名を変更することになる場合は、<移動元ファイル> で上書きします。

同名のファイルが存在するときに、このパラメータを省略して実行すると、エラーで終了します。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

エラー番号	説明
0	コマンドは正常に終了した。
100	ファイルが書き込み禁止。
102	ファイルが見つからない。
103	ファイル名の形式に誤りがある。
104	使用するファイルが多すぎる。
105	ファイルにアクセスできない。
106	カレントディレクトリは削除できない。
109	ディレクトリにこれ以上ファイルを作成できない。
111	ファイルが他のプログラムで使用されている。
116	同名のファイルがすでに存在する。
119	ディレクトリが空ではない。
175	ファイルが使用中。
その他	どれにも該当しないエラー。

## ファイル管理

イベントでの使用

可能

### 説明

- ファイルを整理するために、ファイル管理用のダイアログボックスを出します。
- このダイアログボックスを出した直後は、現在のデータベース上に保存されているファイル名の一覧が表示されます。
- このダイアログボックスは、[表示位置]コマンドで設定した位置とサイズで表示されます。

### 構文

ファイル管理

### ノート

- 旧バージョンとは異なり、ファイルの一覧を印刷することはできません。

## ファイル更新

コマンドの別名	update
イベントでの使用	可能

### 説明

- 更新日の新しいファイルだけを複写します。
- 複写先フォルダに存在しないファイルも複写されます。
- [隠しファイル]属性または[システム]属性が設定されているファイルは複写できません。
- 読みとり専用の属性が設定されたファイルは、更新できません。

### 記述例

- 新しいファイルだけを「OldTbl」フォルダに複写します。  
ファイル更新 "\*" . "\*" , "OldTbl" , 終了状態 = &OK
- データパス内の新しいファイルだけを、ひとつ上のフォルダに複写します。データパス内のフォルダは複写されません。  
ファイル更新 "." , ".." , 終了状態 = &OK

### 構文

ファイル更新 ¥  
    <複写元ファイル名> , ¥  
    <複写先フォルダ名> , ¥  
    終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### <複写元ファイル名>

複写元のファイル名またはフォルダ名を指定します（計算式）。

ファイル名にワイルドカード（\*、?）を含めると、条件にマッチするすべてのファイルが複写候補になります。現在のデータパス上に存在しないファイル名を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### <複写先フォルダ名>

複写先のフォルダ名を指定します（計算式）。

複写先がデータパスの場合は、半角のピリオド（.）をひとつ指定します。

存在しないフォルダ名を指定した場合、ファイルは複写されません。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

エラー番号	説明
0	コマンドは正常に終了した。
100	ファイルが書き込み禁止。
102	ファイルが見つからない。
103	ファイル名の形式に誤りがある。

104	使用するファイルが多すぎる。
105	ファイルにアクセスできない。
106	カレントディレクトリは削除できない。
109	ディレクトリにこれ以上ファイルを作成できない。
111	ファイルが他のプログラムで使用されている。
116	同名のファイルがすでに存在する。
119	ディレクトリが空ではない。
175	ファイルが使用中。
その他	どれにも該当しないエラー。

# ファイル削除

コマンドの別名	rm
イベントでの使用	可能

## 説明

- 指定したファイルを削除します。
- [隠しファイル]属性、[システム]属性、[読みとり専用]属性のいずれかが設定されているファイルは削除できません。
- 表や結合表など、すでに開いているファイルは削除できません。このことは、開いている表が使用しているファイルについても同様です。表が使用中のファイルとしては、つぎのものがああります。

バックアップファイル

表引きファイル

作業ファイル

共有管理情報ファイル

## 記述例

- Windows フォルダ内の Temp フォルダにある「Work.tbl」を削除します。  
ファイル削除 #GETENV("windir")+"¥Temp¥Work.tbl", 終了状態 = &OK
- ワイルドカードとマッチする、すべてのファイルを削除します。  
ファイル削除 "98??25\*.bak", 終了状態 = &OK

## 構文

ファイル削除 ¥  
<ファイル名>, ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### <ファイル名>

削除するファイルの名前を指定します (計算式)。

現在のデータベースに保存されているファイルを削除する場合は、ファイルの場所を省略できます。

ファイル名にワイルドカード (\*、?) を含めると、条件にマッチするすべてのファイルが削除されます。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

エラー番号	説明
0	コマンドは正常に終了した。
100	ファイルが書き込み禁止。
102	ファイルが見つからない。
103	ファイル名の形式に誤りがある。

104	使用するファイルが多すぎる。
105	ファイルにアクセスできない。
106	カレントディレクトリは削除できない。
109	ディレクトリにこれ以上ファイルを作成できない。
111	ファイルが他のプログラムで使用されている。
116	同名のファイルがすでに存在する。
119	ディレクトリが空ではない。
175	ファイルが使用中。
その他	どれにも該当しないエラー。

# ファイル属性

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 表のファイル属性を設定します。

## 記述例

- 現在の表題の先頭に「個人用：」をつけて、強制改行文字を「 / 」にします。  
ファイル属性 表題文字列 = "個人用：" + #表題, 強制改行文字 = "/"

## 構文

ファイル属性 ¥  
表題文字列 = <文字列>, ¥  
作成者 = <文字列>, ¥  
強制改行文字 = <文字>, ¥  
未定義項目値処理 = 未定義 | ゼロ, ¥  
バックアップ = する | しない

## パラメータ

**表題文字列 = <文字列>**

表題の文字列を 20 文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も 1 文字と数えます。

**作成者 = <文字列>**

作成者の文字列を 10 文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も 1 文字と数えます。

**強制改行文字 = <文字>**

改行文字の代わりに使用する文字を 1 文字指定します（計算式）。

**未定義項目値処理 = 未定義 | ゼロ**

項目値が未定義のときの処理を指定します。

**バックアップ = する | しない**

表のバックアップを取るかどうかを指定します。この指定は、つぎに表を開いたときから有効になります。

## ノート

- 桐 ver5 の [表題設定] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。
- 「罫線表示 =」、「未定義値表示文字列 =」、「編集属性項目 =」は廃止しました。これらの属性は表示条件で設定してください。

# ファイル入力

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

## 説明

- [ファイル入力開始]コマンドで指定したテキストファイルから、指定した範囲のデータを読み込み、変数に代入します。
- このコマンドは、原則的にテキストファイルを対象にしているため、改行文字(0Dh)と区切り文字以外の制御コードがある場合はエラーになります。特に、行の区切りに0Ahを使用しているテキストファイルは、扱うことができません。1Ahは、ファイルの終わりとして扱います。
- 入力開始位置に制御コードがあった場合は、読み飛ばします。

## 構文

ファイル入力 ¥  
<文字列型の変数名> , ¥  
行 | 桁数 = <整数> | 文字数 = <整数> | 区切り = <区切り文字> , ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### <文字列型の変数名>

テキストから読み取ったデータを代入する文字列型の変数名を指定します。  
このパラメータを省略した場合は、指定した範囲までのデータを空読みし、入力位置を移動します。

### 行 | 桁数 = <整数> | 文字数 = <整数> | 区切り = <区切り文字>

テキストの読み込み単位を指定します。

読み込み単位	説明
--------	----

行	現在の入力位置から行末(0Dhの直前)までのデータを、変数に代入します。
---	--------------------------------------

桁数 = <整数>	現在の入力位置から、バイト数で指定した範囲のデータを、変数に代入します。
-----------	--------------------------------------

指定できるバイト数は、1 ~ 4000 までです。

ただし、2000 文字を超えるデータは代入できません。

文字数 = <文字数>	現在の入力位置から、文字数で指定した範囲のデータを、変数に代入します。
-------------	-------------------------------------

全角も半角も1文字として数えます。

指定できる文字数は、1 ~ 2000 までです。

### 区切り = <区切り文字>

現在の入力位置から、区切り文字までのデータを、変数に代入します。

区切り文字に指定できるのは、1文字だけです。

タブなどを指定する場合は、16進数の文字列で指定します(タブ=09、改行コード=13)。

区切り文字に、二重引用符を指定することはできません。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	テキストの読み込みに成功した。
0	テキスト読み込み時にエラーが発生した。
-1	すべてのデータを読み終えた (EOF)。

# ファイル入力開始

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

## 説明

- [ファイル入力]コマンドで読み込むテキストファイルを開きます。

## 構文

```
ファイル入力開始 ¥  
    <テキストファイル名> , ¥  
    終了状態 = <変数名>
```

## パラメータ

### <テキストファイル名>

テキストファイルのファイル名を指定します（計算式）。  
ファイルの拡張子は、省略できません。

現在のデータパス上に存在しないファイル名を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	テキストを開いた。
0	共有違反以外のエラーが発生したため、ファイルを開くことができなかった。
-1	他のプロセスがファイルを専有しているため、開くことができなかった。

# ファイル入力終了

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

## 説明

- [ファイル入力開始]コマンドで開いたテキストファイルを閉じます。
- [ファイル入力開始]コマンドが実行されていない場合は、なにもしません。
- 一括処理が終了したときは、このコマンドが実行されていなくても、自動的に閉じられます。

## 構文

ファイル入力終了

## ファイル複写

コマンドの別名	copy
イベントでの使用	可能

### 説明

- 指定したファイルを別の場所に複写します。
- [隠しファイル]属性または[システム]属性が設定されているファイルは複写できません。
- 表や結合表など、すでに開いているファイルは削除できません。このことは、開いている表が使用しているファイルについても同様です。表が使用中のファイルとしては、つぎのものがあります。

バックアップファイル

表引きファイル

作業ファイル

共有管理情報ファイル

### 記述例

- 「Jusho.tbl」の名前を「Jusho.org」にして複写します。  
ファイル複写 "Jusho.tbl", "Jusho.org", 終了状態 = &OK
- 拡張子が「\*.bak」ファイルを「OldTbl」フォルダに複写します。  
ファイル複写 "\*.bak", "OldTbl", 終了状態 = &OK
- 「OldTbl」フォルダ内の全ファイルを、現在のデータパスに複写します。OldTbl内のフォルダは複写されません。  
ファイル複写 "OldTbl", ".", 終了状態 = &OK

### 構文

ファイル複写 ¥  
    <複写元ファイル名>, ¥  
    <複写先ファイル名>, ¥  
    終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### <複写元ファイル名>

複写元のファイル名またはフォルダ名を指定します（計算式）。

ファイル名にワイルドカード（\*、?）を含めると、条件にマッチするすべてのファイルが複写候補になります。現在のデータパス上に存在しないファイル名を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### <複写先ファイル名>

複写先のファイル名またはフォルダ名を指定します（計算式）。

<複写元ファイル名>にワイルドカード（\*、?）を含める場合は、複写先のフォルダ名だけを指定してください。

単にデータパスと同じ場所に複写する場合は、半角のピリオド（.）をひとつ指定します。

存在しないフォルダ名を指定した場合、フォルダもファイルも作成されません。

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

エラー番号	説明
0	コマンドは正常に終了した。
100	ファイルが書き込み禁止。
102	ファイルが見つからない。
103	ファイル名の形式に誤りがある。
104	使用するファイルが多すぎる。
105	ファイルにアクセスできない。
106	カレントディレクトリは削除できない。
109	ディレクトリにこれ以上ファイルを作成できない。
111	ファイルが他のプログラムで使用されている。
116	同名のファイルがすでに存在する。
119	ディレクトリが空ではない。
175	ファイルが使用中。
その他	どれにも該当しないエラー。

## ファイル変換 CSV

イベントでの使用

可能

### 説明

- CSV ファイルを表に変換します。実行後は、変換した表が編集対象表になります。
- 表とフォームのウィンドウを 40 個開いているとき、または表を 40 個開いているときは、実行できません。

### 記述例

- 変換後の表の項目名とデータ型を指定します。  
ファイル変換 CSV, "Sample.csv", "Sample.tbl", 終了状態=&OK, ¥  
{ [ID]長整数, [売上日]日時, [担当者]文字列, [金額]通貨 }
- CSV ファイルの 1 行目のデータを項目名にし、各項目のデータ型を自動設定します。  
ファイル変換 CSV, , "Sample.csv", "Sample.tbl", ¥  
項目名行 = あり, 自動設定 = する, 終了状態 = &OK
- CSV ファイルの 1 行目のデータを項目名にし、各項目のデータ型は指定したものにします。  
ファイル変換 CSV, "Sample.csv", "Sample.tbl", ¥  
項目名行 = あり, 終了状態, &OK, ¥  
{ /カウンタ, /日時, /文字列, /通貨 }
- CSV ファイルのデータを 1 行目から読み込み、項目名は 1 からはじまる連番にします。  
ファイル変換 CSV, "Sample.csv", "Sample.tbl", ¥  
自動設定 = する, 終了状態 = &OK

### 構文

```
ファイル変換 CSV, ¥  
  <CSV ファイル名>, ¥  
  <表ファイル名>, ¥  
  | 中止, ¥  
  表番号 = <整数>, ¥  
  項目名行 = なし | あり, ¥  
  データ開始行 = 1 | 2, ¥  
  自動設定 = しない | する, ¥  
  終了状態 = <変数名>, ¥  
  { <項目名><データ型> | / <データ型>, ... }
```

### パラメータ

#### <CSV ファイル名>

編集対象表に読み込む CSV ファイル名を指定します (計算式)。

拡張子は「.csv」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子の後ろに「.csv」を付加します。

現在のデータベース上に存在しない CSV ファイルを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### <表ファイル名>

表のファイル名を指定します (計算式)。

拡張子の「.tbl」は、省略してもかまいません。  
現在のデータパス上に存在しない表を指定する場合は、表ファイル名をフルパスで指定します。

#### | 中止

同名のファイルがあるとき、処理を中止する場合に指定します。  
上書きする場合は、このパラメータを省略します。

#### 表番号 = < 整数 >

開いた表に割り当てる番号を、整数で指定します（計算式）。  
指定できる番号は、1 ~ 40 です。すでに開かれている表の表番号を指定してはいけません。  
このパラメータを省略した場合は、使用されていない表番号の中で、もっとも小さい番号を割り当てます。

#### 項目名行 = なし | あり

ファイルの1行目のデータを、変換した表の項目名として使用する場合は「あり」を指定します。  
変換した表の項目名を、1から始まる連番にする、または本パラメータで指定する場合は「なし」を指定します。

#### データ開始行 = 1 | 2

データとして読み込む行を1行目からにするか、2行目からにするかを指定します。  
「項目名行=あり」を指定した場合は、つねに「データ開始行 = 2」になります。  
このパラメータを省略して「項目名行=なし」を指定すると「データ開始行 = 1」になります。

#### 自動設定 = しない | する

作成した表の先頭レコードを評価して、各項目のデータ型を自動設定する場合は、「自動設定=する」を指定します。  
各項目のデータ型を本コマンドのパラメータで指定する場合は、「自動設定=しない」を指定します。

#### 終了状態 = < 変数名 >

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生したため、表を開くことができなかった。
-1	共有違反で表を開くことができなかった（表はすでに開かれている）。

#### { < 項目名 > < データ型 > | / < データ型 > , ... }

変換後の表の項目名とデータ型を指定します。  
カウンタ型を指定した項目の値は、テキストファイルの値に関係なく、1から始まる連番にします。  
データ型を省略した項目の値は、文字列型になります。  
「項目名行=あり」を指定した場合は、ここで指定した項目名が無効になります。また、「自動設定=する」を指定した場合は、ここで指定したデータ型が無効になります。  
「項目名行=なし」を指定した場合、{ / 文字列, / 長整数 }のように、項目名を省略してはいけません。

項目名を1からはじまる連番にする場合は、このパラメータを省略して、「項目名行=なし」にします。

# ファイル変換 ODBC

イベントでの使用

可能

## 説明

- ODBC で接続した外部データベースの表を、**桐**の表に変換します。実行後は、変換した表が編集対象表になります。
- このコマンドを実行するには、あらかじめ [外部DB接続] コマンドまたは [外部DB] コマンドで、外部データベースに接続しておく必要があります。
- 表とフォームのウィンドウを 40 個開いているとき、または表を 40 個開いているときは、実行できません。

## 構文

```
ファイル変換 ODBC , ¥  
  <表名> , ¥  
  <表ファイル名> , ¥  
  | 中止 , ¥  
  表番号 = <整数> , ¥  
  所有者名 = <文字列> , ¥  
  終了状態 = <変数名>
```

## パラメータ

### <表名>

外部データベース側の表 (テーブル) の名前を指定します (計算式)。

### <表ファイル名>

表のファイル名を指定します (計算式)。

拡張子の「.tbl」は、省略してもかまいません。

現在のデータベース上に存在しない表を指定する場合は、表ファイル名をフルパスで指定します。

### | 中止

同名のファイルがあるとき、処理を中止する場合に指定します。

上書きする場合は、このパラメータを省略します。

### 表番号 = <整数>

開いた表に割り当てる番号を、整数で指定します (計算式)。

指定できる番号は、1 ~ 40 です。すでに開かれている表の表番号を指定してはいけません。

このパラメータを省略した場合は、使用されていない表番号の中で、もっとも小さい番号を割り当てます。

### 所有者名 = <文字列>

外部データベースの表に所有者が設定されていれば、<文字列>に所有者を指定します (計算式)。

設定されている所有者とは異なる場合は、変換できません。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生したため、表を開くことができなかった。
-1	共有違反で表を開くことができなかった（表はすでに開かれている）。

## ファイル変換 固定長

イベントでの使用

可能

### 説明

- 固定長形式のテキストファイルを表に変換します。実行後は、変換した表が編集対象表になります。
- 表とフォームのウィンドウを 40 個開いているとき、または表を 40 個開いているときは、実行できません。

### 構文

ファイル変換 固定長, ¥  
<テキストファイル名>, ¥  
<表ファイル名>, ¥  
| 中止, ¥  
表番号 = <整数>, ¥  
改行コード = あり | なし, ¥  
自動設定 = しない | する, ¥  
終了状態 = <変数名>, ¥  
{ <項目名> <データ型> / <桁数> | <項目名> / <桁数> | / <桁数>, ... }

### パラメータ

#### <テキストファイル名>

変換元のテキストファイル名を指定します（計算式）。

拡張子を省略した場合は「.fix」を付加します。拡張子をつけない場合は「filename.」のように、ピリオドの後ろに半角の空白文字をつけます（ は半角の空白文字）。

現在のデータベース上に存在しないテキスト ファイル名を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### <表ファイル名>

表のファイル名を指定します（計算式）。

拡張子の「.tbl」は、省略してもかまいません。

現在のデータベース上に存在しない表を指定する場合は、表ファイル名をフルパスで指定します。

#### | 中止

同名のファイルがあるとき、処理を中止する場合に指定します。

上書きする場合は、このパラメータを省略します。

#### 表番号 = <整数>

開いた表に割り当てる番号を、整数で指定します（計算式）。

指定できる番号は、1 ~ 40 です。すでに開かれている表の表番号を指定してはいけません。このパラメータを省略した場合は、使用されていない表番号の中で、もっとも小さい番号を割り当てます。

#### 改行コード = あり | なし

テキストファイルの 1 件のデータが、改行コードで区切られていない場合に「なし」を指定します。

改行コードで区切られている場合は、「あり」を指定するか、このパラメータを省略します。

**自動設定 = しない | する**

作成した表の先頭レコードを評価して、各項目のデータ型を自動設定する場合は、「自動設定=する」を指定します。

各項目のデータ型を本コマンドのパラメータで指定する場合は、「自動設定=しない」を指定します。

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生したため、表を開くことができなかった。
-1	共有違反で表を開くことができなかった（表はすでに開かれている）。

{ <項目名> <データ型> / <桁数> | <項目名> / <桁数> | / <桁数> , ... }

変換後の表の項目名とデータ型を指定します。

カウンタ型を指定した項目の値は、テキストファイルの値を無視して、1から始まる連番にします。

データ型を省略した項目の値は、文字列型になります。

<桁数>は、1から2000の範囲で指定します。このパラメータは省略できません。

「自動設定=する」を指定した場合、ここで指定したデータ型は無効です。

項目名を1からはじまる連番にする場合は、<項目名>と<データ型>の両方を省略し、<桁数>だけを指定します。

# ファイル名入力

イベントでの使用

可能

## 説明

- ファイルの名入力ダイアログボックスを出して、<変数名>にフォルダ名を代入します。
- ダイアログボックスをキャンセルして閉じると、<変数名>に未定義が代入されます。
- このダイアログボックスは、[表示位置]コマンドで設定した位置とサイズで表示されます。

## 記述例

- &選択ファイル名に、選択したファイル名を代入します。ダイアログボックスを出した直後の表示場所を「C:¥K3¥Data」にして、表のファイル名だけが表示されるようにします。  
ファイル名入力 初期値 = "C:¥K3¥Data¥\*.tbl", ¥  
プロンプト = "表のファイル名を選択してください", &選択ファイル名

## 構文

ファイル名入力 ¥  
初期値 = <文字列>, ¥  
プロンプト = <文字列>, ¥  
許可作業 = \* | ファイル + フォルダ + ネットワーク, ¥  
<文字列型の変数名>

## パラメータ

### 初期値 = <文字列>

ファイル名の初期値を文字列で指定します（計算式）。

ファイル名をワイルドカード（\*、?）で指定すると、条件にマッチしたファイルだけが表示されます。

ダイアログボックスを出す場所を指定するには、ファイル名の前にパス名をつけます。

### プロンプト = <文字列>

ダイアログボックスの下に表示する説明を指定します（計算式）。

### 許可作業 = \* | ファイル + フォルダ + ネットワーク

すべての作業を許可する場合は「許可作業 = \*」を指定します。

特定の機能だけを使用する場合は、許可する作業名を指定します（定数）。

複数の作業を許可するには、つぎの作業名を + でつなげます。

作業名	説明
ファイル	ファイルの複写と削除を許可する。
フォルダ	フォルダの新規作成と削除を許可する。
ネットワーク	ネットワークフォルダをドライブにマップすることを許可する。

### <文字列型の変数名>

ファイル名を代入する変数名を指定します。

指定する変数は、文字列型でなければいけません。

# ファイル名変更

コマンドの別名	ren
イベントでの使用	可能

## 説明

- 指定したファイルの名前を変更します。
- [隠しファイル]属性、[システム]属性、[読みとり専用]属性のいずれかが設定されているファイルの名前は変更できません。
- 表や結合表など、すでに開いているファイルの名前は変更できません。このことは、開いている表が使用しているファイルについても同様です。表が使用中のファイルとしては、つぎのものがああります。

バックアップファイル

表引きファイル

作業ファイル

共有管理情報ファイル

## 記述例

- 「Work.tbl」のファイル名を現在の日付のファイル名に変更します。  
ファイル名変更 "Work.tbl", #日付(#年月日, 3) + ".tbl", 終了状態 = &OK

## 構文

ファイル名変更 ¥  
<旧ファイル名>, ¥  
<新ファイル名>, ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### <旧ファイル名>

変更前のファイル名を指定します(計算式)。

ファイル名にワイルドカード(\*、?)を含めてはいけません。

現在のデータパス上に存在しないファイル名を指定する場合は、パス名を指定します。

### <新ファイル名>

変更後のファイル名を指定します(計算式)。

ファイル名にパス名をつけてはいけません。

ファイル名にワイルドカード(\*、?)を含めてはいけません。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

エラー番号	説明
0	コマンドは正常に終了した。
100	ファイルが書き込み禁止。

102	ファイルが見つからない。
103	ファイル名の形式に誤りがある。
104	使用するファイルが多すぎる。
105	ファイルにアクセスできない。
106	カレントディレクトリは削除できない。
109	ディレクトリにこれ以上ファイルを作成できない。
111	ファイルが他のプログラムで使用されている。
116	同名のファイルがすでに存在する。
119	ディレクトリが空ではない。
175	ファイルが使用中。
その他	どれにも該当しないエラー。

# フォーム形式編集

イベントでの使用

x 不可

## 説明

- 編集対象表を、フォーム形式で編集します。
- 編集対象表のウィンドウが表示されていないときは、フォームウィンドウを新規作成します。編集対象表の表ウィンドウが表示されているときは、そのウィンドウを閉じてから、フォームウィンドウを新規作成します。

## 記述例

- フォームの編集が終了したら、このフォームのウィンドウを閉じます。  
フォーム形式編集 画面消去 = する, 終了状態 = &OK

## 構文

フォーム形式編集 ¥  
更新 = 許可 | 禁止, ¥  
許可作業 = \* | なし | <作業名> + ..., ¥  
初期項目 = <項目名> | <項目番号>, ¥  
項目番号 = <変数名>, ¥  
ガイド = <文字列>, ¥  
レイアウト = 重ねる | 上下 | 左右 |, ¥  
カーソル = | | |, ¥  
画面消去 = しない | する, ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### 更新 = 許可 | 禁止

ウィンドウ上で編集するとき、レコードを更新できるようにするかどうかを指定します。

このパラメータは「許可作業=」より優先します。

フォームの許可作業でOFFにしている作業は、つねに禁止されます。

変数値をソースにしているオブジェクトは、この指定に関わらず、つねにフォーム上で編集できます。

「更新=禁止, 許可作業=なし」を指定すると、[Enter] キーと [Esc] キーでもコマンドが終了します（オブジェクトをマウスクリックしただけでは終了しません）。

### 許可作業 = \* | なし | <作業名> + ...

すべての作業を許可する場合は「許可作業=\*」を指定します。表の再定義、項目名の変更、項目属性の自動設定、変数管理は、「許可作業=\*」を指定した場合に限り使用できます。

レコード移動用にウィンドウを使用する場合は、「許可作業=なし」を指定します。

特定の機能だけを使用する場合は、許可する作業名を指定します（定数）。指定した作業名に属さないメニュー項目は、使用できなくなります。複数の作業を許可するには、つぎの作業名を + でつなげます。

作業名	説明
-----	----

編集表	新規作成、開く、外部データベースに接続のみ許可。
-----	--------------------------

印刷	一覧表印刷と編集表を使用したレポート印刷、処理条件の印刷、プリンタの変更のみ。
書き出し 併合	許可する併合処理に応じて、行挿入、行訂正、行削除、絞り込みの作業名も指定してください。
表整理 再抽出 元に戻す 使用フォーム	編集中の訂正は、この作業名の指定に関わらず、つねに許可。 表編集、フォーム編集、フォームの選択、フォームの解除を含む。
行挿入 行訂正 行削除 行復活 絞り込み 並べ替え 索引 行集計	行挿入、行追加、行複写、読み込み、グループ追加を含む。 項目訂正、行移動、置換、グループ値訂正、値複写を含む。 グループ削除。 削除行の表示と非表示の切り替えを含む。 索引定義は含まない。 索引定義のみ。 転置集計を含まない。項目集計は、この作業名の指定に関わらず、つねに許可。
転置集計 解除 ロック 表示幅 多重化	全解除、グループ解除を含む。 レコードロック、レコードロック全解除のみ。 列の非表示、列固定、列固定解除、表の表示条件、項目の表示条件、表示条件の読み込み、表示条件の保存を含む。 編集対象表の多重化のみ許可。

つぎのメニュー項目は、つねに使用できます。

- 一括処理に戻る
- 閉じる（一括処理に戻ると同じ）
- コピー
- 検索、ジャンプ
- ステータスバー、ツールバー
- 拡張編集、項目の一覧
- 空白文字
- ズームイン、ズームアウト
- 定義倍率で表示
- 表示倍率の設定
- フォームのサイズに調整
- 最新の情報に更新
- 高速表示、状態表示
- 環境設定、拡張編集
- カスタマイズ

#### 初期項目 = <項目名> | <項目番号>

フォーム上のどのテキストオブジェクトにフォーカスするかを指定します。

ウィンドウ作成時のフォーカス位置は、一番後ろのオブジェクトです。

つぎの値が指定できます。

種類	説明
<項目名>	表の項目名を指定します。名前の前後に [ ] をつけます。 文字列型の変数で指定する場合は、 [ ] をつけずに指定します。
<項目番号>	表定義時の、先頭項目から数えた項目番号を指定します。 変数で指定する場合は、数値型、通貨型、整数型、長整数型、実数型のいずれかでなければいけません。

< **オブジェクト名** > オブジェクトの名前を指定します。名前の前には@をつけます。変数で指定する場合は、変数名の前に\_をつけます（変数値には@をつけません）。

先頭 表の先頭に定義した項目に移動します。変数で指定することはできません。

最終 表の最後に定義した最終項目に移動します。変数で指定することはできません。

表示されていない項目は、指定しても無効です。[フォーカス設定]が「禁止」または「使用不可表示」になっているテキストオブジェクトをフォーカスさせることはできません。サブフォームの項目やオブジェクト名は、このパラメータでは指定できません。このパラメータを省略すると、現在のフォーカス位置を引き継ぎます。

#### 項目番号 = < **変数名** >

会話形式編集を終了したとき、セルカーソルがどの項目にあったかを取得する場合に使用します。

< **変数名** > には、項目番号を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

終了時、表の項目を編集するオブジェクト上にフォーカスがなかった場合は、代入される項目番号が不定になります。

#### ガイド = < **文字列** >

ステータスバーに表示する文字列を指定します（計算式）。

このパラメータを指定すると、フォームの[表示ガイド]と[入力ガイド]が表示されなくなります。

#### レイアウト = **重ねる** | **上下** | **左右** |

表とフォームのウィンドウを整列する場合に指定します。ウィンドウを整列しない場合は、このパラメータを省略します。

#### カーソル = | | |

[Enter]キーを押したときの移動方向を指定します。省略すると、前回の移動方向を引き継ぎます。

#### 画面消去 = **しない** | **する**

このコマンドが終了したときに、フォームウィンドウを閉じるかどうかを指定します。

[一括処理実行]ウィンドウに表示されている内容は消去されません。

#### 終了状態 = < **変数名** >

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	会話処理が[表示]メニューまたはコマンドボタンの[一括処理に戻る]、ウィンドウタイトルバーの[×]ボタン、[Enter]キーなどで終了した。
0	会話処理が[Esc]キーで終了した。

[Enter]キーと[Esc]キーで終了できるのは、「更新=禁止」または「許可作業=なし」を指定して実行したときだけです。

## ノート

- 桐 ver5 の [ 帳票形式編集 ] コマンドを実行すると、このコマンドに読み替えて実行します。  
「桁固定=」は無視されます。
- 「許可作業=システム」は、対応する機能がないため、無視されます。

## フォーム表示

イベントでの使用

x 不可

### 説明

- 編集対象表のフォームウィンドウを最新の情報に更新し、<項目名>の項目にフォーカスを設定します。
- 編集対象表のフォームウィンドウが表示されていないときは、そのウィンドウを新規作成します。
- 編集対象表の表ウィンドウが表示されているときは、そのウィンドウを閉じてから、フォームウィンドウを新規作成します。
- <項目名>は、省略してもかまいません。

### 構文

フォーム表示 <項目名>

# フォーム呼び出し

イベントでの使用

可能

## 説明

- モーダルダイアログボックスとして、フォームを開きます。
- このコマンドは、フォーム上でつぎの操作を行なったときに終了します。
  - [表示]メニューの[一括処理に戻る]をクリックした。
  - [ファイル]メニューの[閉じる]をクリックした。
  - [Esc]キーを押した。
  - [一括処理に戻る]を割り当てたコマンドボタンをクリックした。
  - [閉じる]を割り当てたコマンドボタンをクリックした。
- コマンドが終了すると、自動的にフォームを閉じます。

## 構文

フォーム呼び出し ¥  
<フォーム ファイル名> , ¥  
許可作業 = \* | なし | <作業名> + ... , ¥  
ボタン = <文字列型の変数名> , ¥  
編集表 = しない | する , ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

許可作業 = \* | なし | <作業名> + ...

すべての作業を許可する場合は「許可作業 = \*」を指定します。表の再定義、項目名の変更、項目属性の自動設定、変数管理は、「許可作業 = \*」は使用できません。

レコード移動用にウィンドウを使用する場合は、「許可作業 = なし」を指定します。

特定の機能だけを使用する場合は、許可する作業名を指定します（定数）。指定した作業名に属さないメニュー項目は、使用できなくなります。複数の作業を許可するには、つぎの作業名を + でつなげます。

作業名	説明
編集表	新規作成、開く、外部データベースに接続のみ許可。
印刷	一覧表印刷と編集表を使用したレポート印刷、処理条件の印刷、プリンタの変更のみ。
書き出し	
併合	許可する併合処理に応じて、行挿入、行訂正、行削除、絞り込みの作業名も指定してください。
表整理	
再抽出	
元に戻す	編集中の訂正は、この作業名の指定に関わらず、つねに許可。
使用フォーム	表編集、フォーム編集、フォームの選択、フォームの解除を含む。
行挿入	行挿入、行追加、行複写、読み込み、グループ追加を含む。
行訂正	項目訂正、行移動、置換、グループ値訂正、値複写を含む。
行削除	グループ削除。
行復活	削除行の表示と非表示の切り替えを含む。

絞り込み	
並べ替え	索引定義は含まない。
索引	索引定義のみ。
行集計	転置集計を含まない。項目集計は、この作業名の指定に関わらず、つねに許可。
転置集計	
解除	全解除、グループ解除を含む。
ロック	レコードロック、レコードロック全解除のみ。
保存を含む。	

つぎのメニュー項目は、つねに使用できます。

- 一括処理に戻る
- 閉じる（一括処理に戻ると同じ）
- コピー
- 検索、ジャンプ
- 空白文字
- ズームイン、ズームアウト
- 定義倍率で表示
- 表示倍率の設定
- フォームのサイズに調整
- 最新の情報に更新

#### ボタン = <文字列型の変数名>

オブジェクト名を代入する変数名を指定します。この変数には、終了時にクリックしたコマンドボタンのオブジェクト名が代入されます。変数のデータ型は、文字列型でなければいけません。

コマンドボタンを使用せずにフォーム編集を終了した場合、[終了時実行コマンドボタン]と[ESCキー実行コマンドボタン]にボタンオブジェクト名が設定されていれば、そのオブジェクト名が代入されます。この属性が設定されていなければ、未定義値が代入されます。

#### 編集表 = しない | する

つぎのいずれかを指定します。

選択肢	説明
しない	表は自動的に開き、フォームを閉じた時点で一緒に閉じます。
する	現在の編集対象表を<フォーム ファイル名>の対象表にします。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	コマンドは正常に終了した。
0	エラーが発生した。

## フォルダ削除

コマンドの別名	rmdir
イベントでの使用	可能

### 説明

- 指定したフォルダを削除します。
- <フォルダ名> のうしろに「, \* 」を指定すると、指定したフォルダと、そのフォルダ内のファイルをすべて削除します。
- フォルダ名が、ドライブ名または ¥ から始まっていない場合は、現在のデータパスからの相対指定になります。
- 存在しないフォルダ名を指定した場合、または指定したフォルダ内にファイルやフォルダがある場合は、なにもしません（ \* が指定されていない場合）。
- [隠しファイル] 属性、[システム] 属性、[読みとり専用] 属性のいずれかが設定されているファイルがある場合は、フォルダが削除できません。
- 表や結合表など、すでに開いているファイルがある場合は削除できません。このことは、開いている表が使用しているファイルについても同様です。表が使用中のファイルとしては、つぎのものがあります。

バックアップファイル

表引きファイル

作業ファイル

共有管理情報ファイル

### 記述例

- 現在のデータパスの下にある「My Data」という名前のフォルダを削除します。  
フォルダ削除 "My Data", 終了状態 = &OK

### 構文

フォルダ削除 ¥  
<フォルダ名> | <フォルダ名> , \* , ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

エラー番号	説明
0	コマンドは正常に終了した。
100	ファイルが書き込み禁止。
102	ファイルが見つからない。
103	ファイル名の形式に誤りがある。
104	使用するファイルが多すぎる。
105	ファイルにアクセスできない。

106	カレントディレクトリは削除できない。
109	ディレクトリにこれ以上ファイルを作成できない。
111	ファイルが他のプログラムで使用されている。
116	同名のファイルがすでに存在する。
119	ディレクトリが空ではない。
175	ファイルが使用中。
その他	どれにも該当しないエラー。

# フォルダ作成

コマンドの別名	mkdir
イベントでの使用	可能

## 説明

- 指定したフォルダを新規作成します。
- フォルダ名が、ドライブ名または ¥ から始まっていない場合は、現在のデータベースからの相対指定になります。
- 指定したフォルダがすでに存在する場合は、なにもしません。

## 記述例

- 現在のデータベースの下に「My Data」という名前のフォルダを作成します。  
フォルダ作成 "My Data" , 終了状態 = &OK

## 構文

フォルダ作成 ¥  
    <フォルダ名> , ¥  
    終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

エラー番号	説明
0	コマンドは正常に終了した。
100	ファイルが書き込み禁止。
102	ファイルが見つからない。
103	ファイル名の形式に誤りがある。
104	使用するファイルが多すぎる。
105	ファイルにアクセスできない。
106	カレントディレクトリは削除できない。
109	ディレクトリにこれ以上ファイルを作成できない。
111	ファイルが他のプログラムで使用されている。
116	同名のファイルがすでに存在する。
119	ディレクトリが空ではない。
175	ファイルが使用中。
その他	どれにも該当しないエラー。

## ノート

- 桐 ver5 の [ディレクトリ作成] コマンドを実行すると、このコマンドに読み替えて実行します。

# フォルダ名入力

イベントでの使用

可能

## 説明

- フォルダ名の入力ダイアログボックスを出して、<変数名>に利用者が指定したフォルダ名を代入します。ダイアログボックスをキャンセルして閉じると、<変数名>に未定義が代入されます。

## 構文

フォルダ名入力 ¥  
初期値 = <文字列>, ¥  
プロンプト = <文字列>, ¥  
許可作業 = \* | フォルダ + ネットワーク, ¥  
<文字列型の変数名>

## パラメータ

**初期値 = <文字列>**  
フォルダ名の初期値を文字列で指定します（計算式）。

**プロンプト = <文字列>**  
ダイアログボックスの下に表示する説明を指定します（計算式）。

**許可作業 = \* | フォルダ + ネットワーク**  
すべての作業を許可する場合は「許可作業 = \*」を指定します。  
特定の機能だけを使用する場合は、許可する作業名を指定します（定数）。  
複数の作業を許可するには、つぎの作業名を + でつなげます。

作業名	説明
フォルダ	フォルダの新規作成と削除を許可する。
ネットワーク	ネットワークフォルダをドライブにマップすることを許可する。

**<文字列型の変数名>**  
フォルダ名を代入する変数名を指定します。

# ブザー

イベントでの使用

x 不可

## 説明

- 指定した回数、ブザーを鳴らします。
- <回数> には、ブザーを鳴らす回数を指定します（計算式）。負の値を指定した場合は、1回だけ鳴らします。0 または <回数> を省略すると、キーが押されるまで鳴り続けます（マウスクリックでは停止できません）。

## 構文

ブザー <回数>

# プリンタ

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

## 説明

- 使用するプリンタを切り替えます。指定したプリンタが存在しない場合は、実行前のプリンタのままになります。
- このコマンドで切り替えたプリンタで印刷できるのは、[印刷するプリンタ]に[( 桐の現在プリンタ)]を選択している一覧表印刷条件とレポートだけです。それ以外のものは、定義時のプリンタで印刷されます。

## 記述例

- プリンタを「EPSON PM-700C」に切り替えます。  
プリンタ "EPSON PM-700C", 終了状態 = &OK
- Windows の 1 番目に登録されているプリンタに切り替えます。  
プリンタ #ウィンドウズプリンタ名(1), 終了状態 = &OK

## 構文

```
プリンタ ¥  
    <プリンタ名>, ¥  
    終了状態 = <変数名>
```

## パラメータ

### <プリンタ名>

切り替えるプリンタの名前を指定します(計算式)。

ここで指定するプリンタ名は、Windows に登録しているプリンタの名前です。大文字と小文字、全角と半角まで正しく指定する必要があります。

プリンタの名前は、あらかじめ[スタート]メニューの[設定] [プリンタ]で確認してから指定するよう、心がけてください。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	コマンドは正常に終了した。
0	プリンタが存在しない。

## ノート

- 桐 ver5 の <プリンタ番号> と、パラメータなしの指定は廃止しました。どちらの指定もエラーになります。

## 分岐

コマンドの別名	goto
イベントでの使用	可能

### 説明

- 一括処理ファイルの指定した名札行にジャンプして、その場所から処理を続けます。
- <名札名>には、ジャンプ先の名札名を指定します。計算式で指定してもかまいません。
- 条件が真のときだけジャンプする場合は、「分岐 (<条件式>

# 併合

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	先頭行。

## 説明

- 指定した表と照合し、編集対象表に併合します。

## 記述例

- 「Parsonal.tbl」と照合して、登録されていないレコードを編集対象表に追加します。このとき、[住所1]と[住所2]を連結して[住所]に複写します。  
併合 "Parsonal.tbl", 挿入, 編集表 = しない, 終了状態 = &OK, ¥  
{ [ID]照合[No], [氏名]複写[名前], [住所]複写[住所1], [住所]連結[住所2] }
- 表番号2に開いている表と照合して、一致するレコードを絞り込みます。  
併合 2, 絞り込み, 編集表 = する, 終了状態 = &OK, { [ID]照合[No] }

## 構文

併合 ¥  
<表ファイル名> | <表番号>, ¥  
両方 | 置換 | 挿入 | 削除 | 絞り込み, ¥  
編集表 = する | しない, ¥  
終了状態 = <変数名>, ¥  
{ <編集表の項目名> <処理> <併合項目名>, ... }

## パラメータ

### <表ファイル名> | <表番号>

編集対象表と照合する表ファイル名を指定します（計算式）。  
照合する表がすでに開かれているときは、<表番号>で指定してもかまいません。  
結合表または外部データベースと照合する場合は、拡張子まで指定します。拡張子を省略すると、表のファイル名として扱います（拡張子には「.tbl」が付加されます）。  
現在のデータベース上に存在しない表を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

### 両方 | 置換 | 挿入 | 削除 | 絞り込み

併合方法を指定します。

併合方法	説明
置換	照合した表の値に置き換えます。
挿入	編集対象表に登録されていないレコードを挿入します。
両方	置換と挿入の両方を行いません。「置換挿入」と記述してもかまいません。
削除	照合した表に登録されているレコードを削除します。
絞り込み	照合した表に登録されているレコードを絞り込みます。

### 編集表 = する | しない

開かれている表の編集状態で照合する場合は「する」、表の基本状態で照合する場合は「しない」を指定します。

「する」を指定したとき、照合する表が多重化されていれば、最後に編集した表と照合します。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。

### { <編集表の項目名> <処理> <併合項目名> , ... }

編集対象表のどの項目に、どの項目を併合するかを指定します（項目名、項目番号）。

<併合項目名>は、<編集表の項目名>と同じであれば省略できます。

<処理>には、つぎの文字列を指定します。照合する項目は、最低でも1組は必要です。

処理	説明
照合	ふたつの項目値を照合条件にします。
複写	併合項目の値に置き換えます。
複写2	併合項目の値が未定義でなければ、その値に置き換えます。
連結	編集対象表の項目値の末尾に、併合項目の値を追加します。
加算	併合項目の値を加えます。
減算	併合項目の値を引きます。
乗算	併合項目の値を掛けます。
除算	併合項目の値で割ります。

指定できる<処理>は、<編集表の項目名>のデータ型に応じて、つぎのいずれかです。ただし、数値型と表記してあるものについては、通貨型、整数型、長整数型、実数型、カウンタ型でも指定できます。

データ型	処理	併合項目のデータ型
文字列	照合	すべてのデータ型
	複写	すべてのデータ型
	複写2	すべてのデータ型
	連結	すべてのデータ型
数値	照合	日時、時間は不可
	複写	日時、時間は不可
	複写2	日時、時間は不可
	乗算	数値
	加算	数値
	減算	数値
	除算	数値
日時	照合	文字列、日時
	複写	文字列、日時
	複写2	文字列、日時
	加算	時間
	減算	時間
時間	照合	文字列、時間
	複写	文字列、時間

複写2	文字列、時間
加算	時間
減算	時間
乗算	数值
除算	数值

## 併合 条件名

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 登録済みの併合条件を使用して、照合する表を併合します。

### 記述例

- 登録してある併合条件を使用して、編集対象表に併合します。  
併合 条件名 = "個人住所録の追加", 終了状態 = &OK

### 構文

併合 ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 条件名 = <文字列>

使用する条件名を指定します（計算式）。

登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。

# 併合条件削除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 併合条件を削除します。

## 記述例

- 編集対象表の併合条件をふたつ削除します。  
併合条件削除 "個人住所録の追加", "作業用"
- 編集対象表の、すべての併合条件を削除します。  
併合条件削除 \*

## 構文

併合条件削除 <条件名> , ... | \*

## パラメータ

<条件名> , ... | \*

削除する条件の名前を指定します（計算式）。

複数の条件を削除する場合は、条件名を半角または全角のコンマで区切ります。

\* を指定すると、すべての条件を削除します。

登録されていない条件を指定するとエラーになります。

# 併合条件登録

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 併合条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 表ファイル名の代わりに<表番号>を指定した場合は、その番号に開かれている表のファイル名が登録されます。
- 併合条件の数が、50個を超える場合はエラーになります。

## 記述例

- 登録されていないレコードを、編集対象表に追加する併合条件を登録します。

```
併合条件登録 条件名 = "個人住所録の追加", ¥
               "Parsonal.tbl", 挿入, ¥
               編集表 = しない, 終了状態 = &OK, ¥
               { [ID]照合[No], [氏名]複写[名前], [住所]複写 }
```

## 構文

```
併合条件登録 ¥
               条件名 = <文字列>, ¥
               <表ファイル名> | <表番号>, ¥
               両方 | 置換 | 挿入 | 削除 | 絞り込み, ¥
               編集表 = する | しない, ¥
               { <編集表の項目名> <処理> <併合項目名>, ... }
```

## パラメータ

**条件名 = <文字列>**

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

**<表ファイル名> | <表番号>**

編集対象表と照合する表ファイル名を指定します（計算式）。

結合表または外部データベースと照合する場合は、拡張子まで指定します。拡張子を省略すると、表のファイル名として扱います（拡張子には「.tbl」が付加されます）。

照合する表がすでに開かれているときは、<表番号>で指定してもかまいません。

現在のデータベース上に存在しない表と照合する場合は、表ファイル名をフルパスで指定します。

**両方 | 置換 | 挿入 | 削除 | 絞り込み**

併合方法を指定します。

併合方法	説明
------	----

置換	照合した表の値に置き換えます。
----	-----------------

挿入	編集対象表に登録されていないレコードを挿入します。
----	---------------------------

両方	置換と挿入の両方を行ないます。「置換挿入」と記述してもかまいません。
----	------------------------------------

削除	照合した表に登録されているレコードを削除します。
絞り込み	照合した表に登録されているレコードを絞り込みます。

### 編集表 = する | しない

開かれている表の編集状態で照合する場合は「する」、表の基本状態で照合する場合は「しない」を指定します。

「する」を指定したとき、照合する表が多重化されていれば、最後に編集した表と照合します。

{ <編集表の項目名> <処理> <併合項目名> , ... }

編集対象表のどの項目に、どの項目を併合するかを指定します（項目名、項目番号）。

<併合項目名>は、<編集表の項目名>と同じであれば省略できます。

<処理>には、つぎの文字列を指定します。照合する項目は、最低でも1組は必要です。

処理	説明
照合	ふたつの項目値を照合条件にします。
複写	併合項目の値に置き換えます。
複写2	併合項目の値が未定義でなければ、その値に置き換えます。
連結	編集対象表の項目値の末尾に、併合項目の値を追加します。
加算	併合項目の値を加えます。
減算	併合項目の値を引きます。
乗算	併合項目の値を掛けます。
除算	併合項目の値で割ります。

指定できる<処理>は、<編集表の項目名>のデータ型に応じて、つぎのいずれかです。ただし、数値型と表記してあるものについては、通貨型、整数型、長整数型、実数型、カウンタ型でも指定できます。

データ型	処理	併合項目のデータ型
文字列	照合	すべてのデータ型
	複写	すべてのデータ型
	複写2	すべてのデータ型
	連結	すべてのデータ型
数値	照合	日時、時間は不可
	複写	日時、時間は不可
	複写2	日時、時間は不可
	乗算	数値
	加算	数値
	減算	数値
	除算	数値
日時	照合	文字列、日時
	複写	文字列、日時
	複写2	文字列、日時
	加算	時間
	減算	時間
時間	照合	文字列、時間
	複写	文字列、時間
	複写2	文字列、時間
	加算	時間
	減算	時間
	乗算	数値
	除算	数値

## 編集表

イベントでの使用

可能

### 説明

- <表番号>または<表ファイル名>で指定した表に切り替えます。
- イベントハンドラ内で実行した場合でも、指定した表に切り替わります。ただし、ハンドラが終了した時点で、フォームの編集対象表に戻ります。フォームに編集対象表を定義していない場合は、対象表がない状態に戻ります。
- 結合表と外部データベースをファイル名で切り替える場合は、拡張子まで指定します。拡張子を省略すると、表のファイル名として扱います（拡張子には「.tbl」が付加されます）。
- 多重化した表の切り替えは、<表番号>でなければ行なうことができません。

### 記述例

- 表番号 2 に開かれている表を編集対象にします。  
編集表 2
- 「Jusho.tbl」を編集対象にします。  
編集表 "Jusho.tbl"

### 構文

編集表 <表番号> | <表ファイル名>

# 変数書き出し

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 変数をファイルに書き出します。ファイルに書き出した変数は、[ 変数読み込み ] コマンドで読み込むことができます。
- 局所変数と自動変数は、書き出せません。
- 同名のファイルが存在する場合は、確認せずに上書きします。

## 記述例

- すべての変数を、変数ファイルに書き出します。  
変数書き出し "Address.var" , \*  
または  
変数書き出し "Address.var"
- 共通変数と固有変数を、変数ファイルに書き出します。  
変数書き出し "Address.var" , 共通 , 固有
- 指定した変数だけを、変数ファイルに書き出します。  
変数書き出し "Seiseki.var" , { &合計値 , &平均値 , &最大値 , &最小値 , &件数 }

## 構文

変数書き出し ¥  
<変数ファイル名> , ¥  
組み込み | 共通 | 固有 , ... | \* | { <変数名> , ... } , ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### <変数ファイル名>

変数ファイル (.var) の名前を指定します (計算式)。  
拡張子は「.var」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子の後ろに「.var」を付加します。  
現在のデータベース上に存在しない var ファイル名を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

### 組み込み | 共通 | 固有 , ... | \* | { <変数名> , ... }

書き出す変数の種別を指定します。  
\* を指定すると、すべての変数を書き出します。  
個々に変数を書き出す場合は、<変数名>に書き出す変数の名前を指定します。変数名とつぎの変数名のあいだは、半角または全角のコンマで区切ります。

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	コマンドは正常に終了した。
0	なんらかのエラーが発生した。
-2	他のプロセスが変数ファイルを専有している。
-3	変数ファイルを作成できない。

# 変数管理

イベントでの使用

× 不可

## 説明

- 変数を管理するために、変数管理用のダイアログボックスを出します。
- このダイアログボックスは、[表示位置]コマンドで設定した位置とサイズで表示されます。
- 画面を出すときに指定したページを選択するには、パラメータにそのページのタブ名を指定します。
- 会話処理での動作と違い、この画面を閉じるまでは、つぎのコマンドに移りません。

## 記述例

- 変数管理画面を出して、[共通]タブのページに切り替えます。  
変数管理 共通

## 構文

変数管理 組み込み | 共通 | 固有

---

# 変数削除

イベントでの使用

x 不可

## 説明

- 変数を削除します。[定数宣言]コマンドで、定数として宣言した変数も削除できます。
- 指定した種別の変数を、すべて削除する場合は、「固有」または「共通」を指定します。すべての固有変数を削除する場合は、「固有」の代わりに「\*」と書いてもかまいません。
- 表を開く前に宣言した固有変数と共通変数は、表を閉じた後でなければ削除されません。
- 自動変数は削除できません。
- イベントハンドラ内では、変数を削除できません(エラーになります)。

## 記述例

- 指定した変数だけを削除します。  
変数削除 &合計金額, &消費税
- 固有変数を削除します。  
変数削除 固有  
または  
変数削除 \*  
または  
変数削除

## 構文

変数削除 <変数名>, ... | 固有 | 共通 | \*

## 変数宣言

コマンドの別名	var
イベントでの使用	可能

### 説明

- 文字列や数値などの値をメモリ上に保存するために、変数を宣言します。
- 変数を宣言するときに、初期値を設定できます。
- このコマンドで宣言しようとした変数の中に、すでに [ 定数宣言 ] コマンドで宣言されている変数がひとつでもあると、エラーになります。
- 配列型の変数を宣言することもできます。

### 記述例

- 文字列型の固有変数を宣言します。  
変数宣言 固有, 文字列{ &検索項目名 }
- 整数型の共通変数をふたつ宣言します。  
変数宣言 共通, 整数{ &OK, &tblNo }
- 整数型の共通変数と固有変数を宣言します。  
変数宣言 共通, 整数{ &OK, &tblNo }, 固有, 整数{ &項目数 }
- 要素数が 48 個の変数を宣言します。  
変数宣言固有, 文字列{ &項目名 [ 48 ] }
- 項目数と同じ要素数の配列変数を宣言します。  
変数宣言 固有, 文字列{ &項目名 [ #項目数 ] }
- 変数を宣言し、その変数に初期値を設定します。  
変数宣言 局所, 文字列{ &選択色 = "黒" }
- 配列変数を宣言し、その変数の各要素の値を代入します。  
変数宣言 局所, 文字列{ &文字色 [ 8 ] = { "黒", "白", "赤", "青", "紫", "緑", "水色", "黄色" } }
- 配列変数を宣言し、その変数の全要素値を「黒」にします。  
変数宣言 局所, 文字列{ &文字色 [ 8 ] = { "黒" } }
- 8 個の要素を持つ配列変数を宣言し、1 番目の要素値を「黒」、2 番目以降の要素値を「白」にします。  
変数宣言 局所, 文字列{ &文字色 [ 8 ] = { "黒", "白" } }

### 構文

変数宣言 ¥  
自動 | 局所 | 固有 | 共通, ¥  
文字列 | 数値 | 通貨 | 整数 | 長整数 | 実数 | 日時 | 時間 | , ¥  
{ <変数名> = <初期値> | <変数名> [ <要素数> ] = { <要素1の初期値> , ... , <要素nの初期値> } , ... } , ...

## パラメータ

### 自動 | 局所 | 固有 | 共通

宣言する変数の種別を指定します。このパラメータを省略した場合、実行中の一括処理またはイベントの手続き内であれば「自動」、それ以外であれば「固有」になります。

種別	説明
自動	この変数は宣言した手続き内でのみ有効です。 他の手続きから参照することはできません。 手続きから抜けると、自動的に削除されます。
局所	この変数は、ウィンドウ固有ものです。 この種別の変数は、イベント処理のメイン処理内でのみ宣言できます。 フォームウィンドウが閉じると、自動的に削除されます。任意に削除することはできません。
固有	この変数は、表またはフォームのウィンドウが開いているあいだけ、有効です。 この種別の変数が宣言できるのは、表ウィンドウ、フォームウィンドウが開いているあいだ、または一括処理が実行されているあいだけ有効です。 宣言した変数は、表ウィンドウとフォームウィンドウ、一括処理がすべて閉じると、自動的に削除されます。 宣言後、ウィンドウを新たに開かない限りは、任意に削除できます。ただし、ウィンドウが開かれる前に宣言した変数は、すべてのウィンドウを閉じない限り、削除できません。
共通	この変数は、桐で作業しているあいだは、つねに有効です。 自動的に削除されることはありません。

### 文字列 | 数値 | 通貨 | 整数 | 長整数 | 実数 | 日時 | 時間 |

宣言する変数のデータ型を指定します。直後の { } 内に指定した変数は、すべて同じデータ型になります。

カウンタ型の変数はありません。数値型をお使いください。

{ <変数名> = <初期値> | <変数名> [ <要素数> ] = { <要素1の初期値> , ... , <要素nの初期値> } , ... } , ...

宣言する変数の名前を指定します。

必要であれば、初期値も指定できます ( 計算式 )。

配列変数を宣言する場合は、&hWnd [ 40 ] などのように変数名のうしろに要素数をつけます ( 計算式 )。要素数は [ ] でくくります。

配列変数の初期値を指定する場合は、{ } でくくります。

配列の要素は 1 から要素数までの値で参照します。

## ノート

- 変数は、つぎの規則に従った名前をつけます。
- 変数名の前には、半角または全角の & をつけます。
- 変数名の長さは、全角と半角に関係なく 64 文字までです。
- 変数名は、全角と半角、大文字と小文字を区別します。
- 変数名の先頭に数字をつけてはいけません。
- 変数名の中に、空白文字を含めてはいけません

- また、JIS2D21 ~ 2D7F までの文字と、つぎの記号を含めてはいけません。

, . : ; ? ! ' " ^ ` \_ | / ( ) [ ] { } + - \* / = < > ¥ \$ % # & \* @

, . . : ; ? ! ' " ^ | / ~ ( ) [ ] { }

+ - ± × ÷ = < > ¥ \$ % # & \* @

- 組み込み変数と同じ名前の変数は、宣言できません。

## 変数読み込み

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 変数ファイルに保存された変数の宣言と、値の代入を行いません。
- すでに同じ変数を宣言しているときは、変数ファイルの値に置き換えます。
- 変数ファイルは、[変数書き出し]コマンドで書き出すことができます。
- 局所変数と自動変数は変数ファイルからは読み込めません。
- 読み込もうとした変数が、すでに宣言されている変数のデータ型または配列要素数と異なる場合は、エラーになります。
- 別種別の同名の変数を読み込んだ場合は、あとから読み込んだ変数が宣言されません。
- すでに同名の変数が宣言されている場合、種別に関係なく値が代入されます。

### 記述例

- 変数ファイルの共通変数と固有変数を読み込みます。  
変数読み込み "Seiseki.var", 共通, 固有

### 構文

変数読み込み ¥  
<変数ファイル名>, ¥  
組み込み | 共通 | 固有, ... | \*, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### <変数ファイル名>

変数ファイル(.var)の名前を指定します(計算式)。

拡張子は「.var」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子の後ろに「.var」を付加します。

現在のデータベース上に存在しない var ファイル名を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### 組み込み | 共通 | 固有, ... | \*

読み込む変数の種別を指定します。

\* を指定すると、すべての変数を読み込みます。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	コマンドは正常に終了した。
0	なんらかのエラーが発生した。
-2	他のプロセスがファイルを専有している。
-3	変数ファイルが存在しない。
-4	変数ファイルが壊れている。

# 保存表名

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

## 説明

- 実表を更新しない結合表の < **保存表名** > を設定または変更します。
- 実表を更新する結合表に対して、このコマンドを実行してはいけません。

## 構文

保存表名 < **保存表名** >

## パラメータ

< **保存表名** >

## メソッド呼び出し：値復活

一括処理での実行	×不可
対象オブジェクト	グループ項目   テキストボックス

### 説明

- 編集中の値を破棄して、もとの値に戻します。
- 対象オブジェクトの[入力前]イベントのハンドラで &編集文字列の値を変更している場合は、その値に戻します。
- このメソッドは、対象オブジェクトがフォーカスを持っており、かつ入力中のときに実行しなければ意味がありません。たとえば、[フォーカス取得]イベントや[入力前]イベントは、入力状態に入る前のイベントなので、これらのハンドラ内で実行しても意味がありません。

### 構文

メソッド呼び出し

```
ハンドル = <ハンドル> , ¥  
戻り値 = <変数名> , ¥  
<テキストボックス> | <グループ項目> . 値復活()
```

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	設定した。
-1	入力状態ではなかった。

**<テキストボックス> | <グループ項目>**

オブジェクトの名前を指定します。

## メソッド呼び出し：オブジェクト検査

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	フォームフッタ部   フォームヘッダ部   フォーム明細部

### 説明

- オブジェクトが指定したセクション上に、配置されているかどうかを調べます。

### 構文

メソッド呼び出し

ハンドル = <ハンドル> , ¥

戻り値 = <変数名> , ¥

@フォーム | @フォーム明細部 | @フォームフッタ部 | @フォームヘッダ部

オブジェクト検査 ( <オブジェクト名> , <変数名> )

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つねに 1 が代入されます。

**@フォーム | @フォーム明細部 | @フォームフッタ部 | @フォームヘッダ部**

オブジェクトの名前を指定します。

**<オブジェクト名>**

調べるオブジェクトの名前を指定します ( 文字列定数または文字列変数 )

**<変数名>**

検査結果を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

この変数には、検査結果としてつぎの値が代入されます。

値	意味
---	----

1	存在する。
---	-------

0	存在しない。
---	--------

## メソッド呼び出し：オブジェクト取得

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	フォーム   フォームフッタ部   フォームヘッダ部   フォーム明細部

### 説明

- 指定したセクションの n 番目に配置されているオブジェクト名を取得して、<変数名>に代入します。
- [フォーム]を指定した場合は、n 番目のセクション名を取得します。

### 構文

メソッド呼び出し

ハンドル = <ハンドル> , ¥

戻り値 = <変数名> , ¥

@フォーム明細部 | @フォームフッタ部 | @フォームヘッダ部 | @フォーム

オブジェクト取得 ( <番号> , <変数名> )

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
-----	----

1	n 番目のオブジェクトが存在する。
---	-------------------

0	n 番目のオブジェクトは存在しない。
---	--------------------

@フォーム明細部 | @フォームフッタ部 | @フォームヘッダ部 | @フォーム

オブジェクトの名前を指定します。

**<番号>**

何番目のオブジェクトの名前を取り出すかを数値で指定します ( 計算式 )。

**<変数名>**

取得したオブジェクト名を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、文字列型でなければいけません。

## メソッド呼び出し：オブジェクト種別

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	すべて

### 説明

- 指定したオブジェクトがセクションなのか、セクション上に配置された領域のひとつなのかを調べて、その分類を表わす番号を、<変数名>に代入します。

### 構文

メソッド呼び出し

ハンドル = <ハンドル> , ¥

戻り値 = <変数名> , ¥

<オブジェクト名>.オブジェクト種別 ( <変数名> )

### パラメータ

#### ハンドル = <ハンドル>

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

#### 戻り値 = <変数名>

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つねに 1 が代入されます。

#### <オブジェクト名>

オブジェクトの名前を指定します。

#### <変数名>

取得した分類番号を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

分類番号	種別
1	フォーム
2	セクション
3	領域
30	ファミリー

## メソッド呼び出し：オブジェクト数

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	グループ項目   テキストボックス   フォームフッタ部   フォームヘッダ部   フォーム明細部

### 説明

- 指定したセクションに属している、オブジェクトの数を調べます。
- [テキストボックス]または[グループ項目]オブジェクトを指定した場合は、そのオブジェクトに[入力支援ボタン]があるかどうかを調べることができます。
- [テキストボックス]や[グループ項目]オブジェクトなどを指定して、そのオブジェクトとリンクしている[パネル]オブジェクトを取得することはできません。

### 構文

メソッド呼び出し

ハンドル = <ハンドル> , ¥

戻り値 = <変数名> , ¥

@フォーム | @フォーム明細部 | @フォームフッタ部 | @フォームヘッダ部 | <テキストボックス> | <グループ項目>  
> . オブジェクト数 ( <変数名> )

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル = 」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つねに 1 が代入されます。

@フォーム | @フォーム明細部 | @フォームフッタ部 | @フォームヘッダ部 | <テキストボックス> | <グループ項目>

オブジェクトの名前を指定します。

**<変数名>**

取得したオブジェクト数を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

## メソッド呼び出し：親オブジェクト取得

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	すべて

### 説明

- 指定したオブジェクトが、どのセクションに配置されているかを調べます。

### 構文

メソッド呼び出し

ハンドル = <ハンドル> , ¥

戻り値 = <変数名> , ¥

@フォーム明細部 | @フォームフッタ部 | @フォームヘッダ部 | <テキストボックス> | <グループ項目> .

親オブジェクト取得( <変数名> )

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

分類番号	種別
1	フォーム
2	セクション
3	領域

@フォーム明細部 | @フォームフッタ部 | @フォームヘッダ部 | <テキストボックス> | <グループ項目>

オブジェクトの名前を指定します。

**<変数名>**

取得したオブジェクト名を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、文字列型でなければいけません。

## メソッド呼び出し：キー変換

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	フォーム

### 説明

- フォーム内で、キーに割り当てられている機能の実行を、禁止するかどうかを指定します。
- [ラベル]または[コントロール]に設定されているアクセスキーについては、禁止できません。たとえば、[コントロール]のアクセスキーとして、「&A」が設定されている場合は、[Alt] + [A] を禁止できません。

### 記述例

[F1] から [F8] までのファンクションキーのどれかが押されたら、対応する [コントロール] の機能を実行します。

この例では、対応する [コントロール] のオブジェクト名を「bF01」から「bF08」までとします。該当するファンクションキーが押された場合、`桐` と `Windows` が割り当てたキーの機能をすべて無効にするために、[キー変換] メソッドで 7 を指定した後、このハンドラの `&処理中止` に 1 を代入しています。

```
手続き定義開始 フォーム::キーダウ( 長整数 &仮想キーコード, 長整数 &スキャンコード, 長整数 &フラグ, 参照 長整数 &処理中止 )
```

```
if ( &仮想キーコード 112 .and &仮想キーコード 119 )
```

```
  メソッド呼び出し @フォーム.キー変換( 7 )
```

```
  &仮想キーコード = &仮想キーコード - 111
```

```
  変数宣言 文字列{ &オブジェクト名 = "bF" + #str( &仮想キーコード, 2 ) }
```

```
  メソッド呼び出し &オブジェクト名.実行( )
```

```
  &処理中止 = 1
```

```
else
```

```
  メソッド呼び出し @フォーム.キー変換( 0 )
```

```
  &処理中止 = 0
```

```
end
```

```
手続き定義終了
```

### 構文

メソッド呼び出し

```
ハンドル = <ハンドル>, ¥
```

```
戻り値 = <変数名>, ¥
```

```
@フォーム.キー変換( <モード> )
```

### パラメータ

**ハンドル** = <ハンドル>

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。  
一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、直前のモードが代入されます。

**@フォーム**

オブジェクトの名前を指定します。

**<モード>**

つぎの番号を指定します（計算式）。

モード	意味
-1	現在のキー変換モードだけを取得する。
0	すべて変換する。
1	カスタマイズキーを禁止する。
2	特殊キーを禁止する。
4	ファンクションキーを禁止する。

複数のキー変換を禁止する場合は、これらの値を加算して指定します。

このメソッドは、メインフォームに対してのみ有効です。

## メソッド呼び出し：グループソース値取得

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	グループ項目

### 説明

- 指定した [グループ項目] オブジェクトから、[ソース] に設定された値または式の計算結果を取得します。
- グループ化指定がされている場合は、そのグループ化の値を取得します。

### 構文

メソッド呼び出し

ハンドル = <ハンドル> , ¥

戻り値 = <変数名> , ¥

<グループ項目> .グループソース値取得( <変数名> , <取得モード> )

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	取得できた。
0	取得できない。

**<グループ項目>**

オブジェクトの名前を指定します。

**<変数名>**

取得したソース値を代入する変数名を指定します。

<取得モード> が 0 のときは、ソース値と同じデータ型の変数を指定します。

それ以外の <取得モード> のときは、文字列型の変数を指定します。

<取得モード>

つぎの番号を指定します。

番号	取得モード
0	オブジェクトの [ソース] に指定した値と同じデータ型のまま取得する。
1	編集文字列として取得する。
2	表示文字列として取得する。

## メソッド呼び出し：更新モード取得

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	フォーム

### 説明

- フォームの更新モードを調べます。
- または、「ハンドル = <ハンドル>」で指定したフォームの更新モードを調べます。

### 記述例

「ハンドル = 2」のフォームの更新モードを調べます。  
メソッド呼び出し `ハンドル = 2, @フォーム.更新モード取得( &mode )`

### 構文

メソッド呼び出し  
ハンドル = <ハンドル> , ¥  
戻り値 = <変数名> , ¥  
@フォーム.更新モード取得( <変数名> )

### パラメータ

#### ハンドル = <ハンドル>

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル = 」に `&hwindow` を指定します。`&hwindow` はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

#### 戻り値 = <変数名>

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つねに 1 が代入されます。

#### @フォーム

オブジェクトの名前を指定します。

<変数名>

取得した更新モードを代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

この変数には、つぎの番号が代入されます。

代入値	更新モード
0	表示モード
2	訂正モード
4	行挿入モード
6	行追加モード
8	

## メソッド呼び出し：更新モード設定

一括処理での実行	× 不可
対象オブジェクト	フォーム

### 説明

- 指定したフォームの更新モードを変更します。
- つぎのイベントハンドラ内では、変更できません。

行挿入開始、行挿入終了前

行訂正開始、行訂正終了前

グループ 検索前、グループ 検索後

グループ 値訂正前、グループ 値訂正後

グループ 追加前、グループ 追加後

レコード 移動、グループ 移動

グループ 検索開始

グループ 値訂正開始

グループ 追加開始

フォーカス設定、フォーカス喪失

入力前、入力後

選択値更新

## パラメータ

### ハンドル = <ハンドル>

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

### 戻り値 = <変数名>

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	設定した。
その他	設定できなかった。

### @フォーム

オブジェクトの名前を指定します。

### <番号>

設定する更新モードに応じた番号を指定します（計算式）。

番号	更新モード
0	表示モード
2	訂正モード
4	行挿入モード
6	行追加モード
33	グループ検索モード
34	グループ値訂正モード
36	グループ追加モード

## ノート

- 一括処理でつぎのコマンドを実行してイベントハンドラが開始された場合は、このメソッドを使用することができません。

行挿入 会話

行訂正 会話

行追加 会話

グループ検索 会話

グループ値訂正 会話

グループ追加 会話

## メソッド呼び出し：再描画

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	すべて

### 説明

- 指定したオブジェクトの操作結果だけをウィンドウ上に反映させるために、再描画を予約します。
- このメソッドは、変数をソースに指定しているオブジェクトの再描画を制御するために使用します。たとえば、同じ変数値をソースにしているオブジェクトがふたつあるとき、一方のオブジェクトの値だけを、画面上に表示するために使用します。
- 再描画を予約したオブジェクトは、[描画更新]メソッドで再描画させることができます。
- [描画更新]メソッドを使用しなかった場合は、イベントハンドラがすべて終了したときに再描画されます。

### 記述例

[テスト\_1]と[テスト\_2]の[ソース]が &進行状況のとき、&進行状況の値が 1 繰り上がるごとに [テスト\_1]を再描画し、50 繰り上がるごとに [テスト\_2]を再描画します。

```
名札 メイン
  変数宣言  局所,整数{ &進行状況 }
  *
  手続き定義開始  経過状況( )
  繰り返し      &進行状況 = 0 , 200
  メソッド呼び出し  @テスト_1.再描画( 0 )
  if ( #mod( &進行状況, 50 ) = 0 )
    メソッド呼び出し  @テスト_2.再描画( 0 )
  end
  メソッド呼び出し  @フォーム.描画更新( )
  繰り返し終了
  手続き定義終了
```

### 構文

```
メソッド呼び出し
  ハンドル = <ハンドル> , ¥
  戻り値 = <変数名> , ¥
  <オブジェクト名>.再描画( 1 | 0 )
```

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つねに1が代入されます。

**<オブジェクト名>**

オブジェクトの名前を指定します。

1 | 0

再描画するレコード数に応じて、1または0を指定します。

引数	意味
1	全レコードを再描画します。
0	処理対象行の指定したオブジェクトのみを再描画します。 おもに、一覧表形式または伝票形式のフォームで、処理対象行のオブジェクトだけを再描画する場合に指定します。 再描画するオブジェクトとして、「@フォーム明細部」または「@フォーム」を指定した場合は、1と同じ結果になります。

**ノート**

- [オブジェクト操作]コマンドで直接、オブジェクトの属性を変更した場合、または対象となるオブジェクトの編集属性式に変数が指定されている場合は、このメソッドを実行しなくとも再描画されます。
- レコードの更新結果を描画するタイミングは、制御する手段がありません。レコードの更新結果は、ただちに反映されます。

## メソッド呼び出し：実行

一括処理での実行	×不可
対象オブジェクト	コントロール

### 説明

- 指定した [コントロール] の機能を実行します。
- 入力支援ボタンは実行できません。

### 構文

メソッド呼び出し  
ハンドル = <ハンドル> , ¥  
戻り値 = <変数名> , ¥  
<コントロール> . 実行 ( )

### パラメータ

#### ハンドル = <ハンドル>

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル = 」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

#### 戻り値 = <変数名>

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	正常終了。
0	実行できない。またはエラーで終了した。

#### <コントロール>

オブジェクトの名前を指定します。

## メソッド呼び出し：セクション種別

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	フォームフック部   フォームヘッダ部   フォーム明細部

### 説明

- 指定したオブジェクトがセクションであるかどうかを調べて、その結果を<変数名>に代入します。

### 構文

メソッド呼び出し

ハンドル = <ハンドル> , ¥

戻り値 = <変数名> , ¥

@フォーム明細部 | @フォームフック部 | @フォームヘッダ部. セクション種別 ( <変数名> )

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つねに 1 が代入されます。

**@フォーム明細部 | @フォームフック部 | @フォームヘッダ部**

オブジェクトの名前を指定します。

**<変数名>**

取得したセクション番号を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

番号	セクション名
1	フォームヘッダ部
2	フォーム明細部
3	フォームフック部

## メソッド呼び出し：ソース値取得

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	グループボックス   コントロールボックス   テキストボックス

### 説明

- [テキストボックス]、[コントロールボックス]、[グループボックス]の[ソース]に設定された値または式の計算結果を取得します。

### 記述例

- [テキストボックス]のソース値を取得します。[テキストボックス]の[ソース]に、[単価] \* [金額] が設定されている場合、この例の &money には、その計算結果が通貨型で代入されます。  
変数宣言 通貨 { &money }  
メソッド呼び出し @金額.ソース値取得 ( &money, 0 )
- [テキストボックス]の表示文字列を取得します。指定した [テキストボックス]の [位取りコマ]が「する」、かつ [通貨記号]が「¥」になっている場合には、この例の &STR に「¥25,800」などの表示文字列が代入されます。  
メソッド呼び出し @金額.ソース値取得 ( &STR, 2 )

### 構文

メソッド呼び出し  
ハンドル = <ハンドル> , ¥  
戻り値 = <変数名> , ¥  
<テキストボックス> | <グループボックス> | <コントロールボックス> .  
ソース値取得 ( <変数名> , <取得モード> )

### パラメータ

#### ハンドル = <ハンドル>

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

#### 戻り値 = <変数名>

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	取得できた。
0	取得できない。

<テキストボックス> | <グループボックス> | <コンボボックス>

オブジェクトの名前を指定します。

<変数名>

取得したソース値を代入する変数名を指定します。

<取得モード>が0のときは、ソース値と同じデータ型の変数を指定します。

それ以外の<取得モード>のときは、文字列型の変数を指定します。

<取得モード>

つぎの番号を指定します。

番号	取得モード
0	オブジェクトの[ソース]に指定した値と同じデータ型のまま取得する。
1	編集文字列として取得する。
2	表示文字列として取得する。

## メソッド呼び出し：描画更新

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	フォーム

### 説明

- [再描画]メソッドまたは[変数変更]メソッドで再描画が予約されたオブジェクトを、ただちに更新するためのメソッドです。
- 通常は、[再描画]メソッドまたは[変数変更]メソッドのあとに記述します。

### 記述例

[テキスト\_1]と[テキスト\_2]の[ソース]が &進行状況のとき、&進行状況の値が 1 繰り上がるごとに [テキスト\_1]を再描画し、50 繰り上がるごとに [テキスト\_2]を再描画します。

```
名札 メイン
  変数宣言  局所,整数{ &進行状況 }
  *
  手続き定義開始  経過状況( )
    繰り返し  &進行状況 = 0 , 200
      メソッド呼び出し  @テキスト_1.再描画( 0 )
      if ( #mod( &進行状況, 50 ) = 0 )
        メソッド呼び出し  @テキスト_2.再描画( 0 )
      end
    メソッド呼び出し  @フォーム.描画更新( )
  繰り返し終了
  手続き定義終了
```

### 構文

```
メソッド呼び出し
  ハンドル = <ハンドル> , ¥
  戻り値 = <変数名> , ¥
  @フォーム.描画更新( )
```

### パラメータ

#### ハンドル = <ハンドル>

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

#### 戻り値 = <変数名>

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つねに1が代入されます。

**@フォーム**

オブジェクトの名前を指定します。

**ノート**

- レコードの更新結果を描画するタイミングは、制御する手段がありません。レコードの更新結果は、ただちに反映されます。

## メソッド呼び出し：表示倍率の設定

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	フォーム

### 説明

- フォームの表示倍率を、指定した倍率に変更します。
- このメソッドは、メインフォームに対してのみ有効です。

### 構文

メソッド呼び出し  
ハンドル = <ハンドル> , ¥  
戻り値 = <変数名> , ¥  
@フォーム.表示倍率の設定 ( <倍率> )

### パラメータ

#### ハンドル = <ハンドル>

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

#### 戻り値 = <変数名>

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	正常終了。
0	パラメータが範囲外。

#### @フォーム

オブジェクトの名前を指定します。

#### <倍率>

つぎの数値を指定します ( 計算式 )。

倍率	補足
10 ~ 400	指定した倍率 ( パーセント ) で表示します。
-5	ウィンドウのサイズにあわせて表示。
-10	ポイント / ピクセル表示にします。

## メソッド呼び出し：フォーカスオブジェクト取得

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	フォーム

### 説明

- フォーカスがあるオブジェクトの名前を、<変数名>に代入します。
- サブフォーム内のオブジェクトにフォーカスがあるときに、メインフォームのフォーカスを調べると、フォーカスがあるサブフォームの名前が代入されます。サブフォーム内のオブジェクト名が代入されるわけではありません。
- メインフォーム上のオブジェクトにフォーカスがあるときに、サブフォーム内のフォーカスを調べると、未定義になります。

### 記述例

- フォーカスがあるオブジェクトの名前を取得します。

```
変数宣言 文字列{ &focus }
メソッド呼び出し @フォーム.フォーカスオブジェクト取得( &focus )
```
- メインフォーム内でフォーカスがあるオブジェクトの名前を取得します。[サブフォーム]にフォーカスがある場合は、サブフォームのオブジェクト名が代入されます。ウィンドウハンドルで使用している &hwindow は、フォームに組み込まれている局所変数です。この定数には、フォーム自身のウィンドウハンドルが代入されています。

```
変数宣言 文字列{ &focus }
メソッド呼び出し ハンドル = &hwindow , ¥
@フォーム.フォーカスオブジェクト取得( &focus )
```
- サブフォーム内のフォーカスがあるオブジェクト名を取得します。この例では、[サブフォーム]のオブジェクト名を「氏名の一覧」とします。

```
変数宣言 文字列{ &focus }
メソッド呼び出し @氏名の一覧.フォーカスオブジェクト取得( &focus )
```
- 「ハンドル = 2」のフォームでフォーカスがあるオブジェクトの名前を取得して、そのオブジェクトに編集文字列を設定します。

```
変数宣言 文字列{ &focus }
メソッド呼び出し ハンドル = 2 , ¥
@フォーム.フォーカスオブジェクト取得( &focus )
if ( &focus )
    メソッド呼び出し ハンドル = 2 , ¥
    &focus.編集文字列設定( &STR )
end
```

### 構文

```
メソッド呼び出し
ハンドル = <ハンドル> , ¥
戻り値 = <変数名> , ¥
<オブジェクト名>.フォーカスオブジェクト取得( <変数名> )
```

## パラメータ

### ハンドル = <ハンドル>

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

### 戻り値 = <変数名>

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの領域番号が代入されます。

番号	領域種別
0	フォーカスのあるオブジェクトはない
10	テキストボックス
14	グループ項目
20	グループボックス
30	コマンドボタン
35	トグルボタン
70	リストボックス
110	サブフォーム
200	テキスト

### <オブジェクト名>

オブジェクトの名前を指定します。

### <変数名>

取得したオブジェクト名を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、文字列型でなければいけません。

## メソッド呼び出し：フォーカス設定

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	グループ項目   コントロール   サブフォーム   テキストボックス   トグルボタン   リストボックス

### 説明

- 指定したオブジェクトに、フォーカスを移します。
- 通常、フォーカスは、[Tab] キーまたは [Shift] + [Tab] キー、方向キーなどのキーでも移ります。フォーカスを移す順番を細かく制御するためには、これらのキーが押されたどうかを調べ、それに応じた処理を記述しなければいけません。これらのキーを調べてフォーカスを制御する場合は、つぎのイベントのハンドラで使用します。
  - [キダウ] イベント
  - [シフトキダウ] イベント
- [ピクチャ] などのオブジェクトをボタンの代わりとして使用して、クリックされたら特定のオブジェクトにフォーカスを移すようにする場合は、つぎのイベントのハンドラで使用します。
  - [マウス左ダウ] イベント
  - [マウス左クリック] イベント

### 記述例

- フォーカスを「氏名」に移します。

```
メソッド呼び出し @氏名.フォーカス設定()  
または  
変数宣言 文字列 { &obj = "氏名" }  
メソッド呼び出し &obj.フォーカス設定()
```
- フォーカスを、サブフォーム内に配置されているオブジェクトに移します。この例では、[サブフォーム] のオブジェクト名を「氏名の一覧」、フォーカスを移すオブジェクト名を「氏名」とします。

```
メソッド呼び出し @氏名の一覧.&氏名.フォーカス設定()  
または  
変数宣言 文字列 { &subWfm, &obj }  
&subWfm = "氏名の一覧"  
&obj = "氏名"  
メソッド呼び出し &subWfm.&obj.フォーカス設定()
```
- フォーカスをメインフォーム上のオブジェクトに移します。この例では、フォーカスを移すメインフォーム上のオブジェクト名を「氏名」とします。ウィンドウハンドルに指定している &hwindow は、フォームに組み込まれている局所変数です。この定数には、フォーム自身のウィンドウハンドルが代入されています。

```
メソッド呼び出し ハンドル = &hwindow, @氏名.フォーカス設定()
```

### 構文

```
メソッド呼び出し  
ハンドル = <ハンドル>, ¥  
戻り値 = <変数名>, ¥  
<オブジェクト名>.フォーカス設定()
```

## パラメータ

### ハンドル = <ハンドル>

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。  
無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

### 戻り値 = <変数名>

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	フォーカスを移した。
0	フォーカスを移せなかった。
-1	フォーカス設定できないハンドラ内で実行した。

### <オブジェクト名>

オブジェクトの名前を指定します。

## メソッド呼び出し：フォーカス設定検査

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	グループ項目   コントロール   サブフォーム   テキストボックス   トグルボタン   リストボックス

### 説明

- 指定したオブジェクトに、フォーカスを移せるかどうかを調べます。

### 記述例

絞り込み解除を割り当てた [コントロール] に、フォーカスを移せるかどうか調べます。この例では、検査する [コントロール] のオブジェクト名を「b解除」とします。

```
メソッド呼び出し 戻り値 = &検査結果, @b解除.フォーカス設定検査()
```

### 構文

メソッド呼び出し

```
ハンドル = <ハンドル>, ¥
```

```
戻り値 = <変数名>, ¥
```

```
<オブジェクト名>.フォーカス設定検査()
```

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	フォーカスを移すことが可能。
0	フォーカスを移すことは不可能。

**<オブジェクト名>**

オブジェクトの名前を指定します。

## メソッド呼び出し：フォーム選択

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	フォーム

### 説明

- 対象表の使用フォームを、指定したフォームに切り替えます。
- このメソッドの実行は、すべてのイベントハンドラが終了するまで、遅延されます。
- このメソッドは、メインフォームに対してのみ有効です。

### 構文

メソッド呼び出し

ハンドル = <ハンドル> , ¥

戻り値 = <変数名> , ¥

@フォーム. **フォーム選択**( <フォーム ファイル名> )

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	正常終了。
その他	エラー。

**@フォーム**

オブジェクトの名前を指定します。

**<フォーム ファイル名>**

切り替えるフォームのファイル名を指定します（計算式）。

フォームの拡張子は「.wfm」に固定です。それ以外の拡張子を指定した場合はファイル名の最後に「.wfm」を付加します。

現在のデータベース上にないフォームを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

## メソッド呼び出し：プロパティ属性

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	すべて

### 説明

- 指定したオブジェクトに該当する属性があるかどうか。また、その属性が変更可能であるかどうかを調べます。

### 構文

メソッド呼び出し

ハンドル = <ハンドル> , ¥

戻り値 = <変数名> , ¥

<オブジェクト名>.プロパティ属性( <属性名> , <変数名> )

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	指定した属性が、オブジェクトにある
0	指定した属性は、オブジェクトにはない
-1	属性名が間違っている。

**<オブジェクト名>**

オブジェクトの名前を指定します。

**<属性名>**

調査するオブジェクト属性の名前を指定します（計算式）。

**<変数名>**

変更可能かどうかを代入する、変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変更可能かどうかを調べない場合は、省略してかまいません。

この変数には、つぎの番号が代入されます。

番号	意味
1	変更可能な属性
0	変更不可能な属性

## メソッド呼び出し：編集選択位置取得

一括処理での実行	×不可
対象オブジェクト	グループ項目   テキストボックス

### 説明

- [テキストボックス]または[グループ項目]オブジェクト内の文字カーソル位置と、範囲選択されている文字列の文字数を取得します。
- 入力を開始した直後の文字カーソル位置と選択文字数は、つねに1と0です。フォーカスを失ったオブジェクトの文字カーソル位置と選択文字数も1と0になります。
- このメソッドは、対象オブジェクトがフォーカスを持っており、かつ入力中のときに実行しなければ意味がありません。たとえば、[フォーカス取得]イベントや[入力前]イベントは、入力状態に入る前のイベントなので、このハンドラ内で実行しても意味がありません。

### 記述例

- 文字列の選択範囲を、現在の文字位置から、編集文字列の末尾までとします。  
メソッド呼び出し @メモ.編集選択位置取得( &pos, &cnt )  
メソッド呼び出し @メモ.編集選択位置設定( &pos, -1 )

### 構文

メソッド呼び出し  
ハンドル = <ハンドル>, ¥  
戻り値 = <変数名>, ¥  
<テキストボックス> | <グループ項目>.  
編集選択位置取得( <変数名1>, <変数名2> )

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します(計算式)。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	取得した。
0	文字列が選択されていなかった。
-1	入力状態ではなかった。

<テストボックス> | <グループ項目>

オブジェクトの名前を指定します。

<変数名1>

文字カーソルの位置を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

<変数名2>

選択されている文字数を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

## メソッド呼び出し：編集選択位置設定

一括処理での実行	×不可
対象オブジェクト	グループ項目   テキストボックス

### 説明

- [テキストボックス]または[グループ項目]オブジェクト内の文字カーソル位置を変更します。
- あるいは、その文字位置から指定した文字数の文字列を範囲選択します。
- このメソッドは、対象オブジェクトがフォーカスを持っており、かつ入力中のときに実行しなければ意味がありません。たとえば、[フォーカス取得]イベントや[入力前]イベントは、入力状態に入る前のイベントなので、このハンドラ内で実行しても意味がありません。

### 記述例

- 文字カーソル位置を先頭から4文字目に移動します。  
メソッド呼び出し @メモ.編集選択位置設定(4,0)
- 編集文字列をすべて範囲選択します。  
メソッド呼び出し 戻り値 = &文字数, @メモ.編集選択位置設定(1, -1)
- 文字列の範囲選択を解除します。文字カーソルの位置は、選択した文字列の末尾に移動します。  
メソッド呼び出し @メモ.編集選択位置設定(0,0)
- 文字列の選択範囲を、右に1文字広げます。  
メソッド呼び出し @メモ.編集選択位置取得(&pos, &cnt)  
メソッド呼び出し @メモ.編集選択位置設定(&pos, &cnt + 1)
- 編集文字列から &検索文字列と同じ文字列を検索し、最初に該当する文字列を範囲選択します。  
メソッド呼び出し @メモ.編集文字列取得(&編集文字列)  
メソッド呼び出し @メモ.編集選択位置設定 ¥  
( #文字位置(&編集文字列, &検索文字列), #文字数(&検索文字列) )

### 構文

```
メソッド呼び出し  
ハンドル = <ハンドル>, ¥  
戻り値 = <変数名>, ¥  
<テキストボックス> | <グループ項目>.  
編集選択位置設定(<文字位置>, <選択文字数>)
```

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します(計算式)。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	設定できた。
0	選択できなかった。
-1	入力モードではなかった。

**<テストボックス> | <グループ項目>**

オブジェクトの名前を指定します。

**<文字位置>**

文字カーソルの位置を整数で指定します（計算式）。

文字列の選択を解除して、文字カーソルを選択文字列の末尾にする場合は、0を指定します。

編集文字列以上の数値を指定した場合は、編集文字列の末尾に移動します。

**<選択文字数>**

文字カーソル位置から選択する文字数を、整数で指定します（計算式）。

末尾までの文字列を選択する場合は、-1を指定します。

-1以外の負の数を指定した場合は、文字カーソル位置も範囲選択も設定されません。実行前の状態を継続します。

## メソッド呼び出し：編集選択文字列置換

一括処理での実行	× 不可
対象オブジェクト	グループ項目   テキストボックス

### 説明

- [テキストボックス]内または[グループ項目]オブジェクト内で範囲選択している文字列を置き換えます。
- 文字列が選択されていない場合は、文字カーソルの位置に挿入することになります。
- このメソッドは、対象オブジェクトがフォーカスを持っており、かつ入力中のときに実行しなければ意味がありません。たとえば、[フォーカス取得]イベントや[入力前]イベントは、入力状態に入る前のイベントなので、このハンドラ内で実行しても意味がありません。

### 記述例

- 範囲選択されている文字列を削除します。  
メソッド呼び出し 戻り値 =&文字数, @メモ.編集選択文字列置換( "" )
- 編集文字列から &検索文字列と同じ文字列を検索し、最初に該当する文字列を、&置換文字列に置き換えます。  
メソッド呼び出し @メモ.編集文字列取得( &編集文字列 )  
if ( #文字位置( &編集文字列, &検索文字列 ) > 1 )  
メソッド呼び出し @メモ.編集選択位置設定 ¥  
( #文字位置( &編集文字列, &検索文字列 ), #文字数( &検索文字列 ) )  
メソッド呼び出し @メモ.編集選択文字列置換( &置換文字列 )  
end

### 構文

```
メソッド呼び出し  
ハンドル = <ハンドル>, ¥  
戻り値 = <変数名>, ¥  
<テキストボックス> | <グループ項目>.  
編集選択文字列置換( <文字列> )
```

### パラメータ

#### ハンドル = <ハンドル>

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します(計算式)。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

#### 戻り値 = <変数名>

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	置換後の文字数。
0	設定できなかった。
-1	入力状態ではなかった。

**<テストボックス> | <グループ項目>**

オブジェクトの名前を指定します。

**<文字列>**

置き換える文字列を指定します（計算式）。

選択文字列を削除する場合は、未定義を指定します。

## メソッド呼び出し：編集文字列取得

一括処理での実行	×不可
対象オブジェクト	グループ項目   テキストボックス

### 説明

- [テキストボックス]または[グループ項目]オブジェクトから編集文字列を取得して、<変数名>に代入します。
- 対象となるフォームが表示モードの場合は、取得することができません。表示モードのフォームから編集文字列を取得する場合は、[ソース値取得]メソッドを使用してください。
- このメソッドは、対象オブジェクトがフォーカスを持っており、かつ入力中のときに実行しなければ意味がありません。たとえば、[フォーカス取得]イベントや[入力前]イベントは、入力状態に入る前のイベントなので、このハンドラ内で実行しても意味がありません。

### 構文

メソッド呼び出し

```
ハンドル = <ハンドル> , ¥  
戻り値 = <変数名> , ¥  
<テキストボックス> | <グループ項目> .  
編集文字列取得 ( <変数名> )
```

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
0以上	取得した文字数。
-1	入力状態ではなかった。

**<テキストボックス> | <グループ項目>**

オブジェクトの名前を指定します。

**<変数名>**

取得した編集文字列を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、文字列型でなければいけません。

## メソッド呼び出し：編集文字列設定

一括処理での実行	×不可
対象オブジェクト	グループ項目   テキストボックス

### 説明

- [テキストボックス]または[グループ項目]オブジェクトの編集文字列を置き換えます。
- オブジェクト内の、すべての編集文字列が置き換わります。
- 設定後は、文字位置が先頭になります。範囲選択されていた場合は解除されます。
- [テキストボックス]のエディタ内で、選択している文字列だけを置き換える場合は、[編集選択文字列置換]メソッドを使用してください。
- 対象となるフォームが表示モードの場合は、設定することができません。
- このメソッドは、対象オブジェクトがフォーカスを持っており、かつ入力中のときに実行しなければ意味がありません。たとえば、[フォーカス取得]イベントや[入力前]イベントは、入力状態に入る前のイベントなので、このハンドラ内で実行しても意味がありません。

### 構文

メソッド呼び出し

```
ハンドル = <ハンドル> , ¥  
戻り値 = <変数名> , ¥  
<テキストボックス> | <グループ項目> .  
編集文字列設定 ( <文字列式> )
```

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
0以上	設定後の文字数。
-1	入力状態ではなかった。

**<テキストボックス> | <グループ項目>**

オブジェクトの名前を指定します。

**<文字列式>**

置き換える文字列を指定します（計算式）。

## メソッド呼び出し：編集文字列長

一括処理での実行	×不可
対象オブジェクト	グループ項目   テキストボックス

### 説明

- [テキストボックス]または[グループ項目]オブジェクトから、編集文字列の文字数を取得して、<変数名>に代入します。
- このメソッドは、対象オブジェクトがフォーカスを持っており、かつ入力中のときに実行しなければ意味がありません。たとえば、[フォーカス取得]イベントや[入力前]イベントは、入力状態に入る前のイベントなので、このハンドラ内で実行しても意味がありません。

### 構文

メソッド呼び出し

```
ハンドル = <ハンドル>, ¥  
戻り値 = <変数名>, ¥  
<テキストボックス> | <グループ項目>.  
編集文字列長 (<変数名>)
```

### パラメータ

**ハンドル = <ハンドル>**

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	意味
1	取得した。
0	取得できなかった。
-1	入力状態ではなかった。

**<テキストボックス> | <グループ項目>**

オブジェクトの名前を指定します。

**<変数名>**

取得した文字数を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

## メソッド呼び出し：変数変更

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	フォーム

### 説明

- 変数を使用しているフォーム上のオブジェクトを、すべて再描画するよう予約します。
- 予約した再描画は、イベントハンドラがすべて終了したときに実行されます。
- イベントハンドラ内（または一括処理内）で変更した変数の値は、そのままではフォーム上に反映されません。このメソッドを使用して、対象オブジェクトの再描画を予約する必要があります。
- [テキストボックス]で入力中の変数値は、このメソッドで更新できません。[テキストボックス]で入力中の変数値を更新する場合は、[編集文字列設定]メソッドを使用してください。
- [サブフォーム名]または[グループ値リスト]に変数を使用している[サブフォーム]は、このメソッドを使用しないと、再描画がスケジュールされませんので注意してください。サブフォームの変更は、イベントハンドラの処理が、すべて終了したあとになります。

### 記述例

[リストボックス]の[選択値]に設定している配列変数の値を手続き内で変更し、その変更結果を画面に反映させます（&分類リストの配列要素数は64とします）。

```
手続き定義開始 商品分類取得( )
  変数宣言 長整数{ &要素番号 }
  &分類リスト = { "" }
  表 "商品分類.tbl"
  絞り込み 行数 = 64
  並べ替え { [分類名のよみ]昇順 }
  繰り返し ( .not #eof )
    &要素番号 = #行番号
    &分類リスト[ &要素番号 ] = [分類名]
  ジャンプ 行番号 = 次行
  繰り返し終了
  中止 表 編集対象表
  メソッド呼び出し @フォーム.変数変更( )
手続き定義終了
```

### 構文

```
メソッド呼び出し
  ハンドル = <ハンドル> , ¥
  戻り値 = <変数名> , ¥
  @フォーム.変数変更( )
```

### パラメータ

```
ハンドル = <ハンドル>
  処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します（計算式）。
  無効なハンドルを指定するとエラーになります。
```

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

**戻り値 = <変数名>**

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つねに 1 が代入されます。

**@フォーム**

オブジェクトの名前を指定します。

## メソッド呼び出し：領域種別

一括処理での実行	可能
対象オブジェクト	すべて

### 説明

- 指定したオブジェクトの種類を調べて、その種別を表わす番号を<変数名>に代入します。
- 指定したオブジェクトが[テキストボックス]なのか[ピクチャ]オブジェクトなのか、[コマンドボタン]なのか、...などを調べることができます。

### 構文

```
メソッド呼び出し  
ハンドル = <ハンドル> , ¥  
戻り値 = <変数名> , ¥  
<オブジェクト名> .  
領域種別 ( <変数名> )
```

### パラメータ

#### ハンドル = <ハンドル>

処理対象となるフォームウィンドウのハンドルを指定します ( 計算式 )。

無効なハンドルを指定するとエラーになります。

イベントハンドラ内で、自身のフォームを操作する場合は、このパラメータを省略できます。

サブフォームからメインフォームを処理対象にする場合は、「ハンドル=」に &hwindow を指定します。&hwindow はフォーム組み込みの局所変数です。この変数には自身のウィンドウハンドルが格納されています。

一括処理から実行する場合は、このパラメータを省略してはいけません。

#### 戻り値 = <変数名>

戻り値を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つねに 1 が代入されます。

#### <オブジェクト名>

オブジェクトの名前を指定します。

#### <変数名>

取得した領域種別番号を代入する変数名を指定します。

指定する変数のデータ型は、数値、通貨、整数、長整数、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの番号が代入されます。

番号	領域種別
0	領域ではない
1	ラベル
10	テキストボックス
14	グループ項目
20	グループボックス
30	コマンドボタン
35	トグルボタン
60	コンボボックス
70	リストボックス
75	入力支援ボタン
80	ピクチャ
92	楕円
96	扇形
98	角丸め矩形
110	サブフォーム
120	グラフ
130	バーコード
200	テレク

# メッセージボックス

コマンドの別名	messagebox
イベントでの使用	可能

## 説明

- メッセージボックスを出して、利用者の確認を待ちます。
- 「ボタン指定 = 」に 3 のいずれかを指定した場合は、タイトルバー上の [ × ] ボタンが使用禁止になります。
- 表示文字列を途中で改行するには「制御文字展開 = する」を指定して、改行する位置で ¥n を挿入します。¥t を指定すると、表示文字列の中にタブコードを含めことができます。

## 構文

```
メッセージボックス ¥  
  <タイトル> , ¥  
  <表示文字列> , ¥  
  アイコン = i | ? | ! | E | , ¥  
  ボタン指定 = 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 , ¥  
  制御文字展開 = しない | する , ¥  
  <整数型の変数名>
```

## パラメータ

### <タイトル>

タイトルに表示する文字列を指定します (計算式)。

### <表示文字列>

メッセージボックス内に表示する文字列を指定します (計算式)。

### アイコン = i | ? | ! | E |

メッセージボックスにアイコンをつける場合は、アイコンの種類を指定します (定数)。  
アイコンをつけない場合は、このパラメータそのものを省略します。

指定値	アイコン
!	警告
?	問い合わせ
i	情報
E	エラー

### ボタン指定 = 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6

メッセージボックス上に配置する、ボタンの組み合わせを番号で指定します (計算式)。  
このパラメータを省略すると、[OK] ボタンだけが配置されます。

指定値	配置するボタン
1	[OK]のみ
2	[OK]と[キャンセル]
3	[中止]、[再試行]、[無視]
4	[はい]、[いいえ]、[キャンセル]
5	[はい]、[いいえ]
6	[再試行]、[キャンセル]

### 制御文字展開 = しない | する

つぎの文字を、制御文字として展開するかどうかを指定します。

機能文字	説明
¥t	タブ
¥n	改行

¥nと¥tを通常の文字列として表示する場合は、¥¥nと¥¥tに置き換えてください。  
このパラメータを省略した場合は、環境設定の設定に従います。

### < 整数型の変数名 >

クリックしたボタン番号を代入する変数名を指定します。ボタン番号を取得する必要がない場合は、このパラメータを省略してかまいません。

指定する変数のデータ型は、長整数、数値、通貨、実数でもかまいません。

< 変数名 > には、つぎのボタン番号が代入されます。

戻り値	ボタン番号
1	[OK]
2	[キャンセル] ([×] ボタンで閉じたときの値)
3	[中止]
4	[再試行]
5	[無視]
6	[はい]
7	[いいえ]

## メニュー

コマンドの別名	menu1
イベントでの使用	× 不可

### 説明

- [一括処理実行]ウィンドウ内に、テキスト形式のメニューを表示します。
- [一括処理実行]ウィンドウを使用していない場合は、実行できません。
- メニュー項目が選択されたら、対応する番号を<変数名>に代入します。
- 最大で 200 個のメニュー項目を表示できます。
- メニュー項目を、マウスで選択することはできません。

### 記述例

- メニュー項目の先頭文字でメニュー選択可能なメニューを表示します。  
メニュー &処理番号, 初期項目 = 2, 文字選択 = する, ¥  
{ 0, 1, 1, "【顧客管理】" }, ¥  
{ 1, 4, 5, "A.登録" }, ¥  
{ 2, 6, 5, "U.訂正" }, ¥  
{ 3, 8, 5, "D.削除" }, ¥  
{ 4, 10, 5, "Q.終了" }, ¥  
{ -1, 23, 1, "処理を選択してください。" }

### 構文

```
メニュー ¥  
  <変数名>, ¥  
  初期項目 = <メニュー番号>, ¥  
  画面消去 = しない | する, ¥  
  文字選択 = しない | する, ¥  
  ESC = 無効 | 有効, ¥  
  { <メニュー番号>, <開始行>, <開始桁>, <文字列>, <表示色>, 下線, 反転 },  
  ...
```

### パラメータ

#### <変数名>

利用者が選択したメニュー項目の<メニュー番号>を代入する変数を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

#### 初期項目 = <メニュー番号>

メニューを表示した直後、どのメニュー項目にカーソルを置くかを指定します（計算式）。  
0 以下の値を指定した場合は、画面の左上隅からみて、もっとも近いメニュー項目にカーソルを置きます。

#### 画面消去 = しない | する

このコマンドを実行する前に、[一括処理実行]ウィンドウ内のテキストを、すべて削除するかどうかを指定します。「画面消去=する」を指定した場合は、表とフォームのウィンドウも閉じられます。

**文字選択 = しない | する**

メニュー項目の先頭の半角文字のキーを押して、メニューを選択できるようにするかどうかを指定します。

「しない」を指定した場合は、方向キーだけで選択します。

**ESC = 無効 | 有効**

[Esc]キーで、このコマンドを終了できるようにするかどうかを指定します。

「有効」を指定して実行したときに [Esc] キーが押された場合は、<変数名>に 0 が代入されます。

**{ <メニュー番号> , <開始行> , <開始桁> , <文字列> , <表示色> , 下線 , 反転 } , ...**

メニュー項目の番号と表示開始位置、メニュー項目として表示する文字列を指定します (定数または変数)。

メニュー項目の内容は、{ } でくくって指定します。

メニューのタイトルなどのように、表示するだけの項目は、0 を指定します。

ガイドメッセージなどのように、コマンド終了時に消去する項目は、-1 を指定します。

## メニュー 2

コマンドの別名	menu2
イベントでの使用	可能

### 説明

- [一括処理実行] ウィンドウ内にポップアップメニューを表示します。
- メニュー項目が選択されたら、対応する番号を<変数名>に代入します。
- [Esc] キーまたはタイトルバーの [ × ] ボタンでメニューの選択をキャンセルした場合は、0 を代入します。
- 表示できるメニュー項目の数は、35 個までです。
- このウィンドウの最大幅は、一括処理ファイルのファイル属性で設定したフォントサイズで 80 桁です。
- このコマンドは、ポップアップメニューと書いてもかまいません。

### 記述例

- 2 段のポップアップメニューを表示します。  
メニュー 2 &メニュー番号, 5, "処理メニュー", ¥  
"登録,訂正,削除", "検索,整列,印刷"

### 構文

```
メニュー 2 ¥  
  <変数名>, ¥  
  <初期値>, ¥  
  ( <開始行>, <開始桁> ), ¥  
  <表題文字列>, ¥  
  <メニュー項目リスト>, ¥  
  <メニュー項目リスト(右)>
```

### パラメータ

#### <変数名>

選択したメニュー番号を代入する変数を指定します。

指定する変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

#### <初期値>

ポップアップメニューを表示した直後、どのメニュー項目にカーソルを置くかを指定します (計算式)。

0 以下の値を指定した場合は、最初のメニュー項目にカーソルを置きます。

#### ( <開始行>, <開始桁> )

[一括処理実行] ウィンドウ内での表示開始位置を、数値で指定します (計算式)。

<開始行> と <終了行> は 1 ~ 25 行まで、<開始桁> と <終了桁> は 1 ~ 80 桁まで指定できます。

**<表題文字列>**

ポップアップメニューのタイトルバーに表示する文字列を指定します（計算式）。

**<メニュー項目リスト>**

メニュー項目を半角または全角のコンマで区切って指定します（計算式）。  
文字列定数で指定する場合は、メニュー項目全体を二重引用符でくくります。

**<メニュー項目リスト（右）>**

二段組みのポップアップメニューにする場合は、右側のメニュー項目を半角または全角のコンマで区切って指定します（計算式）。  
このパラメータを省略すると、1段のポップアップメニューになります。

## メニュー 3

コマンドの別名	menu3
イベントでの使用	可能

### 説明

- [一括処理実行]ウィンドウ内にリスト形式のポップアップメニューを表示します。
- メニュー項目が選択されたら、対応する番号を<変数名>に代入します。
- [Esc] キーまたはタイトルバーの [ × ] ボタンでメニューの選択をキャンセルした場合は、0 を代入します。
- このウィンドウの最大幅は、一括処理ファイルのファイル属性で設定したフォントサイズで 80 桁までです。

### 構文

```
メニュー 3   ¥  
            <変数名> , ¥  
            <初期値> , ¥  
            ( <開始行> , <開始桁> ) , ¥  
            <表題文字列> , ¥  
            <メニュー項目リスト> , ¥  
            <ガイド>
```

### パラメータ

#### <変数名>

選択したメニュー番号を代入する変数を指定します。

指定する変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

#### <初期値>

ポップアップメニューを表示した直後、どのメニュー項目にカーソルを置くかを指定します (計算式)。

0 以下の値を指定した場合は、最初のメニュー項目にカーソルを置きます。

#### ( <開始行> , <開始桁> )

[一括処理実行]ウィンドウ内での表示開始位置を、数値で指定します (計算式)。

<開始行> と <終了行> は 1 ~ 25 行まで、<開始桁> と <終了桁> は 1 ~ 80 桁まで指定できます。

#### <表題文字列>

ポップアップメニューのタイトルバーに表示する文字列を指定します (計算式)。

#### <メニュー項目リスト>

メニュー項目を半角または全角のコンマで区切って指定します (計算式)。

文字列定数で指定する場合は、メニュー項目全体を二重引用符でくくります。

**<ガイド>**

ポップアップメニューの下にガイドメッセージを表示する場合は、その文字列を指定します（計算式）。

# 文字入力

イベントでの使用

x 不可

## 説明

- [一括処理実行] ウィンドウ内の指定した場所にガイドメッセージを表示して、文字キーが押されるまで待ちます。
- 文字キーが押されたら、その文字を<変数名>に代入して、つぎのコマンドに移ります。
- [一括処理実行] ウィンドウがない場合は、文字列を入力するダイアログボックスを出します。

## 記述例

- 数字が入力されるまで待ちます。  
文字入力 ( 01, 01 ), プロンプト = "数字を入力してください ( 中止 : ESC ) ", ¥  
バッファクリア = する, &No

## 構文

文字入力 ¥  
( <開始行> , <開始桁> ) - ( <終了行> , <終了桁> ) | ( <開始行> , <開始桁> ) , ¥  
プロンプト = <文字列> , ¥  
バッファクリア = する | しない , ¥  
<変数名>

## パラメータ

( <開始行> , <開始桁> ) - ( <終了行> , <終了桁> ) | ( <開始行> , <開始桁> )  
[一括処理実行] ウィンドウ内で表示する領域を、数値で指定します ( 計算式 ) 。  
<開始行> と <終了行> に指定できるのは 1 ~ 25 行まで。  
<開始桁> と <終了桁> に指定できるのは 1 ~ 80 までです。  
終了位置を省略すると、<開始行> の <開始桁> から 80 桁までになります。

### プロンプト = <文字列>

入力をうながすためのガイド文字列を指定します ( 計算式 ) 。  
指定したガイド文字列は ( <開始行> , <開始桁> ) で指定した位置から表示されます。  
入力する場所は、そのガイド文字列のうしろになります。  
[一括処理実行] ウィンドウを使用していないときは、指定が無効になります。

### バッファクリア = する | しない

このコマンドを実行する前に、キーボードバッファをクリアするかどうかを指定します。

### <変数名>

入力された文字を代入する変数を指定します。日時型と時間型の変数を指定してはいけません。  
数値だけを入力させる場合は、数値型、通貨型、整数型、長整数型、実数型のいずれかの変数を指定します。このデータ型の変数を指定して実行して、コンマまたはピリオドが入力された場合は、0 が代入されます。

## 読み込み CSV

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	読み込んだ行の先頭。

### 説明

- CSV ファイルのデータを、編集対象表に読み込みます。
- 読み込んだデータは、表の最後に追加されます。ただし、編集対象表で行挿入ができる状態ならば、処理対象行の直前に挿入されます。
- 行集計状態では実行できません。また、表のデータを更新できない状態で、実行してはいけません。

### 構文

```
読み込み CSV , ¥  
    <CSV ファイル名> , ¥  
    項目名 = する | しない , ¥  
    終了状態 = <変数名> , ¥  
    { <項目名> , ... } | * |
```

### パラメータ

#### <CSV ファイル名>

編集対象表に読み込む CSV ファイル名を指定します（計算式）。  
拡張子は「.csv」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子の後ろに「.csv」を付加します。  
現在のデータパス上に存在しない CSV ファイルを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### 項目名 = する | しない

テキストの 1 行目に項目名がある場合に「項目名=する」にします。

選択肢	説明
する	ファイルの 1 行目から読み込みます。
しない	ファイルの 2 行目から読み込みます。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などを実行中（一時的なファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

{ <項目名> , ... } | \* |

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。

このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 読み込み K3

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

実行後の処理対象行

読み込んだ行の先頭。

### 説明

- 指定した K3 フォーマット ファイルのデータを、編集対象表に読み込みます。
- 読み込んだデータは、表の最後に追加されます。ただし、編集対象表で行挿入ができる状態ならば、処理対象行の直前に挿入されます。
- 行集計状態では実行できません。また、表のデータを更新できない状態で、実行してはいけません。

### 記述例

•

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などを実行中（一時的なファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

{ <項目名> , ... } | \* |

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 読み込み 条件名

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	読み込んだ行の先頭。

### 説明

- 登録済みの読み込み条件を使用して、指定した形式のファイルからデータを読み込みます。
- 「ファイル名変更=しない」を指定している読み込み条件を指定した場合は、実行前にファイル名を変更するダイアログボックスを出して、利用者の操作を待ちます。
- 読み込んだデータは、表の最後に追加されます。ただし、編集対象表で行挿入ができる状態ならば、処理対象行の直前に挿入されます。
- 行集計状態では実行できません。また、表のデータを更新できない状態で、実行してはいけません。

### 記述例

- 登録してある読み込み条件を使用して、表のデータを登録します。  
読み込み 表, 条件名 = "個人用住所録", 終了状態 = &OK

### 構文

読み込み ¥  
表 | テキスト | CSV | K3 | 外部DB, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

表 | テキスト | CSV | K3 | 外部DB  
使用する条件の種類を指定します。

条件名 = <文字列>  
使用する条件名を指定します（計算式）。  
登録されていない条件名を指定するとエラーになります。

終了状態 = <変数名>  
コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。  
変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などを実行中（一時的なファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

## 読み込み テキスト

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	読み込んだ行の先頭。

### 説明

- 指定したテキストファイルのデータを、編集対象表に読み込みます。
- 読み込んだデータは、表の最後に追加されます。ただし、編集対象表で行挿入ができる状態ならば、処理対象行の直前に挿入されます。
- 行集計状態では実行できません。また、表のデータを更新できない状態で、実行してはいけません。

### 記述例

- タブで区切られているテキストファイルのデータを [ 氏名 ]、[ 電話 ]、[ 〒 ]、[ 住所 ] に読み込みます。  
読み込み テキスト, "Jusho.tab", 区切り = "09", 終了状態 = &OK, ¥  
{ [ 氏名 ], [ 電話 ], [ 〒 ], [ 住所 ] }
- 連続する空白をひとつの区切りとして、テキストファイルのデータを読み込みます。項目の読み込み順は、表示されている項目の順にします。  
読み込み テキスト, "Jusho.txt", 区切り = " \* ", 終了状態 = &OK

### 構文

読み込み テキスト, ¥  
< テキストファイル名 >, ¥  
項目名 = する | しない, ¥  
区切り = < 区切り文字 >, ¥  
空白削除 = 両方 | 半角 | 全角 | しない, ¥  
終了状態 = < 変数名 >, ¥  
{ < 項目名 >, ... } | \* |

### パラメータ

#### < テキストファイル名 >

編集対象表に読み込むテキストファイル名を指定します。

拡張子を省略した場合は「.txt」を付加します。拡張子のないファイルから読み込む場合は「filename. 」のように、ピリオドの後ろに半角の空白文字をつけます（ は半角の空白文字 ）。

現在のデータベース上に存在しないテキスト ファイルを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### 項目名 = する | しない

テキストの 1 行目に項目名がある場合に「項目名=する」にします。

選択肢	説明
する	ファイルの 1 行目から読み込みます。
しない	ファイルの 2 行目から読み込みます。

**区切り = <区切り文字>**

項目値の区切りとして識別する文字を指定します。指定できる区切りは1文字です。省略すると半角コンマを区切り文字にします。

連続する空白を区切りにする場合は、「 \* 」を指定します（ は半角の空白）。

制御文字を指定する場合は、16進数の文字列を二重引用符でくくります。たとえば、タブで区切る場合は「区切り = "09"」と指定します。

二重引用符を区切りにはできません。

**空白削除 = 両方 | 半角 | 全角 | しない**

テキストファイルからデータを読み込むとき、前後の空白を削除するかどうかを指定します。

指定値	説明
両方	全角と半角の空白を削除する。
半角	半角の空白だけを削除する。
全角	全角の空白だけを削除する。
しない	空白を削除しないで、そのまま残す。

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などを実行中（一時的なファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

**{ <項目名> , ... } | \* !**

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。

このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 読み込み 表

イベントでの使用	編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。
実行後の処理対象行	読み込んだ行の先頭。

### 説明

- 指定した表のデータを、編集対象表に読み込みます。
- 読み込んだデータは、表の最後に追加されます。ただし、編集対象表で行挿入ができる状態ならば、処理対象行の直前に挿入されます。
- 行集計状態では実行できません。また、表のデータを更新できない状態で、実行してはいけません。

### 記述例

- [氏名]、[電話]、[〒]、[住所]に、データを読み込みます。  
読み込み 表, "Parsonal.tbl", 編集表 = しない, 終了状態 = &OK, ¥  
{ [氏名][名前], [電話], [〒][郵便番号], [住所][住所1] }
- 表番号 2 で開かれている表からレコードを読み込みます。  
読み込み 表, 2, 編集表 = する, 終了状態 = &OK, ¥  
{ [氏名][名前], [電話], [〒][郵便番号], [住所][住所1] }

### 構文

読み込み 表, ¥  
<表ファイル名> | <表番号>, ¥  
編集表 = する | しない, ¥  
終了状態 = <変数名>, ¥  
{ <現在表項目名> <読み込み項目名>, ... } | \*

### パラメータ

#### <表ファイル名> | <表番号>

編集対象表に読み込む表ファイル名を指定します（計算式）。  
読み込む表がすでに開かれているときは、<表番号>で指定してもかまいません。  
結合表と外部データベースを読み込む場合は、拡張子まで指定します。拡張子を省略すると、表のファイル名として扱います（拡張子には「.tbl」が付加されます）。  
現在のデータパス上に存在しない表を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### 編集表 = する | しない

開かれている表の編集状態で読み込む場合は「する」、表の基本状態から読み込む場合は「しない」を指定します。  
「する」を指定したとき、読み込む表が多重化されていれば、最後に編集した表が読み込み対象になります。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。  
変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	終了した。
0	共有違反以外のエラーが発生した。
-2	他の利用者が置換や併合などを実行中（一時的なファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。

{ < **現在表項目名** > < **読み込み項目名** > , ... } | \*

どの項目に、どの項目を読み込むかを指定します。

編集対象表と読み込む表の項目名が同じであれば、< **読み込み項目名** > を省略してもかまいません。

\* を指定すると、編集対象表と同じ項目を読み込みます。

## 読み込み条件削除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 指定した形式の読み込み条件を削除します。

### 記述例

- 表の読み込み条件をふたつ削除します。  
読み込み条件削除 表, "個人用データ", "作業用"
- テキストの読み込み条件をすべて削除します。  
読み込み条件削除 テキスト, \*

### 構文

読み込み条件削除 ¥  
表 | テキスト | CSV | K3 | 外部DB, ¥  
<条件名>, ... | \*

### パラメータ

表 | テキスト | CSV | K3 | 外部DB  
使用する条件の種類を指定します。

<条件名>, ... | \*  
削除する条件の名前を指定します (計算式)。  
複数の条件を削除する場合は、条件名を半角または全角のコンマで区切ります。  
\* を指定すると、すべての条件を削除します。  
登録されていない条件を指定するとエラーになります。

## 読み込み条件登録 CSV

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- CSV ファイルの読み込み条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 表、テキスト、CSV、K3フォーマットファイルを含めた条件数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 構文

```
読み込み条件登録 CSV , ¥  
    条件名 = <文字列> , ¥  
    <CSV ファイル名> , ¥  
    項目名 = する | しない , ¥  
    ファイル名変更 = しない | する , ¥  
    { <項目名> , ... } | * |
```

### パラメータ

#### 条件名 = <文字列>

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

#### <CSV ファイル名>

編集対象表に読み込む CSV ファイル名を指定します（計算式）。

拡張子は「.csv」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子の後ろに「.csv」を付加します。

現在のデータベース上に存在しない CSV ファイルを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

#### 項目名 = する | しない

テキストの1行目に項目名がある場合に「項目名=する」にします。

選択肢	説明
-----	----

する	ファイルの1行目から読み込みます。
----	-------------------

しない	ファイルの2行目から読み込みます。
-----	-------------------

#### ファイル名変更 = しない | する

実行時にファイル名を入力するダイアログボックスを出すかどうかを指定します。

```
{ <項目名> , ... } | * |
```

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。

このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 読み込み条件登録 K3

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- K3 フォーマットファイルの読み込み条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 表、テキスト、CSV、K3フォーマットファイルを合わせた条件数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- K3 フォーマットファイルからデータを読み込む条件を登録します。  
読み込み条件登録 K3, 条件名 = "個人用データ", "Parsonal.k3", ¥  
{ [氏名], [電話], [〒], [住所] }
- 読み込む項目の順序を、条件登録時の表示順で登録します。  
読み込み条件登録 K3, 条件名 = "データ変換", "Parsonal.k3", \*

### 構文

読み込み条件登録 K3, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
<K3 フォーマット ファイル名>, ¥  
項目名 = する | しない, ¥  
ファイル名変更 = しない | する, ¥  
{ <項目名>, ... } | \* |

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

**<K3 フォーマット ファイル名>**

編集対象表に読み込む K3 フォーマットファイルの名前を指定します。

拡張子は「.k3」に固定です。別の拡張子を指定した場合は、その拡張子の後ろに「.k3」を付加します。

現在のデータベース上に存在しない K3 フォーマットファイルを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

**項目名 = する | しない**

テキストの1行目に項目名がある場合に「項目名=する」にします。

選択肢

説明

する

ファイルの1行目から読み込みます。

しない

ファイルの2行目から読み込みます。

**ファイル名変更 = しない | する**

実行時にファイル名を入力するダイアログボックスを出すかどうかを指定します。

{ <項目名> , ... } | \* |

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。

このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 読み込み条件登録 テキスト

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- テキストファイルの読み込み条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- 表、テキスト、CSV、K3フォーマットファイルを合わせた条件数が、50 個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- タブで区切られたテキストファイルからデータを読み込む条件を登録します。  
読み込み条件登録 テキスト, 条件名 = "データ変換", ¥  
"Parsonal.tab", 区切り = "09", ¥  
{ [氏名], [電話], [〒], [住所] }
- 連続する空白をひとつの区切りにして、データを読み込む条件を登録します。  
読み込み条件登録 テキスト, 条件名 = "データ変換", ¥  
"Parsonal.tab", 区切り = " \* ", ¥  
{ [氏名], [電話], [〒], [住所] }
- データの読み込む順を、条件登録時の表示順にします。  
読み込み条件登録 テキスト, 条件名 = "データ変換", ¥  
"Parsonal.tab", 区切り = " \* "

### 構文

```
読み込み条件登録 テキスト, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
<テキストファイル名>, ¥  
区切り = <区切り文字>, ¥  
空白削除 = 両方 | 半角 | 全角 | しない, ¥  
項目名 = する | しない, ¥  
ファイル名変更 = しない | する, ¥  
{ <項目名>, ... } | * |
```

### パラメータ

#### 条件名 = <文字列>

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

#### <テキストファイル名>

編集対象表に読み込むテキストファイル名を指定します。

拡張子を省略した場合は「.txt」を付加します。拡張子のないファイルから読み込む場合は「filename. 」のように、ピリオドの後ろに半角の空白文字をつけます（ は半角の空白文字）。

現在のデータベース上に存在しないテキスト ファイルを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

**区切り = <区切り文字>**

項目値の区切りとして識別する文字を指定します。指定できる区切りは1文字です。省略すると半角コンマを区切り文字にします。

連続する空白を区切りにする場合は、「 \* 」を指定します（ は半角の空白）。

制御文字を指定する場合は、16進数の文字列を二重引用符でくくります。たとえば、タブで区切る場合は「区切り = "09"」と指定します。

二重引用符を区切りにはできません。

**空白削除 = 両方 | 半角 | 全角 | しない**

テキストファイルからデータを読み込むとき、前後の空白を削除するかどうかを指定します。

指定値	説明
両方	全角と半角の空白を削除する。
半角	半角の空白だけを削除する。
全角	全角の空白だけを削除する。
しない	空白を削除しないで、そのまま残す

**項目名 = する | しない**

テキストの1行目に項目名がある場合に「項目名=する」にします。

選択肢	説明
する	ファイルの1行目から読み込みます。
しない	ファイルの2行目から読み込みます。

**ファイル名変更 = しない | する**

実行時にファイル名を入力するダイアログボックスを出すかどうかを指定します。

**{ <項目名> , ... } | \* |**

項目の順序を指定します。

\* を指定すると、項目の順序を表の定義順にします。非表示の項目も処理対象になります。

このパラメータを省略すると、列固定を反映して、現在の表示順で書き出します。非表示の項目は書き出しません。

## 読み込み条件登録 表

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 表の読み込み条件を、編集対象表に登録します。
- 登録されている条件名を指定すると、新しい条件として上書きします。
- <表ファイル名>の代わりに<表番号>を指定した場合、その番号に開かれている表のファイル名が登録されます。
- 表、テキスト、CSV、K3フォーマットファイルを合わせた条件数が、50個を超える場合はエラーになります。

### 記述例

- [氏名]、[電話]、[〒]、[住所]に、表のデータを読み込む条件を登録します。  
読み込み条件登録 表, 条件名 = "個人データ", ¥  
"Parsonal.tbl", 編集表 = しない, ¥  
{ [氏名][名前], [電話], [〒][郵便番号], [住所][住所1] }
- 読み込む前に、表のファイル名を変更できる条件を登録します。  
読み込み条件登録 表, 条件名 = "個人データ", ¥  
"Parsonal.tbl", 編集表 = しない, ファイル名変更 = する, ¥  
{ [氏名][名前], [電話], [〒][郵便番号], [住所][住所1] }

### 構文

```
読み込み条件登録 表, ¥  
条件名 = <文字列>, ¥  
<表ファイル名> | <表番号>, ¥  
編集表 = する | しない, ¥  
ファイル名変更 = しない | する, ¥  
{ <現在表項目名> <読み込み項目名>, ... } | *
```

### パラメータ

**条件名 = <文字列>**

登録する条件の名前を、64文字以内で指定します（計算式）。全角も半角も1文字と数えます。

**<表ファイル名> | <表番号>**

編集対象表に読み込む表ファイル名を指定します（計算式）。

読み込む表がすでに開かれているときは、<表番号>で指定してもかまいません。

結合表と外部データベースを読み込む場合は、拡張子まで指定します。拡張子を省略すると、表のファイル名として扱います（拡張子には「.tbl」が付加されます）。

現在のデータパス上に存在しない表を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

**編集表 = する | しない**

開かれている表の編集状態で読み込む場合は「する」、表の基本状態から読み込む場合は「しない」を指定します。

「する」を指定したとき、読み込む表が多重化されていれば、最後に編集した表が読み込み対象になります。

**ファイル名変更 = しない | する**

実行時にファイル名を入力するダイアログボックスを出すかどうかを指定します。

{ < **現在表項目名** > < **読み込み項目名** > , ... } | \*

どの項目に、どの項目を読み込むかを指定します。

編集対象表と読み込む表の項目名が同じであれば、< **読み込み項目名** > を省略してもかまいません。

\* を指定すると、編集対象表と同じ項目を読み込みます。

# ライブラリ

イベントでの使用

メイン処理でのみ実行可能。

## 説明

- 指定した一括処理ファイルの手続きを、実行中の一括処理から実行できるようにします。
- <一括処理ファイル名>で指定した手続きは、一括処理が終了するまで使用できます。
- イベント定義ではメイン処理でのみ実行できます。イベントハンドラ内 - つまり [手続き定義開始] から [手続き定義終了] の範囲内 - には、指定できません。
- イベント処理の「メイン処理」で実行したライブラリは、フォームを閉じるまで使用できません。
- 最大 8 個のファイルから、手続きを取り込むことができます。

## 記述例

- Lib1.cmd」と「Lib2.cmd」の手続きを読み込みます。  
ライブラリ "Lib1.cmd"  
ライブラリ "Lib2.cmd"

## 構文

ライブラリ <一括処理ファイル名>

## パラメータ

### <一括処理ファイル名>

一括処理が記述されたファイルの名前を指定します。

拡張子を省略した場合は「.cmd」を付加します。

イベント処理ファイル (\*.kev) は指定できません。

現在のデータベース上に存在しない一括処理を指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

## ノート

- [手続き実行] コマンドを実行したとき、最初に自身の一括処理ファイル内またはイベント処理ファイル内に定義された手続きを探します。自身のファイル内に手続きが定義されていない場合は、[ライブラリ] コマンドの実行順に、指定したファイル内の手続きを探します。
- 取り込める手続きは、[手続き定義開始] コマンドで定義した手続きだけです。[名札名] コマンドで定義した手続き (旧バージョンの手続き) は、取り込めません。
- 共通の処理を手続きとしてまとめ、それらの手続きをライブラリとして使用することをお勧めします。

## 利用者コード 会話

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

### 説明

- 利用者コードを入力するダイアログボックスを出します。

### 構文

利用者コード 会話

## 利用者コード <文字列>

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

### 説明

- 利用者コードを変更します。
- <文字列> には、変更する利用者コードを入力します（計算式）。半角の英字、数字、カタカナでなければいけません。
- 利用者コードをなしにするには、<文字列> を省略して指定するか、未定義値を指定します。

### 記述例

- 利用者コードを「KIRI」に変更します。  
利用者コード "KIRI"
- 利用者コードを未設定にします。  
利用者コード ""

### 構文

利用者コード <文字列>

# レポート印刷

イベントでの使用

表示状態のときのみ実行可能。

## 説明

- レポートを使用して、表のデータを印刷します。
- 印刷するプリンタは、レポートのファイル属性で指定したプリンタです。[印刷するプリンタ]に[(桐の現在プリンタ)]を選択している場合は、桐が選択しているプリンタで印刷します。
- 別のプリンタで印刷する場合は、「会話=する」を指定して実行し、[印刷]画面でプリンタを切り替えてください。

## 記述例

- レポート印刷を行なう前に、[印刷]ダイアログボックスを出します。  
レポート印刷 "Jusho.rpt", 会話 = する, 終了状態 = &OK
- 「Jusho.tbl」の[区分]が「仕事」のレコードを絞り込み、絞り込んだレコードだけを印刷します。  
編集表 "Jusho.tbl"  
絞り込み [区分]"仕事"  
レポート印刷 "Jusho.rpt", 編集表 = する, 終了状態 = &OK
- タイルオブジェクトだけを配置したレポートを使用して、5レコード目だけのタックシールを6枚印刷します。  
レポート印刷 "Tack.rpt", ¥  
開始ページ = 5, 終了ページ = 5, ¥  
繰り返し数 = 6, 終了状態 = &OK

## 構文

レポート印刷 ¥  
<レポートファイル名>, ¥  
編集表 = する | しない, ¥  
会話 = しない | する, ¥  
プレビュー = しない | する, ¥  
ページ番号 = <整数>, ¥  
部数 = <整数>, ¥  
開始ページ = <ページ番号>, ¥  
終了ページ = <ページ番号>, ¥  
罫線印字 = する | しない, ¥  
カラー印刷 = しない | する, ¥  
印刷ページ = 両方 | 奇数 | 偶数, ¥  
ソート = しない | する, ¥  
連番 = <整数>, ¥  
繰り返し数 = <整数>, ¥  
終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### <レポートファイル名>

レポートのファイル名を指定します（計算式）。  
レポートの拡張子は「.rpt」または「.frm」です。拡張子を省略した場合は、環境設定の「一括」タブ「高度な設定」で指定した拡張子を付加します。  
現在のデータベース上に存在しないレポートを指定する場合は、ファイル名をフルパスで指定します。

### 編集表 = する | しない

開かれている表の編集状態で印刷する場合は「する」、表の基本状態から印刷する場合は「しない」を指定します。  
「する」を指定したとき、印刷する表が多重化されていれば、最後に編集した表を印刷します。

### 会話 = しない | する

ただちに印刷を開始する場合は「しない」を指定します。  
印刷する前に「印刷」ダイアログボックスを出す場合は、「する」を指定します。  
定義時と異なるプリンタで印刷する場合、またはプリンタのプロパティを変更してから印刷する場合は、「する」を指定してください。

### プレビュー = しない | する

すぐに印刷を開始する場合は「しない」を指定します。  
印刷を開始する前に、プレビュー画面を出す場合は「する」を指定します。  
イベントハンドラ内で、「する」を指定して実行するとエラーになります。

### ページ番号 = <整数>

ページ番号を何番から始めるかを指定します（定数または変数）。  
このパラメータを省略すると、レポートのファイル属性で指定したページ番号で印刷します。

### 部数 = <整数>

印刷する部数を指定します（計算式）。  
このパラメータを省略すると、1部だけ印刷します。

### 開始ページ = <ページ番号>

印刷を開始するページを指定します。

### 終了ページ = <ページ番号>

印刷を終了するページ番号を指定します。終了ページの番号は、「開始ページ=」より大きい値でなければいけません。  
最後まで印刷する場合は0を指定します。

### 罫線印字 = する | しない

罫線を印字するかどうかを指定します。このパラメータを省略すると、罫線を印刷します。

### カラー印刷 = しない | する

カラー印刷をするかどうかを指定します。

### 印刷ページ = 両方 | 奇数 | 偶数

すべてのページを印刷するか、奇数ページまたは偶数ページだけを印刷するかを指定します。

**ソート = しない | する**

「ソート=する」を指定すると、指定された部数分、ページごとに振り分けて排紙します。  
この指定は、[印刷]ダイアログボックスの[部単位で印刷]と同じです。

**連番 = <整数>**

連番の初期値を、いくつにするかを指定します(計算式)。

このパラメータを省略すると、レポートのファイル属性で指定したページ番号で印刷します。

**繰り返し数 = <整数>**

タイトルオブジェクトだけが配置されたレポートを印刷するとき、同じレコードを何件印刷するかを指定します(定数または変数)。

このパラメータを省略すると1件だけ印刷します。

**終了状態 = <変数名>**

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	最後まで印刷した。
0	エラーが発生したため、印刷できなかった。
-1	途中で印刷を中止した。

**ノート**

- 桐 ver5 の [ 帳票印刷 ] コマンドは、このコマンドに読み替えて実行します。つぎのパラメータは無視されます。

強制改行文字 =

両面印刷 =

文書ファイル名 =

ピン番号 =

追い出し =

脚書部 =

縮小率 =

# ロック

## 説明

- 処理対象行をレコードロックします。
- ロック可能なレコード数は、ひとつの表につき 814 件までです（ただし、行追加を行なう場合は 813 件以下）。
- すでにほかの利用者が814 件のレコードをロックしている場合、またはロックしようとしたレコードの中にロックされているレコードを含む場合は、1 件もロックされません。
- ロックされているレコード数とロック可能なレコード数は、#ロック行数と#ロック可能行数で取得できます。レコードをロックするときは、これらの関数を使用して、状態を確認するよう、心がけてください。
- 表を共有更新以外で開いているときは、なにもしません。

## 記述例

- 処理対象行をレコードロックします。  
ロック 終了状態 = &OK

## 構文

ロック 終了状態 = <変数名>

## パラメータ

### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	ロック可能行数を、越えるレコードをロックしようとした。
-2	他の利用者が置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。
-4	他の利用者が削除したレコードがある（レコード削除）。

## ロック \*

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表の全レコードをロックします。絞り込み状態であれば、絞り込まれている全レコードをロックします。
- ロック可能なレコード数は、ひとつの表につき 814 件までです（ただし、行追加を行なう場合は 813 件以下）。
- すでにほかの利用者が 814 件のレコードをロックしている場合、またはロックしようとしたレコードの中にロックされているレコードを含む場合は、1 件もロックされません。
- ロックされているレコード数とロック可能なレコード数は、#ロック行数と#ロック可能行数で取得できます。レコードをロックするときは、これらの関数を使用して、状態を確認するよう、心がけてください。
- 表を共有更新以外で開いているときは、なにもしません。

### 記述例

- 編集対象レコードをすべてロックします。  
ロック \* , 終了状態 = &OK

### 構文

ロック \* 終了状態 = <変数名>

### パラメータ

終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	ロック可能行数を、越えるレコードをロックしようとした。
-2	他の利用者が置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。
-4	他の利用者が削除したレコードがある（レコード削除）。

## ロック 会話

イベントでの使用	×不可
実行後の処理対象行	選択した行。

### 説明

- 表ウィンドウまたはフォームウィンドウを使用して、選択したレコードをロックします。
- このコマンドでロックできるのは1レコードだけです。本コマンドで、ロックを解除することはできません。
- 表を共有更新以外で開いているときは、なにもしません。

### 構文

ロック ¥  
会話 | フォーム | 表, ¥  
ガイド = <文字列>, ¥  
終了状態 = <変数名>

### パラメータ

#### 会話 | フォーム | 表

表示するウィンドウの形式を、表にするかフォームにするかを指定します。

「会話」を指定すると、編集対象表に使用フォームが設定されていればフォームウィンドウを、使用フォームが設定されていなければ、表ウィンドウを表示します。

編集対象表のウィンドウが表示されていないときは、指定したウィンドウが新規作成されます。

編集対象表のウィンドウが、指定したウィンドウと異なるときは、そのウィンドウを閉じてから、指定形式のウィンドウを新規作成します。

フォームのウィンドウは、[ウィンドウ形式]で「ポップアップ」または「オーバーラップ」を指定していても、「チャイルド」として作成します。

新規作成したウィンドウの位置とサイズは、[表示位置]コマンドで設定した値になります。

ただし、[水平位置の調整]または[垂直位置の調整]が「自動」以外のフォームでは、フォームの属性に従った位置とサイズになります。

#### ガイド = <文字列>

ステータスバーに表示する文字列を指定します（計算式）。

フォームウィンドウでこのパラメータを指定すると、フォームの[表示ガイド]と[入力ガイド]が表示されなくなります。

#### 終了状態 = <変数名>

コマンドの終了状態を代入する変数名を指定します。

変数のデータ型は、整数、長整数、数値、通貨、実数のいずれかでなければいけません。

変数には、つぎの値が代入されます。

戻り値	説明
1	正常に終了した。
0	ロック可能行数を、越えるレコードをロックしようとした。
-2	他の利用者が置換や併合などの処理を実行中（ファイル排他）。
-3	他の利用者がロックしたレコードがある（レコード排他）。
-4	他の利用者が削除したレコードがある（レコード削除）。

## ロック解除

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 処理対象行のレコードロックを解除します。
- 表を共有更新以外で開いているときは、なにもしません。

### 記述例

- 処理対象行のレコードロックを解除します。  
    ロック解除

### 構文

ロック解除

## ロック解除 \*

イベントでの使用

編集対象表が表示状態のときのみ操作可能。

### 説明

- 編集対象表の全レコードのロックを解除します。
- 絞り込み状態であっても、編集対象表の全レコードのロックが解除されます。
- 表を共有更新以外で開いているときは、なにもしません。

### 記述例

- 編集対象表の全レコードロックを解除します。  
    ロック解除 \*

### 構文

ロック解除 \*

日本語データベースシステム 桐 ver8

# イベントハンドラ

オンラインリファレンス (PDF版)

株式会社 管理工学研究所

## [ キーアップ ] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [ キーアップ ] イベントは、キーボード上のキーが、離されたときに発生するイベントです。
- 機能キーだけでなく、文字キーが離されたときにも発生します。
- このイベントの前に、ウィンドウまたはダイアログボックスが開かれた場合は発生しません。

### 使用目的

- キーが離されたときに、[ テキストボックス ] 内の編集文字列を検査または操作します。
- [ Shift ]、[ Ctrl ]、[ Alt ] などの特殊キーと組み合わせて、特定のキーに処理を割り当てる場合は、[ フォーム ] オブジェクトの [ キーダウン ] イベントまたは [ シフトキーダウン ] イベントのハンドラに定義してください。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &仮想キーコード / 長整数

押されたキーに対応する仮想キーコードが格納されます。

## [キダウ] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [キダウ] イベントは、キーボード上のキーが、押されているときに発生するイベントです。
- キーが押されているあいだは、繰り返し発生します。
- 機能キーだけでなく、文字キーが押されているときにも発生します。
- このイベントの前に、ウィンドウまたはダイアログボックスが開かれた場合は発生しません。

### 使用目的

- ファンクションキーや方向キーなどの特殊キーが押されたら、そのキーに応じた処理を行ないます。たとえば、[F2] キーが押されたら、行訂正モードに切り替えます。
- [Tab] キーや [Shift] + [Tab] キー、方向キーなどが押されたかどうかを調べて、フォーカスを制御します。
- 特定のキーが押されたときに、以降のイベントを中止します。以降のイベントは、このハンドラの &処理中止 の値を 0 以外の値にすることで中止できます。
- 使わせたくないキーが押されたときに、キーに割り当てられている機能の実行を中止します。このハンドラ内で [キー変換] メソッドを実行したあと、&処理中止 に 0 以外の値を代入することで、桐と Windows が割り当てているキーの機能を無効にできます。
- [Shift] キーまたは [Ctrl] キーと組み合わせたキーに、処理を割り当てます。これらのキーが押されているかどうかは、このハンドラの &フラグ の値を調べればわかります。[Alt] キーと組み合わせたキーに、処理を割り当てる場合は、[フォーム] オブジェクトの [システムキダウ] イベントのハンドラに定義してください。

### 記述例

[F1] から [F8] までのファンクションキーのどれかが押されたら、対応する [コマンド] の機能を実行します。この例では、対応する [コマンド] のオブジェクト名を「bF01」から「bF08」までとします。該当するファンクションキーが押された場合、桐と Windows が割り当てたキーの機能をすべて無効にするために、[キー変換] メソッドで 7 を指定した後、このハンドラの &処理中止 に 1 を代入しています。

```
手続き定義開始 フォーム::キダウ( 長整数 &仮想キーコード, 長整数 &スキャンコード, 長整数 &フラグ, 参照 長整数 &処理中止 )
```

```
if ( &仮想キーコード 112 .and &仮想キーコード 119 )
  メソッド呼び出し @フォーム.キー変換( 7 )
  &仮想キーコード = &仮想キーコード - 111
  &オブジェクト名 = "bF" + #str( &仮想キーコード, 2 )
  メソッド呼び出し &オブジェクト名.実行( )
  &処理中止 = 1
else
  メソッド呼び出し @フォーム.キー変換( 0 )
  &処理中止 = 0
end
```

```
手続き定義終了
```

## イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。引数名のうしろに（参照）と記述されたものは、引数の値を変更することで、ハンドラ終了後の実行を制御できるものです。

### &仮想キーコード / 長整数

押されたキーに対応する仮想キーコードが格納されます。

### &スキャンコード / 長整数

つぎの bit 値を、10 進数に置き換えた値が格納されます。

おもに、イベント発生時にキーが押されていたかどうかを調べるときに使用します。

bit	補足
0-7	OEM 依存のスキャンコード（上位ワードの下位バイト）。
8	押されたキーが拡張キーであれば 1、そうでなければ 0。
9-10	0（未使用）
11-12	（不定）
13	[Alt] キーを押した状態で他のキーが押されていれば 1、そうでなければ 0（コンテキストコード）。
14	このイベントが発生する前にキーが押されていれば 1、離されていれば 0（直前のキー状態）。
15	キーを離していれば 1、押されていれば 0（変換状態）。

### &フラグ / 長整数

つぎのマウスボタンまたは特殊キーが押されていれば、それに対応する番号が格納されます。

Microsoft (C) Intelli Mouse の中央ボタンは、調べることができません。

値	説明
1	マウス左
2	マウス右
3	マウス左右
4	[Shift]
5	[Shift] + マウス左
6	[Shift] + マウス右
7	[Shift] + マウス左右
8	[Ctrl]
9	[Ctrl] + マウス左
10	[Ctrl] + マウス右。 またはマウス中央。
11	[Ctrl] + マウス左右。 またはマウス左 + マウス中央。
12	[Ctrl] + [Shift]。
13	[Ctrl] + [Shift] + マウス左。
14	[Ctrl] + [Shift] + マウス右。 または [Shift] + マウス中央
15	[Ctrl] + [Shift] + マウス左右。 または [Shift] + マウス左 + マウス中央。
18	[Ctrl] + マウス中央。
19	[Ctrl] + マウス左 + マウス中央
20	[Ctrl] + マウス右 + マウス中央
20	[Ctrl] + マウス左 + マウス右 + マウス中央
22	[Ctrl] + [Shift] + マウス中央
23	[Ctrl] + [Shift] + マウス左 + マウス中央

**&処理中止 / 長整数 (参照)**

このハンドラが終了したあとの処理を、中止するかどうかを指定します。

値	説明
0	続けます (規定値)。
0以外	中止します。

## [キー入力] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [キー入力] イベントは、キーボード上の文字キーが、押されているときに発生するイベントです。
- 文字キーが押されているあいだは、繰り返し発生します。
- [テキストボックス] または [グループ項目] オブジェクト内で、値を編集しているときは発生しません。
- このイベントの前に、ウィンドウまたはダイアログボックスが開かれた場合は発生しません。

### 使用目的

- メニューの代わりとして使用するフォームで、コマンドボタンなどを英数字キーだけで実行できるようにします。押された文字キーは、このハンドラの `&文字キー` の値を調べればわかります。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### **&文字キー / 長整数**

押された文字キーに対応するキーの文字コードが格納されます。

英字は、[CapsLock] キーがロックされていれば大文字、ロックされていなければ小文字になります。

## [ 行挿入開始 ] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	× 不可
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [ 行挿入開始 ] イベントは、行挿入または行追加が開始されたときに発生するイベントです。
- 会話処理で 1 件のレコードを、挿入または追加するたびに発生します。
- 会話処理を伴わない行挿入または行追加では、発生しません。
- このイベントが発生した時点で、すでに行挿入モードまたは行追加モードに入っています (表示モードではなくなっています)。
- [ 検索ボックス ] の [ 入力前 ] イベントは、このあとに発生します。

### 使用目的

- [ 項目値代入 ] コマンドで、項目値の初期値をまとめて設定します。
- [ マンドボタ ] などのオブジェクト属性を、行挿入用または行追加用に変更します。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &明細番号 / 長整数

処理対象行が、フォーム明細部の何番目にあるかが格納されます。

### ノート

- このイベントが発生したあと、行挿入または行追加が終了するまでは、対象表のレコードを操作できません。
- [ 項目値代入 ] コマンドを使用すると、挿入中または追加中の項目値を変更できます。

## [ 行挿入終了 ] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [ 行挿入終了 ] イベントは、行挿入または行追加が終了したあとに発生するイベントです。
- 会話処理で 1 件のレコードを、挿入または追加するたびに発生します。
- 会話処理を伴わない行挿入または行追加では、発生しません。
- 行挿入または行追加が、キャンセルされても発生します。

### 使用目的

- [ 対応ボタ ] などのオブジェクト属性を、表示モード用に変更します。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &明細番号 / 長整数

処理対象行が、フォーム明細部の何番目にあるかが格納されます。

#### &モード / 長整数

入力したデータが確定されたか、キャンセルされたかを示す番号が格納されます。  
値を変更せずにレコードを移動した場合は、0 (キャンセル) が格納されます。

値	説明
1	確定
0	キャンセル

### ノート

- このハンドラ内で表示モードにすることで、対象表のレコードを操作できます。

## [ 行挿入終了前 ] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	× 不可
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [ 行挿入終了前 ] イベントは、行挿入または行追加で入力した新規レコードを、表に書き込む前に発生するイベントです。
- 会話処理で 1 件のレコードを、挿入または追加するたびに発生します。
- 会話処理を伴わない行挿入または行追加では、発生しません。
- 行挿入または行追加が、キャンセルされても発生します。

### 使用目的

- フォーム上で入力されたデータをもとに、項目値を自動設定します。
- 表に書き込む前に、フォーム上で入力されたデータを検査します。
- 表への書き込みをキャンセルして、再入力させます。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。引数名のうしろに（参照）と記述されたものは、引数の値を変更することで、ハンドラ終了後の実行を制御できるものです。

#### &明細番号 / 長整数

処理対象行が、フォーム明細部の何番目にあるかが格納されます。

#### &モード / 長整数

入力したデータが確定されたか、キャンセルされたかを示す番号が格納されます。値を変更せずにレコードを移動した場合は、0（キャンセル）が格納されます。

値	説明
1	確定
0	キャンセル

#### &行挿入継続 / 長整数（参照）

表への書き込みを中止して、再入力させるかどうかを指定します。

値	説明
0	新規レコードの挿入または追加を終了し、表に書き込みます（規定値）。 この指定は、&モード = 1 のときに有効になります。
1	表への書き込みを中止して、再入力させます。[ 行挿入終了 ] イベントは発生しません。

### ノート

- このハンドラ内では、対象表のレコードを操作できません。
- [ 項目値代入 ] コマンドを使用すると、挿入中または追加中の項目値を変更できます。

## [ 行訂正開始 ] イベント

更新モードの変更	×不可
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [ 行訂正開始 ] イベントは、行訂正または項目訂正が、開始されたときに発生するイベントです。
- 会話処理で1件のレコードを、訂正するたびに発生します。
- 会話処理を伴わない行訂正または項目訂正では、発生しません。また、変数値の項目訂正では、発生しません。
- このイベントが発生した時点で、すでに行訂正モードまたは項目訂正モードに入っています（表示モードではなくなっています）。
- [ 戻すボタン ] の [ 入力前 ] イベントは、このあとに発生します。

### 使用目的

- [ 項目値代入 ] コマンドで、訂正時の値をまとめて設定または変更します。
- [ コマンドボタン ] などのオブジェクト属性を、行訂正用または項目訂正用に変更します。

### 記述例

行訂正を開始したら、[ コマンドボタン ] の機能を入力用に変更します（ [ 機能名2 ] 以降にも機能を設定している場合は、これらの属性値も変更する必要があります）。

手続き定義開始 フォーム::行訂正開始 ( 長整数 &明細番号 )

オブジェクト操作 ¥

```
@bF01{ 標題 = "値複写", 機能名1 = "値複写", 機能パラメータリスト1 = "" }, ¥
@bF02{ 標題 = "直前値", 機能名1 = "直前値", 機能パラメータリスト1 = "" }, ¥
@bF03{ 標題 = "直前行", 機能名1 = "直前行", 機能パラメータリスト1 = "" }, ¥
@bF04{ 標題 = "表示", 機能名1 = "表示", 機能パラメータリスト1 = "" }, ¥
@bF05{ 標題 = "全<>半", 機能名1 = "編集制御", 機能パラメータリスト1 = "18" }, ¥
@bF06{ 標題 = "か<>力", 機能名1 = "編集制御", 機能パラメータリスト1 = "19" }, ¥
@bF07{ 標題 = "記号", 機能名1 = "編集制御", 機能パラメータリスト1 = "512" }, ¥
@bF08{ 標題 = "辞書", 機能名1 = "編集制御", 機能パラメータリスト1 = "270" }
```

手続き定義終了

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &明細番号 / 長整数

処理対象行が、フォーム明細部の何番目にあるかが格納されます。

## ノート

- このイベントが発生したあと、行訂正または項目訂正が終了するまでは、対象表のレコードを操作できません。
- [項目値代入]コマンドを使用すると、訂正中の項目値を変更できます。

## [ 行訂正終了 ] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [ 行訂正終了 ] イベントは、行訂正または項目訂正が、終了したあとに発生するイベントです。
- 会話処理で 1 件のレコードを、訂正するたびに発生します。
- 会話処理を伴わない行訂正または項目訂正では、発生しません。また、変数値の項目訂正では、発生しません。
- 行訂正または項目訂正が、キャンセルされても発生します。

### 使用目的

- 行訂正または項目訂正が 1 件終了したら、表示モードに戻します。
- [ マインドボタ ] などのオブジェクト属性を、表示モード用に変更します。

### 記述例

行訂正を終了したら、[ マインドボタ ] の機能を表示用に変更します ( [ 機能名2 ] 以降にも機能を設定している場合は、これらの属性値も変更する必要があります )

手続き定義開始 フォーム::行訂正終了 ( 長整数 & 明細番号, 長整数 & モード )

オブジェクト操作 ¥

```
@bF01{ 標題 = "表編集", 機能名1 = "表編集へ" }, ¥
@bF02{ 標題 = "訂正", 機能名1 = "訂正" }, ¥
@bF03{ 標題 = "行挿入", 機能名1 = "行挿入" }, ¥
@bF04{ 標題 = "行追加", 機能名1 = "行追加" }, ¥
@bF05{ 標題 = "検索", 機能名1 = "検索_比較式" }, ¥
@bF06{ 標題 = "検索 ", 機能名1 = "次を検索" }, ¥
@bF07{ 標題 = "検索 ", 機能名1 = "前を検索" }, ¥
@bF08{ 標題 = "絞り込み", 機能名1 = "絞り込み_比較式" }
```

手続き定義終了

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &明細番号 / 長整数

処理対象行が、フォーム明細部の何番目にあるかが格納されます。

#### &モード / 長整数

入力したデータが確定されたか、キャンセルされたかを示す番号が格納されます。

値を変更せずにレコードを移動した場合は、0 ( キャンセル ) が格納されます。

値	説明
1	確定
0	キャンセル

## ノート

- このハンドラ内で表示モードにすることで、対象表のレコードを操作できます。

## [ 行訂正終了前 ] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	× 不可
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [ 行訂正終了前 ] イベントは、訂正した内容を、表に書き込む前に発生するイベントです。
- 会話処理で 1 件のレコードを、訂正するたびに発生します。
- 会話処理を伴わない行訂正または項目訂正では、発生しません。また、変数値の項目訂正では、発生しません。
- 行訂正または項目訂正が、キャンセルされても発生します。

### 使用目的

- フォーム上で入力されたデータをもとに、項目値を自動設定します。
- 表に書き込む前に、フォーム上で入力されたデータをチェックします。
- 表への書き込みをキャンセルして、再入力させます。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。引数名のうしろに（参照）と記述されたものは、引数の値を変更することで、ハンドラ終了後の実行を制御できるものです。

#### &明細番号 / 長整数

処理対象行が、フォーム明細部の何番目にあるかが格納されます。

#### &モード / 長整数

入力したデータが確定されたか、キャンセルされたかを示す番号が格納されます。値を変更せずにレコードを移動した場合は、0（キャンセル）が格納されます。

値	説明
1	確定
0	キャンセル

#### &行訂正継続 / 長整数（参照）

表への書き込みを中止して、再入力させるどうかを指定します。

値	説明
0	処理対象行の訂正を終了し、表に書き込みます（規定値）。
1	表への書き込みを中止して、再入力させます。[ 行訂正終了 ] イベントは発生しません。

### ノート

- このハンドラ内では、対象表のレコードを操作できません。
- [ 項目値代入 ] コマンドを使用すると、訂正中の項目値を変更できます。

## [グループ移動] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [グループ移動] イベントは、グループを移動したあとに発生するイベントです。
- 他の処理で、対象表のグループを移動したときにも発生します。
- フォームを開いた直後は、このイベントが発生しません。ただし、[フォーム開始] イベントハンドラ内で、グループを移動した場合には発生します。

### 使用目的

- 移動したグループのグループ番号を取得します。グループ番号は、このハンドラの &グループ番号の値を調べればわかります。
- グループの総件数を調べて、グループの追加または削除があったかどうかを調べます。グループの総件数は、このハンドラの &総グループ件数の値を調べればわかります。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &グループ番号 / 長整数

移動したグループの、グループ番号が格納されます。

#### &総グループ件数 / 長整数

グループの、総件数が格納されます。

グループ選択状態に入る前に絞り込みを行なっている場合は、その絞り込まれた状態での件数になります。

### ノート

- このハンドラ内で、対象表のレコードを移動してはいけません。
- このイベントハンドラを、[Shift] + [Break] キーで強制的に停止させた場合、またはイベント処理中にエラーが発生した場合は、イベントそのものが発生しなくなります。停止したイベントを再び発生させる場合は、フォームを開き直してください。

## [グループ 検索開始] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	× 不可
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [グループ 検索開始] イベントは、会話処理のグループ検索が開始されたときに発生するイベントです。
- 会話処理を伴わないグループ検索では、発生しません。
- このイベントが発生した時点で、グループ検索モードに入っています（表示モードではなくなっています）。
- [グループ 項目] オブジェクトの [入力前] イベントは、このあとに発生します。

### 使用目的

- [グループ値代入] コマンドで、グループ検索時の初期値をまとめて設定します。
- [コマンドボタ] などのオブジェクト属性を、グループ検索用に変更します。

### ノート

- このイベントが発生したあと、グループ検索が終了するまでは、対象表のレコードを操作できません。
- [グループ値代入] コマンドで、グループの値を変更することができます。

## [グループ 検索終了] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [グループ 検索終了] イベントは、会話処理で行なったグループ検索が終了したときに発生するイベントです。
- 会話処理を伴わないグループ検索では、発生しません。
- グループ検索が、キャンセルされても発生します。
- このイベントは、[レコード 移動] イベントのハンドラが実行されたあとに発生します。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &モード / 長整数

入力したデータが確定されたか、キャンセルされたかを示す番号が格納されます。値を変更せずにレコードを移動した場合は、0 (キャンセル) が格納されます。

値	説明
1	確定
0	キャンセル

## [グループ 値訂正開始] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	× 不可
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [グループ 値訂正開始] イベントは、会話処理のグループ値訂正が開始されたときに発生するイベントです。
- 会話処理を伴わないグループ値訂正では、発生しません。
- このイベントが発生した時点で、グループ値の訂正モードに入っています（表示モードではありません）。
- [グループ 項目] オブジェクトの [入力前] イベントは、このあとに発生します。

### 使用目的

- [グループ値代入] コマンドで、グループ値訂正のグループ値をまとめて設定します。
- 非表示にしている [グループ 項目] オブジェクトの値を変更します。
- [コマンド名] などのオブジェクト属性を、グループ検索用に変更します。

### ノート

- このイベントが発生したあと、グループ値訂正が終了するまでは、対象表のレコードを操作できません。
- [グループ値代入] コマンドで、グループの値を変更することができます。

## [グループ 値訂正終了] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [グループ 値訂正終了] イベントは、会話処理で行なったグループ値訂正が、終了したあとに発生するイベントです。
- 会話処理を伴わないグループ値訂正では、発生しません。
- グループ値訂正が、キャンセルされても発生します。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &モード / 長整数

入力したデータが確定されたか、キャンセルされたかを示す番号が格納されます。値を変更せずにレコードを移動した場合は、0 (キャンセル) が格納されます。

値	説明
1	確定
0	キャンセル

## [グループ追加開始] イベント

更新モードの変更	×不可
フォーカスの変更	×不可
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [グループ追加開始] イベントは、会話処理のグループ追加が開始されたときに発生するイベントです。
- このイベントが発生した時点で、グループ値の追加モードに入っています（表示モードではありません）。
- 会話処理を伴わないグループ追加では、発生しません。

### 使用目的

- [グループ値代入] コマンドで、追加時の初期値をまとめて設定します。
- 非表示またはフォーカスを禁止している [グループ項目] オブジェクトのグループ値を設定します。
- [マントボタ] などのオブジェクト属性を、グループ追加用に変更します。

### ノート

- このイベントが発生したあと、グループ追加が終了するまでは、対象表のレコードを操作できません。
- [グループ値代入] コマンドで、グループの値を変更することができます。

## [グループ追加終了] イベント

更新モードの変更	×不可
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [グループ追加終了] イベントは、会話処理で行なったグループ追加が終了したときに発生するイベントです。
- 会話処理を伴わないグループ追加では、発生しません。
- グループ追加が、キャンセルされても発生します。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &モード / 長整数

入力したデータが確定されたか、キャンセルされたかを示す番号が格納されます。値を変更せずにレコードを移動した場合は、0 (キャンセル) が格納されます。

値	説明
1	確定
0	キャンセル

## [ システムキーアップ ] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [ システムキーアップ ] イベントは、[ Alt ] キーが離されたときに発生するイベントです。
- 他の機能キーより、[ Alt ] キーが先に離された場合は発生しません。
- このイベントの前に、ウィンドウまたはダイアログボックスが開かれた場合は発生しません。

### 使用目的

- フォーカスが移ったかどうかを調べます。
- [ Alt ] を含む特殊キーが離されたときに、[ テキストボックス ] 内の編集文字列を検査または操作します。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &仮想キーコード / 長整数

押されたキーに対応する仮想キーコードが格納されます。

## [ システムキーダウ ] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [ システムキーダウ ] イベントは、[ Alt ] キーが押されているときに発生するイベントです。
- [ Alt ] キーが押されているあいだは、繰り返し発生します。
- [ キーダウ ] イベントが発生しているあいだは発生しません。たとえば、[ Ctrl ] キーが先に押されている場合は、[ Alt ] キーを押しても [ システムキーダウ ] イベントが発生しません。
- このイベントの前に、ウィンドウまたはダイアログボックスが開かれた場合は発生しません。

### 使用目的

- [ Shift ]、[ Alt ]、[ Ctrl ] のキーを組み合わせた処理を定義します。これらのキーが押されているかどうかは、このハンドラの &フラグの値を調べればわかります。
- ファンクションキーや方向キーなどの特殊キーが押されたら、そのキーに応じた処理を行います。たとえば、[ F2 ] キーが押されたら、行訂正モードに切り替えます。
- [ Tab ] キーや [ Shift ] + [ Tab ] キー、方向キーなどが押されたかどうかを調べて、フォーカスを制御します。
- 特定のキーが押されたときに、以降のイベントを中止します。以降のイベントは、このハンドラの &処理中止の値を 0 以外の値にすることで中止できます。
- 使わせたくないキーが押されたときに、以降のイベントとキーに割り当てられている機能の実行を中止します。このハンドラ内で [ キー変換 ] メソッドを実行したあと、&処理中止 に 0 以外の値を代入することで、桐と Windows が割り当てているキーの機能を無効にできます。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。引数名のうしろに ( 参照 ) と記述されたものは、引数の値を変更することで、ハンドラ終了後の実行を制御できるものです。

#### &仮想キーコード / 長整数

押されたキーに対応する仮想キーコードが格納されます。

#### &スキャンコード / 長整数

つぎの bit 値を、10 進数に置き換えた値が格納されます。

おもに、イベント発生時にキーが押されていたかどうかを調べるときに使用します。

bit	補足
0-7	OEM 依存のスキャンコード (上位ワードの下位バイト)。
8	押されたキーが拡張キーであれば 1、そうでなければ 0。
9-10	0 (未使用)
11-12	(不定)
13	[Alt] キーを押した状態で他のキーが押されていれば 1、そうでなければ 0 (コンテキストコード)。
14	このイベントが発生する前にキーが押されていれば 1、離されていれば 0 (直前のキー状態)。
15	キーを離してあれば 1、押されていれば 0 (変換状態)。

#### &フラグ / 長整数

つぎのマウスボタンまたは特殊キーが押されていれば、それに対応する番号が格納されません。

Microsoft (C) Intelli Mouse の中央ボタンは、調べることができません。

値	説明
1	マウス左
2	マウス右
3	マウス左右
4	[Shift]
5	[Shift] + マウス左
6	[Shift] + マウス右
7	[Shift] + マウス左右
8	[Ctrl]
9	[Ctrl] + マウス左
10	[Ctrl] + マウス右。 またはマウス中央。
11	[Ctrl] + マウス左右。 またはマウス左 + マウス中央。
12	[Ctrl] + [Shift]。
13	[Ctrl] + [Shift] + マウス左。
14	[Ctrl] + [Shift] + マウス右。 または [Shift] + マウス中央
15	[Ctrl] + [Shift] + マウス左右。 または [Shift] + マウス左 + マウス中央。
18	[Ctrl] + マウス中央。
19	[Ctrl] + マウス左 + マウス中央
20	[Ctrl] + マウス右 + マウス中央
20	[Ctrl] + マウス左 + マウス右 + マウス中央
22	[Ctrl] + [Shift] + マウス中央
23	[Ctrl] + [Shift] + マウス左 + マウス中央
24	[Ctrl] + [Shift] + マウス右 + マウス中央

#### &処理中止 / 長整数 (参照)

このハンドラが終了したあとの処理を、中止するかどうかを指定します。

値	説明
0	続けます (規定値)。
0以外	中止します。

## [ 選択値更新 ] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	× 不可
定義可能オブジェクト	リストボックス

### イベントの発生

- [ 選択値更新 ] イベントは、[ リストボックス ] の選択値が、会話処理で更新されたときに発生するイベントです。

### 使用目的

- [ リストボックス ] で選択した値に応じて、変数値またはオブジェクトの属性を変更します。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &選択数 / 長整数

[ リストボックス ] で選択した値の数が格納されます。

[ リストボックス ] の [ ソース ] が配列変数でない場合は、1 か 0 のどちらかしかありません。

## [ソース値更新] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	グループ項目   グループボックス   テキストボックス   トグルボタン

### イベントの発生

- [ソース値更新] イベントは、ソースの値が会話処理で更新されたときに発生するイベントです。
- このイベントが発生する前に、[入力後] イベントのハンドラが実行されています。

### 使用目的

- つぎにフォーカスさせるオブジェクトを指定します。
- フォームの更新モードを変更します。

## [タイマ-1] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [タイマ-1] イベントは、指定した時間が経過するたびに発生するイベントです。
- このイベントを定義したフォームが、非アクティブであっても発生します。ただし、会話処理用のダイアログボックスが出ているとき、または他のイベントハンドラが実行中のときは、発生しません。
- タイマーの間隔は、フォームのオブジェクト属性で設定します。この属性は、[オブジェクト操作] コマンドで設定することもできます。

### ノート

## [タイマー-2] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [タイマー-2] イベントは、指定した時間が経過するたびに発生するイベントです。
- このイベントを定義したフォームが、非アクティブであっても発生します。ただし、会話処理用のダイアログボックスが出ているとき、または他のイベントハンドラが実行中のときは、発生しません。
- タイマーの間隔は、フォームのオブジェクト属性で設定します。この属性は、[オブジェクト操作] コマンドで設定することもできます。

### ノート

- このイベントハンドラを、[Shift] + [Break] キーで強制的に停止させた場合、またはイベント処理中にエラーが発生した場合は、イベントそのものが発生しなくなります。停止したイベントを再び発生させる場合は、フォームを開き直してください。

## 名札 メイン（メイン処理）

更新モードの変更	×不可
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	(なし)

### イベントの発生

- 「名札 メイン」は、フォームを開いた直後に1回だけ発生する処理です（メイン処理）。
- この処理が開始される前に、対象フォームの全オブジェクトが読み込まれ、フォーム定義画面で宣言した局所変数が宣言されています。
- サブフォームのメイン処理は、この手続きが終了した直後に実行されます。
- フォームの対象表は、すべてのメイン処理が終了したあとに開かれます。[サブフォーム]オブジェクトがある場合は、すべてのサブフォームのメイン処理が終了したあとに開かれます。
- 対象表の操作については、[フォーム開始]イベントのハンドラに定義します。

### 使用目的

- フォームウィンドウで使用する局所変数を宣言します。または、フォームを開く前に宣言された固有変数を削除します。
- 一括処理ファイルまたはイベント処理ファイルにまとめてある手続きのライブラリを、[ライブラリ]コマンドで読み込みます。
- つぎのオブジェクト属性は、この処理を行なっているときのみ変更できます。

編集対象表

開始条件種別1 ~ 2

開始条件名1 ~ 2

[フォーム開始]イベントのON / OFF

グループ キャッシュ

グループ ソース

グループ ソート

局所変数（サブフォームオブジェクト）

ジャンプバー

グループ 操作バー

ボタンの大きさ

ボタンの種類1 ~ 20

### 記述例

- このフォームで使用する局所変数を宣言します。  
名札 メイン  
変数宣言 局所, 文字列{ &フォーカス, &操作文字列 }, ¥  
局所, 長整数{ &文字数, &戻り値確認 }  
\*

- イベントハンドラで操作する、フォームの対象表以外の表を開きます。開いた表の表番号は、このフォームの局所変数に代入します。

名札 メイン

表 "zipk3.tbl", モード = 共有更新, 索引名 = "住所順"

変数宣言 局所, 整数 { &郵便番号簿 = #is表 }

\*

## [入力後] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	× 不可
定義可能オブジェクト	グループ項目   テキストボックス

### イベントの発生

- [入力後] イベントは、[テキストボックス] または [グループ項目] オブジェクトでの入力、終了したあとに発生するイベントです。
- [ソース値更新] イベントは、このイベントのあとに発生します。

### 使用目的

- [テキストボックス] に入力された文字列を検査して、添わないデータであれば再入力させます。このハンドラの &処理中断 に 1 を代入することで、再入力させることができます。
- [テキストボックス] に入力された文字列を変更して、[テキストボックス] に戻します。入力された値の変更は、このハンドラの &編集文字列の値を変更することで行ないます。変更した値を &編集文字列に代入してこのハンドラを終了すると、&編集文字列の値が [テキストボックス] のソースに代入されます。
- [グループ項目] オブジェクトでも同様です。

### 記述例

- [郵便番号] を入力したあと、入力した文字列の桁数が 8 文字を越えていたら、メッセージを出して再入力させます。この例では、[郵便番号] を再入力させるために、このハンドラの &入力継続 に 1 を代入しています。

```
手続き定義開始 郵便番号::入力後(参照 文字列 &編集文字列, 長整数 &モード, 参照  
長整数 &入力継続)
```

```
変数宣言 整数{ &編集文字数 = #桁数( &編集文字列 ) }
```

```
if ( &編集文字数 > 8 )
```

```
    メッセージボックス "[郵便番号]", ¥
```

```
        "入力した郵便番号が、8 桁を越えています。", ¥
```

```
        アイコン = i
```

```
    &入力継続 = 1
```

```
end
```

```
手続き定義終了
```

- 入力したメールアドレスが、"@ " だけであれば [テキストボックス] の編集文字列を未定義にします。そうでなければ、[テキストボックス] に入力されたメールアドレスの英字を小文字に変換し、その文字列を [テキストボックス] に代入します。この例では、入力後の [テキストボックス] の値を操作するために、このハンドラの &編集文字列に値を代入しています。

```
手続き定義開始 EMail::入力後(参照 文字列 &編集文字列, 長整数 &モード, 参照 長整数  
&入力継続)
```

```
if ( &編集文字列 = "@ " )
```

```
    &編集文字列 = ""
```

```
else
```

```
    &編集文字列 = #lc2( &編集文字列 )
```

```
end
```

```
手続き定義終了
```

## イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。引数名のうしろに（参照）と記述されたものは、引数の値を変更することで、ハンドラ終了後の実行を制御できるものです。

### &編集文字列 / 文字列（参照）

[テキストボックス]または[グループ項目]オブジェクトの[ソース]に設定する編集文字列を指定します。

このイベントハンドラが開始した直後は、[テキストボックス]または[グループ項目]オブジェクトのソース値を、編集文字列に変換した値が代入されています。

### &モード / 長整数

入力したデータが確定されたか、キャンセルされたかを示す番号が格納されます。値を変更せずにレコードを移動した場合は、0（キャンセル）が格納されます。

値	説明
1	確定
0	キャンセル

### &入力継続 / 長整数（参照）

このイベントハンドラが終了した後、同じオブジェクトに戻って、再入力するかどうかを指定します。

値	説明
0	再入力しません（規定値）。
1	再入力します。

## ノート

- 被ふりがな項目が設定されている項目を編集したときは、このイベントの後でふりがなを入力するダイアログボックスがでてきます。

## [入力支援オープン] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	× 不可
定義可能オブジェクト	入力支援が 外

### イベントの発生

- [入力支援オープン] イベントは、[入力支援が 外]での操作が、はじまる前に発生するイベントです。

### 使用目的

- [入力支援が 外]で使用する変数の値を変更します。
- [入力支援が 外]の属性を変更します。

## [ 入力支援加ズ ] イベント

更新モードの変更	×不可
フォーカスの変更	×不可
定義可能オブジェクト	入力支援加ズ

### イベントの発生

- [ 入力支援加ズ ] イベントは、[ 入力支援加ズ ] での操作を終了して、親の [ テキストボックス ] または [ グループ項目 ] オブジェクトの操作に戻る前に発生するイベントです。
- このイベントが発生した後に、[ 編集文字列変更 ] イベントが発生します。[ 自動終了 ] 属性を ON にしている [ 入力支援加ズ ] では、[ ソース値更新 ] イベントと [ 入力後 ] イベントも発生します。

### 使用目的

- [ 入力支援加ズ ] の機能によって入力された値を、[ テキストボックス ] に代入する前に加工します。
- [ 入力支援加ズ ] で入力された値を使用して、他の項目値またはオブジェクトの属性を変更します。

### 記述例

[ 入力支援加ズ ] を使用した表引きで郵便番号簿の住所が選択されたら、該当する郵便番号を [ 郵便番号 ] に代入します。郵便番号簿 ( ZipK3.tbl ) は、「名札 メイン」または [ フォーム開始 ] イベントハンドラで、あらかじめ開いてあるものとしします。

この例では、[ 入力支援加ズ ] の機能によって選択された値を取得するために、このハンドラの &入力文字列を使用しています。

また、このハンドラの &モードを使用して、ボタンでの操作が [ OK ] で終了されたときだけ、処理が実行されるようにしています。

フォームの対象表に切り替えるために指定している &hwindow は、フォームに組み込まれている局所変数です。この定数には、フォーム自身のウィンドウハンドルが代入されています。

```
手続き定義開始 b住所::入力支援加ズ ( 参照 文字列 &入力文字列, 長整数 &モード )
```

```
  if ( &モード = 1 )
```

```
    変数宣言 文字列 { &取得文字列 }
```

```
    編集表 #表番号取得 ( "ZipK3.tbl" )
```

```
    &比較式 = "" + &入力文字列 + ""
```

```
    検索 [住所] _ &比較式
```

```
    if ( .not #eof )
```

```
      &取得文字列 = [ 行 ]
```

```
      編集表 #表番号取得 ( &hwindow )
```

```
      項目値代入 [郵便番号] = &取得文字列
```

```
    end
```

```
  end
```

```
手続き定義終了
```

## イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。引数名のうしろに（参照）と記述されたものは、引数の値を変更することで、ハンドラ終了後の実行を制御できるものです。

### &入力文字列 / 文字列（参照）

[テキストボックス]または[グループ項目]オブジェクトに設定する編集文字列を指定します。

このイベントハンドラを開始した直後は、[入力支援ボタン]で選択入力された値（文字列）が代入されています。

### &モード / 長整数

入力したデータが確定されたか、キャンセルされたかを示す番号が格納されます。

値を変更せずにレコードを移動した場合は、0（キャンセル）が格納されます。

値	説明
1	確定
0	キャンセル

## [入力前] イベント

更新モードの変更	×不可
フォーカスの変更	×不可
定義可能オブジェクト	グループ項目   テキストボックス

### イベントの発生

- [入力前] イベントは、[テキストボックス] または [グループ項目] オブジェクトでの入力、はじまる前に発生するイベントです。
- この時点では、まだ [テキストボックス] のエディタ内には入っていません。

### 使用目的

- [テキストボックス] で編集する値の初期値を設定します。[テキストボックス] 内で編集する文字列は、このハンドラの &編集文字列 に値を代入することで設定できます。
- [グループ項目] オブジェクトでも同様です。

### 記述例

[FAX] の番号を入力するとき、この項目値が未定義であれば、[TEL] の市外局番を初期値にします。

```
手続き定義開始 FAX::入力前( 参照 文字列 &編集文字列 )
  変数宣言 文字列{ &取得文字列 }
  &取得文字列 = #部分列( [TEL], 1, #文字位置( [TEL], "-" ) )
  &編集文字列 = #未定義値変換( &編集文字列, &取得文字列 )
手続き定義終了
```

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。引数名のうしろに (参照) と記述されたものは、引数の値を変更することで、ハンドラ終了後の実行を制御できるものです。

#### &編集文字列 / 文字列 (参照)

編集開始時の値 (文字列) を指定します。

このイベントハンドラが開始した直後は、対象オブジェクト内で編集する値 (文字列) が代入されています。

## [フォーカ取得] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	× 不可
定義可能オブジェクト	行レクタ   グループ項目   コントロール   サブフォーム   テキストボックス   トグルボタン   ファミリ   リストボックス

### イベントの発生

- [フォーカ取得] イベントは、オブジェクトがフォーカスを取得するときに発生するイベントです。

### 使用目的

- フォーカスを取得したときのオブジェクトの属性、または直前にフォーカスを失ったオブジェクトの属性を設定します。
- フォームを開いた直後、特にフォーカス設定をしていない場合は、フォーカスが設定可能な一番うしろのオブジェクト（オブジェクトリストで見て一番上のオブジェクト）がフォーカスされます。

### 記述例

フォーカスを取得するときに、取得するオブジェクトとリンクしている [ナル] オブジェクトの背景色と境界線を変更します。イベントを取得したオブジェクトとリンクされている [ナル] オブジェクトに、"a" がついているものとします（ [ナル] オブジェクト名 = "a" + イベントを取得したオブジェクト名 ）。

この例では、取得するオブジェクトの名前を、&this で代用しています。&this は、フォームに組み込まれている局所変数です。この変数には、イベントが発生するたびに、発生元のオブジェクト名が代入されています。

```
手続き定義開始 入力項目::フォーカ取得 ( 文字列 &喪失オブジェクト名 )
    &オブジェクト名 = "a" + &this
    オブジェクト操作 &オブジェクト名 { ¥
        背景モード = "指定色", 背景色 = "赤", 境界線モード = "立体線" }
手続き定義終了
```

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &喪失オブジェクト名 / 文字列

このオブジェクトの前にフォーカスしていた、オブジェクト名が格納されます。

### ノート

- 桐では、表示モードと入力モードがあるため、このイベントはあまり使用しません。訂正中または行挿入中の処理は、[入力前] イベントや [入力後] イベントなどを使用した方が便利です。

## [フォーカス喪失] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	× 不可
定義可能オブジェクト	行レクタ   グループ項目   コントロール   サブフォーム   テキストボックス   トグルボタン   ファミリ   リストボックス

### イベントの発生

- [フォーカス喪失] イベントは、オブジェクトがフォーカスを失うときに発生するイベントです。

### 使用目的

- フォーカスを失うときのオブジェクトの属性、またはつぎにフォーカスを取得するオブジェクトの属性を設定します。

### 記述例

フォーカスを喪失するときに、該当する [コントロール] オブジェクトの背景色を「黒」、境界線を「囲み罫線」にします。この例では、イベントを取得したオブジェクトとリンクされている [コントロール] オブジェクトに、"a" がついているものとします ( [コントロール] オブジェクト名 = "a" + イベントを取得したオブジェクト名 )。

喪失するオブジェクトの名前は、&this で代用しています。&this は、フォームに組み込まれている局所変数です。この変数には、イベントが発生するたびに、発生元のオブジェクト名が代入されます。

```
手続き定義開始 入力項目::フォーカス喪失( 文字列 &取得オブジェクト名 )
    &オブジェクト名 = "a" + &this
    オブジェクト操作 &オブジェクト名 { ¥
        背景色 = "指定色", 背景色 = "黒", 境界線 = "囲み罫線" }
手続き定義終了
```

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &取得オブジェクト名 / 文字列

このオブジェクトのあとにフォーカスに移る、オブジェクトの名前が格納されます。

### ノート

- 桐では、表示モードと入力モードがあるため、このイベントはあまり使用しません。訂正中または行挿入中の処理は、[入力前] イベントや [入力後] イベントなどを使用した方が便利です。

## [フォーム開始] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [フォーム開始] イベントは、表を開いた後、かつフォームウィンドウを開く前に発生するイベントです。
- このイベントが発生する前に、つぎの処理が終了しています。

順番	処理
1	フォーム定義画面で定義した局所変数の宣言
2	メイン処理
3	サブフォームのメイン処理
3	編集対象表のオープン
4	グループ化 [開始条件種別1]の[開始条件名1] [開始条件種別2]の[開始条件名2]

- 定義したフォームが、サブフォームとして開かれた場合は、サブフォームの[フォーム開始] イベントの前に、[ロード移動] イベントのハンドラが実行されます。

### 使用目的

- フォームウィンドウを開く前に、対象表の処理対象行またはグループを変更します。
- 並べ替えや絞り込みを行なうなどして、対象表の編集状態を変更します。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &表番号 / 長整数

編集対象表の表番号が格納されます。

## [フォーム終了] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	× 不可
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [フォーム終了] イベントは、フォームウィンドウが閉じる前に発生するイベントです。
- このイベントが終了したあと、つぎの処理が実行されます。
  - 編集対象表のクローズ。
  - 局所変数の削除。
  - イベント処理ファイルのクローズ。

### 使用目的

- フォームを終了する前に、他のフォームまたは表を操作します。
- 他のフォームまたは一括処理で使用する固有変数や共通変数、他のフォームの局所変数に、加工した値を代入します。

## [編集文字列変更] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	× 不可
定義可能オブジェクト	グループ項目   テキストボックス

### イベントの発生

- [編集文字列変更] イベントは、[テキストボックス] または [グループ項目] オブジェクト内の編集文字列が、変更されたときに発生するイベントです。
- 編集文字列が変更されるたびに、繰り返し発生します。
- 編集文字列が変更されたかどうかを調べるには、このハンドラ内で [編集文字列取得] メソッドを実行します。

### 使用目的

- [テキストボックス] 内で入力された文字列に応じて、対象表以外の表を操作します。
- [入力支援ボタン] で入力した値を、他の属性に反映します。たとえば、[入力支援ボタン] で選択した色を、ただちに [ピクチャ] オブジェクトの背景色に使用します。

## [マウス移動] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	扇形   角丸め矩形   行セクタ   グラフ   グループ項目   グループボックス   コマンドボタン   コンボボックス   楕円   テキストボックス   トグルボタン   パーコート   ピクチャ   ファミリ   フォーム   フォームフッタ部   フォームヘッダ部   フォーム明細部   ラベル

### イベントの発生

- [マウス移動] イベントは、マウスポインタが、オブジェクトの内側に入ったときに発生するイベントです。
- オブジェクトの内側にあるあいだは、繰り返し発生します。

### 使用目的

- マウスポインタの動きを追いかけます。たとえば、[フォーム明細部]などのセクション、または[フォーム]オブジェクトに、このイベントを設定します。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &マウス位置 [ 2 ] / 長整数

イベントが発生したときの、マウスポインタの位置が格納されます。位置の単位は、twips (1 / 20point) です。

値	説明
---	----

&マウス位置 [ 1 ]	マウスポインタの X 座標。
--------------	----------------

&マウス位置 [ 2 ]	マウスポインタの Y 座標。
--------------	----------------

マウスポインタの座標は、定義したオブジェクトの左上隅からの位置になります。たとえば、[フォーム]オブジェクトに定義すればフォームの左上隅からの位置、[フォーム明細部]に定義すれば、フォーム明細部の左上隅からの位置になります。

#### &明細番号 / 長整数

処理対象行が、フォーム明細部の何番目にあるかが格納されます。

#### &フラグ / 長整数

つぎのマウスボタンまたは特殊キーが押されていれば、それに対応する番号が格納されません。

Microsoft (C) Intelli Mouse の中央ボタンは、調べることができません。

値	説明
---	----

1	マウス左
2	マウス右
3	マウス左右
4	[ Shift ]
5	[ Shift ] + マウス左
6	[ Shift ] + マウス右
7	[ Shift ] + マウス左右
8	[ Ctrl ]
9	[ Ctrl ] + マウス左

10	[Ctrl] + マウス右。 またはマウス中央。
11	[Ctrl] + マウス左右。 またはマウス左 + マウス中央。
12	[Ctrl] + [Shift]。
13	[Ctrl] + [Shift] + マウス左。
14	[Ctrl] + [Shift] + マウス右。 または [Shift] + マウス中央
15	[Ctrl] + [Shift] + マウス左右。 または [Shift] + マウス左 + マウス中央。
18	[Ctrl] + マウス中央。
19	[Ctrl] + マウス左 + マウス中央
20	[Ctrl] + マウス右 + マウス中央
20	[Ctrl] + マウス左 + マウス右 + マウス中央
22	[Ctrl] + [Shift] + マウス中央
23	[Ctrl] + [Shift] + マウス左 + マウス中央
24	[Ctrl] + [Shift] + マウス右 + マウス中央

## ノート

- このイベントハンドラを、[Shift] + [Break] キーで強制的に停止させた場合、またはイベント処理中にエラーが発生した場合は、イベントそのものが発生しなくなります。停止したイベントを再び発生させる場合は、フォームを開き直してください。
- このイベントはマウスが移動するたびに発生するため、時間のかかる処理を記述しないでください。

## [マウスアウト] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	グループ項目   コントロールボタン   テキストボックス   ファミリーラベル

### イベントの発生

- [マウスアウト] イベントは、マウスポインタがオブジェクトを指した直後に 1 度だけ発生するイベントです。
- マウスポインタが、オブジェクトの外側に出た直後、またはこのオブジェクトをクリックしたときに、もう一度発生します。

### 使用目的

- マウスポインタがこのオブジェクトを指したとき、または離れたときのオブジェクト属性を指定します。
- このハンドラの &フラグ には、マウスポインタに指されると 1、離れると 0 が代入されています。

### 記述例

マウスポインタがこのオブジェクトを指したら、[フォントサイズ] [前景色] (文字色) を変更します。また、マウスポインタがこのオブジェクトから離れたときは、[フォントサイズ] と [前景色] をもとの色に戻します。もとの [フォントサイズ] と [前景色] は、「標準」と「白」であるものとします。

```
手続き定義開始 入力項目::マウスアウト( 長整数 &フラグ, 長整数 &明細番号 )
&オブジェクト名 = "a" + &this
if ( &フラグ = 1 )
  オブジェクト操作 &オブジェクト名 { ¥
    フォント太さ = "太字", 前景色 = "指定色", 前景色 = "黄色" }
else
  オブジェクト操作 &オブジェクト名 { ¥
    フォント太さ = "標準", 前景色 = "指定色", 前景色 = "白" }
end
手続き定義終了
```

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &フラグ / 長整数

マウスポインタが、対象オブジェクトの中に入ったか、外に出たかを示す番号が格納されます。

値	説明
1	対象オブジェクトの中に入った。
0	対象オブジェクトの外に出た。 または対象オブジェクトがクリックされた。

#### &明細番号 / 長整数

処理対象行が、フォーム明細部の何番目にあるかが格納されます。

## ノート

- このイベントハンドラを、[ Shift ] + [ Break ] キーで強制的に停止させた場合、またはイベント処理中にエラーが発生した場合は、イベントそのものが発生しなくなります。停止したイベントを再び発生させる場合は、フォームを開き直してください。

## [ マウス左アップ ] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	扇形   角丸め矩形   行セクタ   グラフ   グループ項目   グループボックス   コマンドボタン   コントロールボックス   楕円   テキストボックス   トグルボタン   バーコード   ピクチャ   ファミリ   フォーム   フォームフッタ部   フォームヘッダ部   フォーム明細部   ラベル

### イベントの発生

- [ マウス左アップ ] イベントは、マウスの左ボタンを離したときに発生するイベントです。

### 使用目的

- マウスを使って、文字列などが範囲選択されたときの情報を取得します。普通は、[ フォーム明細部 ] などのセクション、または [ フォーム ] オブジェクトに、このイベントを設定します。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。

#### &マウス位置 [ 2 ] / 長整数

イベントが発生したときの、マウスポインタの位置が格納されます。位置の単位は、twips ( 1 / 20point ) です。

値	説明
&マウス位置 [ 1 ]	マウスポインタの X 座標。
&マウス位置 [ 2 ]	マウスポインタの Y 座標。

マウスポインタの座標は、定義したオブジェクトの左上隅からの位置になります。たとえば、[ フォーム ] オブジェクトに定義すればフォームの左上隅からの位置、[ フォーム明細部 ] に定義すれば、フォーム明細部の左上隅からの位置になります。

#### &明細番号 / 長整数

処理対象行が、フォーム明細部の何番目にあるかが格納されます。

#### &フラグ / 長整数

つぎのマウスボタンまたは特殊キーが押されていれば、それに対応する番号が格納されません。

Microsoft (C) Intelli Mouse の中央ボタンは、調べることができません。

値	説明
1	マウス左
2	マウス右
3	マウス左右
4	[ Shift ]
5	[ Shift ] + マウス左
6	[ Shift ] + マウス右
7	[ Shift ] + マウス左右
8	[ Ctrl ]
9	[ Ctrl ] + マウス左
10	[ Ctrl ] + マウス右。 またはマウス中央。
11	[ Ctrl ] + マウス左右。

	またはマウス左 + マウス中央。
12	[Ctrl] + [Shift]。
13	[Ctrl] + [Shift] + マウス左。
14	[Ctrl] + [Shift] + マウス右。 または [Shift] + マウス中央
15	[Ctrl] + [Shift] + マウス左右。 または [Shift] + マウス左 + マウス中央。
18	[Ctrl] + マウス中央。
19	[Ctrl] + マウス左 + マウス中央
20	[Ctrl] + マウス右 + マウス中央
20	[Ctrl] + マウス左 + マウス右 + マウス中央
22	[Ctrl] + [Shift] + マウス中央
23	[Ctrl] + [Shift] + マウス左 + マウス中央
24	[Ctrl] + [Shift] + マウス右 + マウス中央

## ノート

- このイベントハンドラを、[Shift] + [Break] キーで強制的に停止させた場合、またはイベント処理中にエラーが発生した場合は、イベントそのものが発生しなくなります。停止したイベントを再び発生させる場合は、フォームを開き直してください。

## [マウス左クリック] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	扇形   角丸め矩形   行セル   グラフ   グループ項目   グループボックス   コントロール   コンボボックス   楕円   テキストボックス   トグルボタン   パーコート   ピクチャ   ファミ   ラベル

### イベントの発生

- [マウス左クリック] イベントは、マウスの左ボタンをクリックしたとき（離れたあと）に発生するイベントです。
- [コントロール] に定義してある機能は、このイベントのあとに実行されます。

### 使用目的

- クリックした [コントロール] のオブジェクト属性を、状態に応じて変更します。
- [ピクチャ] などのオブジェクトをクリックして、ボタンのように反応させるようにします。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。引数名のうしろに（参照）と記述されたものは、引数の値を変更することで、ハンドラ終了後の実行を制御できるものです。

#### &マウス位置 [2] / 長整数

イベントが発生したときの、マウスポインタの位置が格納されます。位置の単位は、twips (1 / 20point) です。

値	説明
&マウス位置 [1]	マウスポインタの X 座標。
&マウス位置 [2]	マウスポインタの Y 座標。

マウスポインタの座標は、定義したオブジェクトの左上隅からの位置になります。たとえば、[フォーム] オブジェクトに定義すればフォームの左上隅からの位置、[フォーム明細部] に定義すれば、フォーム明細部の左上隅からの位置になります。

#### &明細番号 / 長整数

処理対象行が、フォーム明細部の何番目にあるかが格納されます。

#### &フラグ / 長整数

つぎのマウスボタンまたは特殊キーが押されていれば、それに対応する番号が格納されません。

Microsoft (C) Intelli Mouse の中央ボタンは、調べることができません。

値	説明
1	マウス左
2	マウス右
3	マウス左右
4	[ Shift ]
5	[ Shift ] + マウス左
6	[ Shift ] + マウス右
7	[ Shift ] + マウス左右
8	[ Ctrl ]

9	[Ctrl] + マウス左
10	[Ctrl] + マウス右。 またはマウス中央。
11	[Ctrl] + マウス左右。 またはマウス左 + マウス中央。
12	[Ctrl] + [Shift]。
13	[Ctrl] + [Shift] + マウス左。
14	[Ctrl] + [Shift] + マウス右。 または [Shift] + マウス中央
15	[Ctrl] + [Shift] + マウス左右。 または [Shift] + マウス左 + マウス中央。
18	[Ctrl] + マウス中央。
19	[Ctrl] + マウス左 + マウス中央
20	[Ctrl] + マウス右 + マウス中央
20	[Ctrl] + マウス左 + マウス右 + マウス中央
22	[Ctrl] + [Shift] + マウス中央
23	[Ctrl] + [Shift] + マウス左 + マウス中央
24	[Ctrl] + [Shift] + マウス右 + マウス中央

#### &処理中止 / 長整数 (参照)

このハンドラが終了したあとの処理を、中止するかどうかを指定します。

値	説明
0	続けます (規定値)。
0以外	中止します。

#### ノート

- このイベントハンドラを、[Shift] + [Break] キーで強制的に停止させた場合、またはイベント処理中にエラーが発生した場合は、イベントそのものが発生しなくなります。停止したイベントを再び発生させる場合は、フォームを開き直してください。

## [マウス左ボタン] イベント

更新モードの変更	可能
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	扇形   角丸め矩形   行セクタ   グラフ   グループ項目   グループボックス   コマンドボタン   コンボボックス   楕円   テキストボックス   トグルボタン   パーコート   ピクチャ   ファミリ   フォーム   フォームフッタ部   フォームヘッダ部   フォーム明細部   ラベル

### イベントの発生

- [マウス左ボタン] イベントは、マウスの左ボタンを押したときに発生するイベントです。
- 左ボタンを押しているあいだは、繰り返し発生します。

### 使用目的

- クリックしたオブジェクトに応じて、オブジェクトの属性を変更します。

### イベントハンドラの引数

つぎの引数は、イベントが発生したときの状態や情報を調べるときに使用します。引数名のうしろに（参照）と記述されたものは、引数の値を変更することで、ハンドラ終了後の実行を制御できるものです。

#### &マウス位置 [ 2 ] / 長整数

イベントが発生したときの、マウスポインタの位置が格納されます。位置の単位は、twips (1 / 20point) です。

値	説明
&マウス位置 [ 1 ]	マウスポインタの X 座標。
&マウス位置 [ 2 ]	マウスポインタの Y 座標。

マウスポインタの座標は、定義したオブジェクトの左上隅からの位置になります。たとえば、[フォーム] オブジェクトに定義すればフォームの左上隅からの位置、[フォーム明細部] に定義すれば、フォーム明細部の左上隅からの位置になります。

#### &明細番号 / 長整数

処理対象行が、フォーム明細部の何番目にあるかが格納されます。

#### &フラグ / 長整数

つぎのマウスボタンまたは特殊キーが押されていれば、それに対応する番号が格納されません。

Microsoft (C) Intelli Mouse の中央ボタンは、調べることができません。

値	説明
1	マウス左
2	マウス右
3	マウス左右
4	[ Shift ]
5	[ Shift ] + マウス左
6	[ Shift ] + マウス右
7	[ Shift ] + マウス左右
8	[ Ctrl ]
9	[ Ctrl ] + マウス左

10	[Ctrl] + マウス右。 またはマウス中央。
11	[Ctrl] + マウス左右。 またはマウス左 + マウス中央。
12	[Ctrl] + [Shift]。
13	[Ctrl] + [Shift] + マウス左。
14	[Ctrl] + [Shift] + マウス右。 または [Shift] + マウス中央
15	[Ctrl] + [Shift] + マウス左右。 または [Shift] + マウス左 + マウス中央。
18	[Ctrl] + マウス中央。
19	[Ctrl] + マウス左 + マウス中央
20	[Ctrl] + マウス右 + マウス中央
20	[Ctrl] + マウス左 + マウス右 + マウス中央
22	[Ctrl] + [Shift] + マウス中央
23	[Ctrl] + [Shift] + マウス左 + マウス中央
24	[Ctrl] + [Shift] + マウス右 + マウス中央

#### &処理中止 / 長整数 (参照)

このハンドラが終了したあとの処理を、中止するかどうかを指定します。

値	説明
0	続けます (規定値)。
0以外	中止します。

#### ノート

- このイベントハンドラを、[Shift] + [Break] キーで強制的に停止させた場合、またはイベント処理中にエラーが発生した場合は、イベントそのものが発生しなくなります。停止したイベントを再び発生させる場合は、フォームを開き直してください。

## [レコード移動] イベント

更新モードの変更	× 不可
フォーカスの変更	可能
定義可能オブジェクト	フォーム

### イベントの発生

- [レコード移動] イベントは、対象表のレコードが移動されたときに発生するイベントです。
- レコードを検索した後、絞り込みまたは並べ替えなどの操作を行なったあとも発生します。
- 他の処理で、対象表のレコードを移動したときにも発生します。
- このハンドラ内で、対象表のレコードを移動した場合は、再び [レコード移動] イベントが発生します。

### 使用目的

- レコードが移動したら、その項目値を変数に代入します。
- 移動したレコードに応じて、オブジェクトの属性を変更します。

### 記述例

- 項目値と行番号、処理対象件数を、ウィンドウのタイトルバーに表示します。終端行のときは「< 終端行 >」と表示します。  
手続き定義開始 フォーム::レコード移動 ( 長整数 &行番号, 長整数 &総件数, 長整数 &明細番号 )  
if ( .not #eof )  
    オブジェクト操作 @フォーム.フォーム表題 = "住所録:" + [氏名] + ¥

## ノート

- このイベントハンドラを、[ Shift ] + [ Break ] キーで強制的に停止させた場合、またはイベント処理中にエラーが発生した場合は、イベントそのものが発生しなくなります。停止したイベントを再び発生させる場合は、フォームを開き直してください。
- 一覧表形式または伝票形式のフォームで、表示レコードに応じて [ フォーム明細部 ] のオブジェクト属性を変更する場合は、[ 編集属性式 ] を指定します。これ以外の属性で指定した場合は、すべての明細行が同じ属性で表示されてしまいます。ただし、カード形式のフォームでは、1件しか表示されないので、[ 編集属性式 ] でなくてもかまいません。